

SHARP®

デジタルフルカラー複合機

形名: BP-20C25
BP-21C20
DX-20C20

ユーザーズマニュアル



クリックすると章もくじへジャンプします。



お使いになる前に

本機のはたらき、原稿や用紙のセット方法などについて



コピー

コピー機能の使いかた



プリンター

プリンター機能の使いかた



ファクス

ファクス機能の使いかた



スキャナー

スキャナー機能の使いかた



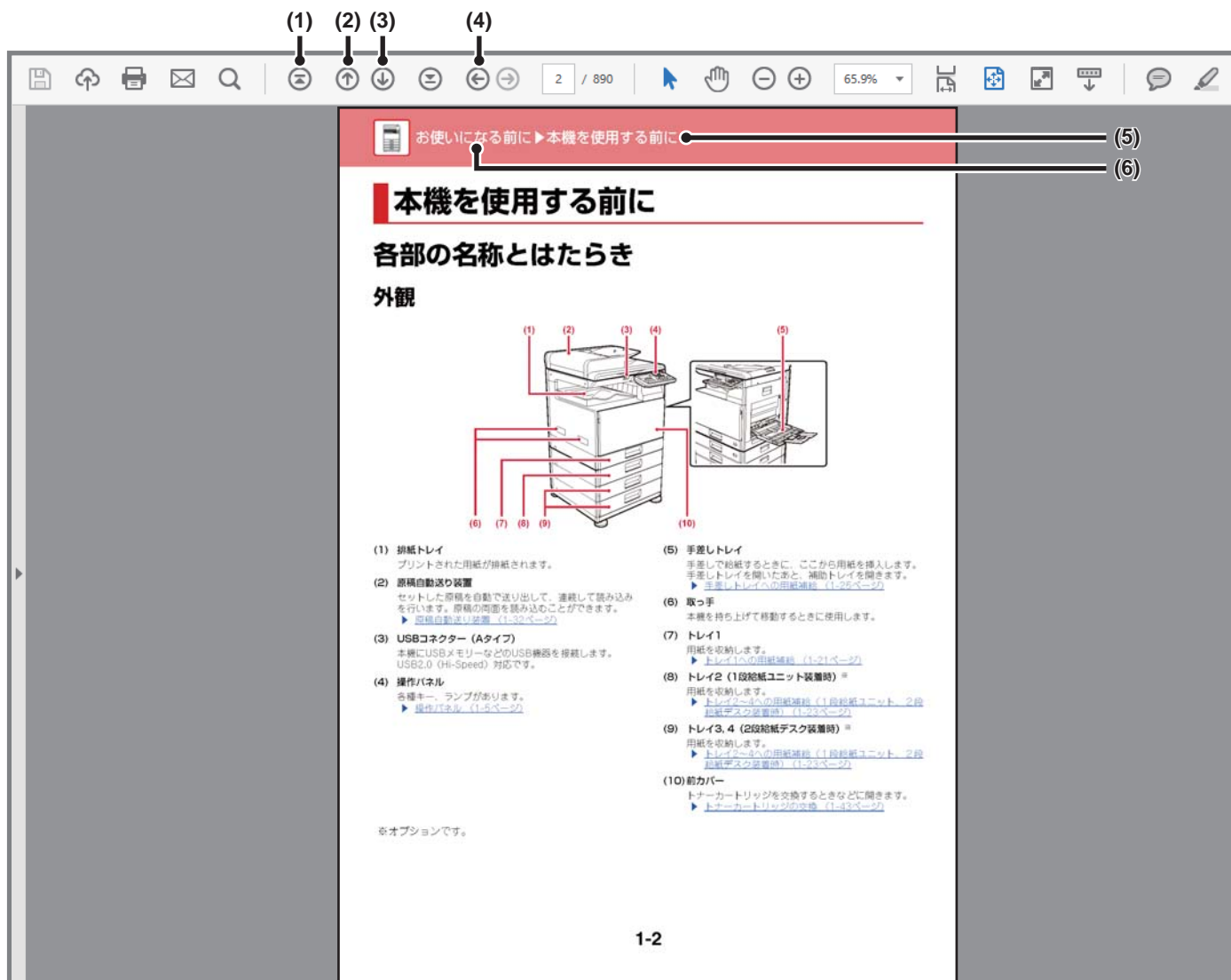
システム設定

本機をより使いやすくするための設定について

このマニュアルの使いかた

下記のボタンをクリックして目的のページへ移動してください。

以降の説明ではAdobe Acrobat Readerで説明しています（標準状態では表示されていないボタンがあります）。



(1) トップページに戻るボタン

操作に迷ったら、このボタンをクリックして最初からやり直してください。

(2) 1ページ戻るボタン

1つ前のページを表示します。

(3) 1ページ進むボタン

次のページを表示します。

(4) 直前に表示していたページに戻るボタン

現在のページを表示した直前のページを表示します。

(5) タイトルボタン

表示されているタイトルのページを表示します。

(6) もくじボタン

各章のもくじページを表示します。
たとえば、現在のページがプリンターについて書かれた章の本文のページであれば、プリンターの章のもくじページを表示します。



表示されていないボタンがある場合、Adobe Readerのヘルプを参照してボタンを表示させてください。

本書の記載内容について

本書はデジタルフルカラー複合機BP-20C25/BP-21C20/DX-20C20について説明しています。

お願い

- この取扱説明書に記載のドライバーおよびソフトウェアのインストールについては、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- OS（オペレーティングシステム）に関する事柄については、必要に応じてOSの説明書またはヘルプ機能を参照してください。
- この取扱説明書では、Windows環境での画面の説明や操作手順は、Windows® 10でお使いになる場合を主体に説明しています。OS（オペレーティングシステム）のバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なることがあります。
- この取扱説明書では、macOS環境での画面の説明や操作手順は、macOS 10.12でお使いになる場合を主体にそれぞれ説明しています。OS（オペレーティングシステム）のバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なることがあります。
- この取扱説明書で機種名xx-xxxxxと記載しているところは、お使いの機種名を入れてお読みください。
- この取扱説明書では、日本郵政株式会社製のはがきを郵便はがきと記載しています。
- この取扱説明書は内容について十分注意し作成しておりますが、万一ご使用中にご不審な点・お気づきのことがありましたら、スタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
- この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店、またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
- お客様もしくは第三者がこの製品および別売品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ご注意

- この取扱説明書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載、あるいは複製することを禁止します。
- この取扱説明書の内容は、改良のため予告なく変更することがあります。




本文中で説明しているイラスト、操作パネル、ディスプレイについて

周辺装置は基本的に別売品ですが、お買いあげいただいた本機の種類によっては、一部標準装備されているものもあります。この取扱説明書では、BP-20C25に1段給紙ユニット、2段給紙デスクを装着した状態で説明しています。本機の機能や使いかたを説明するために、上記と異なる周辺装置の装着状態で説明している場合があります。

取扱説明書に記載している操作画面、表示されるメッセージ、キー名称などは改良変更などにより実際の表示と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

絵表示について

各取扱説明書で使用している絵表示は、次の事柄を説明しています。

	人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。また、人がけがをしたり、財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。		操作の中止や訂正のしかたを説明しています。
	本機を傷つけたり、故障させる危険がある内容について説明しています。		システム設定に関する内容を記載しています。
	機能や操作手順を補足しています。		



お使いになる前に

本機を使用する前に

各部の名称とはたらき	1-2
• 外観	1-2
• 内部・側面・背面	1-3
• 原稿自動送り装置と原稿台（ガラス面）	1-4
• 操作パネル	1-5
周辺装置の種類	1-8
ディスプレイについて	1-9
• 左メニューと右メニューについて	1-9
• ディスプレイの操作方法	1-10
電源の入/切	1-12
• 結露と用紙吸湿の防止	1-13
Ecoについて	1-14
• 本機のEco機能	1-14
• オートパワーシャットオフモード	1-14
• 予熱モード	1-15
• リモートジョブ終了後すぐにオートパワーシャットオフへ移行する	1-15
ユーザー認証について	1-16
• ユーザー認証の使いかた	1-16

用紙補給について

用紙補給する前に	1-17
• トレイの位置と名称	1-17
• 使用できる用紙の種類	1-17
トレイ1への用紙補給	1-21
トレイ2～4への用紙補給（1段給紙ユニット、2段給紙デスク装着時）	1-23
手差しトレイへの用紙補給	1-25
トレイの設定方法	1-31

原稿のセット

原稿の種類や状態からセット方法を選択	1-32
原稿自動送り装置	1-32
原稿台（ガラス面）	1-34

お手入れについて

総使用枚数を確認する	1-35
ディスプレイのコントラストを調節する	1-35
日常のお手入れ	1-36
• 原稿台・原稿自動送り装置部の清掃について	1-36
• トレイ1の給紙ローラーの清掃	1-38
• 手差し給紙ローラーの清掃	1-38
• 原稿給紙ローラーの清掃	1-38
• 書き込みユニットの清掃	1-39
トナーカートリッジの交換	1-36
トナー回収容器の交換	1-46

文字入力

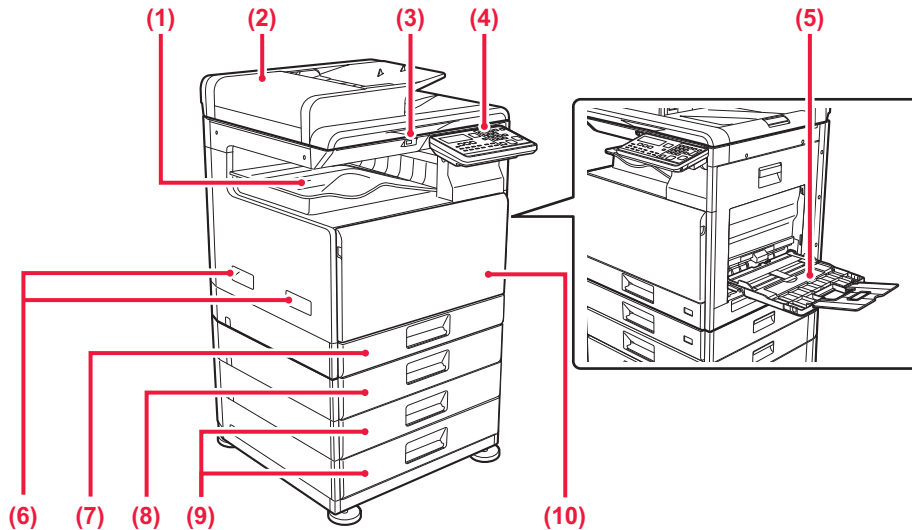
入力できる文字について	1-48
• 入力モードの切り替えについて	1-49
• 文字入力の共通操作	1-51
JIS漢字コード表	1-57



本機を使用する前に

各部の名称とはたらき

外観



(1) 排紙トレイ

プリントされた用紙が排紙されます。

(2) 原稿自動送り装置

セットした原稿を自動で送り出して、連続して読み込みを行います。原稿の両面を読み込むことができます。

▶ [原稿自動送り装置](#) (1-32ページ)

(3) USBコネクタ (Aタイプ)

本機にUSBメモリーなどのUSB機器を接続します。USB2.0 (Hi-Speed) 対応です。

(4) 操作パネル

各種キー、ランプがあります。

▶ [操作パネル](#) (1-5ページ)

(5) 手差しトレイ

手差しで給紙するときに、ここから用紙を挿入します。手差しトレイを開いたあと、補助トレイを開きます。

▶ [手差しトレイへの用紙補給](#) (1-25ページ)

(6) 取っ手

本機を持ち上げて移動するときに使用します。

(7) トレイ1

用紙を収納します。

▶ [トレイ1への用紙補給](#) (1-21ページ)

(8) トレイ2 (1段給紙ユニット装着時) ※

用紙を収納します。

▶ [トレイ2~4への用紙補給 \(1段給紙ユニット、2段給紙デスク装着時\)](#) (1-23ページ)

(9) トレイ3, 4 (2段給紙デスク装着時) ※

用紙を収納します。

▶ [トレイ2~4への用紙補給 \(1段給紙ユニット、2段給紙デスク装着時\)](#) (1-23ページ)

(10) 前カバー

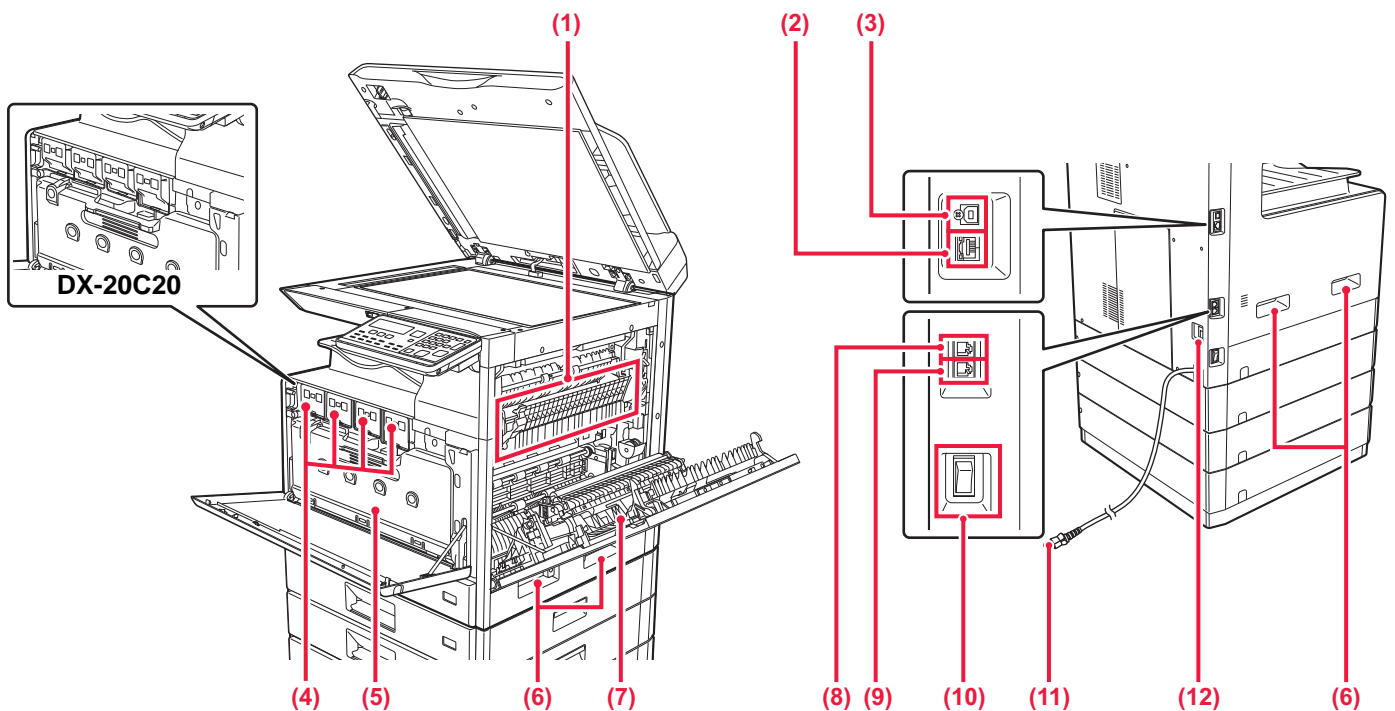
トナーカートリッジを交換するときなどに開きます。

▶ [トナーカートリッジの交換](#) (1-43ページ)

※オプションです。



内部・側面・背面



(1) 定着部

用紙上に転写した画像を熱により定着するところです。



定着部は高温になっています。紙づまりの処置をするときは、やけどをしないように十分注意します。

(2) LANコネクター

本機をネットワークで使用するとき、LANケーブルを接続します。

LANケーブルは、シールドタイプを使用します。

(3) USBコネクター (Bタイプ)

本機では、このコネクターを使用しません。

(4) トナーカートリッジ

トナーが入っている容器です。

トナーがなくなった場合、新しいカートリッジと交換します。

▶ [トナーカートリッジの交換 \(1-43ページ\)](#)

(5) トナー回収容器

プリントしたときに、余分になったトナーを収納するボックスです。

▶ [トナー回収容器の交換 \(1-46ページ\)](#)

(6) 取っ手

本機を持ち上げて移動するときに使用します。

(7) 側面カバー

用紙がつまったときに開きます。

(8) 回線端子 (LINE)

本機でファクス機能を使用するとき、電話線に接続して使用します。

(9) 外部電話機接続端子 (TEL)

本機でファクス機能を使用するとき、外部電話機を接続します。

(10) 主電源スイッチ

本機の電源を入れるときに使用します。

ファクスを使用するときは常に「**I**」の位置にします。

▶ [電源の入/切 \(1-12ページ\)](#)

(11) 電源プラグ

(12) 保温ヒータースイッチ

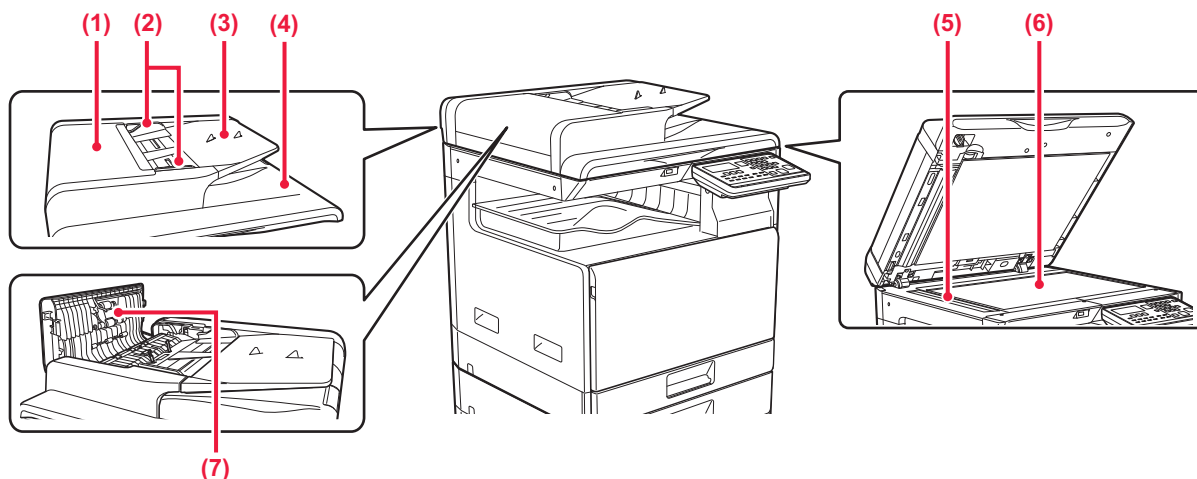
本機の内部の結露や、用紙の吸湿を防ぐために使います。

▶ [結露と用紙吸湿の防止 \(1-13ページ\)](#)



お使いになる前に ▶ 本機を使用する前に

原稿自動送り装置と原稿台（ガラス面）

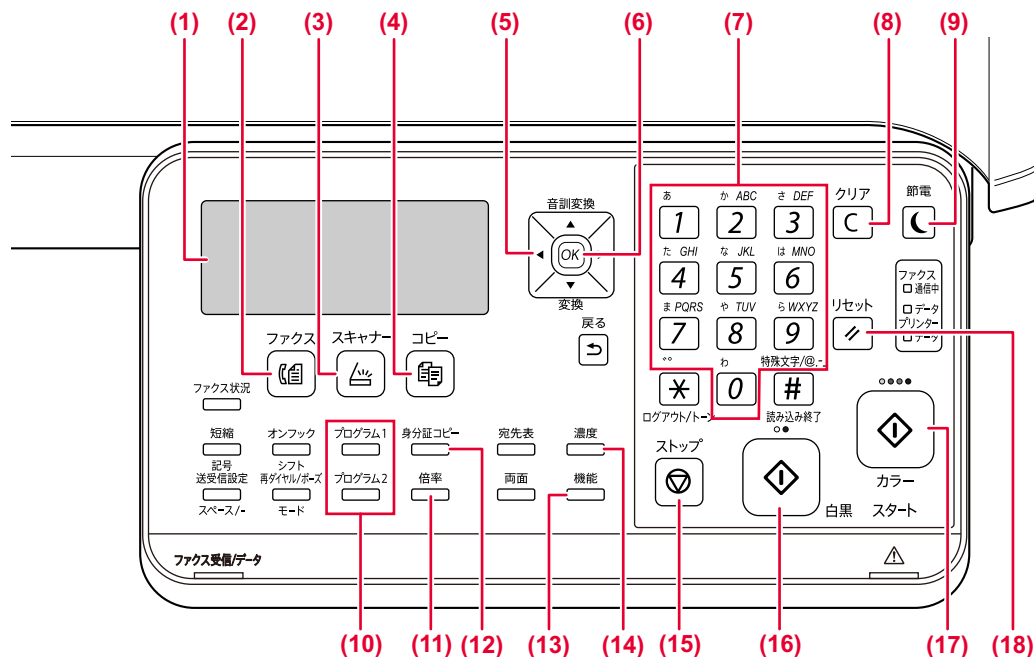


- (1) **原稿給紙部カバー**
原稿の紙づまりの処置のときに開きます。
- (2) **原稿ガイド**
原稿を正しく読み取るためのガイドです。
セットした原稿サイズの幅に合わせます。
- (3) **原稿セット台**
原稿をセットします。
上向きに原稿をセットします。
▶ [原稿自動送り装置（1-32ページ）](#)
- (4) **原稿出紙部**
読み取りを終了した原稿が出てきます。
- (5) **原稿読み取り部**
原稿自動送り装置にセットした原稿は、ここで読み取られます。
▶ [原稿台・原稿自動送り装置部の清掃について（1-36ページ）](#)
- (6) **原稿台（ガラス面）**
厚手の原稿やブック物などの原稿で、原稿自動送り装置を使うことのできない原稿をセットするときに使います。
▶ [原稿台（ガラス面）（1-34ページ）](#)
- (7) **原稿給紙ローラー**
ローラーが回転して、原稿を自動的に搬送します。



操作パネル

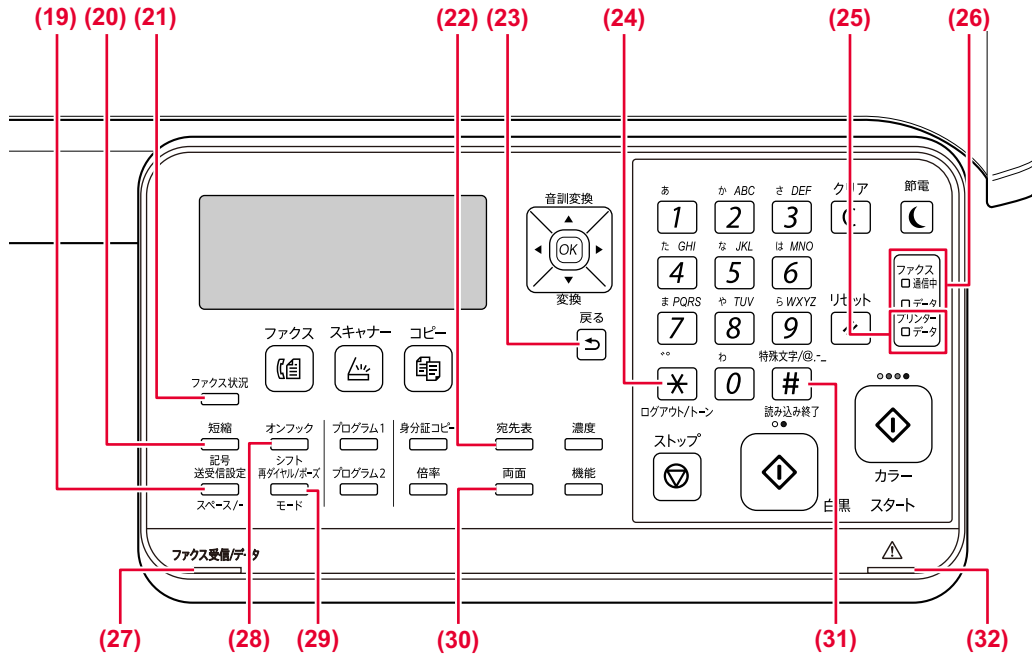
操作パネルの各部の名称とはたらきを説明します。



- (1) **ディスプレイ**
いろいろなメッセージが表示されます。
▶ [ディスプレイについて \(1-9ページ\)](#)
- (2) **[ファクス]キー / ランプ**
ファクスモードを選択するときに押します。
- (3) **[スキャナー]キー / ランプ**
スキャナーモードを選択するときに押します。
- (4) **[コピー]キー / ランプ**
コピーモードを選択するときに押します。
本機が待機状態のとき[コピー]キーを押し続けると、押し続けているあいだ、ディスプレイにコピー、プリンター、ファクスの総使用枚数と、トナー残量が表示されます。
- (5) **方向キー / 音訓変換、変換 (文字入力) キー**
ディスプレイの選択項目(反転表示された項目)を切り替えます。
また、文字入力時、文字を変換するときにも使用します。
- (6) **[OK]キー**
選択した設定を確定します。
- (7) **数字キー**
文字・数値を入力します。
- (8) **[クリア]キー**
設定した数値を消去したり、原稿の読み込みや連続コピーを中止したりします。
- (9) **[節電]キー / ランプ**
節電モードに切り換えます。
- (10) **[プログラム1/プログラム2]キー**
既定のスキャナーのプログラム設定を使用するときに押します。
▶ [プログラムを登録、修正/削除する \(5-20ページ\)](#)
- (11) **[倍率]キー**
拡大・縮小コピーをとりたいたいとき、拡大・縮小倍率を選択します。
▶ [拡大・縮小コピーする \(2-10ページ\)](#)
- (12) **[身分証コピー]キー**
身分証コピーを設定します。
▶ [身分証コピー \(2-19ページ\)](#)
- (13) **[機能]キー**
特別機能などを選択するときに押します。
- (14) **[濃度]キー**
濃度設定画面を表示します。
▶ [コピーの濃度を変える \(2-8ページ\)](#)
- (15) **[ストップ]キー**
各モードで実行中の作業を停止します。
- (16) **[白黒スタート]キー / ランプ**
白黒でコピーするときや、原稿を読み込むときに使用します。またファクスで原稿を送信するときに使用します。
- (17) **[カラースタート]キー / ランプ**
カラーでコピーするときや、原稿を読み込むときに使用します。
- (18) **[リセット] キー**
標準状態に戻します。



お使いになる前に▶本機を使用する前に



(19) [送信設定/スペース/ー (文字入力)]キー

メモリー送信と直接送信を切り替えるときや、自動受信と手動受信を切り替えるときに使用します。また、「スペース」、「ー (長音)」を入力するときに使用します。

▶ [送信設定について \(メモリー送信モードと直接送信モードについて\) \(4-15ページ\)](#)

(20) [短縮/記号 (文字入力)]キー

短縮ダイヤルを利用するときや、各種登録操作で文字入力するとき、記号を入力する場合に使用します。

▶ [オートダイヤル \(短縮ダイヤル、グループダイヤル\) での送信のしかた \(4-12ページ\)](#)

(21) [ファクス状況]キー

ファクスの送信を中止したり、送信予約を取り消すときなどに使用します。

▶ [ファクスの送信を中止する \(4-20ページ\)](#)

(22) [宛先表]キー

オートダイヤルに登録されている相手のアドレスや番号などを探すときに使用します。

▶ [登録している相手先の検索 \(\[宛先表\]キーの使い方\) \(4-13ページ\)](#)

(23) [戻る]キー

ディスプレイの表示を一つ前に戻します。

(24) [ログアウト/トーン]キー

ユーザー認証時、各モードでログアウトするときに押します。ファクスモードでは、トーンキーとして動作しません。

(25) プリンターランプ

• データランプ

プリントデータを受信中に点滅します。またプリント中は点灯します。

(26) ファクスランプ

• 通信中ランプ

ファクスの送受信中に点灯します。

• データランプ

用紙切れなどファクスのデータが出力できないときに点滅します。未送信のデータがあるときは点灯します。

(27) ファクス受信/データランプ

ファクスでデータ受信中に点滅します。プリントが終了するとランプは消えます。

(28) [オンフック/シフト (文字入力)]キー

受話器を置いたままダイヤルするときや、各種登録操作で英字を入力するとき、大文字・小文字の切り替えに使用します。

(29) [再ダイヤル/ポーズ/モード (文字入力)]キー

再ダイヤルを利用するときや、各種登録操作で文字入力するとき、全角・半角の切り替えに使用します。また、ダイヤル入力時は、ポーズ (待ち時間) を挿入します。

▶ [便利なダイヤルについて \(オートダイヤル\) \(4-6ページ\)](#)

(30) [両面]キー

両面読み込みの設定画面を表示します。

(31) [特殊文字/読み込み終了]キー

読み込みを終了するときに押します。

また、文字入力時は特殊文字とJISコードの切り替えに使用します。

(32) エラーランプ

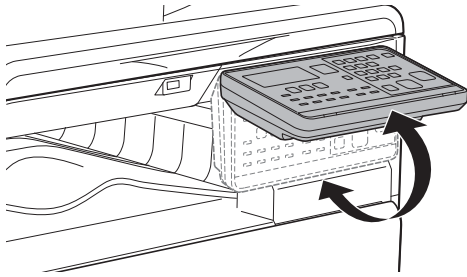
エラーの状態をランプの点灯、点滅でお知らせします。



お使いになる前に ▶ 本機を使用する前に



操作パネルは角度が変更されます。





周辺装置の種類

本機に周辺装置を装着することで、本機をより便利に使えます。

周辺装置は基本的に別売品ですが、お買いあげいただいた製品によっては、一部標準装備しているものもあります。

(2019年5月現在)

商品名	品番	説明
1段給紙ユニット	BP-CS10	追加の給紙トレイです。トレイに最大550枚の用紙をセットします。最大1つまで装着できます。
2段給紙デスク	BP-DE10	追加の給紙トレイです。一つのトレイに最大550枚の用紙をセットします。最大1つまで装着できます。(1段給紙ユニット装着時のみ)
専用台 (大)	BP-DS10	追加の専用台です。
専用台 (小)	BP-DS11	
PS拡張キット	MX-PK11	PostScript3互換プリンターとして使用することができます。
無線LANアダプター	MX-EB18	本機に無線LAN機能を追加します。
Sharpdesk 5ライセンスキット	MX-USX5	書類やコンピューターのファイルを統合管理するソフトウェアです。5ライセンスが付属しています。

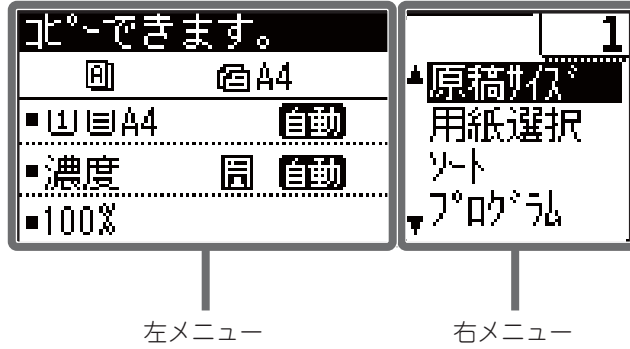


ディスプレイについて

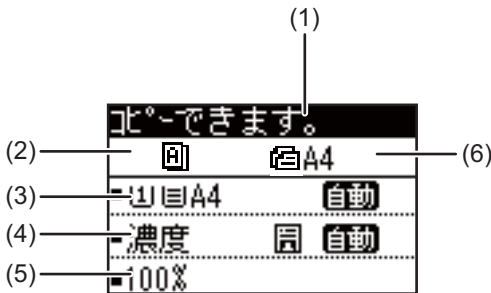
ここではディスプレイの使いかたについて説明しています。

左メニューと右メニューについて

本機のディスプレイには、よく使われる設定をまとめた右メニューと、各機能の設定状態や設定画面を表示する左メニューがあります。



左メニュー（例：コピーモード）



(1) メッセージ表示部

本機の状態や、操作メッセージが表示されます。

(2) 機能アイコン表示部

特別機能を設定した場合にアイコンが表示されます。

1枚	片面→両面コピー	2	2ページコピー
2枚	両面→両面コピー	4	4ページコピー
2枚	両面→片面コピー	カード	カードスキャン
ソート		身分証	身分証コピー
回転ソート		RGB調整	
地色調整		シャープネス	
薄紙読み込み			

(3) 用紙サイズ表示部

選択した用紙サイズが表示されます。

(4) コピー濃度表示部

選択したコピー濃度のモードが表示されます。

(5) 倍率表示部

選択した拡大・縮小率が表示されます。

(6) 原稿サイズ表示部

右メニューの「原稿サイズ」で原稿サイズを指定した場合、原稿自動送り装置に原稿をセットした場合に原稿サイズが表示されます。原稿をセットしたときに表示されるアイコンは以下のとおりです。

なし：原稿台（ガラス面）

：原稿送り装置の原稿セット検知時（原稿送り装置片面読み込み）

：原稿送り装置両面読み込み



右メニュー



(7) 接続状態表示部

(無線LANアダプター装着時)
無線LAN設定時に表示されます。

	無線インフラストラクチャーモード 接続中
	無線インフラストラクチャーモード 切断状態
	有線+無線アクセスポイントモード
	本機内部にある無線LANデバイスの接続不良

(8) コピー部数表示部

設定したコピー部数が表示されます。

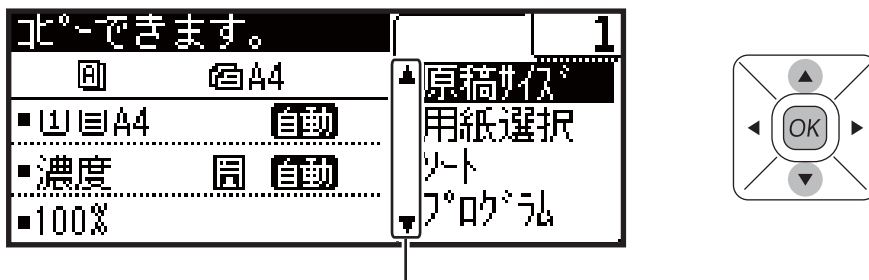
(9) 機能表示部

各モードの基本的な機能が表示されます。

ディスプレイの操作方法

方向キー（上下）で選択項目を操作

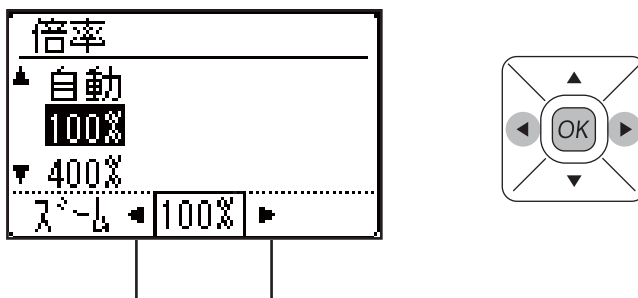
設定項目（反転している項目）の選択画面では、上下の方向キー（本書では[▼][▲]で示します。）を使って移動させます。[OK]キーを押すとその設定項目の画面が表示されます。また、設定画面で[OK]キーを押すと、その設定内容が確定します。



上下の方向キーを使用する設定の選択画面では、▼▲のアイコンが表示されます。

方向キー（左右）で選択項目を操作

濃度や数値の設定画面では、左右の方向キー（本書では[◀][▶]で示します。）を使って設定します。[OK]キーを押すとその設定内容が確定します。



左右の方向キーを使用する設定画面では、◀▶のアイコンが表示されます。

[戻る]キーでひとつ前の設定画面に戻ります。

戻る





ファクス受信／データランプとエラーランプ

ファクス受信／データランプとエラーランプは、点灯または点滅で本機の状態をお知らせします。

	エラーランプ（赤色）	ファクス受信／データランプ（緑色）	
		パターン1	パターン2
点灯	トナー切れが近づいたときなど、本機は作動する状態	給紙や排紙などジョブ実行中	待機状態などジョブ受付が可能な状態
点滅	紙づまりやトナー切れを起こしたときなど、本機が作動しない状態	ファクスデータ受信 （ファクス受信ホールド、印刷待機中、ファクスプリント中）	
点灯/点滅の優先	点滅優先	点滅優先	点滅優先



- **ファクス受信／データランプの表示を設定するには**
[システム設定（管理者）] → [デバイス設定] → [ステータスランプ設定]で設定します。
- **エラーランプの表示を設定するには**
[システム設定（管理者）] → [デバイス設定] → [エラーランプ設定]で設定します。
- **ファクスデータ受信中にファクス受信／データランプを点滅させる/させないを切り替える**
[システム設定（管理者）] → [デバイス設定] → [受信データあり時の点滅表示]で設定します。



電源の入／切

本機の電源の入／切と再起動のしかたを説明します。
側面にある主電源スイッチで操作します。

電源を入れる

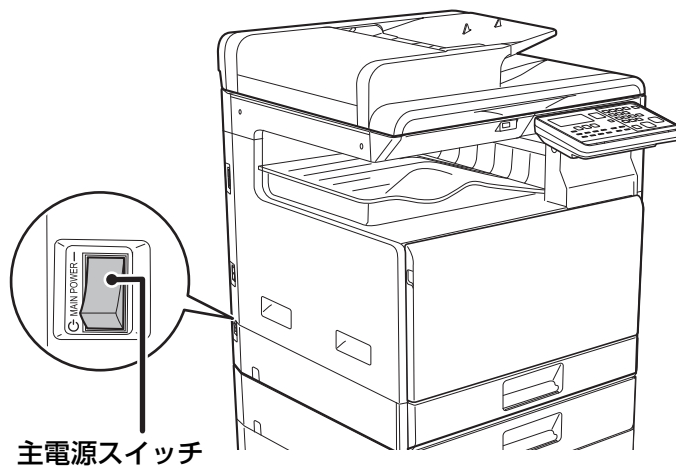
主電源スイッチを" | "の位置にします。


電源を切る


主電源スイッチを" ⏻ "の位置にします。

再起動する

主電源スイッチを入れ直します。



 故障のおそれのあるときや、近くに強い雷が発生したとき、本機を移動するときなどは主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 
- ファクスを使用するときは、主電源スイッチを常に" | "の位置にしてください。
 - 電源を入れてすぐや、スリープモードから復帰した直後は、本機が正常にプリントできるようにするために、一時的に本機でプリントなどが使用できない時間があります。これをウォームアップといいます。



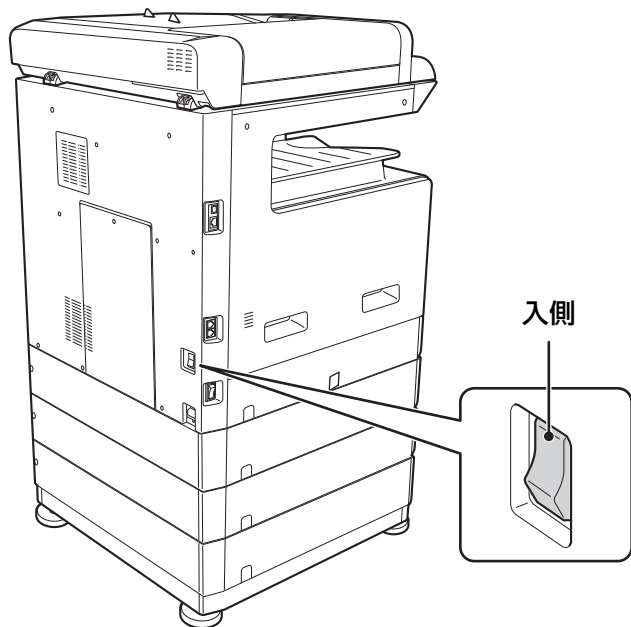
結露と用紙吸湿の防止

本機の内部で結露が発生したり、用紙が吸湿すると、画質低下や紙づまりの原因となります。

次のような場合は、本機に内蔵されている保温ヒータースイッチを“入”にします。

- 冬期の使用（暖房を入れた直後など、急激な温度変化が起こる場所では、結露しやすくなります。）
- 梅雨期などの高温時や高湿な地域での使用

ただし夏期などの高温時は、保温ヒータースイッチを切ってご使用ください。



電源プラグをコンセントから抜くと、保温ヒーターははたらきません。



お使いになる前に ▶ 本機を使用する前に

Ecoについて

本機のEco機能

消費電力が高い部分の動作を管理することで、電力の消費を節約します。本機には、電力を抑える二つのモードがあります。

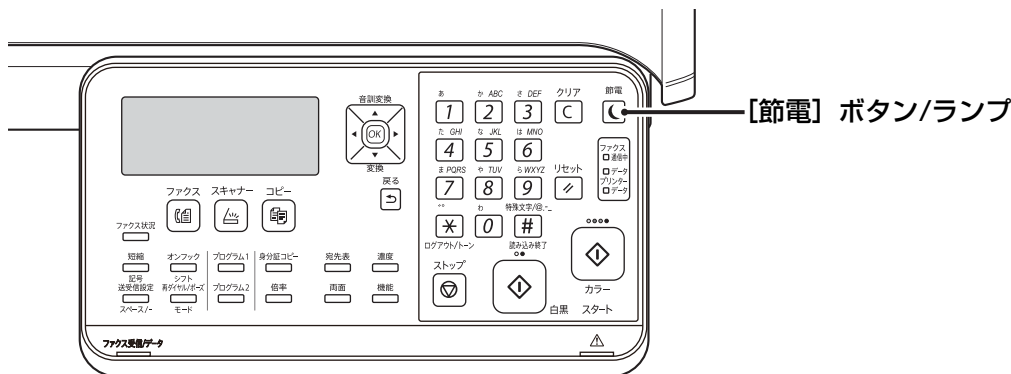
機能	説明	ページ
オートパワーシャットオフモード	操作していないときに操作パネルと定着部の電源をOFFにし、最も消費電力の低い状態で待機します。 節電率が高い反面、復帰時間が長くなります。 リモートジョブ終了後すぐにオートパワーシャットオフへ移行するを設定すると、本機がオートパワーシャットオフから復帰したとき、プリントの終了と共にオートパワーシャットオフに戻ります。	1-14
予熱モード	定着部の温度を下げて、消費電力の低い状態で待機します。 オートパワーシャットオフモードに比べ、節電率は低いですが、復帰時間が短くなります。	1-15

オートパワーシャットオフモード

操作パネルや定着部の電源を切り、最も低消費電力の状態で待機します。
ジョブを実行していない待機状態で、設定した時間が経過すると、オートパワーシャットオフモードになります。
予熱モードと比べ、節電率が高い反面、復帰時間は長くなります。

オートパワーシャットオフモード中、[節電] ボタンのランプが点滅します。

[節電] ボタンのランプが消灯中に [節電] ボタンを押すことでも、オートパワーシャットオフモードになります。
プリントデータ受信時、ファクスデータ出力時、または点滅中の [節電] ボタンを押すと、解除します。



オートパワーシャットオフモードを設定するには

[システム設定 (管理者)] → [省エネ設定] → [オートパワーシャットオフモード] で有効/無効を切り替え、[オートパワーシャットオフモード設定] で移行時間を設定します。



お使いになる前に▶本機を使用する前に

予熱モード

定着部の温度を下げて低消費電力状態で待機します。

ジョブを実行していない待機状態で、設定した時間が経過すると予熱モードになります。

オートパワーシャットオフモードと比べ、節約する電力は小さく、復帰時間は短くなります。

予熱モード中、ディスプレイと「節電」ボタンのランプは消灯します。

予熱モードは、操作パネルでのキー操作、原稿のセット、またプリントデータやファクスデータの受信によって自動的に解除されます。

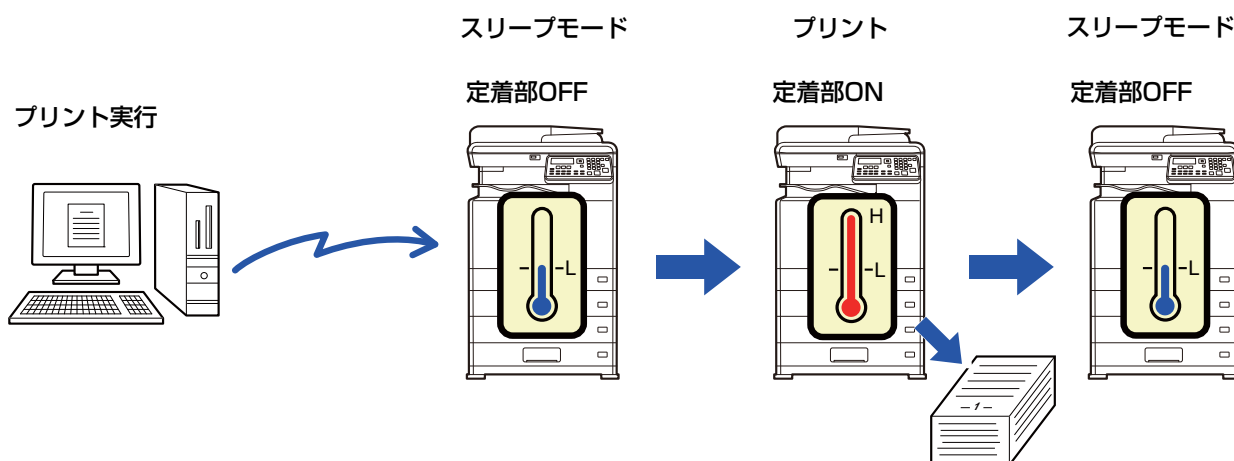


予熱モードを設定するには

[システム設定 (管理者)] → [省エネ設定] → [予熱モード]で移行時間を設定します。

リモートジョブ終了後すぐにオートパワーシャットオフへ移行する

オートパワーシャットオフモード時にプリント実行やファクス受信データを出力すると電源が入り、プリント終了後、すぐにオートパワーシャットオフモードに戻ります。



リモートジョブ終了後すぐにオートパワーシャットオフへ移行するを設定するには

[システム設定 (管理者)] → [省エネ設定] → [リモートジョブ終了後オートパワーシャットオフへ移行する]で設定します。



お使いになる前に▶本機を使用する前に

ユーザー認証について

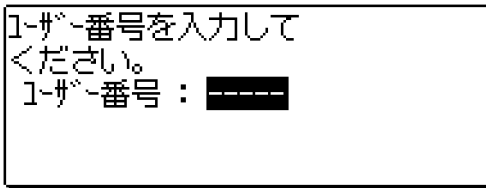
ユーザー認証を設定すると、ユーザーごとにコピー使用枚数などをカウントさせることができ、必要なときにカウント枚数を表示させて集計できます。

ファクス送信できるユーザー（最大30ユーザー）を設定したり、ユーザーごとにファクスの通信時間などをカウントさせることができます。また、ユーザーごとに通信時間や通信枚数を記録した[ユーザー管理記録表（6-17ページ）](#)をプリントできます。

この機能の設定は、システム設定で行います。（[ユーザーの登録（6-12ページ）](#)）。

ユーザー認証の使いかた

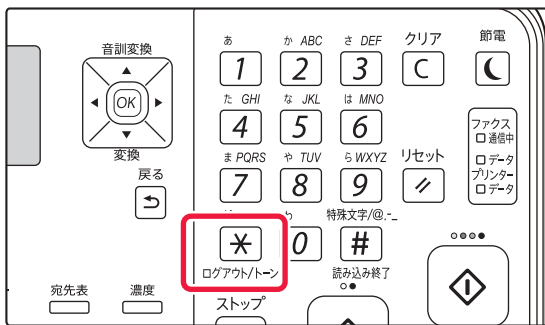
ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー番号入力画面が表示されています。次の手順でユーザー番号（5桁の暗証番号）を入力後、コピー、ファクス、スキャナーなどの操作をしてください。



1 数字キーでユーザー番号（5桁）を入力する

ユーザー番号が入力されると「-」が「*」に変わります。ユーザー番号の入力を途中でまちがえたときは、[クリア]キーを押し、入力し直してください。

2



各機能を使用後、操作を終了するときは [ログアウト/トーン]キー（*）を押す



- 正しいユーザー番号が入力されると、基本画面のメッセージ表示部に現在のユーザーでこれまでに使用された枚数*が表示されます。6秒後（工場出荷状態）、基本画面が表示されます。（[▶1-9ページ](#)）
※コピーモードの場合は、システム設定で[機能の使用制限（6-12ページ）](#)が設定されていると、使用制限枚数までの残り枚数も表示されます。
- コピーモードでユーザー番号を入力すると、コピー操作後に他のモードに切り替えた場合でも、ユーザー番号を入力しなおす必要はありません。
- 手順1で登録されていないユーザー番号を入力すると、再びユーザー番号の入力画面に戻ります。
- システム設定の[ログイン失敗時の警告（6-12ページ）](#)が設定されている場合、ユーザー番号を3度続けてまちがえて入力すると、警告メッセージが表示され、1分間他の操作ができません。

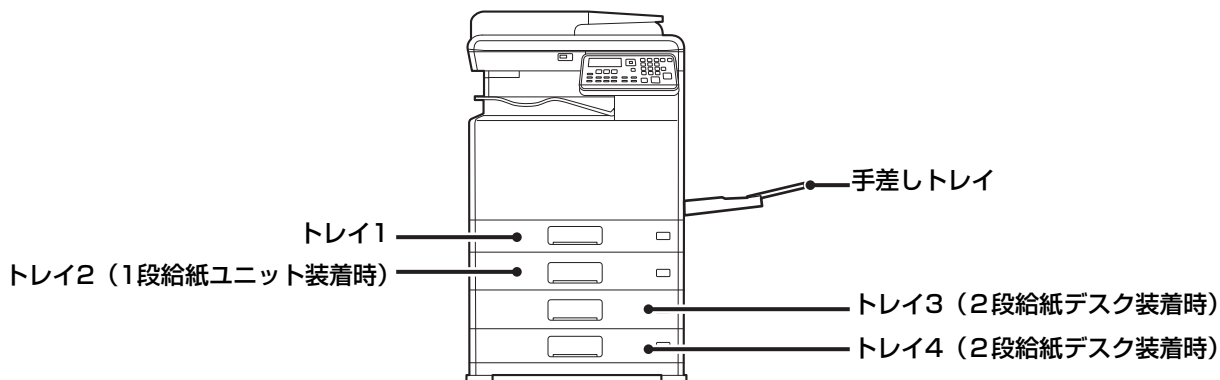
カラー	使用枚数:00,000,000 残り枚数:00,000,222
白黒	使用枚数:00,000,000 残り枚数:00,000,555



用紙補給について

用紙補給する前に

トレイの位置と名称



用紙サイズの「R」表記

縦長、横長どちらの向きでもセットできる用紙の場合、サイズ表記の後ろに「R」を付けて横長方向でのセット状態を表します。

縦長、横長どちらの向きでもセットできる用紙		横長方向でしかセットできない用紙
A4、B5、8-1/2"x11"など		A3W、A3、B4、12"x18"、11"x17"、8-1/2"x14"、8-1/2"x13"など
横長方向でのセット状態	縦長方向でのセット状態	横長方向でしかセットできない
<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A4R</div>	<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A4</div>	<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A3</div>

使用できる用紙の種類

使用できる用紙の種類と使用できない用紙の種類を説明します。
普通紙以外の用紙を特殊紙と呼びます。



- 市販の用紙にはさまざまな種類のものがあり、なかには本機で使用できないものもあります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。
- 環境、使用条件、用紙の特性によって画質、定着性が変化し、シャープ標準用紙のような画質が得られない場合があります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。
- 推奨しない用紙や使用できない用紙を使用すると、斜め送り、紙づまり、定着不良（用紙へのトナーの融着力が弱くなり、こすると画像が消える現象）、故障などの原因となります。
- 推奨しない用紙を使用すると、プリント品位が低下したり、紙づまりなどの原因となりますので、事前に正しくプリントできるか確認してください。



使用できる用紙

普通紙、厚紙、薄紙の仕様

普通紙※	普通紙1	60g/m ² ~79g/m ²
	普通紙2	80g/m ² ~105g/m ²
厚紙	厚紙1	106g/m ² ~176g/m ²
	厚紙2	177g/m ² ~220g/m ²
	厚紙3	221g/m ² ~256g/m ²
薄紙		55g/m ² ~59g/m ²

※ 通常使用する用紙が再生紙、パンチ済み用紙、印刷済み用紙、レターヘッド用紙、色紙の場合は、[システム設定(管理者)] → [デバイス設定] → [坪量設定] で適切な坪量を設定してください。



- 上記の「使用できる用紙」の区分はシャープ推奨紙によるものです。
- 推奨しない用紙を使用すると、上記の用紙の区分に合わせた用紙タイプの設定を行っても、プリント品位に影響が出る場合があります。そのときは用紙タイプを通常より厚め、または薄めの設定に切り替えてプリントしてください。詳しくは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様相談窓口へお問い合わせください。
- 用紙の仕様はスタートガイドの「シャープ標準用紙仕様基準」を参照してください。
- 再生紙、色紙、パンチ済み用紙などの用紙を使用するときは普通紙と同様の制約があります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様相談窓口へお問い合わせください。
- 排出された用紙に大幅なカールが発生している場合、カセット内の用紙を一度取り出し、開封面を表裏ひっくり返して使用してください。

ファクスで使用できる用紙

AB系:

A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R

インチ系:

8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"R、8-1/2" x 11"、5-1/2" x 8-1/2"R

両面印刷できる用紙の仕様

用紙タイプ	普通紙、再生紙、色紙、レターヘッド紙、印刷済み用紙、パンチ紙
用紙サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5R、11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"R、8-1/2" x 11"、5-1/2" x 8-1/2"R



各トレイにセットできる用紙の種類



- 各トレイにセットできる用紙のサイズや種類の詳細については、スタートガイドの「仕様」を参照してください。
- 再生紙、色紙、パンチ済み用紙などの用紙を使用するときは普通紙と同様の制約があります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様相談窓口へお問い合わせください。

	トレイ1	トレイ2~4※1	手差しトレイ
普通紙1※2	使用可	使用可	使用可
普通紙2※2	使用可	使用可	使用可
厚紙1※3	—	使用可	使用可
厚紙2※3	—	使用可	使用可
厚紙3※3	—	—	使用可
薄紙	—	—	使用可
印刷済み用紙	使用可	使用可	使用可
再生紙	使用可	使用可	使用可
レターヘッド付き用紙	使用可	使用可	使用可
パンチ済み用紙	使用可	使用可	使用可
色紙	使用可	使用可	使用可
ラベル紙	—	—	使用可
光沢紙	—	—	使用可
OHPフィルム	—	—	使用可
封筒	—	—	使用可
郵便はがき	—	—	使用可
往復はがき（縦）	—	—	使用可
四面連刷はがき（横）	—	—	使用可

※1 1段給紙ユニット、2段給紙デスク装着時

※2 「普通紙1」は60g/m²~79g/m²までの普通紙、「普通紙2」は80g/m²~105g/m²までの普通紙です。

※3 「厚紙1」は176g/m²までの厚紙、「厚紙2」は220g/m²までの厚紙、「厚紙3」は256g/m²までの厚紙です。

自動検知できる用紙サイズ

（1段給紙ユニット、2段給紙デスク装着時）

トレイ2から4を使用する際、“用紙サイズ設定”で「自動AB」もしくは「自動In」を設定すると用紙のサイズを自動で検知します。

設定方法は「[トレイの設定方法（1-31ページ）](#)」を参照してください。

自動AB	A3、B4、A4、A4R、B5、8-1/2" x 13"
自動In（自動インチ）	11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 11"R、7-1/4" x 10-1/2"R



セットするときのプリント面の向き

トレイによって、セットするプリント面の向きが異なります。「レターヘッド付き用紙」や「印刷済み用紙」は逆の向きにセットします。

プリントしたい面を以下の通りにセットします。

トレイ	通常時	レターヘッド付き用紙、印刷済み用紙、パンチ済み紙セット時
トレイ1~4	上向き	下向き
手差しトレイ	下向き	上向き

使用できない用紙

- エンボス紙
- インデックス紙
- インクジェットプリンター用特殊紙
(ファイン紙/光沢紙/光沢フィルム紙/郵便はがきなど)
- カーボン紙/感熱紙
- 糊がついた用紙
- クリップのついた用紙
- 折り跡のある用紙
- 破れのある用紙
- オイルフィード用OHPフィルム
(例：S4BG746)
- SF4A6CS/SF4A6FSのOHPフィルム
- 55g/m²未満の薄紙
- 257g/m²以上の厚紙
- 折り目のある往復はがき
- 形状が不規則な用紙
- ステープルした用紙
- 濡れている用紙
- カールした用紙
- プリントする面または裏面が、プリンターや複合機で一度プリントした用紙
- 吸湿して波打ちした用紙
- しわのある用紙
- ほこりのついた用紙

推奨しない用紙

- アイロンプリント紙
- ミシン目がある用紙



トレイ1への用紙補給

トレイ1にはA5RからA3 (5-1/2"x8-1/2"Rから11"x17") サイズまでの用紙を最大250枚までセットできます。



用紙の種類（タイプ）やサイズを変更した場合は、[トレイの設定方法（1-31ページ）](#) で設定を確認します。正しく設定していないと、用紙の自動選択に影響します。プリントできない、異なるサイズや種類（タイプ）の用紙にプリントされる、紙がつまる、などの原因となります。



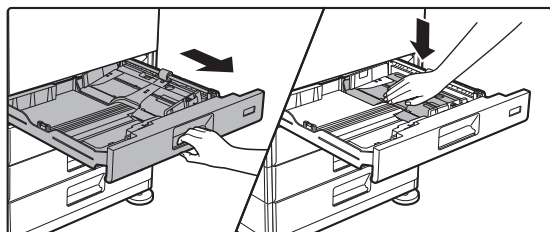
トレイを引き出したときに重い物を載せたり、上から強く押さえつけないでください。



用紙の種類（タイプ）やサイズを設定するには
[機能]キーを押して、[用紙サイズ設定] や[用紙タイプ設定]で設定します。

▶ [トレイの設定方法（1-31ページ）](#)

1

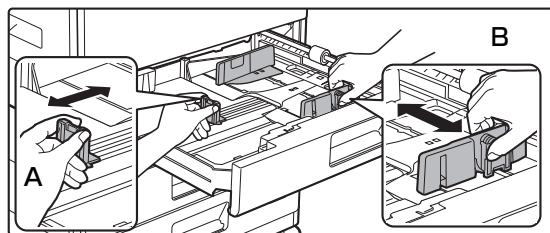


トレイを引き出す

トレイを止まるまで静かに引き出し、用紙圧板の中央をロックがかかる場所まで押し下げます。

そのまま用紙を補給する場合は、手順3へ進みます。異なるサイズの用紙を補給する場合は、次の手順へ進みます。

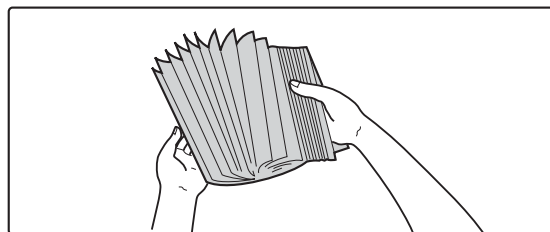
2



トレイ内の仕切り板A、Bを、用紙の縦と横のサイズに合わせる

仕切り板A、Bはスライド式です。仕切り板のレバーをつまみながら、スライドして変更する用紙サイズに合わせます。

3

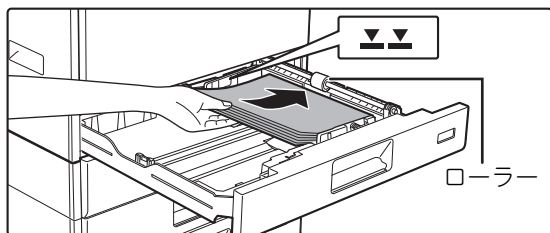


用紙をさばく

用紙はセットする前によくさばいてください。さばかないと用紙が重なって複数枚給紙され、紙づまりの原因となります。

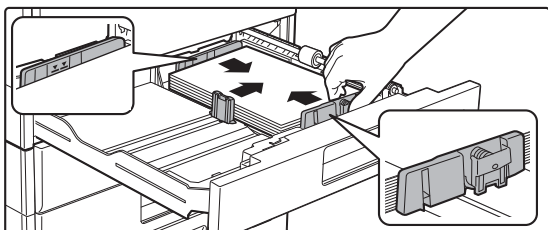


4



用紙をトレイに入れる

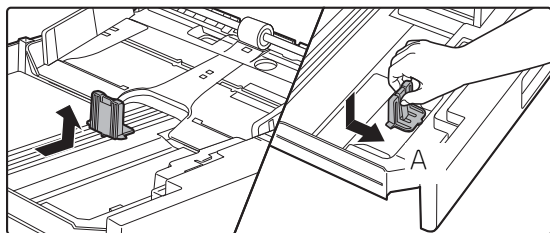
- 用紙は印刷面を上にし、必ずそろえてセットしてください。
- 用紙をトレイの右側にあるローラーの下にセットしてください。



- 用紙をセット後、仕切り板A、Bと用紙のすき間ができないよう用紙の幅まで仕切り板の間隔をせばめてください。
- 下図のようにならないように用紙をセットしてください。

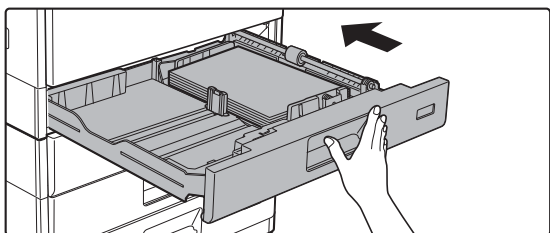


- 11"×17"の用紙をセットする場合
仕切り板を取り外します。仕切り板は、給紙口側（右側）いっぱいまで移動したあと、上に引き上げます。取り外した仕切り板はAにはめ込んでください。



- 指示線をこえない枚数（最大250枚をセットします。）
- 用紙のつぎたしはしないでください。

5



トレイを静かに押し込む

奥までゆっくりと確実に押し込みます。
勢いよく強く押し込むと、用紙が斜め送りになり、紙づまりの原因になります。



トレイ2～4への用紙補給（1段給紙ユニット、2段給紙デスク装着時）

トレイ2～4にはA5RからA3（5-1/2"x8-1/2"Rから11"x17"）サイズまでの用紙を最大550枚（106g/m²～176g/m²用紙の厚紙の場合は350枚、177g/m²～220g/m²用紙の厚紙の場合は250枚）までセットできます。



用紙の種類（タイプ）やサイズを変更した場合は、[トレイの設定方法（1-31ページ）](#)で設定を確認します。正しく設定していないと、用紙の自動選択に影響します。プリントできない、異なるサイズや種類（タイプ）の用紙にプリントされる、紙がつまる、などの原因となります。

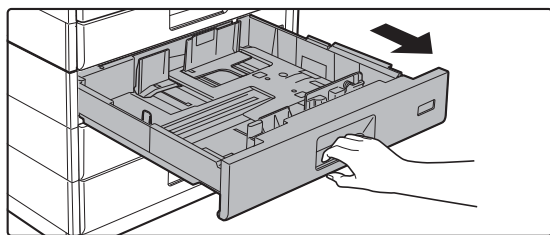


トレイを引き出したときに重い物を載せたり、上から強く押さえつけたりしないでください。



用紙の種類（タイプ）やサイズを設定するには
[機能]キーを押して、[用紙サイズ設定] や[用紙タイプ設定]で設定します。
▶ [トレイの設定方法（1-31ページ）](#)

1



トレイを引き出す

トレイを止まるまで静かに引き出します。
そのまま用紙を補給する場合は、手順3へ進みます。異なるサイズの用紙を補給する場合は、次の手順へ進みます。

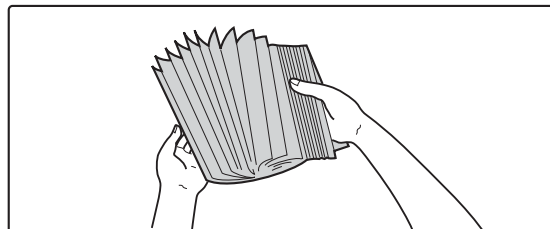
2



トレイ内の仕切り板A、Bを、用紙の縦と横のサイズに合わせる

仕切り板A、Bはスライド式です。仕切り板のレバーをつまみながら、スライドして変更する用紙サイズに合わせます。

3

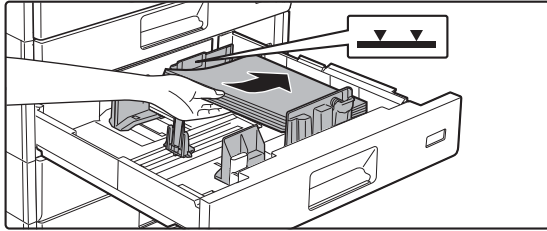


用紙をさばく

用紙はセットする前によくさばいてください。さばかないと用紙が重なって複数枚給紙され、紙づまりの原因となります。



4



用紙をトレイに入れる

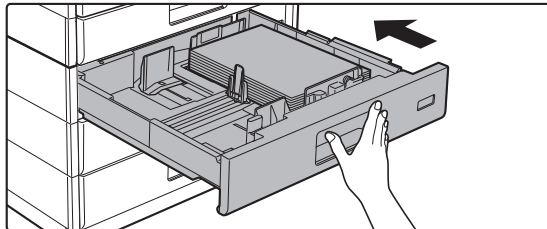
用紙はプリントしたい面を上向きにして、指示線をこえない枚数（最大550枚）をセットします。



- 紙づまりが発生した場合は、用紙のセット方向を表裏や前後を入れ替えてセットしなおしてください。
- 用紙がカールしている場合は、カールをなおしてからセットしてください。
- 用紙と仕切り板の間にすき間がなくなるように、仕切り板を調整してください。
- 用紙のつぎたしはしないでください。
- 下図のようにならないように用紙をセットしてください。



5



トレイを静かに押し込む

奥までゆっくりと確実に押し込みます。
勢いよく強く押し込むと、用紙が斜め送りになり、紙づまりの原因になります。



手差しトレイへの用紙補給

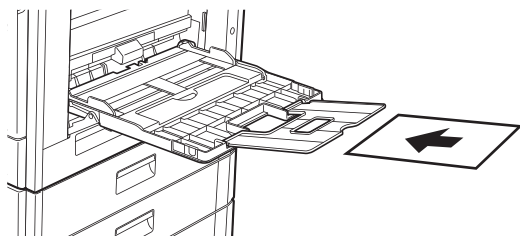
普通紙や郵便はがき、封筒、ラベル紙などの特殊紙にプリントするときに手差しトレイを使用します。用紙を最大100枚（106g/m²~220g/m²用紙の厚紙の場合は40枚、221~256g/m²の厚紙は20枚まで、郵便はがき、往復はがき、封筒、OHPフィルムは20枚まで）セットでき、他のトレイと同じように連続プリントします。



- シャープ標準用紙以外の普通紙や、シャープ推奨のOHPフィルム以外の特殊紙、光沢紙、片面印刷している用紙の裏面へのプリントの場合は、1枚ずつ挿入します。2枚以上挿入すると、紙づまりの原因となります。
- 用紙をセットする前にカールをよくのばします。
- 用紙をつぎたすときは、用紙圧板をロックするまで押し下げて、手差しトレイ上の用紙をいったん取り出し、つぎたす用紙と一緒にそろえてからもう一度セットします。そのままつぎたすと、紙づまりの原因となります。また、指定枚数以上または上限以上にセットすると、紙づまりの原因となります。
- 手差しトレイに用紙をセットしたときは、用紙タイプとサイズを必ず確認してください。

用紙のセット

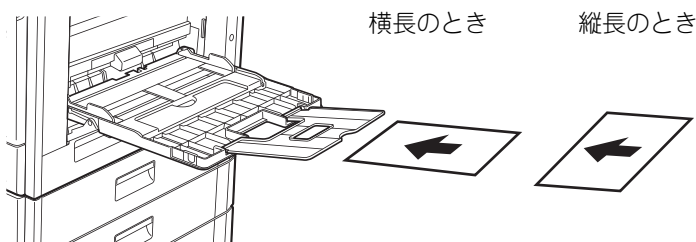
A5R以下の用紙や郵便はがきは横長方向にセットします。



OHPフィルムのセット



- OHPフィルムは、シャープ推奨のOHPフィルムをお使いください。
- OHPフィルムを手差しトレイにセットするときは、数回さばいたうえで、セットします。
- OHPフィルムにプリントしたときは、プリントして出てくるごとに1枚ずつ取り除きます。排紙トレイ上で積み重なるとフィルム同士がくっついたり、カールすることがあります。



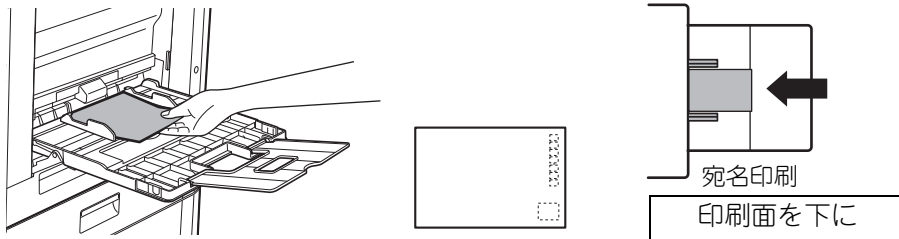


郵便はがき／往復はがき／四面連刷はがき／封筒のセット

手差しトレイに郵便はがき、往復はがきおよび封筒をセットする場合は、それぞれ図のような向きでセットします。

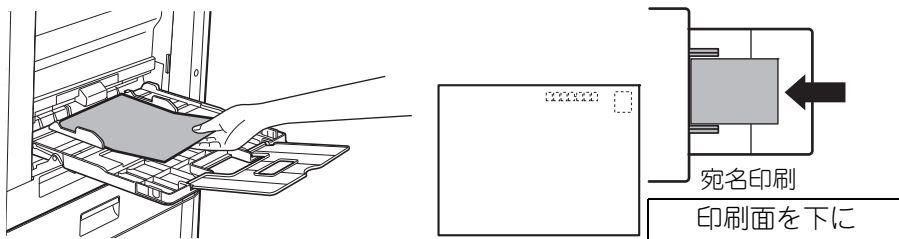
郵便はがきのセット例

必ずコピーやプリントする面を下向きにしてセットします。図は宛名面にプリントする場合の例です。



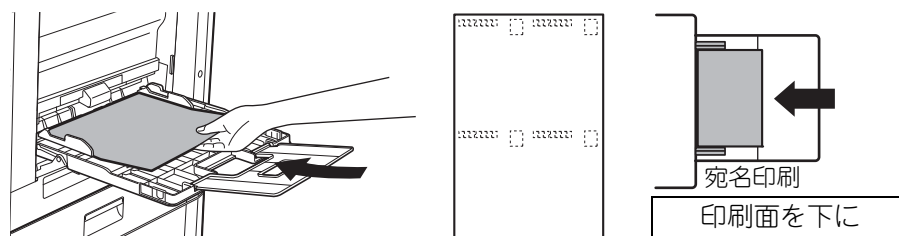
往復はがきのセット例

必ずコピーやプリントする面を下向きにしてセットします。



四面連刷はがきのセット例

必ずコピーやプリントする面を下向きにしてセットします。図は宛名面にプリントする場合の例です。



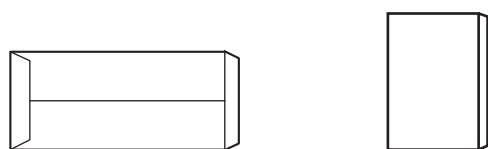
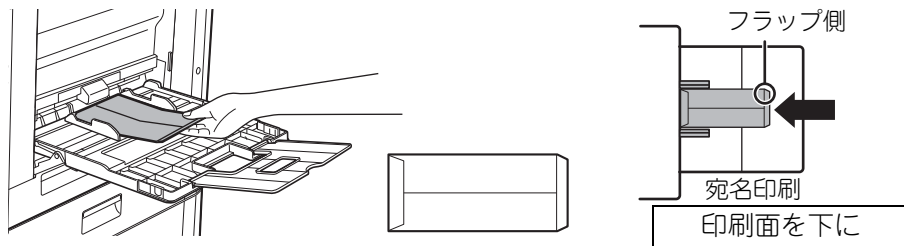


封筒のセット例

封筒は宛名面にのみコピーやプリントをします。宛名面を下向きでセットします。

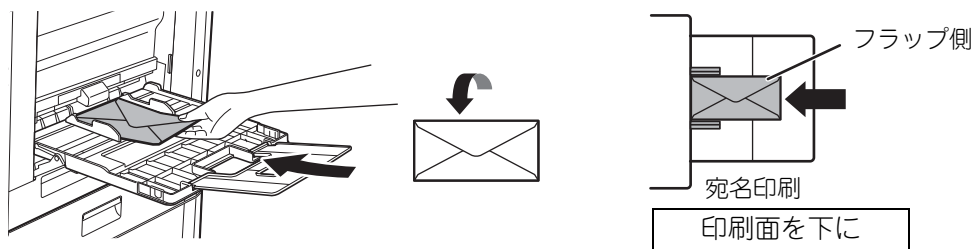
長形3号、長形4号、長形40号、角形2号、角形3号、角形6号、洋形長3号をセットするとき

- 封筒のフラップを開きます。
- フラップが右側になるようにセットします。



洋形2号、洋形4号をセットするとき

- 封筒のフラップを閉じます。
- ふたが奥側になるようにセットします。



郵便はがきや封筒を使う前に、試しにプリントして仕上がりを確かめることをおすすめします。

郵便はがきや往復はがき、四面連刷はがきを使用する場合の注意事項

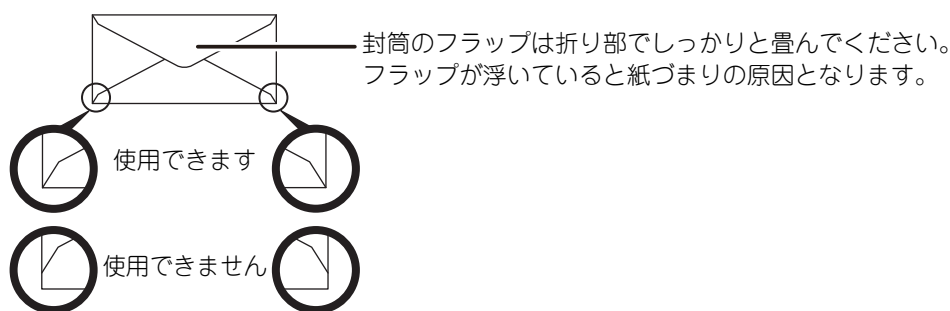
郵便はがきや往復はがきの両面にコピーやプリントをする場合は、一面目にプリントしたあと、カールがついてしまった場合はカールを直してからセットします。

詳しくは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。



封筒を使用する場合の注意事項

- 封筒の両面にプリントしないでください。紙づまりや写り不良の原因となります。
- 使用する封筒によっては制限があります。詳しくは指定のサービス担当者にご相談ください。
- 使用する環境によってはシワ寄りや汚れ、紙づまりや定着不良、また故障の原因となる場合があります。
- 次のような封筒は使用しないでください。
 - 金属片またはプラスチックのフックやリボンフックなどがついているもの
 - 糸で閉じるようになっているもの
 - 窓がついているもの
 - 裏あてがついているもの
 - 箔押しやエンボス加工など表面に凸凹のあるもの
 - 二重封筒、封をするための接着剤やその他合成物がついているもの
 - 手作り封筒
 - 中に空気が入っているもの
 - しわや折り曲げ跡、切れ目など損傷のあるもの



- 封筒裏側の角部分の貼り合わせ位置が角の先端からずれているものは、シワ寄りの原因となるため使用しないでください。
- 封筒の周囲10mmは、プリント品位を保証していません。
- 封筒の4重になっている部分や3重以下の部分で、極端に段差がある部分についてはプリント品位を保証していません。
- フラップ貼付け用の離形紙がある部分についてはプリント品位を保証していません。

封筒をセットするときに注意

- カールをとる
- 平らにならして空気を抜く
- 四辺（フラップが開いているものは3辺）をおさえる
- 平らな場所でそろえる
- 封筒は、フラップの形状、種類によっては、使用できない場合があります。

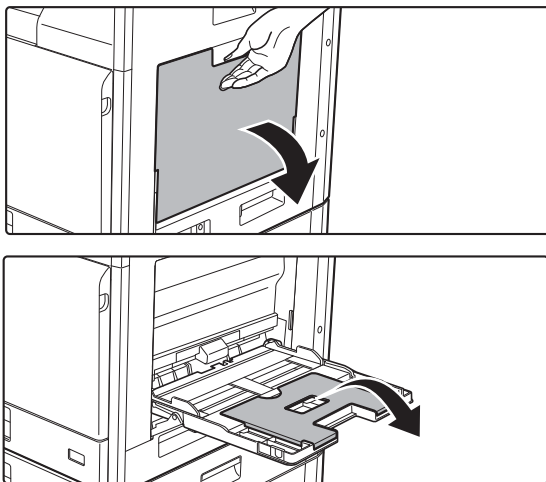


ラベル紙を使用する場合の注意事項

- ラベル紙は、用紙によっては給紙方向が指定されている場合がありますので、その方向に従って手差しトレイに用紙をセットしてください。
用紙にあらかじめフォームなどが印刷されており、印刷画像と用紙のフォームが合わない場合は、お使いのアプリケーションやプリンタードライバーの設定変更により、印刷画像を回転させてください。
- 次のようなラベル紙は使用しないでください。
 - 糊控えまたはラベル控えのないラベル紙
 - 糊のはみ出したラベル紙
 - 通紙指定方向が本機で対応できないラベル紙
 - 一度通紙したラベル紙や部分的にラベルを剥がしてあるラベル紙
 - 複数枚で構成されたラベル紙
 - レーザー方式に対応していないラベル紙
 - 熱に耐えきれない材質のラベル紙
 - 台紙にミシン目が入ったラベル紙
 - 台紙にスリットの入ったラベル紙
 - 規格外のラベル紙
 - 長期保管等で糊が変質しているラベル紙
 - 型抜きされて台紙面が露出しているラベル紙
 - カール等変形したラベル紙
 - 破れ／しわのあるラベル紙
 - 3枚以上で構成されたラベル紙

用紙のセット

1



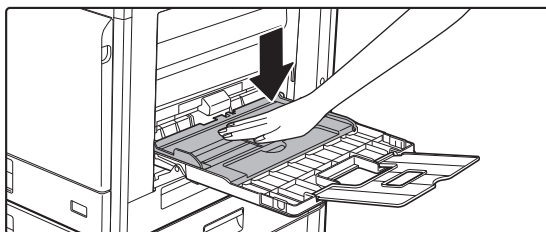
手差しトレイを開く

用紙の長さが250mmを超える用紙をセットする場合は補助トレイを開いてください。



手差しトレイに重い物を載せたり、上から強く押さえたりしないでください。

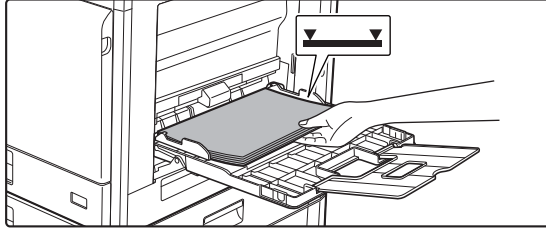
2



用紙圧板の中央をロックするところまで押し下げる



3

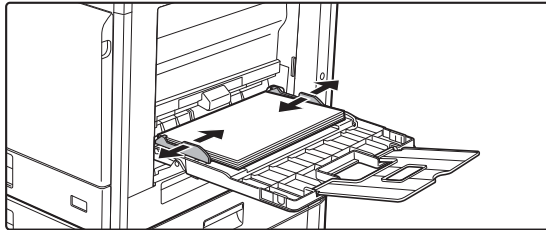


プリントしたい面を下向きにセットする

手差しガイドに沿って突き当たるまで確実に用紙をゆっくりと挿入します。強く挿入すぎると用紙の先端が折れ曲がったり、ゆるく挿入すると用紙が斜め送りになり、紙づまりの原因となります。

上限枚数以内で、指示線をこえてはいけません。

4



手差しガイドをセットする用紙のサイズにきちんと合わせる

手差しガイドをセットした用紙に軽く当てるように合わせます。



- セットする用紙は強く押し込まないでください。紙づまりの原因となります。
- 用紙と手差しガイドの間にすき間がある場合は、もう一度手差しガイドを用紙の幅に軽く当てるように合わせます。すき間があると斜め送りやシワ寄りの原因となります。
- **手差しトレイの閉じ方**
手差しトレイ上の用紙を取り除き、用紙圧板の中央をロックするところまで押し下げます。その後、補助トレイを閉じてから、手差しトレイを閉じます。



トレイの設定方法

トレイに補給した用紙サイズ・タイプの設定や、トレイの自動切り替えの設定を行います。

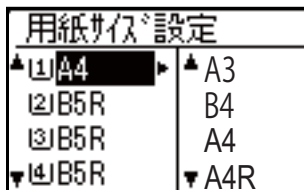
トレイの用紙設定を変更する

トレイに補給した用紙のサイズが本機のディスプレイ表示と異なるときは、次の手順に従ってトレイの用紙サイズを変更してください。

プリント中、紙づまり状態では、用紙サイズは変更できません。ただし、プリント中であっても、用紙切れやトナー切れの場合は変更できます。

各トレイに使用できる用紙のサイズは [使用できる用紙の種類 \(1-17ページ\)](#) を参照してください。

[機能] キーを押し、“用紙サイズ設定”を選択します。



[▼][▲]キーで設定するトレイを選択し、[▶]キーを押し、[▼][▲]キーで用紙サイズを選択します。
決定したら[OK]キーを押しします。



- ①: トレイ番号“1”を表します。
- ②: トレイ番号“2”を表します。
- ③: トレイ番号“3”を表します。
- ④: トレイ番号“4”を表します。
- ⑤: 手差しトレイを表します。

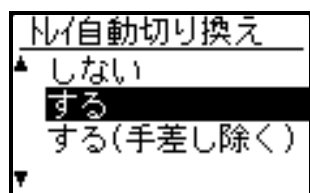
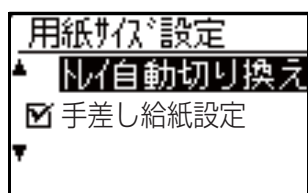
給紙トレイとトレイ番号の関係は [各トレイにセットできる用紙の種類 \(1-19ページ\)](#) を参照してください。

トレイ自動切り換えを解除（設定）する

トレイ自動切り換えが設定されていると、コピーやプリンターの出力時に用紙がなくなった場合、同じサイズとタイプの用紙トレイがあると、そのトレイから自動的に出力を続けます。（この機能は手差しトレイやファクスデータの出力時には、はたらきません。）

工場出荷時は、この設定は有効になっていますが、設定を次の手順で無効にすることもできます。

[機能] キーを押しして“用紙サイズ設定”を選択し、[▼]キーを繰り返し押しして、“トレイ自動切り換え設定”を表示します。



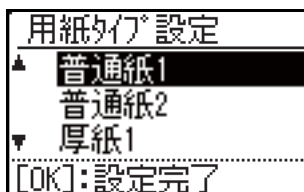
“する(手差し除く)”を選択すると手差しトレイ以外のトレイから出力します。

トレイの用紙タイプを変更する

トレイの用紙タイプを変更するときは、次の手順に従って変更してください。

[機能]キーを押しして“用紙タイプ設定”を選択し、[▼][▲]キーで設定するトレイを選択し、[OK]キーを押しします。設定する用紙タイプを選択し、[OK]キーを押しします。

各トレイに使用できる用紙のサイズは [使用できる用紙の種類 \(1-17ページ\)](#) を参照してください。





原稿のセット

原稿の種類や状態からセット方法を選択

原稿は原稿自動送り装置にセットします。原稿の種類や状態によって原稿台（ガラス面）を使います。説明に従って原稿のセット方法を選択します。

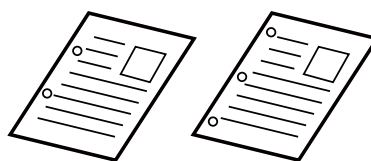
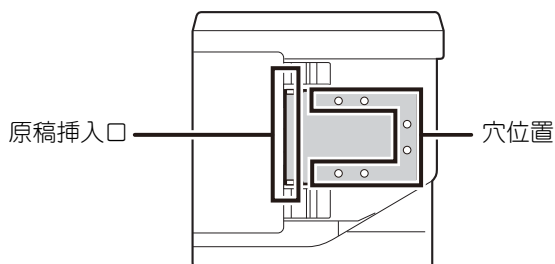
原稿自動送り装置にセットするには下記を参照してください。

原稿自動送り装置

原稿を原稿自動送り装置にセットする操作を説明します。



- クリップやステープルの針は、原稿から取りはずしてセットします。
- のり、インク、修正液が乾いていない原稿はよく乾かします。本機の内部や原稿台（ガラス面）の汚れの原因となります。
- 次のような原稿は使用しないでください。原稿がつまったり、送信画像やコピー結果に汚れが写る原因となります。OHPフィルムや第2原図用紙、トレーシングペーパー、カーボン紙、感熱紙、しわやソリの大きいもの、破れている原稿、折れのある原稿、貼り合わせや切り抜きのある原稿、ファイル用の穴がたくさんあいている原稿（2穴、3穴のファイル穴原稿は使用できます。）、インクリボン（熱転写方式）でプリントした原稿（熱転写用紙など）
- ファイル用の穴のあいている原稿（2穴、3穴のファイル穴原稿）は、穴位置が原稿セット台の原稿挿入口以外の場所になるようにセットします。[原稿] で原稿の向きを設定します。





セットできる原稿の大きさ

最小原稿サイズ	最大原稿サイズ
定形サイズ A5 : 210mm (縦) x 148mm (横) 5-1/2" (縦) x 8-1/2" (横) 不定形サイズ (手動設定できる最小サイズ) 131mm (縦) x 140mm (横) 5-1/8" (縦) x 5-1/2" (横)	定形サイズ A3 : 297mm (縦) x 420mm (横) 11" (縦) x 17" (横) 不定形サイズ (手動設定できる最大サイズ) コピーモード/スキャナーモード : 297mm (縦) x 432mm (横) 11-5/8" (縦) x 17" (横) ファクスモード : 297mm (縦) x 500mm (横) 11-5/8" (縦) x 19-5/8" (横)

不定形サイズの原稿をセットするときは、それぞれの機能の説明を参照してください。

- ▶ コピー「[原稿サイズの指定 \(2-12ページ\)](#)」
- ▶ ファクス「[基本的な送信のしかた \(4-8ページ\)](#)」
- ▶ スキャナー「[基本的な送信のしかた \(5-5ページ\)](#)」

セットできる原稿の用紙坪量

片面時: 50g/m²~128g/m²

両面時: 50g/m²~105g/m²

薄紙 (片面のみ) : 35g/m²~49g/m²

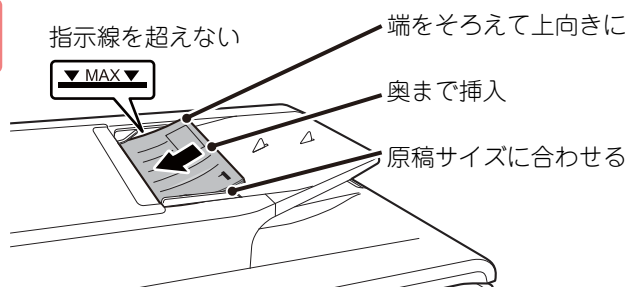
35g/m²~49g/m²までの原稿を読み取るときは、特別機能の「薄紙読み込み」を使用します。「薄紙読み込み」を設定せずに読み込むと原稿づまりの原因となります。

また「薄紙読み込み」を設定したときは両面読み込みしません。

1

原稿台 (ガラス面) に原稿が残っていないことを確認する

2



原稿をセットする

最大120枚セットできます。

原稿自動送り装置で読み取りを終了した原稿は、原稿出紙部から取り除きます。



お使いになる前に▶原稿のセット

原稿台（ガラス面）

原稿を原稿台（ガラス面）にセットする操作を説明します。



- 原稿自動送り装置はゆっくりと閉じてください。勢いよく閉じると故障の原因となります。
- 原稿自動送り装置を閉じるときは、手をはさまないように注意してください。

セットできる原稿の大きさ

最大原稿サイズ

定形サイズ

A3: 297mm (縦) x 420mm (横)

11" (縦) x 17" (横)

不定形サイズ

297mm (縦) x 432mm (横)

11-5/8" (縦) x 17" (横)

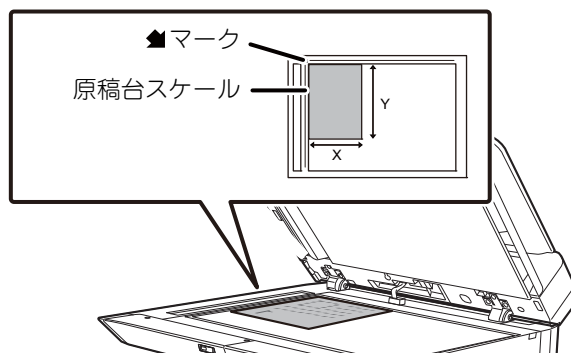
不定形サイズの原稿をセットするときは、それぞれの機能の説明を参照してください。

- ▶ コピー「[原稿サイズの指定 \(2-12ページ\)](#)」
- ▶ ファクス「[基本的な送信のしかた \(4-8ページ\)](#)」
- ▶ スキャナー「[基本的な送信のしかた \(5-5ページ\)](#)」

1

原稿自動送り装置を開く

2



原稿を下向きにセットする

原稿は下向きにして原稿台（ガラス面）の左奥（マークの先）に原稿左上の角を合わせます。

3

原稿自動送り装置を閉じる

原稿をセットしたあとは、原稿自動送り装置を閉じます。開いたままだと、原稿以外の部分を黒くコピーしてトナーの過剰消費につながります。



のり、インク、修正液が乾いていない原稿はよく乾かします。本機の内部や原稿台（ガラス面）の汚れの原因となります。



お手入れについて

ここでは、総使用枚数の確認やディスプレイのコントラスト調整、本機の清掃、トナーカートリッジの交換について説明しています。

総使用枚数を確認する

本機が待機状態のとき、[コピー]キーを押し続けると、押し続けているあいだ、ディスプレイにコピー、プリンター、ファクスの総使用枚数を表示させることができます。また、トナー残量も下部に表示されます。総使用枚数は清掃管理などに利用できます。総使用枚数は“99,999,999”を超えると“0”に戻ります。

総使用枚数	99,999,999
トナー残量 (%)	
Ⓜ100-75	ⓐ100-75
Ⓜ100-75	ⓑ100-75



- [機能]キーを押し、機能メニュー画面-「総使用枚数」を選択して確認することもできます。
- 両面出力は2枚としてカウントします。
- 白紙コピー、白紙プリントはカウントの対象となります。
- 両面プリントで最後のページが白紙の場合はカウントしません。

ディスプレイのコントラストを調節する

ディスプレイのコントラストは、次の手順で調節できます。

1

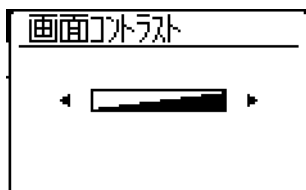
[機能]キーを押す

機能画面が表示されます。

2

[▼][▲]キーで、“画面コントラスト”を選択する

3



[OK]キーを押す

画面コントラスト設定画面が表示されます。

4

[◀][▶]キーで、コントラストを調節する

画面コントラスト設定を初期設定に戻すときは、[クリア]キーを押します。

5

[機能]キーを押す

基本画面に戻ります。



日常のお手入れ

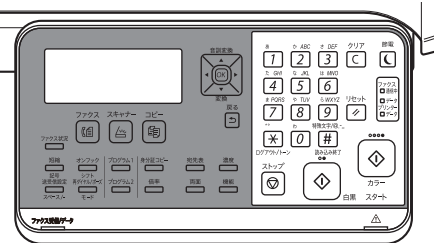
末永くお使いいただくために、本機をときどき清掃してください。



清掃するときは可燃性のスプレーなどを使用しないでください。スプレーのガスが内部の電気部品や定着部の高温部分に触れて火災や感電の原因になります。



- 清掃するときはベンジンやシンナーなどは使用しないでください。キャビネットの表面が変質したり、色が変わったりすることがあります。
 - 操作パネルの鏡面仕上げ部分（右図参照）の汚れは柔らかい布で軽く拭き取ってください。硬い布で拭いたり強くこすったりすると表面に傷がつきます。
- 右図の、■の箇所が鏡面仕上げ部分です。



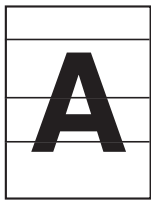
原稿台・原稿自動送り装置部の清掃について

原稿台（ガラス面）や原稿押さえシートが汚れると、読みとった画像に汚れや、色すじや白すじが写ることがあります。つねにきれいな状態でご使用ください。

きれいな柔らかい布で拭いてください。

汚れが落ちにくいときは、水または中性洗剤を少し含ませた布で拭いたあと、きれいな布でからぶきしてください。

印刷汚れの例

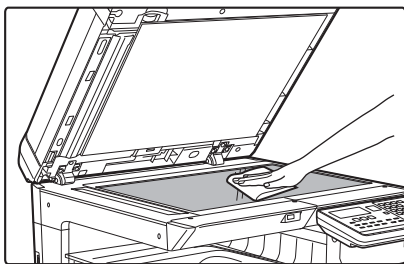


黒すじ

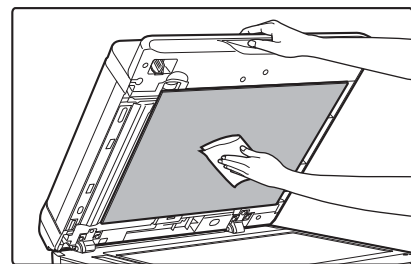


白すじ

原稿台



原稿押さえシート

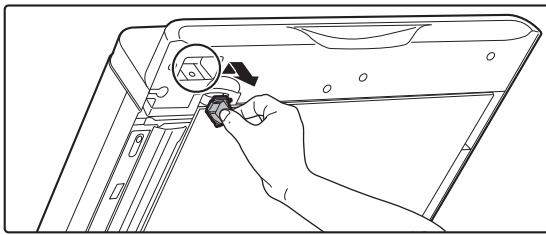




原稿読み取り部分

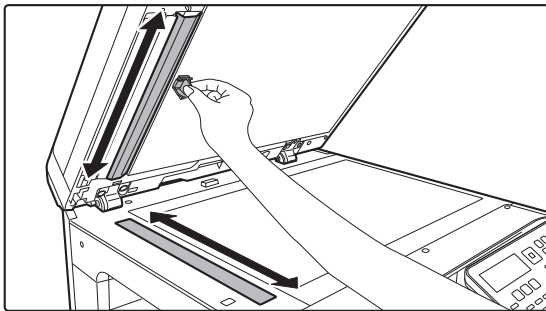
原稿自動送り装置を使用して読み取った画像に黒すじや白すじなどの汚れが発生するときは、原稿を読み取る部分（原稿台（ガラス面）の横にある細長いガラス面）を清掃します。

1



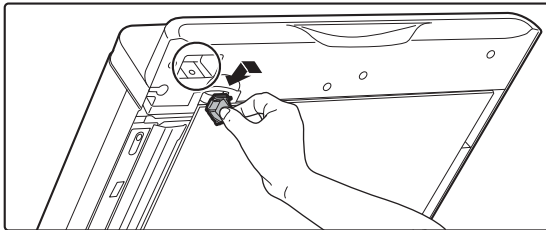
原稿自動送り装置を開き、ガラスクリーナーを取り出す

2



原稿台側の原稿読み取り部をガラスクリーナーで清掃する

3

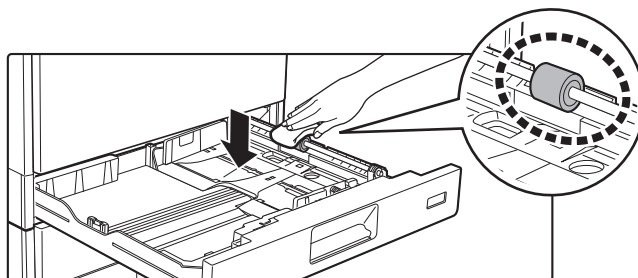


ガラスクリーナーを元の位置に収納する



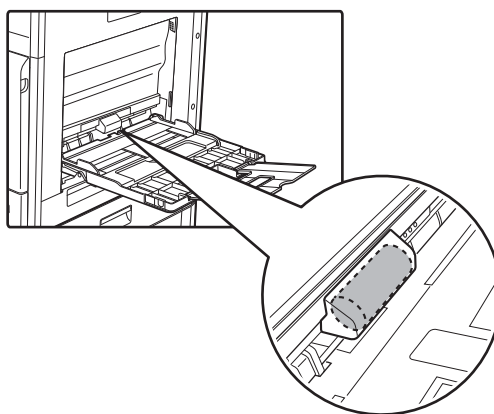
トレイ1の給紙ローラーの清掃

トレイ1を通る紙の紙づまりがたびたび起こる場合は、用紙圧板の中央をロックがかかる場所まで押し下げ、給紙ローラーの表面を水を含ませたきれいな柔らかい布で拭いてください。



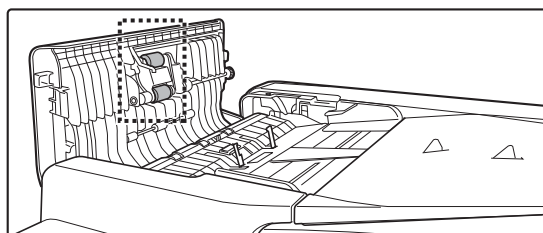
手差し給紙ローラーの清掃

手差しトレイを通る郵便はがきや封筒、厚みのある紙などの紙づまりがたびたび起こる場合は、給紙ローラーの表面を水を含ませたきれいな柔らかい布で拭いてください。



原稿給紙ローラーの清掃

原稿自動送り装置を使用するときに、読み込まれた原稿にすじなどの汚れが発生するときは、原稿給紙ローラーの表面を水を含ませたきれいな柔らかい布で拭いてください。





書き込みユニットの清掃

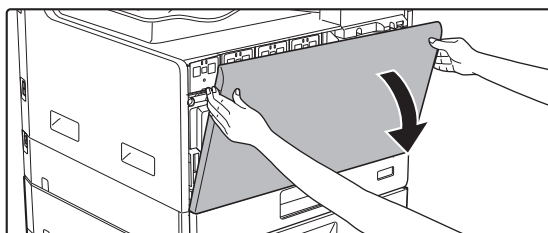
本体内部の書き込みユニットが汚れると、印字画像にすじ状の色むら（色すじ）が発生する可能性があります。

書き込みユニットの汚れが原因となるすじ（色すじ）の見極めかた

- すじ（色すじ）は、常に同じ場所に現れます。（黒すじにはなりません。）
- すじ（色すじ）は、プリント用紙の送り方向に対して水平に現れます。
- すじ（色すじ）は、コピーだけでなくコンピューターからプリントしたときにも現れます。（プリントとコピーの両方で同じ現象が起こります。）

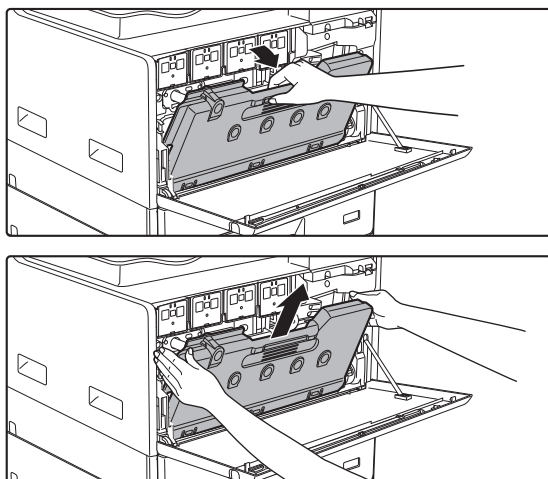
以上のような症状があらわれたときは、次の手順で書き込みユニットの清掃を行ってください。

1



前カバーを開ける

2



トナー回収容器を取りはずす

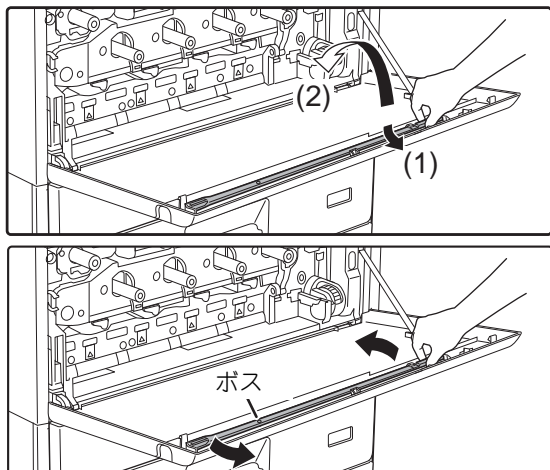
トナー回収容器を手前に倒し、ゆっくりと上に引き上げます。



内部のコードやコネクタに触らないでください。



3

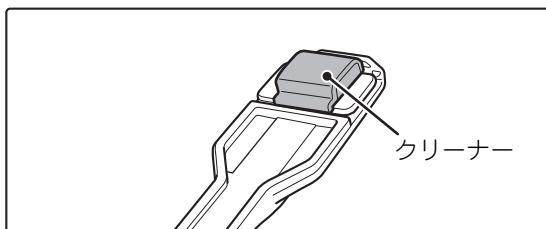


書き込みユニットの清掃器具を取りはずす

清掃器具は本機の前カバーに取り付けられています。

- (1) 清掃器具の右側を引いて爪からはずす
- (2) 爪の上をまたいで奥側に置く
- (3) ボスを中心に回転させて清掃器具を左側の爪からはずす

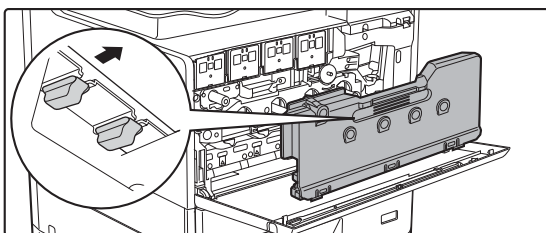
4



清掃器具の先端に付いているクリーナーが汚れていないことを確認する

クリーナーが汚れている場合は、清掃器具からクリーナーを取りはずして、汚れていないものに交換してください。クリーナーの交換方法については手順5~7を参照してください。クリーナーが汚れていないときは手順8へ進んでください。

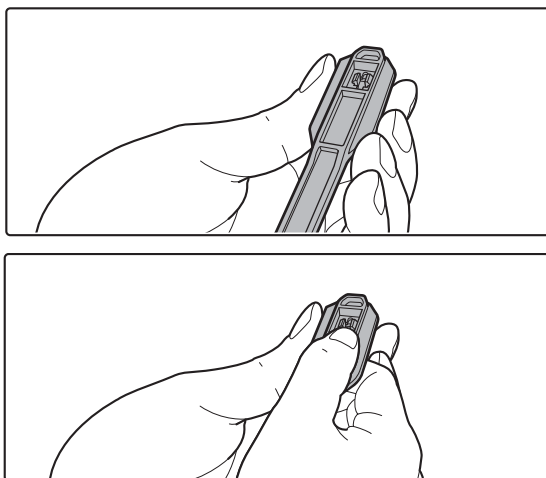
5



トナー回収容器から、交換用のクリーナーを引き抜く

交換用のクリーナーはトナー回収容器に収納されています。クリーナーの端をつまみ、トナー回収容器から引き抜きます。

6



清掃器具の先端にある汚れたクリーナーを取りはずす

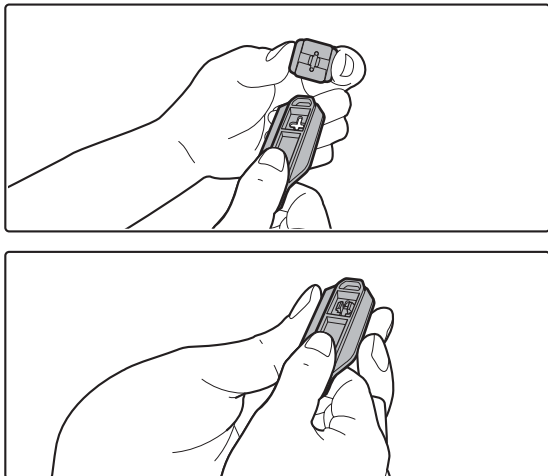
- (1) クリーナーが取り付けられた付近をしっかりと持つ
- (2) クリーナーを固定している爪の部分をもう一方の手で押さえながら、クリーナーを取りはずす



取りはずしたクリーナーは、トナー回収容器に戻してください。



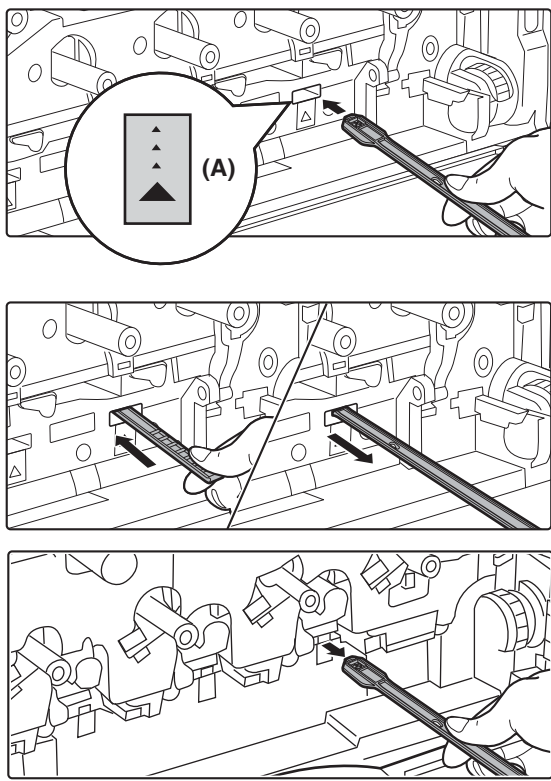
7



新しいクリーナーを清掃器具に取り付ける

- (1) 清掃器具にある取り付け用の穴にクリーナーの固定用の爪を合わせる
- (2) クリーナーをしっかりと持ち、清掃器具を押し込む

8



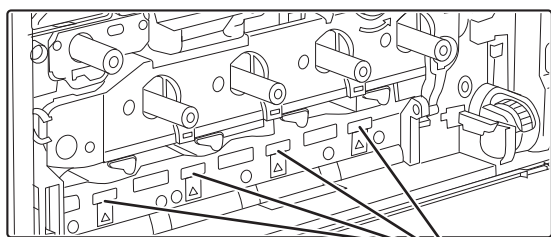
書き込みユニットを清掃する

- (1) クリーナーを下に向けて、清掃する穴に清掃器具をゆっくりと挿入する
クリーナーは必ず下に向けてください。
 清掃箇所には (A) のようなラベルが表示されています。
- (2) 清掃器具を奥まで挿入したあと、清掃器具を引き戻す
書き込みユニットのクリーニング面から清掃器具の先端がはずれた感触があるまで引き戻してください。
- (3) 手順 (2) を2~3回繰り返したあと、清掃器具を取り出す



内部のコードやコネクタに触らないでください。

9



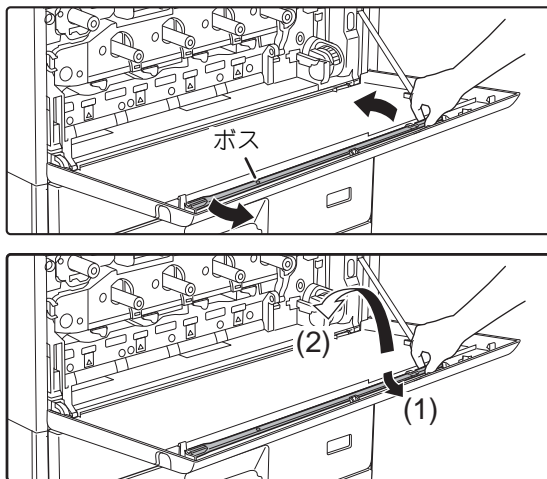
清掃箇所

すべての書き込みユニットの清掃箇所(4箇所)に手順8と同様の作業を行う

書き込みユニットの清掃箇所は手順8で行った箇所を含めて4箇所あります。すべての箇所で清掃を行ってください。



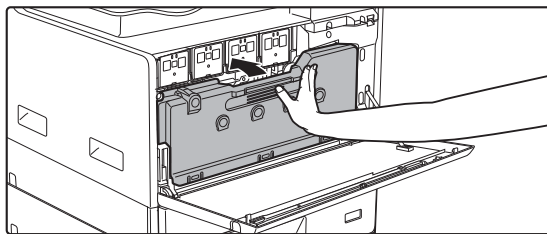
10



清掃器具を元に戻す

- (1) 清掃器具をボスにはめて回転させ、先端（クリーナーがある方）を左側の爪に引っかける
- (2) 清掃器具の右側を、爪の上をまたいで手前側に置く
- (3) 清掃器具を爪に引っかける

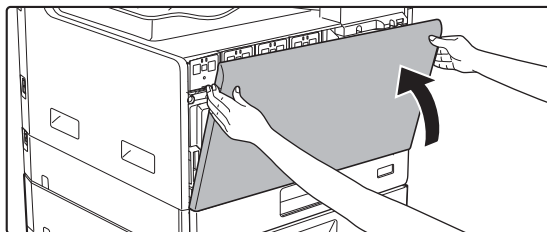
11



トナー回収容器を奥に押し込む

カチッと音がし、左右のロックが確実にかかるまで押し込んでください。

12



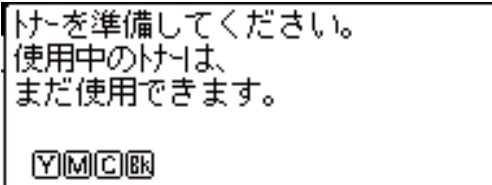
前カバーを閉じる



トナーカートリッジの交換

トナーカートリッジは必ず、「トナーカートリッジを交換してください。」のメッセージが表示されてから交換してください。トナーがなくなったとき、すぐにトナーカートリッジを交換できるように、前もって交換用のトナーカートリッジを1セット準備しておくことをおすすめします。

交換のメッセージ



このメッセージが表示されたら、交換用のトナーカートリッジを準備してください。

(□□□□)の箇所には準備すべきトナーカートリッジの色を表示します。

Y: イエロー (黄色系) トナー、M: マゼンタ (赤色系) トナー、C: シアン (青色系) トナー、Bk: ブラック (黒色) トナー

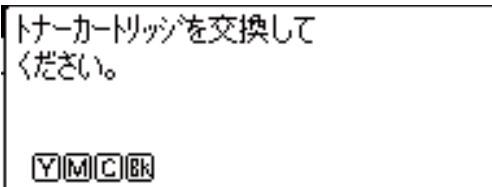
いずれかのキーを押すと、上記ダイアログ表示が消去され、以下の画面に変わります。



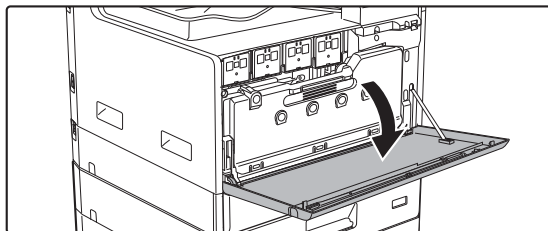
そのまま使用し続けると、やがてトナーがなくなり、次のようなメッセージが表示されます。

(□□□□)の箇所にはなくなったトナーカートリッジの色を表示します。

それぞれの色のトナーカートリッジを交換します。



1

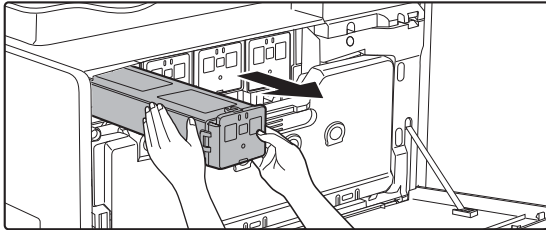
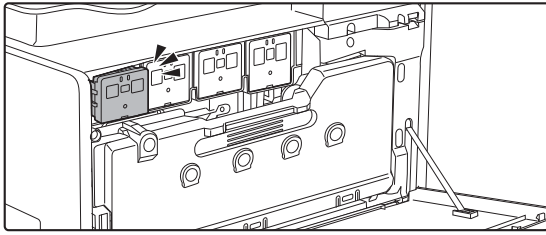


前カバーを開ける



2

BP-20C25/BP-21C20



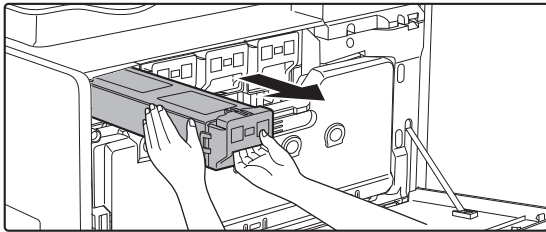
トナーカートリッジを手前に引き抜く

BP-20C25/BP-21C20の場合、空のトナーカートリッジが手前に押し出され、取り出せるようになります。

(例) イエローのトナーカートリッジを交換する場合

トナーカートリッジは図のように両手に持ってゆっくりと引き抜きます。

DX-20C20

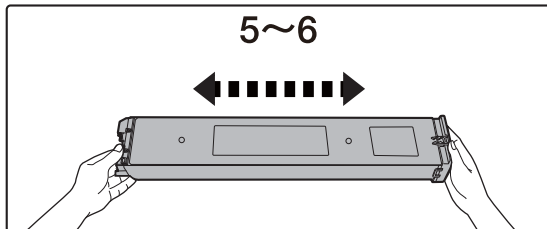


DX-20C20の場合、そのまま空のトナーカートリッジを引き出します。



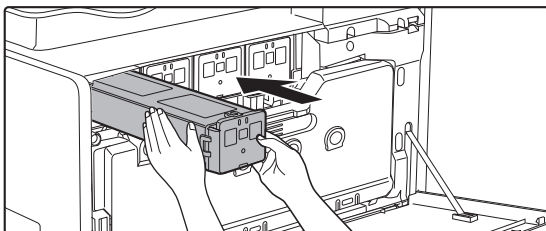
トナーカートリッジは、そのまま水平にゆっくりと引き抜いてください。急に引き抜くとトナーが漏れる場合があります。

3



新しいトナーカートリッジを取り出し、水平方向に5、6回振る

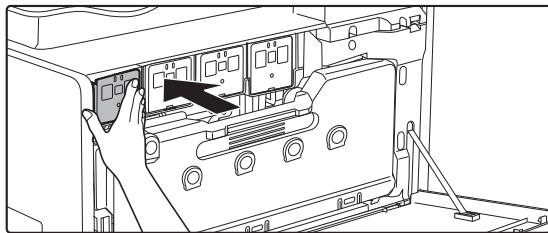
4



新しいトナーカートリッジを水平にゆっくりと挿入する

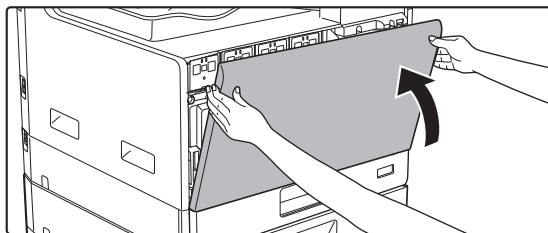


5



「カチッ」と音がするところまで確実に押し込む

6



前カバーを閉じる

トナーカートリッジを交換したあと、自動的に画質調整モードに入ります。このとき前カバーを開かないでください。



- トナーカートリッジを火中に投じないでください。トナー粉がはねて、やけどの原因となることがあります。
- トナーカートリッジは、小さなお子様の手の届かない場所に保管してください。
- トナーカートリッジは立てて保管しておく、トナーが固まって使用できないおそれがあります。トナーカートリッジは必ず横にした状態で保管してください。
- 当社が指定していないトナーカートリッジを使用した場合、本機の本来の品質や性能が発揮できないおそれがあり、また、故障の原因になるおそれもあります。当社が指定するトナーカートリッジを使用してください。



- いずれか1色のトナーがなくなるとカラープリントはできません。カラートナーがなくなっても、黒色トナーがなくなっていなければ白黒プリントできます。
- お客様の使用状況によっては、色が薄くなったりかすれる場合があります。
- トナーカートリッジは必ず4本（Y/M/C/Bk）装着します。
- 使用済のトナーカートリッジは捨てないでビニール袋に入れて保管してください。メンテナンスのときにサービス担当者が回収します。
- プリント中、または待機状態のとき、[コピー] キーを長押しすると、トナー残量の目安（%表示）を表示します。この表示が「25-0%」になっているときは、トナーがなくなったときに備え、あらかじめ交換用のカートリッジを準備してください。
- 本機に同梱されているトナーカートリッジを装着したときは、トナー残量が最初から「50-25%」と表示されます。（設置時にセットさせていただきますトナーカートリッジの印字可能枚数は、通常のトナーカートリッジよりも少なくなっております。）



手動でトナーカートリッジを取り出すには（BP-20C25/BP-21C20）

[システム設定] → [トナーカートリッジの取り出し] で設定します。

▶ [トナーカートリッジの取り出し（6-18ページ）](#)



トナー回収容器の交換

トナー回収容器は、プリントするとき発生する余分なトナー粉を蓄積している装置です。トナー回収容器が満杯になると、「△回収容器を交換ください。」というメッセージを表示します。

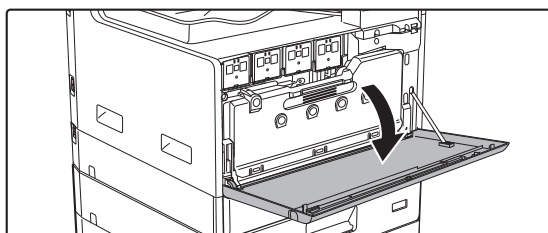
このメッセージが表示されたら、トナー回収容器を準備し、交換してください。

このとき、トナー回収容器を交換するまでプリントできません。

この画面はいずれかのキーを押すと閉じます。

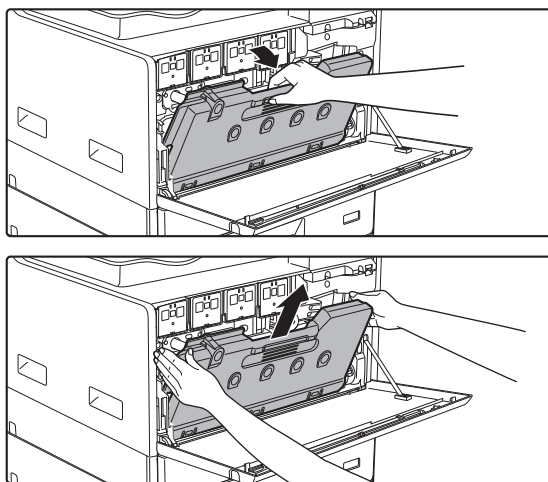


1



前カバーを開ける

2



トナー回収容器を取り出す

トナー回収容器を手前に倒し、ゆっくりと上に引き上げます。

3

平らな場所にトナー回収容器を置く

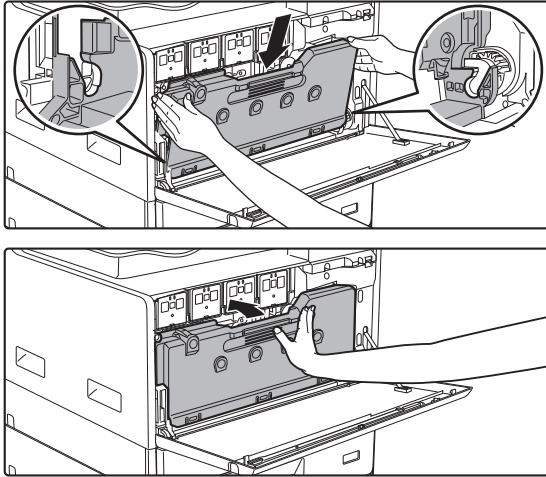
あらかじめトナー回収容器を置く場所に新聞紙などを敷いておきます。



- 中に入っている廃トナーがこぼれますので、穴の部分を下に向けないでください
- 取りはずしたトナー回収容器は捨てないでビニール袋に入れて保管してください。メンテナンスのときに担当員が回収します。



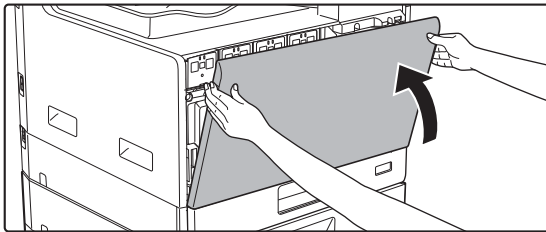
4



新しいトナー回収容器を取り付ける

左右のツメにはめこみ、奥まで確実に押し込みます。

5



前カバーを閉じる

トナー回収容器を取り付けないと前カバーは閉まりません。



- トナー回収容器を火中に投じないでください。トナー粉がはねて、やけどの原因となることがあります。
- トナー回収容器は、小さなお子様の手の届かない場所に保管してください。



文字入力

短縮ダイヤル・グループダイヤルの相手先名、ユーザー名、登録するプログラムの名称、宛先表の検索文字などを入力または修正するときには以下の操作を行います。文字入力は数字キーを使用して行います。



入力できる文字について

名称入力に使用できる文字

次の文字が入力できます。

ひらがな（全角）、漢字（全角）、カタカナ（全角、半角）、英大文字（全角、半角）、英小文字（全角、半角）、数字（全角、半角）、特殊文字（半角）、記号（全角、半角）

検索文字に使用できる文字

次の文字の半角のみ使用できます。

カタカナ、英大文字、英小文字、数字、特殊文字

検索文字として入力できる文字数は、半角10文字までです。



- 検索文字は、原則として宛先名で入力した文字が先頭から10文字目まで登録されます。ただし、漢字は変換前の読みを半角カタカナとして、また、ひらがなも半角カタカナで登録されます。全角で入力したカタカナ、英大文字、英小文字、数字は全て半角になり、先頭から10文字目まで登録されます。
- 検索文字は、ダイヤル登録する場合やオートダイヤルを使用するときに使います。
- 宛先名入力した文字に記号が入っていた場合は、検索文字として登録はされません。
- 検索文字は、修正することもできます。

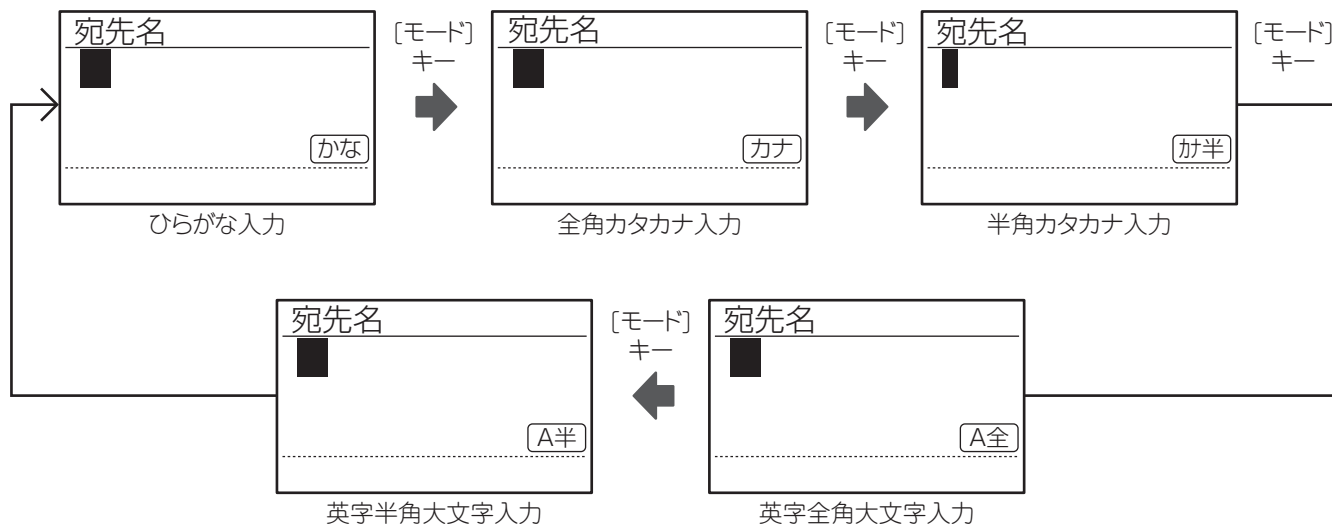


入力モードの切り替えについて

ひらがな・カタカナ⇄英字の切り替えは、[モード]キーを押して行います。

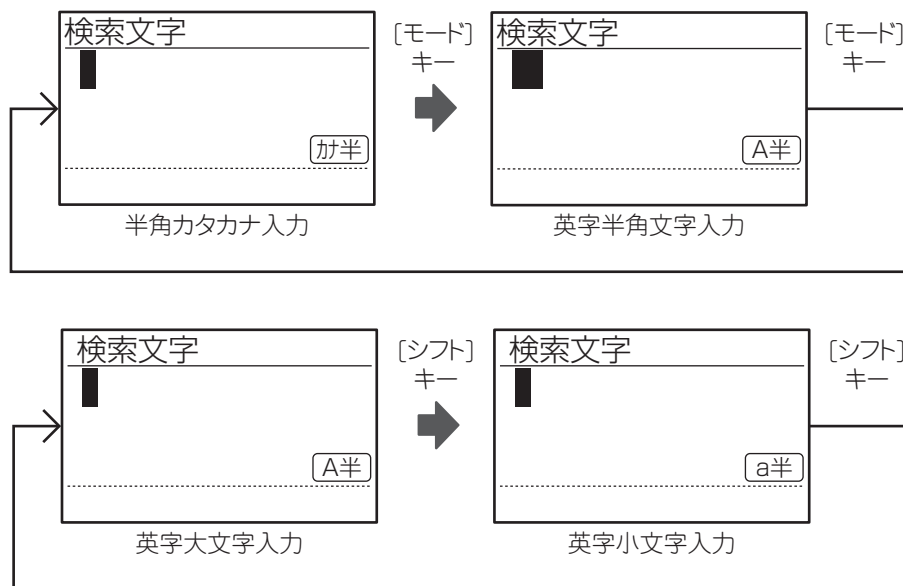
宛先名などを入力するとき

[モード]キーを押すたびに、ひらがな入力→全角カタカナ入力→半角カタカナ→全角英字（大文字）→半角英字（大文字）の順に切り替わります。※



検索文字などを入力するとき

[モード]キーを押すたびに、半角カタカナ→半角英字（大文字）※の順に切り替わります。



※ [シフト]キーを押すたびに、英字の大文字入力→小文字入力に切り替わります。



文字入力中に[モード]キーを押したとき

入力中のひらがなや記号、特殊文字、漢字など選択途中の文字はカーソルまでの文字が確定されます。入力途中の文字は確定され、文字入力モードは次のように切り替わります。

- JISコードの入力途中に[モード]キーを押すと、入力途中のJISコードはキャンセルされます。
- [モード]キーを押したとき：[A全]（全角英字大文字）に切り替わります。
- [モード]キーを押したとき：[かな]（ひらがな）に切り替わります。

続けて同じキーに割り当てられている文字を入力するとき

[▶]キーでカーソルを移動させてから文字を入力してください。

例：「ab」と入力するとき

[2]キーを1回押したあと、[▶]キーを1回押しカーソルを移動させてから、[2]キーを2回押します。



文字入力の共通操作

ひらがな/カタカナの入力方法（例：なら/ナラ）

ひらがな・カタカナ入力モードで入力します。

1



“かな” / “カナ” モードで、文字／数字キーの[5]を1回押す

入力モードの切り替えは、[入力モードの切り替えについて（1-49ページ）](#)を参照してください。

キーを押すごとに「な→に→ぬ→ね→の→5→な→に→…」と表示されます。半角カタカナ入力するときは、[モード]キーを押して“カナ半”（半角カタカナ入力）モードに切り替えてください。

2

文字／数字キーの[9]を1回押す

続けて同じキーの文字を入力するときは、[▶]キーでカーソルを移動させてから文字を入力してください。

3

文字入力が終わったら[OK]キーを押す



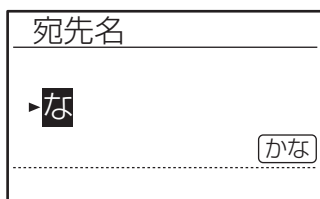
- 修正するときは[クリア]キーを押してください。カーソルの前の1文字が削除されます。
- カーソル上に文字があるときは、カーソル上の文字が削除されます。
- スペースや「ー（長音）」を入力するときは、[スペース]キーを押してください。
- 「っ（促音）」を入力するときは、文字／数字キーの[4]を6回押してください。
- 「ア」～「オ」や「ャ」「ュ」「ョ」など（拗音）を入力するときは、それぞれ文字／数字キーの[1][8]を、入力したい文字が表示されるまで押してください。



漢字（単語変換）の入力方法（例：「藍」を入力する）

ひらがな入力し、漢字に変換するときに使用します。

1



“かな”モードで「あ」「い」を入力する

入力モードの切り替えは、[入力モードの切り替えについて（1-49ページ）](#)を参照してください。

キーを押すごとに「あ→い→う→え→お→あ→い→う→え→お→1→あ→い→…」と表示されます。

2



[▼]キーを押し、変換候補の中から[▼][▲]キーで、“藍”を選択する

希望の文字が画面に表示されていないときは、[▼][▲]キーを押してください。

3

[OK]キーを押す

4

文字入力が終わったら[OK]キーを押す



漢字（音訓変換）の入力方法（例：「阿」を入力する）

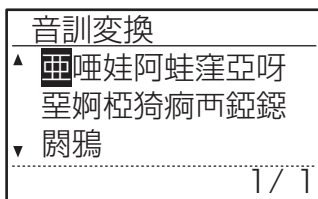
ひらがな入力し、漢字1文字に変換するときに使用します。

1



“かな”モードで「あ」を入力する

2



[▲]キーを押し、変換候補の中から
[◀][▶]キーで、“阿”を選択する

希望の文字が画面に表示されていないときは、[▼][▲]キーを押してください。



漢字を選択中に[モード]キーを押したときは、カーソルで選択されている文字が確定し“A全”（全角英字の大文字入力）モードの画面になります。

3

[OK]キーを押す

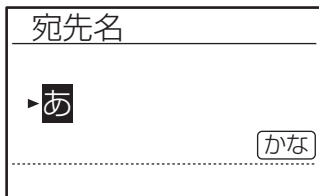


英字（アルファベット）の入力方法（例：ABC／ABC）

英字入力モードで入力します。[\(▶1-49ページ\)](#)

英字キーで入力すると[OK]キーを押さなくても、入力した英字の後にカーソルが移動します。
XYZは、カタカナの入力方法と同じです。[\(▶1-49ページ\)](#)

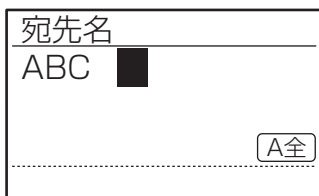
1



[モード]キーを押して英字入力モードに切り替える

- 全角英字入力するときは、[モード]キーを押して“A全”（全角英字の大文字入力）モードに切り替えてください。
▶ [入力モードの切り替えについて（1-49ページ）](#)
- 半角英字入力するときは、[モード]キーを押して“A半”（半角英字の大文字入力）モードに切り替えてください。
▶ [入力モードの切り替えについて（1-49ページ）](#)
- 大文字と小文字の切り替えは、[シフト]キーを押して切り替えてください。
▶ [入力モードの切り替えについて（1-49ページ）](#)

2



文字／数字キーで「A」「B」「C」を入力する

ABCを入力する場合は、[2]キーを1回→[▶]キーを1回→[2]キーを2回→[▶]キーを1回→[2]キーを3回入力します。
入力した文字が確定されて、入力した文字の後にカーソルが移動します。



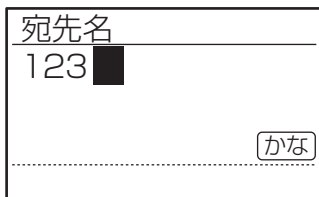
- 修正するときは[クリア]キーを押してください。カーソルの前の1文字が削除されます。
- カーソル上に文字があるときは、カーソル上の文字が削除されます。

数字の入力方法（例：123／123）

ひらがな・カタカナ入力モードで入力します。

入力すると[OK]キーを押さなくても、入力した数字の後にカーソルが移動します。

1



“かな”モードで、文字／数字キーを押す

1の場合、数字キーの[1]を11回押します。

(あいうえおあいうえお 1)

半角数字を入力するときは、[モード]キーを押して“カナ半”（半角カタカナ入力）モードに切り替えてください。



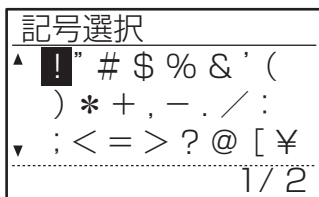
- 修正するときは[クリア]キーを押してください。カーソルの前の1文字が削除されます。
- カーソル上に文字があるときは、カーソル上の文字が削除されます。
- 文字入力モードが全角のときは全角数字、半角のときは半角数字が入力できます。



記号の入力方法

全角入力モードのときは全角記号、半角入力モードのときは半角記号が入力できます。

1



[記号]キーを押し、[◀][▶]キーで、入力したい記号を選択する

希望の記号が画面に表示されていないときは、[▼][▲]キーを押してください。

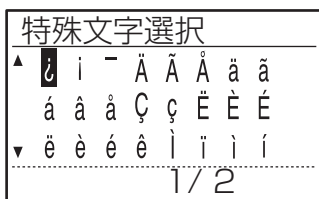


- 記号の選択中に[モード]キーを押したときは、カーソルで選択されていた記号が確定し、それぞれの入力モードに切り替わります。
- E-mailアドレス入力時は[読み込み終了]キー（Ⓜ）または[ログアウト/トーン]キー（ⓧ）を押すことで@._-等の記号が入力できます。（E-mailアドレスの入力やLDAPサーバーのアドレスを検索する際は[記号]キーを押して記号を入力できません。）

特殊文字の入力方法

特殊文字は半角文字のみです。全角文字はありません。全角入力モードでも半角文字で入力できます。

1



[特殊文字]キーを押し、[◀][▶]キーで、入力したい特殊文字を選択する

希望の特殊文字が画面に表示されていないときは、[▼][▲]キーを押してください。



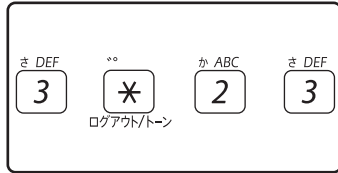
- 特殊文字の選択中に[モード]キーを押したときは、カーソルで選択されている特殊文字が確定し、“かな”モードに切り替わります。



JISコードでの入力方法（例：「今」（JISコード：3A23）を入力する）

特殊文字入力コードから、[特殊文字]キーを押すことで、JIS入力モードに遷移します。
JIS漢字コード表は、[JIS漢字コード表（1-57ページ）](#)を参照してください

1



[特殊文字]キーを押し、数字キーと[ログアウト/トーン]キー（*）で4桁のJISコードを入力する

[ログアウト/トーン]キー（*）でABCDEFを入力します。
例：「今」（JISコード：3A23）を入力する場合

- (1) 数字キーの[3]を押す
- (2) [ログアウト/トーン]キー（*）キーを1回押す
- (3) 数字キーの[2]を押す
- (4) 数字キーの[3]を押す

2

[OK]キーを押すと入力が確定され、“今”が表示される



- JISコード入力途中で[モード]キーを押したときは、入力途中のJISコードがキャンセルされます。
- 入力をまちがえたときは、[クリア]キーを押して消去し、再入力することができます。
- 3A23を入力したあと、[モード]キーを押すとJISコードが確定されます。
- JIS漢字コード表で空白となっているJISコードを入力し、[モード]キーを押したときは、キャンセルされます。
- JISコード入力はひらがな入力でのみ入力できます。



JIS漢字コード表

第1水準

第2水準 4-16進	20 21 22 23 24 25 26 27	28 29 2A 2B 2C 2D 2E 2F	30 31 32 33 34 35 36 37	38 39 3A 3B 3C 3D 3E 3F	
第1水準 4-16進					
20					
21					
22	◆ □ ■ △ ▲ ▽ ▼	※ 〒 → ← ↑ ↓ =	0 1 2 3 4 5 6 7	8 9	
23					
24	あ あい い う え	え お おか が き ぎ く	ぐ け げ こ ご さ ざ し	じ す ず せ ぜ そ ぞ た	
25	ア アイ イ ウ エ	エ オ オカ ガ キ ギ ク	グ ケ ゲ コ ゴ サ ザ シ	ジ ス ズ セ ゼ ソ ゾ タ	
26	A B Γ Δ E Z H	Θ I K Λ M N Ξ O	Π Ρ Σ Τ Υ Φ Χ Ψ	Ω	
27	A B B Γ Д E Ë	Ж З И Й К Л М Н	О П Р С Т У Ф Х	Ц Ч Ш Щ Ъ Ы Ь Э	
28	一 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ	ㅂ ㅅ ㅇ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ	ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ	ㅇ ㆁ ㆁ ㆁ ㆁ ㆁ	
29					
2A					
2B					
2C					
2D					
2E					
2F					
30	亜 唾 娃 阿 哀 愛 挨 始 逢 葵 茜 穉 惡 握 渥 旭 葦 芦 鱒 梓 庄 幹 扱 宛 姐 虻 飴 絢 綾 鮎 或	院 陰 隱 韻 吋 右 宇 烏 迂 雨 卯 鵝 窺 丑 確 白 渦 嘘 唄 鬱 蔚 鱧 姥 厖 浦 瓜 閏 嚙 云 運	押 旺 橫 欧 毆 王 翁 襖 鶯 鷗 黃 岡 沖 荻 億 劫 外 咳 害 崖 慨 概 涯 碍 蓋 街 該 鎧 骸 涅 馨 蛙	魁 晦 械 海 灰 界 皆 繪 芥 蟹 開 階 貝 凱 劾 完 官 寬 干 幹 患 感 慣 憾 換 敢 柑 桓 棺 款 歛 疑	機 婦 毅 氣 汽 畿 祈 季 稀 紀 微 規 記 貴 起 軌 輝 飢 騎 鬼 龜 偽 儀 妓 宜 戲 技 擬 欺 犧 疑
31	供 俠 僑 兇 競 共 凶 協 匡 栗 線 桑 欽 勳 君 薰 訓 群 軍 郡 卦 袈 祁 係 傾 刑 兄 啓 圭 珪 型	掘 窟 杏 靴 轡 窪 熊 限 糸 栗 線 桑 欽 勳 君 薰 訓 群 軍 郡 卦 袈 祁 係 傾 刑 兄 啓 圭 珪 型			
32	揅 榷 牽 犬 獻 研 硯 絹 帛 肩 見 謙 賢 軒 遣 鍵 險 頭 驗 齧 元 原 巖 幻 弦 減 源 玄 現 絃 絃	后 喉 坑 垢 好 孔 孝 宏 工 巧 巷 幸 庠 庚 康 弘 恒 慌 抗 拘 控 攻 昂 晃 更 杭 校 梗 構 江 洪 緝 良 魂 些 佐 又 唆 嗟 左 差 查 沙 瑳 砂 詐 鎖			
33	察 拶 撮 擦 札 殺 薩 雜 臯 鯖 捌 鏽 鮫 皿 晒 三 傘 參 山 慘 撒 散 棧 七 叱 執 失 嫉 室 悉 湿 漆 贊	宗 就 州 修 愁 拾 洲 秀 秋 終 繡 習 臭 舟 蒐 衆 襲 讐 蹴 輯 週 酋 酬 集 醜 什 住 充 十 從 戎 戎			
34	勝 匠 升 召 哨 商 唱 嘗 獎 妾 娼 宵 將 小 少 尚 庄 床 廠 彰 承 抄 招 掌 捷 昇 昌 昭 晶 松 梢 眞	叩 但 達 辰 奪 脫 巽 徵 懲 挑 暢 朝 潮 牒 町 眺 聽 脹 腸 蝶 調 諜 超 跳 鈹 長 頂 鳥 勅 抄 直 朕 軀			
35	董 蕩 藤 討 膳 豆 踏 濡 襦 衤 寧 葱 猫 熱 年 醜 髮 伐 罰 拔 筴 闕 鳩 斷 塙 蛤 隼 伴 判 半 反	邸 鄭 釘 鼎 泥 摘 擢 敵 滴 的 笛 適 鏞 溺 哲 徹 撤 轍 迭 鉄 典 填 天 展 店 添 纏 甜 貼 軀 軀			
36	如 尿 菲 任 妊 忍 認 濡 襦 衤 寧 葱 猫 熱 年 醜 髮 伐 罰 拔 筴 闕 鳩 斷 塙 蛤 隼 伴 判 半 反	董 蕩 藤 討 膳 豆 踏 濡 襦 衤 寧 葱 猫 熱 年 醜 髮 伐 罰 拔 筴 闕 鳩 斷 塙 蛤 隼 伴 判 半 反			
37	函 箱 裕 箸 肇 筭 櫛 幡 肌 焄 阜 八 鉢 澆 癸 醜 髮 伐 罰 拔 筴 闕 鳩 斷 塙 蛤 隼 伴 判 半 反	鼻 矜 稗 匹 疋 髭 彥 膝 菱 肘 粥 必 畢 筆 遍 桧 姬 媛 紐 百 謬 佞 彪 標 水 漂 瓢 票 表 評 豹			
38	福 腹 複 覆 淵 弗 弘 沸 仏 物 鮒 分 吻 噴 墳 憤 扮 焚 奮 粉 糞 紛 霧 文 聞 丙 併 兵 屛 幣 平 某	漫 蔓 味 未 魅 已 箕 岬 密 蜜 湊 蓑 稔 脈 妙 耗 民 眠 務 夢 無 牟 矛 霧 鷓 椋 婿 娘 冥 名 命			
39	論 輸 唯 佑 優 勇 友 宥 幽 悠 憂 揖 有 柚 湧 涌 猶 猷 由 祐 裕 誘 遊 邑 郵 雄 融 夕 予 余 与 凌	痾 裏 裡 里 離 陸 律 率 立 莅 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露			
40	蓮 連 鍊 呂 魯 櫛 焄	露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露 勞 勞 露 露			



お使いになる前に▶文字入力

第2行 41-16進	40 41 42 43 44 45 46 47	48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F	50 51 52 53 54 55 56 57	58 59 5A 5B 5C 5D 5E 5F
第1行 41-16進	20 21 22 23 24 25 26 27	20 21 22 23 24 25 26 27	20 21 22 23 24 25 26 27	20 21 22 23 24 25 26 27
	28 29 2A 2B 2C 2D 2E 2F			
	30 31 32 33 34 35 36 37	30 31 32 33 34 35 36 37	30 31 32 33 34 35 36 37	30 31 32 33 34 35 36 37
	38 39 3A 3B 3C 3D 3E 3F	38 39 3A 3B 3C 3D 3E 3F	38 39 3A 3B 3C 3D 3E 3F	38 39 3A 3B 3C 3D 3E 3F
	40 41 42 43 44 45 46 47	40 41 42 43 44 45 46 47	40 41 42 43 44 45 46 47	40 41 42 43 44 45 46 47
	48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F	48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F	48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F	48 49 4A 4B 4C 4D 4E 4F



お使いになる前に ▶ 文字入力

第2行 4-16進	60 61 62 63 64 65 66 67	68 69 6A 6B 6C 6D 6E 6F	70 71 72 73 74 75 76 77	78 79 7A 7B 7C 7D 7E 7F
第1行 4-16進	20	21	22	23
	24	25	26	27
	28	29	2A	2B
	2C	2D	2E	2F
	30	31	32	33
	34	35	36	37
	38	39	3A	3B
	3C	3D	3E	3F
	40	41	42	43
	44	45	46	47
	48	49	4A	4B
	4C	4D	4E	4F



第2水準

第2水準	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2A	2B	2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	3A	3B	3C	3D	3E	3F
50	式	丐	丕	个	卅	、	井	丿	父	乖	乘	亂	丿	豫	事	舒	式	于	亞	亟	一	亢	京	毫	亶	从	仍	仄	仆	仂	仗	
51	僉	僂	傳	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	
52	辦	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	
53	咫	晒	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	
54	圈	國	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	
55	奸	妁	妝	佞	佞	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣		
56	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	
57	廖	廣	廝	廚	廛	廢	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛	廛		
58	恂	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	悛	
59	憂	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	
5A	據	擒	擅	擇	捷	擘	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	搯	
5B	曄	瞭	曖	矇	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	
5C	楫	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	
5D	槩	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	藁	
5E	沭	泛	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	
5F	漾	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	
60	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	
61	瓠	瓣	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	
62	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	
63	磧	磚	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	
64	筐	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	
65	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	
66	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	
67	隋	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	
68	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	
69	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	葦	
6A	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	
6B	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	
6C	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	
6D	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	
6E	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	退	
6F	鎚	錢	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	錚	
70	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	
71	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	
72	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	
73	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝		
74	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	
75																																
76																																
77																																
78																																
79																																
7A																																
7B																																
7C																																
7D																																
7E																																
7F																																



お使いになる前に▶文字入力

第2行 16進	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	4A	4B	4C	4D	4E	4F	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	5A	5B	5C	5D	5E	5F
50	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺	伺
51	兩	兪	兮	冀	門	回	册	冉	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	冏	
52	卒	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	
53	唱	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	啞	
54	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	
55	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	媽	
56	釜	岷	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	崑	
57	互	象	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	彗	
58	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	愍	
59	拈	拜	拌	拊	拂	拊	拋	拉	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	拈	
5A	收	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	攸	
5B	恣	杼	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	杪	
5C	榆	楞	棟	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	榑	
5D	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	歛	
5E	淦	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	涸	
5F	濱	濮	濛	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	
60	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	狎	
61	畧	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	晝	
62	眇	眩	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	眇	
63	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	秬	
64	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	箒	
65	綫	總	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	綫	
66	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	羸	
67	臉	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	臍	
68	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	萱	
69	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	蘋	
6A	蠕	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	蟲	
6B	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	訐	
6C	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	貌	
6D	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	軀	
6E	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	鄒	
6F	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	鐻	
70	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	霎	
71	饑	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	
72	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	
73	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	鸚	
74																																
75																																
76																																
77																																
78																																
79																																
7A																																
7B																																
7C																																
7D																																
7E																																
7F																																



お使いになる前に▶文字入力

第2行 16進	60 61 62 63 64 65 66 67	68 69 6A 6B 6C 6D 6E 6F	70 71 72 73 74 75 76 77	78 79 7A 7B 7C 7D 7E 7F
50	俚倚倨倨倪倥倅倅	倣倡倩倬倭俯們倆	偃假會偕修偈做偌	德偷傀傲傅傴傲
51	風口函双刊刖刖刖	刪刮刮利刖到刖刺	剗剗剗剗剗剗剗剗	劍劍劍劍劍劍劍劍
52	呀听吭吼吮呐吩吝	呖咏呵咎咳呱呷皆	咒呻咀嗽咄咄咄咄	呶呶呶呶呶呶呶呶
53	噫噤嘯噬噪噤噤噤	噤噤噤噤噤噤噤噤	噤噤噤噤噤噤噤噤	噤噤噤噤噤噤噤噤
54	壘壤壘壯壺壹壻壺	壽久夕復夕夢夥夬	天本夸夾奇奕奥奎	奚樊奢奠奥獎奩
55	它宦宸冤寇雀寔寐	寤實寢寢寢寢寢寢	寢寢寢寢寢寢寢寢	寢寢寢寢寢寢寢寢
56	巫巳后昏帚帙帙帙	帶帷幄幃幃幃幃	幃幃幃幃幃幃幃幃	幃幃幃幃幃幃幃幃
57	怙恂恂恂恂恂恂恂	怙怙怙怙怙怙怙怙	怙怙怙怙怙怙怙怙	怙怙怙怙怙怙怙怙
58	憊憑憊憊憊憊憊憊	憊憊憊憊憊憊憊憊	憊憊憊憊憊憊憊憊	憊憊憊憊憊憊憊憊
59	揆揆揆揆揆揆揆揆	揆揆揆揆揆揆揆揆	揆揆揆揆揆揆揆揆	揆揆揆揆揆揆揆揆
5A	昃昃昃昃昃昃昃昃	昃昃昃昃昃昃昃昃	昃昃昃昃昃昃昃昃	昃昃昃昃昃昃昃昃
5B	梳柁柁柁柁柁柁柁	柁柁柁柁柁柁柁柁	柁柁柁柁柁柁柁柁	柁柁柁柁柁柁柁柁
5C	榭榭榭榭榭榭榭榭	榭榭榭榭榭榭榭榭	榭榭榭榭榭榭榭榭	榭榭榭榭榭榭榭榭
5D	麾氍氍氍氍氍氍氍氍	氍氍氍氍氍氍氍氍氍	氍氍氍氍氍氍氍氍氍	氍氍氍氍氍氍氍氍氍
5E	滿滃游涑溪溘混溷	溷溷溷溷溷溷溷溷	溷溷溷溷溷溷溷溷	溷溷溷溷溷溷溷溷
5F	烙焉烽焜焜焜焜焜	焜焜焜焜焜焜焜焜焜	焜焜焜焜焜焜焜焜焜	焜焜焜焜焜焜焜焜焜
60	玻珀珮珮珮珮珮珮	珮珮珮珮珮珮珮珮	珮珮珮珮珮珮珮珮	珮珮珮珮珮珮珮珮
61	痼瘵痼痼痼痼痼痼	痼痼痼痼痼痼痼痼	痼痼痼痼痼痼痼痼	痼痼痼痼痼痼痼痼
62	轟轟轟轟轟轟轟轟	轟轟轟轟轟轟轟轟	轟轟轟轟轟轟轟轟	轟轟轟轟轟轟轟轟
63	窠窠窠窠窠窠窠窠	窠窠窠窠窠窠窠窠	窠窠窠窠窠窠窠窠	窠窠窠窠窠窠窠窠
64	籊籊籊籊籊籊籊籊	籊籊籊籊籊籊籊籊	籊籊籊籊籊籊籊籊	籊籊籊籊籊籊籊籊
65	縲縲縲縲縲縲縲縲	縲縲縲縲縲縲縲縲	縲縲縲縲縲縲縲縲	縲縲縲縲縲縲縲縲
66	聳聳聳聳聳聳聳聳	聳聳聳聳聳聳聳聳	聳聳聳聳聳聳聳聳	聳聳聳聳聳聳聳聳
67	臙臙臙臙臙臙臙臙	臙臙臙臙臙臙臙臙	臙臙臙臙臙臙臙臙	臙臙臙臙臙臙臙臙
68	葑葑葑葑葑葑葑葑	葑葑葑葑葑葑葑葑	葑葑葑葑葑葑葑葑	葑葑葑葑葑葑葑葑
69	蛟蛛蛭蛭蛭蛭蛭蛭	蛭蛭蛭蛭蛭蛭蛭蛭	蛭蛭蛭蛭蛭蛭蛭蛭	蛭蛭蛭蛭蛭蛭蛭蛭
6A	袂袂袂袂袂袂袂袂	袂袂袂袂袂袂袂袂	袂袂袂袂袂袂袂袂	袂袂袂袂袂袂袂袂
6B	諤諤諤諤諤諤諤諤	諤諤諤諤諤諤諤諤	諤諤諤諤諤諤諤諤	諤諤諤諤諤諤諤諤
6C	赅赅赅赅赅赅赅赅	赅赅赅赅赅赅赅赅	赅赅赅赅赅赅赅赅	赅赅赅赅赅赅赅赅
6D	轆轆轆轆轆轆轆轆	轆轆轆轆轆轆轆轆	轆轆轆轆轆轆轆轆	轆轆轆轆轆轆轆轆
6E	釵鉞鉞鉞鉞鉞鉞鉞	鉞鉞鉞鉞鉞鉞鉞鉞	鉞鉞鉞鉞鉞鉞鉞鉞	鉞鉞鉞鉞鉞鉞鉞鉞
6F	閏閏閏閏閏閏閏閏	閏閏閏閏閏閏閏閏	閏閏閏閏閏閏閏閏	閏閏閏閏閏閏閏閏
70	鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞	鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞	鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞	鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞鞞
71	騾驕驕驕驕驕驕驕	驕驕驕驕驕驕驕驕	驕驕驕驕驕驕驕驕	驕驕驕驕驕驕驕驕
72	鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁	鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁	鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁	鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁鯁
73	徽壓壓壓壓壓壓壓	壓壓壓壓壓壓壓壓	壓壓壓壓壓壓壓壓	壓壓壓壓壓壓壓壓
74				
75				
76				
77				
78				
79				
7A				
7B				
7C				
7D				
7E				
7F				



コピー

コピーとして使用する前に

- コピーモードの選択..... 2-2
- コピーの流れ..... 2-3
- コピーする用紙トレイの選択..... 2-4

基本的なコピーのとりかた

- コピーする..... 2-5
 - 原稿自動送り装置でコピー..... 2-5
 - 原稿台（ガラス面）でコピー..... 2-6
 - コピーを中止する..... 2-6
- 自動両面コピーする..... 2-7
- コピーの濃度を変える..... 2-8
 - コピー濃度・原稿種類の自動調整..... 2-8
 - コピー濃度・原稿種類の手動調整..... 2-8
- 拡大・縮小コピーする..... 2-10
- 原稿サイズの指定..... 2-12
- 手差しトレイを使ってコピーする..... 2-14
 - 手差しトレイの用紙タイプとサイズの設定..... 2-14

便利なコピー機能

- 仕上げ..... 2-16
 - コピー画像の自動回転機能（回転コピー）..... 2-16
 - ソートコピー..... 2-17
 - 身分証コピー..... 2-19
 - 読み込み解像度設定について..... 2-20

特別機能

- 複数の原稿を1枚にまとめてコピー（ページ集約）..... 2-21
- 薄い紙の原稿を読み込む（薄紙読み込み）..... 2-23
- カードの表裏を1枚にまとめてコピー（カードスキャン）..... 2-24
- 赤・緑・青の濃淡を調整する（RGB調整）..... 2-25
- 画像の輪郭を調整する（シャープネス）..... 2-27
- 濃度の薄い部分を地色として薄くしたり濃くしたり調整する（地色調整）..... 2-28

プログラム

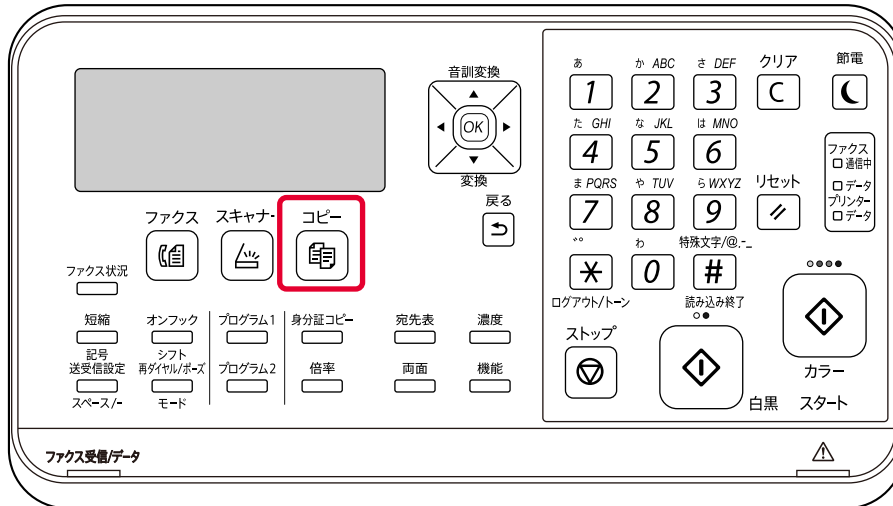
- よく使う設定（プログラム）について..... 2-29
 - プログラムを登録..... 2-29
 - プログラムを修正..... 2-30
 - プログラムを削除..... 2-30
 - プログラムの呼び出し..... 2-31



コピーとして使用する前に

コピーモードの選択

操作パネルにある[コピー]キーを押して、コピーモードに切り替えます。





コピーの流れ

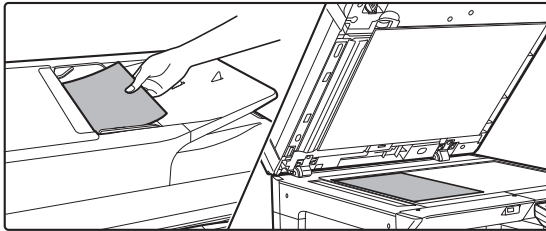
ここでは、コピーの基本的な手順を説明しています。下記の順に設定を行うと、円滑にコピーが行えます。詳しい設定方法については、それぞれの説明ページを参照してください。

1

コピーモードに切り替える

▶ [コピーモードの選択 \(2-2ページ\)](#)

2



原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）のどちらかにセットします。

- ▶ [原稿自動送り装置 \(1-32ページ\)](#)
- ▶ [原稿台（ガラス面） \(1-34ページ\)](#)

3

機能を設定する

原稿の読み込みサイズや濃度、画質などを設定します。必要に応じて次の各機能を参照して設定します。

- 用紙選択 ▶ [2-4ページ](#)
- 両面コピー ▶ [2-7ページ](#)
- コピー濃度 ▶ [2-8ページ](#)
- 倍率 ▶ [2-10ページ](#)
- 原稿 ▶ [2-12ページ](#)
- ソートコピー ▶ [2-17ページ](#)
- 身分証コピー ▶ [2-19ページ](#)
- ページ集約 ▶ [2-21ページ](#)
- カードスキャン ▶ [2-24ページ](#)
- RGB 調整 ▶ [2-25ページ](#)
- シャープネス ▶ [2-27ページ](#)
- 地色調整 ▶ [2-28ページ](#)

4

【カラースタート】キーまたは【白黒スタート】キーを押して、コピーを開始する

1部だけコピーするときは、部数設定は不要です。



- すべての設定を解除するときには、[リセット] キーを押します。
[リセット] キーを押すと、それまで入力した内容や設定をすべて解除して基本画面に戻ります。
- コピーを中止するときは[クリア] キーまたは[リセット] キーを押します。[クリア] キーを押した場合は、コピー設定内容が保持されますが、[リセット] キーを押した場合は設定が解除されます。
コピーをしているときに[ストップ] キーを押すと、コピーを中止するかどうかの確認画面が表示されます。



- 2部以上コピーしたいときは
数字キーを押して、コピーしたい部数を設定します。

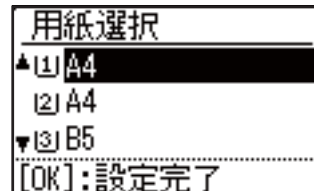


コピーする用紙トレイの選択

手差しトレイの用紙を使用する場合やトレイ2などが装着されている場合、使用したいトレイを変更したいときは、コピーモードの基本画面で右メニューの「用紙選択」を選び[OK]キーを押します。

[▼][▲]キーを押して、トレイを選択し、[OK]キーを押します。

トレイへの用紙補給については、「[トレイ1への用紙補給（1-21ページ）](#)」、「[手差しトレイへの用紙補給（1-25ページ）](#)」を参照してください。



コピー中に使用しているトレイの用紙がなくなった場合、同じサイズ・タイプの用紙をセットした別のトレイがあれば、自動的にコピーを継続します。



- **最初に選択しているトレイを変更する**

[システム設定] → [標準トレイ設定] で設定します。

- **用紙の自動選択を有効または無効にする**

[システム設定] → [コピー] → [用紙自動選択設定] で設定します。

この機能を有効にすると、原稿と同じサイズの用紙をセットしたトレイが、自動で選択されるようになります。



基本的なコピーのとりかた

コピーする

原稿自動送り装置でコピー

1

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットする

▶ [原稿自動送り装置 \(1-32ページ\)](#)



原稿自動送り装置では、セットした原稿のサイズが自動で検知されます。

2



コピーしたい用紙 (トレイ) を確認し、他の設定を行うときは各設定項目を設定する

- 用紙選択 ▶ [2-4ページ](#)
- 両面コピー ▶ [2-7ページ](#)
- コピー濃度 ▶ [2-8ページ](#)
- 倍率 ▶ [2-10ページ](#)
- 原稿 ▶ [2-12ページ](#)
- ソートコピー ▶ [2-17ページ](#)
- 身分証コピー ▶ [2-19ページ](#)
- ページ集約 ▶ [2-21ページ](#)
- カードスキャン ▶ [2-24ページ](#)
- RGB 調整 ▶ [2-25ページ](#)
- シャープネス ▶ [2-27ページ](#)
- 地色調整 ▶ [2-28ページ](#)

3

【カラースタート】キーまたは【白黒スタート】キーを押して、コピーを開始する

1部だけコピーするときは、部数設定は不要です。



2部以上コピーしたいときは

数字キーを押して、コピーしたい部数を設定します。



原稿台（ガラス面）でコピー

1 原稿を原稿台（ガラス面）にセットする

▶ [原稿台（ガラス面）（1-34ページ）](#)



原稿台（ガラス面）では、セットした原稿のサイズが自動で検知されません。原稿台（ガラス面）でコピーする場合は、手動で原稿サイズを指定します。

▶ [原稿サイズの指定（2-12ページ）](#)

2



コピーしたい用紙（トレイ）を確認し、他の設定を行うときは各設定項目を設定する

- 用紙選択 ▶ [2-4ページ](#)
- 両面コピー ▶ [2-7ページ](#)
- コピー濃度 ▶ [2-8ページ](#)
- 倍率 ▶ [2-10ページ](#)
- 原稿 ▶ [2-12ページ](#)
- ソートコピー ▶ [2-17ページ](#)
- 身分証コピー ▶ [2-19ページ](#)
- ページ集約 ▶ [2-21ページ](#)
- カードスキャン ▶ [2-24ページ](#)
- RGB 調整 ▶ [2-25ページ](#)
- シャープネス ▶ [2-27ページ](#)
- 地色調整 ▶ [2-28ページ](#)

3

次の原稿を用意し、[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

4

[読み込み終了]キー（**#**）を押して、コピーを開始する

1部だけコピーするとき、部数設定は不要です。



2部以上コピーしたいときは

数字キーを押して、コピーしたい部数を設定します。

コピーを中止する

コピーを中止するときには[クリア]キーまたは[リセット]キーを押します。[クリア]キーを押した場合は、コピー設定内容が保持されますが、[リセット]キーを押した場合は設定が解除されます。

コピーをしているときに[ストップ]キーを押すと、コピーを中止するかどうかの確認画面が表示されます。



自動両面コピーする

本機は次のような自動両面コピーが行えます。コピーする際、原稿や用紙を裏返す作業が自動的に行えるため、簡単に両面コピーができます。

	原稿 → コピー	使用できる用紙サイズ
原稿台 (ガラス面)	片面原稿 → 両面 	A3、B4、A4、 A4R、B5、B5R、 A5R、11" x 17"、 8-1/2" x 14"、 8-1/2" x 13-1/2"、 8-1/2" x 13-2/5"、 8-1/2" x 13"、 8-1/2" x 11"、 8-1/2" x 11"R、 5-1/2" x 8-1/2"R
原稿自動送り装置	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>片面原稿 → 両面 </div> <div>両面原稿 → 両面 </div> <div>両面原稿 → 片面 </div> </div>	A3、B4、A4、 A4R、B5、B5R、 A5R、11" x 17"、 8-1/2" x 14"、 8-1/2" x 13-1/2"、 8-1/2" x 13-2/5"、 8-1/2" x 13"、 8-1/2" x 11"、 8-1/2" x 11"R、 5-1/2" x 8-1/2"R

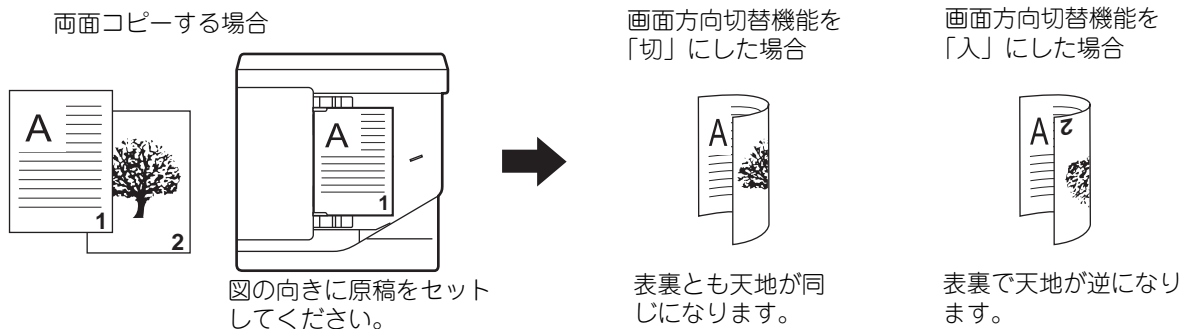
コピーモードの基本画面で、操作パネル上の[両面]キーを押すと両面コピー画面に切り替わります。



[▼][▲]キーで“片面→両面” “両面→両面” “両面→片面” を選択し、[OK]キーを押します。

原稿台(ガラス面)で原稿を読み込むときは、表面を読み込んだあと、[カラススタート]キーまたは[白黒スタート]キーを押し、裏面を原稿台(ガラス面)にセットし、[カラススタート]キーまたは[白黒スタート]キーを押すと、両面コピーが開始されます。

コピーする紙の表と裏でコピーする画像の向きを変更するときは[◀][▶]キーで“両面方向切換”を“入”にします。





コピーの濃度を変える

コピー濃度・原稿種類の自動調整

標準状態では、コピーする原稿に合わせて濃度や原稿の種類を自動的に調整する機能がはたらいています。([自動] を表示します。)



原稿濃度の初期設定を変更するには

[システム設定 (管理者)] → [コピー] → [標準露光モード] で変更します。

コピー濃度・原稿種類の手動調整

コピーする原稿に応じて原稿種類を選択したり、自分で濃度を調整したいときの操作を説明しています。



原稿濃度の初期設定を変更するには

[システム設定 (管理者)] → [コピー] → [標準露光モード] で変更します。

1

[濃度] キーを押す

2



コピーの原稿種類を選択する

[▼][▲]キーで 原稿種類を選択します。原稿種類は“文字”、“文字/印刷写真”、“印画紙写真”の3種類から選択できます。

原稿種類について

- 文字 通常の文字原稿に適しています。
- 文字/印刷写真 雑誌やカタログなどの印刷物を原稿としてコピーする場合、グラビア写真部分の画質だけでなく、記事などの文字部分の画質も重視したいときに適しています
- 印画紙写真 印画紙の写真をコピーするのに適しています。



3

選択した原稿種類の濃度を調整する

「自動」または「手動」(5段階)の濃度を設定します。[◀][▶]キーで必要に応じ濃度を調整します。



「原稿種類」選択で「文字」を選択しているときの濃度の目安

1~2：新聞などの濃い原稿

3：普通の濃さの原稿

4~5：鉛筆書きや薄い色文字の原稿

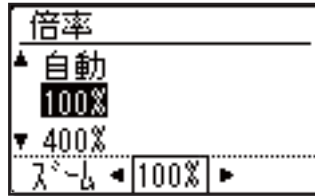
4

[OK] キーを押す



拡大・縮小コピーする

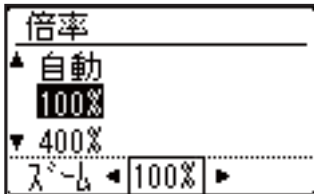
操作パネルの[倍率]キーを押すと倍率選択画面に切り替わります。
25～400%までの範囲で倍率を指定できます。
(原稿自動送り装置をお使いの場合、倍率指定は25～200%となります。)



1

[倍率]キーを押す

2



倍率を選択する

[▼][▲]キーで倍率を選択します。

3

1%単位の倍率を設定するときは、[◀][▶]キーで数値を設定する

4

[OK] キーを押す



倍率の自動選択

手動で用紙トレイを変更し、原稿と異なるサイズ of 用紙にコピーするときに、用紙サイズに合わせて最適な倍率を自動選択する機能について説明します。



不定形サイズ of 原稿は、サイズを入力したときのみ倍率自動選択をはたらかせます。



倍率自動選択を設定するには
[システム設定] → [コピー] → [倍率自動選択] で設定します。

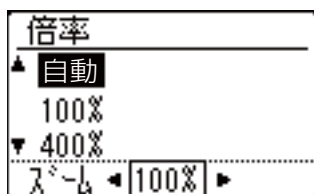
1 手動で用紙トレイを選択し、原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

- ▶ [コピーする用紙トレイの選択（2-4ページ）](#)
- ▶ [原稿自動送り装置（1-32ページ）](#)
- ▶ [原稿台（ガラス面）（1-34ページ）](#)

2 [倍率] キーを押す

3



[▼][▲]キーで「自動」を選択し、[OK]キーを押す

設定した原稿サイズと選択した用紙サイズに応じた拡大／縮小倍率を自動的に選択します。

自動選択した倍率を、倍率表示部に表示します。



原稿サイズの指定

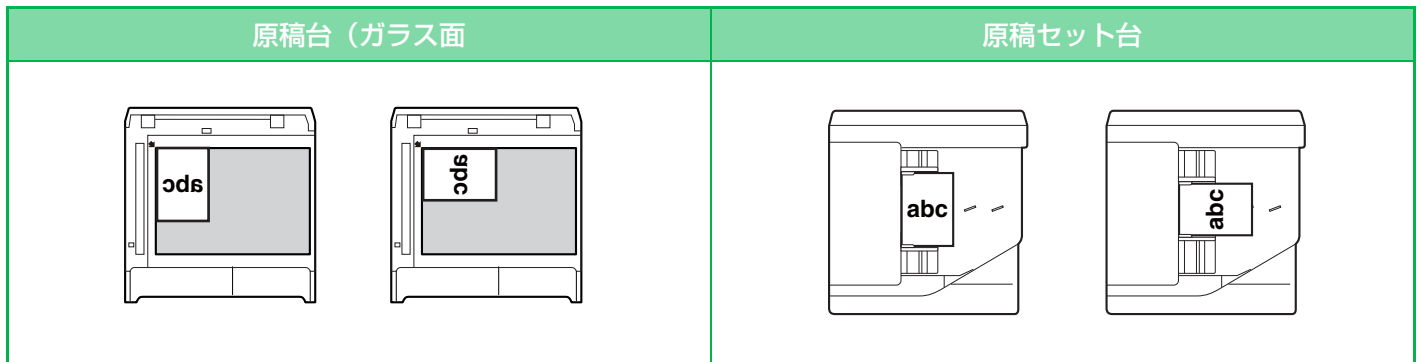
原稿サイズを指定したいときは、右メニューから「原稿サイズ」を選択します。



- 原稿の向き・サイズの指定は、原稿の読み込み前に設定します。
- 原稿サイズを指定しない場合、システム設定の「原稿サイズ設定」で設定した原稿サイズが表示されます。
- システム設定の「原稿サイズ設定」で“指定しない”を選択している場合、選択しているトレイの用紙サイズに合わせて原稿を読み込みます。

原稿のセット方向

原稿は、下図を参考にセットします。



原稿のサイズを指定する

1

右メニューから「原稿サイズ」を選択して、[OK]キーを押す

2



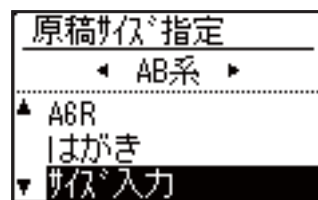
[◀][▶]キーでAB系かインチ系を選択する

3

[▼][▲]キーでサイズを選択する

定型サイズの原稿サイズの場合は、原稿サイズを選択し、[OK]キーを押して、原稿サイズを指定します。基本画面の原稿サイズの箇所には、設定した原稿サイズが表示されます。特殊な原稿サイズを使用するときは、手順4へ進んでください。

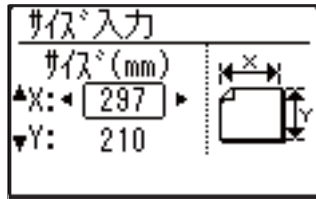
4



特殊な用紙サイズの場合は、「サイズ入力」を選択し、[OK]キーを押す



5



原稿サイズを指定する

- (1) [▼][▲]キーで横方向“X”、縦方向“Y”を選択する
- (2) [◀][▶]キーでそれぞれのサイズを指定する
- (3) [OK]キーを押す

原稿サイズが設定されます。基本画面の原稿サイズの箇所には、「カスタム」と表示されます。



手差しトレイを使ってコピーする

手差しトレイを使用すると普通紙のほかに、OHPフィルム、封筒などにコピーできます。



手差しトレイにセットできる用紙の詳細は、「[使用できる用紙の種類 \(1-17ページ\)](#)」を、手差しトレイに用紙をセットする場合の注意事項などは「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-25ページ\)](#)」をそれぞれ参照してください。

手差しトレイの用紙タイプとサイズの設定

1

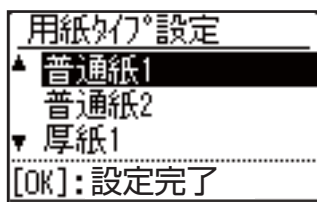
手差しトレイに用紙をセットする

手差しトレイに用紙をセットすると、「用紙タイプ設定」の画面が表示されます。すでに手差しトレイに用紙がセットされていて、用紙サイズ、用紙タイプを切り替えたい場合は、[機能]キーを押して、「用紙サイズ設定」、「用紙タイプ設定」を選択し、[OK]キーを押してください。



- 「用紙サイズ設定」の「手差し給紙設定」を無効にしている場合、「用紙タイプ設定」は自動で表示されません。
- システム設定で「用紙サイズ設定の禁止」を有効にしている場合、「用紙サイズ設定」は表示されません。

2



手差しトレイで使用する用紙タイプを選択する

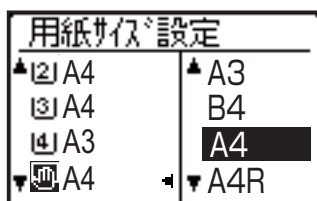
[▼][▲]キーで用紙タイプを選択します。選択が完了したら[OK]キーを押します。



封筒を使用するときは

[▼][▲]キーで使用する封筒のサイズを選択し、[OK]キーを押す封筒のサイズが設定されます。基本画面の用紙サイズの箇所には、「封筒」と表示されます。

3



手差しトレイで使用する用紙サイズを選択する

[▼][▲]キーで用紙サイズを選択します。定型サイズの用紙の場合は、用紙サイズを選択し、[OK]キーを押して、用紙サイズを指定します。基本画面の用紙サイズの箇所には、設定した用紙サイズが表示されます。

[機能]キーを押して、「用紙サイズ設定」を設定した場合、[OK]キーを押すと基本画面に戻ります。



特殊な用紙サイズを使用するときは

サイズ入力
サイズ (mm)
▲X: 297
▼Y: 210

- (1) 「mm入力」または「インチ入力」を選択し、[OK]キーを押す
- (2) [▼][▲]キーで横方向“X”、縦方向“Y”を選択する
- (3) [◀][▶]キーでそれぞれのサイズを指定する

「mm入力」では、1mm単位で設定できます。「インチ入力」では1/8インチ単位で設定できます。

最小サイズ：

131mm (縦) × 140mm (横)

5-1/8" (縦) × 5-1/2" (横)

最大サイズ：

297mm (縦) × 432mm (横)

11-5/8" (縦) × 17" (横)

- (4) [OK]キーを押す

用紙サイズが設定されます。基本画面の用紙サイズの箇所には、「カスタム」と表示されます。



便利なコピー機能

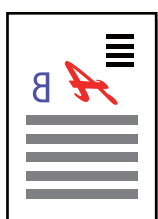
ここではいくつかの便利なコピー機能について説明しています。

仕上げ

コピー画像の自動回転機能（回転コピー）

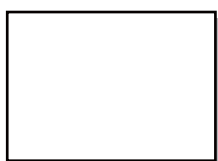
原稿と用紙のセット方向（縦・横の向き）が異なる場合は、原稿の画像を自動的に90度回転してコピーします。

原稿のセット方向



原稿を裏面から見ている図

用紙のセット方向



90° 回転させてコピー



用紙を裏面から見ている図



- この機能を使用するには、用紙自動選択、または倍率自動選択が有効になっている必要があります。
- 原稿サイズを直接入力した場合や、カードスキャンを設定した場合は、この機能は使用できません。



回転コピーを解除するには

[システム設定] → [コピー] → [回転コピー設定] で設定します。



ソートコピー

- 複数枚の原稿をページごとにまとめて排紙できます。(ノンソート)
- 複数枚の連続した原稿を1部ずつ仕分けて排紙できます。(ソート)
- 複数枚の連続した原稿を1部ずつ仕分けて、向き(たて/よこ)を変えて排紙できます。(回転ソート)

自動	原稿を原稿自動送り装置にセットするとソートを、ガラス面にセットするとノンソートを選択します。	
ノンソート	読み込んだ原稿を、ページ単位で仕分けして出力します。	<p>原稿</p> <p>仕上げり</p> <p>コピー部数を5部とした場合</p>
ソート	読み込んだ原稿を、1部ずつ仕分けして出力します。	<p>原稿</p> <p>仕上げり</p> <p>コピー部数を5部とした場合</p>
回転ソート	読み込んだ原稿を、1部ずつ仕分けして、向き(たて/よこ)を変えて出力します。	<p>原稿</p> <p>仕上げり</p> <p>コピー部数を4部とした場合</p>

回転ソートについて

回転ソートは、以下の3つの条件をすべて満たす場合のみ、設定できます。

- 対象の用紙サイズ※をセットする。
※回転ソートで使用できる用紙サイズは、B5、B5R、A4、A4R、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 11"Rのみです。
- 2つ以上のトレイに、同じサイズの用紙を縦方向と横方向の異なる方向にセットする。
- 同じタイプの用紙をセットする。

例：トレイ1 にA4 サイズの普通紙1を縦方向にセットし、手差しトレイにA4 サイズの普通紙1を横方向にセットする。



1 右メニューから「ソート」を選択して、[OK]キーを押す

2



[▼][▲]キーで「ノンソート」、「ソート」、「回転ソート」を選択する

3

[OK]キーを押す

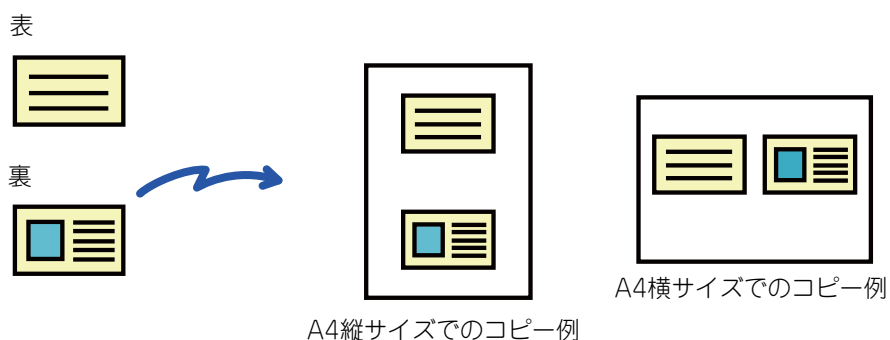


- 原稿の読み込み途中でメモリーがいっぱいになると、ディスプレイに「メモリーがいっぱいです。」のメッセージが表示されます。この場合、[カラースタート]キーまたは[白黒スタート]キーを押してそれまで読み込んだ原稿のコピーを始めるか、[リセット]キーを押してコピーを中止してください。
- 原稿自動送り装置のソート機能の自動選択は、システム設定の[回転コピー設定 \(6-19ページ\)](#) で変更できます。



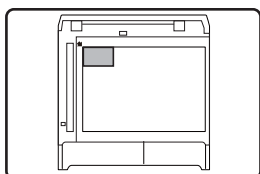
身分証コピー

身分証の裏／表を別々の用紙にコピーすることなく1枚の用紙に並べてコピーします。
身分証コピーのレイアウトはシステム設定の「[身分証コピー設定 \(6-19ページ\)](#)」で変更します。



1 [身分証コピー] キーを押す

2



原稿台（ガラス面）の左上隅に身分証をセットし、[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

3

身分証を裏返して表面と同じ位置にセットし、[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す



- 身分証コピー機能は、両面コピー、ページ集約コピー、ソート、カードスキャン機能と同時に使用することはできません。
- 身分証コピーで使用できる用紙は定形サイズです。
- 身分証コピーでは、読み込み範囲や読み込み枚数は変更できません。読み込み範囲はX方向86 mm (+5 mmマージン) × Y方向54 mm (+5 mmマージン) です。
- トレイ自動切り替えは使用できません。

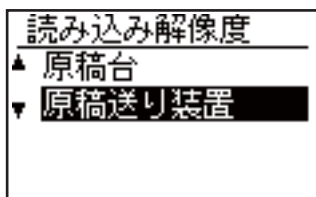


読み込み解像度設定について

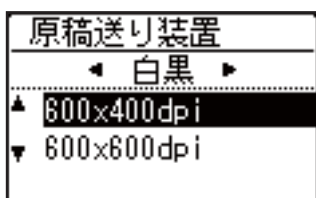
原稿自動送り装置または原稿台での原稿読み込み時の解像度を調整し、用途に応じて高画質な仕上がりや速度を優先した仕上がりを選択できます。

1 [機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「読み込み解像度」を選択して、[OK]キーを押し

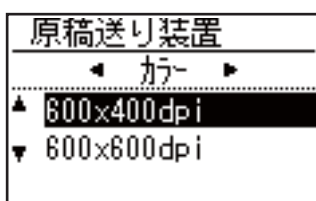
2 [▼][▲]キーで「原稿台」または「原稿送り装置」を選択して、[OK]キーを押し



3 [◀][▶]キーで、「白黒」、「カラー」を選択する



4 [▼][▲]キーで、[600×400dpi]、[600×600dpi]を選択して、[OK]キーを押し





特別機能

コピー基本画面が表示されている状態で[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで“特別機能”を選択して、[OK]キーを押すと特別機能メニュー画面が表示されます。

複数の原稿を1枚にまとめてコピー (ページ集約)

複数ページの原稿を1枚の用紙に均等に割り付けてコピーします。

1枚の用紙に原稿2枚分を割り付ける2ページ、4枚分を割り付ける4ページのいずれかを選択します。

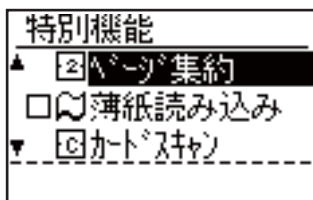
ページ数の多い資料をコンパクトにまとめたり、全ページを一覧したいときに便利です。

2ページでコピーする	4ページでコピーする																				
<p>2ページコピー</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>1</td><td>2</td></tr> </table> <p>パターン①</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>2</td><td>1</td></tr> </table> <p>パターン②</p> </div> </div>	1	2	2	1	<p>4ページコピー</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td></tr> </table> <p>パターン①</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>1</td><td>3</td></tr> <tr><td>2</td><td>4</td></tr> </table> <p>パターン②</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>4</td><td>3</td></tr> </table> <p>パターン③</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>4</td><td>2</td></tr> </table> <p>パターン④</p> </div> </div>	1	2	3	4	1	3	2	4	2	1	4	3	3	1	4	2
1	2																				
2	1																				
1	2																				
3	4																				
1	3																				
2	4																				
2	1																				
4	3																				
3	1																				
4	2																				

1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押す

2



[▼][▲]キーで「ページ集約」を選択して、[OK]キーを押す

3



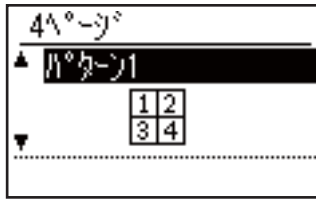
[▼][▲]キーで「2ページ」、「4ページ」を選択して、[OK]キーを押す



ページ集約の設定を解除するには
[解除] キーを選択して、[OK]キーを押す



4



[▼][▲]キーで割付パターンを選択して、[OK]キーを押す
選択できる割付パターンは前記のイメージ図を参照ください。

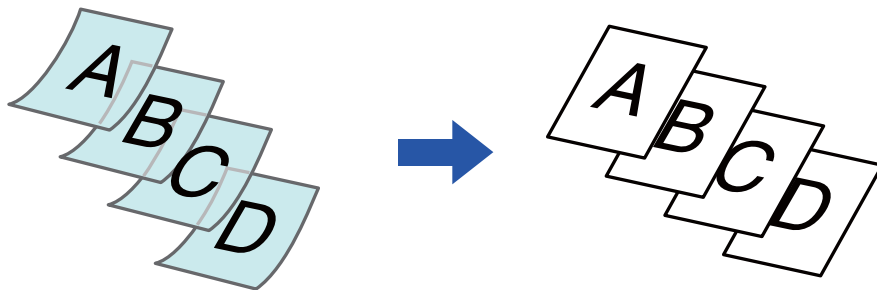


- 次の機能と組み合わせて、ページ集約コピーは使えません。先に設定された機能が優先されます。
カードスキャン、身分証コピー
- 身分証コピーをあとから設定すると、身分証コピーが優先されます
- ページ集約コピーでは特殊サイズの用紙は使えません。
- 原稿のサイズとコピーする用紙サイズおよび設定した面数に応じて、適切な倍率が自動的に設定されます（手動での倍率設定はできません）。原稿のサイズとコピーする用紙サイズおよび設定した面数によっては、画像が欠けることがあります。
- 原稿サイズが設定されていない場合、ページ集約機能は使えません。



薄い紙の原稿を読み込む（薄紙読み込み）

原稿自動送り装置を使って薄い紙の原稿を読み込みたいときに使用します。この機能を使うと、薄い紙の原稿がつまりにくくなります。



薄紙読み込みは、原稿を読み込む前に設定します。



自動両面コピーの「両面→両面」コピーや「両面→片面」コピーは使用できません。

1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押し

2

[▼][▲]キーで[薄紙読み込み]を選択して、[OK]キーを押し

アイコンにチェックが付きます。
設定が終わったら [戻る] キーを押します。



薄紙読み込みの設定を解除するには
[薄紙読み込み] キーを選択してチェックを外します。

3

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットする

▶ [原稿自動送り装置（1-32ページ）](#)



原稿をきつく押し込むと、薄紙がよじれて原稿づまりの原因となります。

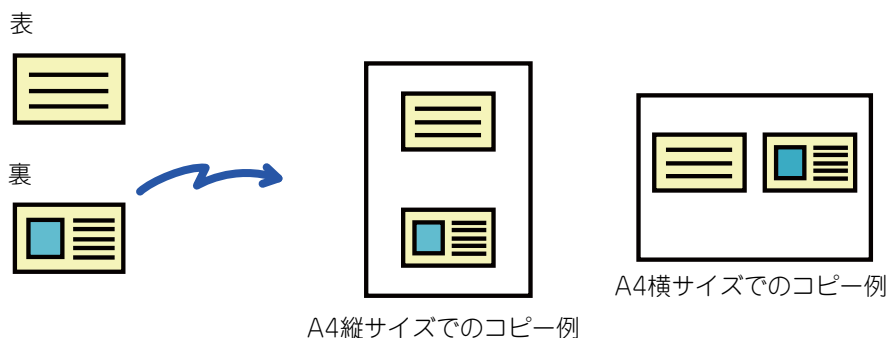
4

[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押して、コピーを開始する



カードの表裏を1枚にまとめてコピー（カードスキャン）

各種カードの表と裏を別々の用紙にコピーすることなく1枚の用紙に並べてコピーします。お客様の証明用コピーなどを効率的にコピーでき、用紙の節約にもつながります。



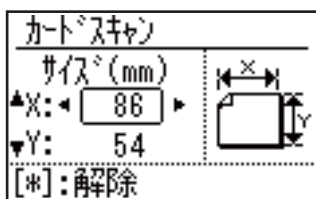
1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押し

2

[▼][▲]キーで「カードスキャン」を選択して、[OK]キーを押し

3



カードスキャン画面でカードのサイズを指定する

[▼][▲]キーでよこ方向(X)、たて方向(Y)を選択し、[◀][▶]キーでそれぞれのサイズを指定して、[OK]キーを押します。



カードスキャンの設定を解除するには
[*] キーを押します。

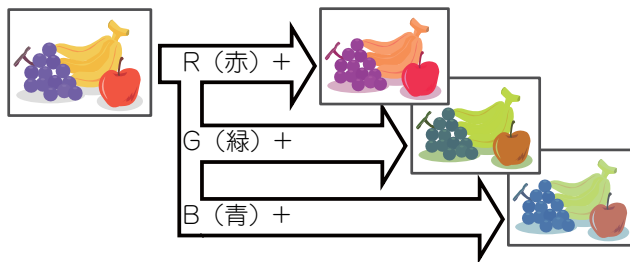


- サイズは縦横ともに25～210mmまで設定できます。
- カードスキャンは、ページ集約コピー、身分証コピーと同時に使用することはできません。
- システム設定の[カードスキャン標準値設定 \(6-19ページ\)](#)で、この画面を表示したときのたてとよこの標準値を設定することができます。



赤・緑・青の濃淡を調整する（RGB 調整）

R（赤）、G（緑）、B（青）から色調を選択して、選択した色調を画像全体に強調したり弱めたりします。



RGBは、原稿を読み込む前に設定します。

1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押し

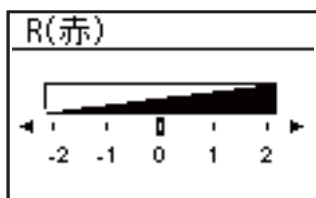
2

[▼][▲]キーで[RGB 調整]を選択して、[OK]キーを押し

3

[▼][▲]キーで調整したいカラーを選択して、[OK]キーを押し

4



[◀][▶]キーを押しして色味を調整する

設定が終わったら[OK]キーを押しします。



- 調整できるのは1色のみです。（調整完了後、別の色を選択すると、先に調整した色の設定は無効になります。）
- RGB 調整の設定を解除するには
[リセット] キーを押しします

5

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

- ▶ [原稿自動送り装置（1-32ページ）](#)
- ▶ [原稿台（ガラス面）（1-34ページ）](#)



すべての設定を解除するには
[リセット] キーを押しします。



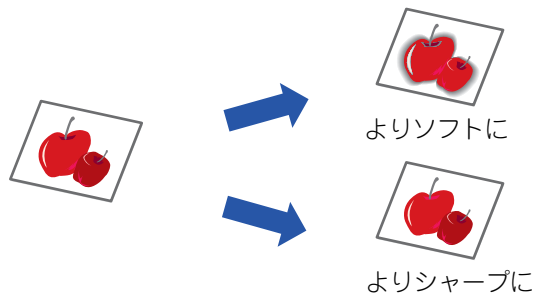
6

【カラースタート】 キーを押して、コピーを開始する



画像の輪郭を調整する（シャープネス）

画像の輪郭を調節して、シャープな画像にしたり、ソフトな画像にしたりします。



シャープネスは、原稿を読み込む前に設定します。

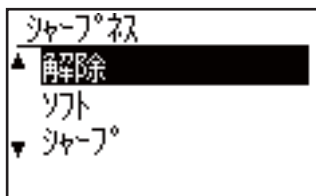
1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押し

2

[▼][▲]キーで「シャープネス」を選択して、[OK]キーを押し

3



[▼][▲]キーで「ソフト」、「シャープ」を選択して、[OK]キーを押し



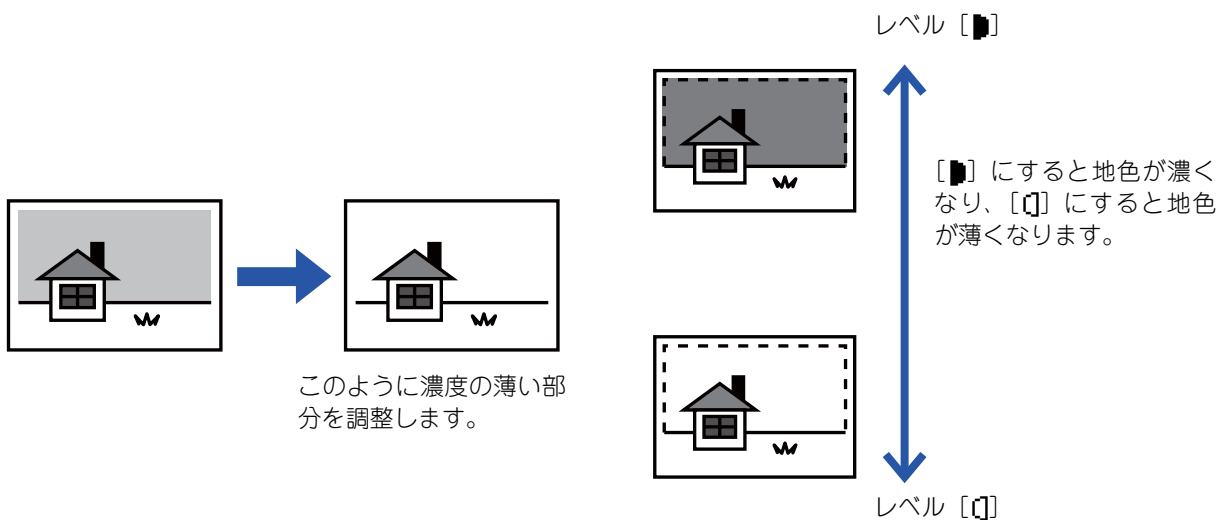
シャープネスを解除するには

[▼][▲]キーで「解除」を選択し、[OK]キーを押します。



濃度の薄い部分を地色として薄くしたり濃くしたり調整する（地色調整）

原稿の濃度の薄い部分を地色として薄くしたり濃くしたり調整します。



地色調整は、原稿を読み込む前に設定します。

1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押す

2

[▼][▲]キーで「地色調整」を選択して、[OK]キーを押す

3



[▼][▲]キーでレベル調整を選択し、[◀][▶]キーで調整する

[◀][▶]キーで消去したい下地のレベルをを選択し、[OK]キーを押します。

■: 薄い下地のみ消去します。

□: 薄い下地から濃い下地まで消去します。



地色調整を解除するには

[▼][▲]キーで「解除」を選択し、[OK]キーを押します。



地色調整が設定された場合、コピー濃度の設定は反映されません。

▶ [コピーの濃度を変える \(2-8ページ\)](#)



プログラム

よく使う設定（プログラム）について

さまざまなコピー設定を1つにまとめ、プログラムとして登録できます。登録したプログラムは、簡単な操作で呼び出しが可能です。

プログラムを登録

コピーの次の機能が登録できます。

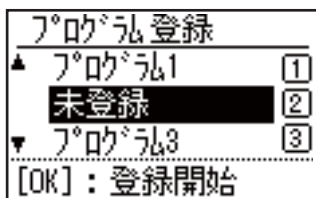
両面コピー、倍率、コピー濃度、読み込み解像度、用紙選択、用紙サイズ、ソート、ページ集約、薄紙読み込み、カードスキャン、RGB 調整、シャープネス、地色調整

1 [機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「プログラム登録」を選択して、[OK]キーを押し

2 [▼][▲]キーで「新規」を選択して、[OK]キーを押し



3 [▼][▲]キーで登録したいプログラム番号を選択して、[OK]キーを押し




プログラムが登録されていない箇所は「未登録」と表示されます。
すでにプログラムが登録されている箇所は「プログラム1~3」と表示されます。

4 コピーの設定方法を参考に選択した項目の設定を行う



設定が完了すると、その項目の先頭にチェックマークが付きます。
プログラムに登録したい設定がすべて完了したら、[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押します。



設定が完了した項目（チェックマークがついた項目）をプログラムから外したい場合は、外したい項目を選択し、[ログアウト]キー（）を押します。



- プログラムは最大3つまで登録できます。
- 項目によっては、プログラムで登録できない組み合わせがあります。
(例：ページ集約とカードスキャン)



プログラムを修正

1 [機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「プログラム登録」を選択して、[OK]キーを押し

2 [▼][▲]キーで「修正」を選択して、[OK]キーを押し

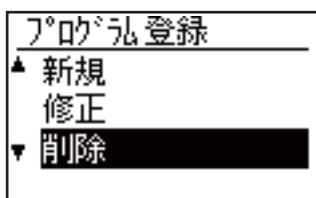


3 [▼][▲]キーで修正したいプログラム番号を選択して、[OK]キーを押し、"プログラムを登録"の手順4を参考に、各種設定を行い、プログラムを登録しなおす

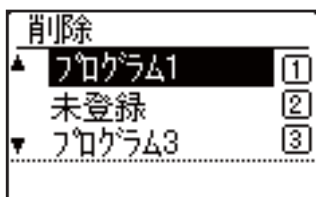
プログラムを削除

1 [機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「プログラム登録」を選択して、[OK]キーを押し

2 [▼][▲]キーで「削除」を選択して、[OK]キーを押し



3 [▼][▲]キーで削除したいプログラムを選択して、[OK]キーを押し



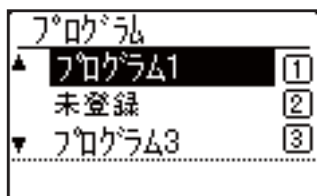


プログラムの呼び出し

1

コピーモードの基本画面で右メニューから、[▼][▲]キーで「プログラム」を選択して、[OK]キーを押す

2



[▼][▲]キーで呼び出したいプログラム番号を選択して、[OK]キーを押す

選択したプログラムに登録された設定内容が設定に反映されます。



プリンター

本機のプリンター機能

Windows環境からプリントする

- 基本的なプリントのしかた..... 3-4
 - プリンタードライバーの設定画面について／ヘルプの参照..... 3-6
 - 用紙の給紙方法..... 3-7
 - 郵便はがきや封筒にプリントする方法..... 3-8
- ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法..... 3-9
- よく使うプリント設定を登録して使用する..... 3-10
 - プリント時に設定した内容を登録..... 3-10
 - 登録した設定を使用してプリント..... 3-11
 - プリンタードライバーの初期設定値を変更... 3-11

macOS環境からプリントする

- 基本的なプリントのしかた..... 3-13
 - 用紙の給紙方法..... 3-14
 - 郵便はがきや封筒にプリントする方法..... 3-15
- ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法..... 3-17

よく使うプリント機能について

- カラーモードを選択してプリント..... 3-19
- 画質を選択してプリント..... 3-21
- 用紙の両面にプリント..... 3-22
- 用紙のサイズに合わせてプリント..... 3-23
- 1ページに複数ページのデータをプリント..... 3-25

便利なプリント機能について

- 冊子やポスターの作成に役立つ仕上げ機能..... 3-27
 - 中とじの冊子を作る（製本）..... 3-27
 - とじしろを作ってプリント（とじしろ）..... 3-29
 - 大判のポスターを作る（ポスター印刷）..... 3-31
- データのサイズや向きなどを補正する機能..... 3-32
 - 奇数・偶数ページ別に印刷位置を調整してプリント（印刷位置設定）..... 3-32
 - データを180度回転してプリント（180度回転）..... 3-33
 - データを拡大／縮小してプリント（ズーム／拡大縮小）..... 3-34
 - 鏡に映したように反転してプリント（鏡像反転／視覚効果）..... 3-36
- 画質調整機能..... 3-37
 - 画像の明るさやコントラストを調整してプリント（イメージ調整／RGB調整）..... 3-37
 - 薄くて見づらい文字や線を黒色でプリント（文字を黒色で印刷する／線を黒色で印刷する）..... 3-38
 - データに応じたカラー設定でプリント（高度なカラー設定）..... 3-39
- 文字や画像の合成機能..... 3-42
 - すかし文字を入れてプリント（ウォーターマーク）..... 3-42
 - 画像をデータに重ねてプリント（イメージスタンプ）..... 3-44
 - 定型フォームを作成してプリントデータを重ねる（オーバーレイ）..... 3-45
- 特殊な用途に使えるプリント機能..... 3-47
 - 表紙を異なる用紙でプリント（表紙ページ）..... 3-47
 - 各ページの前または後に同じデータを挿入（ページ挿入）..... 3-49
 - JPEGイメージのレンダリング方法を変更してプリント（Jpeg形式の画像をドライバーで処理する）..... 3-50
- 知っておくと便利なプリント機能..... 3-51
 - プリントデータを保存して使用（リテンション）..... 3-51





プリンタードライバーを介さずにプリント

- プリント可能な拡張子 3-54
- USBメモリー内のファイルを直接プリント 3-55
- コンピューターからファイルを直接プリント 3-57
 - FTPプリント 3-57

付録

- プリンタードライバー仕様一覧 3-58
- Google クラウド プリントを使ったプリント 3-61
- Google クラウド プリント設定 3-63



本機のプリンター機能

プリンタードライバーをインストールすることで、お使いのコンピューターからのプリントが可能になります。お使いの環境で使用できるプリンタードライバーを下表でご確認ください。

Windows環境

プリンタードライバーの種類

SPDL2-c

シャープの提供するページ記述言語SPDLに対応したプリンタードライバーです。高速で高機能なプリント処理をします。

PS (PS拡張キットが必要です。)

- Adobe Systems社が開発したページ記述言語PostScript® 3™対応のプリンタードライバーで、本機をPostScript® 3™互換プリンターとして使用することができます。
- Windows OS標準のPSプリンタードライバーを使用したい場合は、PPDドライバーを使用します。



- Windows環境でのプリンタードライバーのインストール方法やプリンタードライバーの設定方法については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- プリント方法の説明には、主にSPDL2-cプリンタードライバーの画面を使用しています。お使いのプリンタードライバーによっては画面の内容が一部異なる場合があります。

macOS環境

プリンタードライバーの種類

PS (PS拡張キットが必要です。)

Adobe Systems社が開発したページ記述言語PostScript® 3™対応のプリンタードライバーで、本機をPostScript® 3™互換プリンターとして使用することができます。



- macOS環境でのインストール方法やプリンタードライバーの設定方法については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- macOS環境での画面の説明や操作手順は、macOS 10.12でPPDドライバーをインストールした状態で説明しています。OSのバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なる場合があります。



Windows 環境からプリントする

基本的なプリントのしかた

Windowsに標準で付属しているアプリケーションソフト「ワードパッド」からプリントする場合を例に説明します。



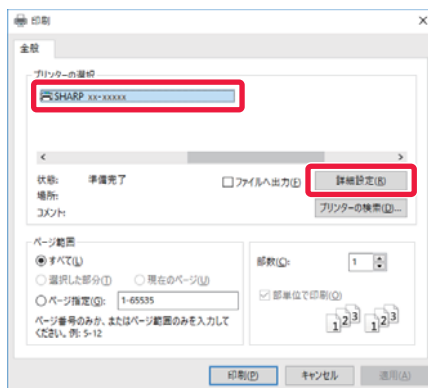
- プリントを実行するメニューは、[プリント] などお使いのアプリケーションソフトによって異なります。
- プリンタードライバーの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。
- [プリンター] メニューには本機の名称を通常 [xx-xxxxx] と表示します。(“xxxxx”には、お使いの製品によって異なる文字列を表示します。)

1



ワードパッドの [ファイル] メニューから [印刷] を選択する

2

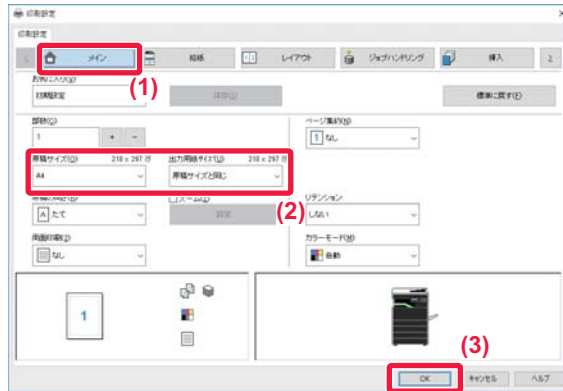


本機のプリンタードライバーを選択して [詳細設定] ボタンをクリックする

プリンタードライバーの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。



3



プリント設定を行う

(1) [メイン] タブをクリックする

(2) 原稿サイズを選択する

- 原稿サイズ（印刷データの用紙サイズ）がメニューにない場合は、任意のサイズを7種類まで登録できます。原稿サイズは、メニューから [カスタム用紙] または [ユーザー 1] ~ [ユーザー 7] のいずれかを選択し、[OK] ボタンをクリックして登録します。
- その他の設定項目は各タブをクリックして切り替えて設定してください。
- 本機でサポートしている用紙サイズより大きい原稿を設定した場合、「出力用紙サイズ」で印刷する用紙サイズを選択します。
- 「出力用紙サイズ」で「原稿サイズ」と異なるサイズを選択すると、選択した用紙サイズに合わせて印刷されます。

(3) [OK] ボタンをクリックする

4

[印刷] ボタンをクリックする

プリントが実行されます。



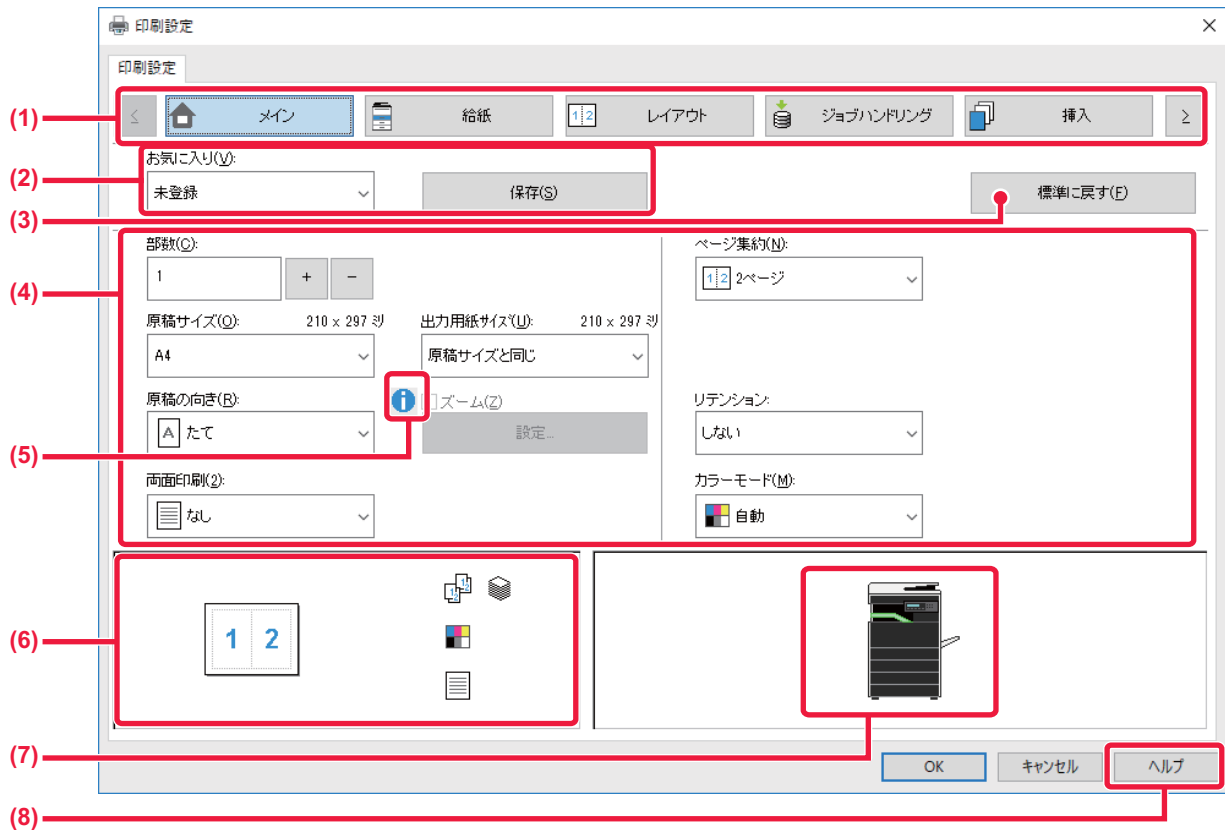
本機でプリントを中止する

プリント実行後「出力中」の表示が出ている間に操作パネルの[ストップ]キーを押すと、プリントをキャンセルするかどうか確認する画面が表示されます。そこで「はい」を選ぶとプリントは中止されます。



プリンタードライバーの設定画面について / ヘルプの参照

プリンタードライバーの設定画面は、8種類のタブで構成され、それぞれのタブを切り替えて設定します。各設定項目については、ヘルプ画面で確認することができます。画面右下の [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。



(1) タブ： < > をクリックするとタブの表示が切り替わります。

- [メイン]： よく使う機能が集約されています。設定項目は他のタブにもあり連動しています。
- [給紙]： 印刷に使用する用紙サイズ/タイプ、給紙トレイを設定します。
- [レイアウト]： 両面印刷や製本などレイアウトに関する機能を設定します。
- [ジョブハンドリング]： リテンションとユーザー認証を設定します。
- [挿入]： 表紙の挿入機能を設定します。
- [スタンプ]： ウォーターマークやスタンプ機能を設定します。
- [画質]： 画質に関するさまざまな機能を設定します。
- [詳細設定]： 印刷に関する詳細な設定が行えます。

(2) お気に入り

プリント時に各タブで設定した内容をお気に入りとして登録します。

▶ [よく使うプリント設定を登録して使用する \(3-10ページ\)](#)

(3) [標準に戻す]

タブ単位で設定値を標準状態に戻します。

(4) 設定項目

各タブの設定項目を表示します。

(5) インフォメーションアイコン (i)

プリンタードライバーの設定画面では、設定項目の組み合わせによっては使用できない機能があります。その場合、設定項目に (i) (インフォメーションアイコン) を表示します。このアイコンをクリックすると、制限事項の説明を表示します。



(6) 印刷イメージ

設定した項目に応じて、その場合の印刷状態をイメージ表示します。また、仕上げをアイコンで表示します。


(7) 本体イメージ

オプションの装着状態と使用する給紙トレイ、排紙トレイを表示します。

(8) [ヘルプ] ボタン

プリンタードライバのヘルプ画面を表示します。



- 参照したい設定項目をクリックし、[F1] キーを押すと、その設定項目に対するヘルプを確認できます。
- サブウィンドウなどは、設定画面右上の  ボタンをクリックしたあと設定項目をクリックすると、その設定項目に対するヘルプを確認できます。

用紙の給紙方法

プリントする前に本機の用紙トレイに設定している用紙サイズ、用紙タイプ、用紙残量を確認します。[給紙] タブの [トレイ状況] ボタンをクリックすると、最新のトレイ情報を確認できます。「出力用紙サイズ」の設定と「給紙トレイ」の設定の関係は次のとおりです。

- 「給紙トレイ」を【自動給紙】に設定したときは
「出力用紙サイズ」で指定した用紙をセットしたトレイを自動的に選択してプリントします。
- 「給紙トレイ」を【自動給紙】以外に設定したときは
「出力用紙サイズ」の設定にかかわらず、指定したトレイにセットした用紙にプリントします。
「給紙トレイ」を [手差し] に設定したときは、「用紙タイプ」も選択してください。本機の手差しトレイに設定している用紙タイプを確認し、実際に手差しトレイにその用紙タイプをセットしているか確認したうえで、適切な用紙タイプを選択してください。
- 「用紙タイプ」を【自動給紙】に設定したときは
「出力用紙サイズ」で指定したサイズの普通紙または再生紙を設定しているトレイを自動的に選択してプリントします。(工場出荷時は普通紙のみ)
- 「用紙タイプ」を【自動給紙】以外に設定したときは
「出力用紙サイズ」で指定したサイズで、指定したタイプの用紙をセットしたトレイからプリントします。



手差しトレイには、郵便はがきや封筒などの特殊紙もセットできます。
手差しトレイに用紙をセットする方法については、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-25ページ\)](#)」を参照してください。



Webページでの設定で、[管理者設定 (管理者)] → [初期設定] → [手差し給紙設定] → [手差し指定サイズ検知有効設定] (工場出荷時は無効) や [手差し指定タイプ検知有効設定] (工場出荷時は無効) が有効の場合は、プリンタードライバで指定した用紙サイズまたは用紙タイプと、手差しトレイに設定している用紙サイズまたは用紙タイプが異なっているとプリントしません。



郵便はがきや封筒にプリントする方法

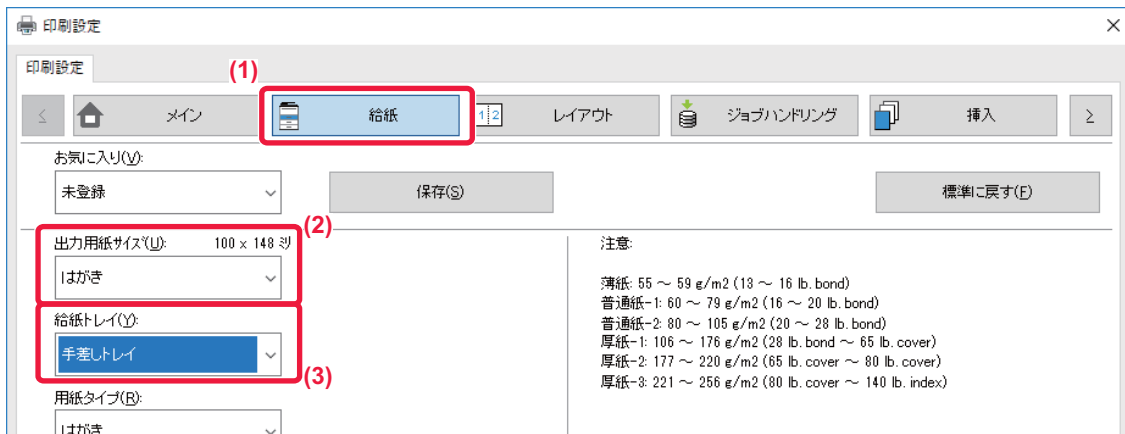
郵便はがきや往復はがき、四面連刷はがきにプリント

手差しトレイを使用して、郵便はがきにプリントします。



- トレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-17ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-25ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(3-7ページ\)](#)」を参照してください。
- 郵便はがきを使う前に、試しにプリントして仕上がりを確認することをお勧めします。

アプリケーションソフトの「ページ設定」などで、データを郵便はがきサイズに設定してから操作します。



(1) [給紙] タブをクリックする

(2) 「出力用紙サイズ」から、[はがき] [往復はがき] または [四面連刷はがき] を選択する

- 「出力用紙サイズ」を [はがき] に設定すると、「用紙タイプ」も自動的に [はがき] に設定されます。
- [メイン] タブの「原稿サイズ」で [はがき] または [往復はがき] を選択した場合は、「出力用紙サイズ」で [原稿サイズと同じ] を選択すると、「用紙タイプ」が自動的に [はがき] に設定されます。

(3) 「給紙トレイ」から [手差しトレイ] を選択する



Webページでの設定で、[管理者設定 (管理者)] → [初期設定] → [手差し給紙設定] → 「手差し指定タイプ検知有効設定」(工場出荷時は無効) が有効に設定されている場合は、郵便はがきをセットしたトレイの用紙タイプを [厚紙2] に設定してください。

封筒にプリント

手差しトレイを使用して、封筒にプリントします。



- 手差しトレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-17ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-25ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(3-7ページ\)](#)」を参照してください。
- 封筒を使う前に、試しにプリントして仕上がりを確認することをお勧めします。
- 封筒など一定の向きでしか本機にセットできない用紙の場合は、画像の向きを180度回転してプリントできます。詳しくは、「[データを180度回転してプリント \(180度回転\) \(3-33ページ\)](#)」を参照してください。

(1) [給紙] タブをクリックする

(2) 「出力用紙サイズ」から封筒のサイズ (長形3号など) を選択する

「出力用紙サイズ」を封筒に設定すると、「用紙タイプ」も自動的に [封筒] に設定されます。
[メイン] タブの「原稿サイズ」で封筒を選択した場合は、「出力用紙サイズ」で [原稿サイズと同じ] を選択すると、「用紙タイプ」が自動的に [封筒] に設定されます。

(3) 「給紙トレイ」から [手差しトレイ] を選択する

Webページでの設定で、[管理者設定 (管理者)] → [初期設定] → [手差し給紙設定] → 「手差し指定タイプ検知有効設定」(工場出荷時は無効) が有効に設定されている場合は、手差しトレイの用紙タイプを [封筒] に設定してください。



ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法

本機を使用するために必要なユーザー情報（ユーザー番号）は、あらかじめ本機の管理者にご確認ください。



- 「オプション」タブの「印刷機能の制限」で常にユーザー認証を行うように設定した場合は、印刷ジョブごとにユーザー認証が必要です。印刷のたびに表示されるダイアログボックスで入力します。
- PPDドライバー※をインストールしてWindows標準のPSプリンタードライバーを使うときは、本機のユーザー認証機能は利用できません。
そのため、本機の設定で、本機にユーザー情報を登録していないユーザーのプリントを禁止している場合は、プリントできません。
※ Windows標準のPSプリンタードライバーを使用して本機でプリントできるようにするためのものです。
(PS拡張キットが必要です。)



本機にユーザー情報を登録していないユーザーのプリントを禁止するには「システム設定」の「ユーザー管理」→「無効ユーザーの印刷禁止」で設定します。

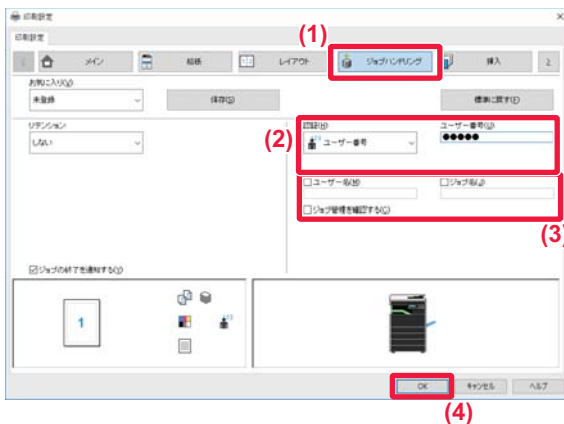
1

アプリケーションソフトのプリンタードライバーの設定画面で、本機のプリンタードライバーを選択し、[詳細設定] ボタンをクリックする



プリンタードライバーの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。

2



ユーザー情報を入力する

(1) [ジョブハンドリング] タブをクリックする

(2) ユーザー情報を入力する

[ユーザー番号] を選択し、ユーザー番号を半角5～8桁で入力します。

(3) 必要に応じてユーザー名、ジョブ名を入力する

- [ユーザー名] チェックボックスをクリックして、ユーザー名を全角16文字（半角32文字）以内で入力します。入力したユーザー名は、本機のディスプレイ上で表示します。入力しない場合、本機にはコンピュータのログイン名を表示します。

- [ジョブ名] チェックボックスをクリックして、ジョブ名を全角15文字（半角30文字）以内で入力します。入力したジョブ名は本機のディスプレイ上でファイル名として表示します。入力しない場合、アプリケーションソフトで設定したファイル名を表示します。

- [ジョブ管理を確認する] チェックボックスをクリックすると、プリント開始前に確認画面を表示します。

(4) [OK] ボタンをクリックして印刷を実行する



よく使うプリント設定を登録して使用する

プリント時に設定した内容を登録

プリント時に各タブで設定した内容はお気に入りとして登録します。よく使用する設定や複雑な設定を行った場合などに名前を付けて登録しておく、次に同じ設定でプリントしたいときに操作が簡単です。プリンタードライバ設定画面のどのタブからも登録操作ができます。各タブで設定した内容を登録時に一覧表示するので、設定内容を確認しながら登録します。



登録した設定を削除するときは

「[登録した設定を使用してプリント \(3-11ページ\)](#)」の手順2で、削除するお気に入りを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

1

アプリケーションソフトのプリント画面で本機のプリンタードライバを選択して [詳細設定] ボタンをクリックする



プリンタードライバの設定画面を開くボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションによって異なります。

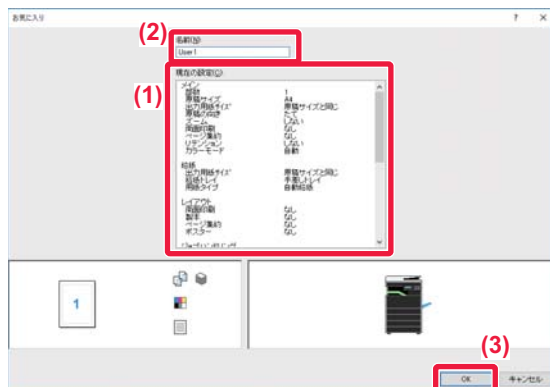
2



プリント設定を登録する

- (1) 各タブでプリント設定を行う
- (2) [保存] ボタンをクリックする

3



設定内容を確認して登録する

- (1) 表示された設定内容を確認する
- (2) 登録名を10文字 (半角20文字) 以内で入力する
- (3) [OK] ボタンをクリックする



登録した設定を使用してプリント

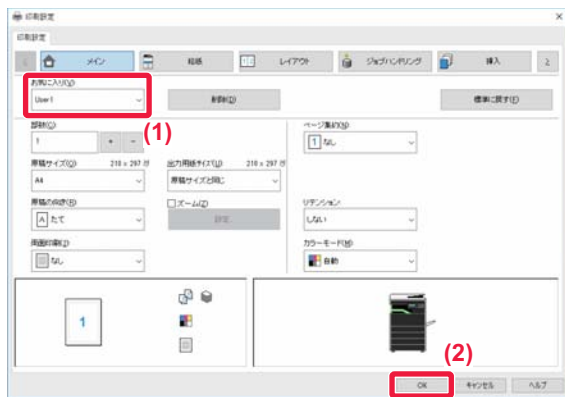
登録したお気に入りを指定して、よく使用する設定や複雑な設定などをワンクリックでプリント設定に反映します。

1 アプリケーションソフトのプリント画面で本機のプリンタードライバーを選択して [詳細設定] ボタンをクリックする



プリンタードライバーの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。

2



お気に入りを選択する

- (1) 使用するお気に入りを選択する
- (2) [OK] ボタンをクリックする

3

プリントを実行する

プリンタードライバーの初期設定値を変更

プリンタードライバーの初期設定値を変更します。

アプリケーションソフトからのプリント時に、プリンタードライバーの設定画面で変更した設定内容は、アプリケーションソフトを終了すると、ここで設定した初期設定値に戻ります。

1

[スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [デバイス] → [デバイスとプリンター] をクリックする



Windows 8.1/Windows Server 2012をお使いの場合は、[スタート] ボタンを右クリックし、[コントロールパネル] → [デバイスとプリンターの表示] (または、[デバイスとプリンター]) をクリックします。

Windows 7/Windows Server 2008の場合は、[スタート] ボタンをクリックして [デバイスとプリンター] を選択します。



2



本機のプリンタードライバーアイコンを
右クリックし、[印刷設定] を選択する

3

各項目を設定して [OK] ボタンをクリックする

設定項目については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。



macOS 環境からプリントする

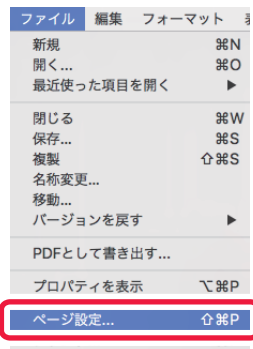
基本的なプリントのしかた

macOSに標準で付属しているアプリケーションソフト「テキストエディット」からプリントする場合を例に説明します。



- PPDファイルのインストール方法やプリンタードライバーの設定方法については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- macOS環境での画面の説明や操作手順は、macOS 10.12でPPDドライバーをインストールした状態で説明しています。OSのバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なることがあります。
- プリントを実行するメニューは、[印刷] などお使いのアプリケーションソフトによって異なります。

1



【ファイル】メニューから【ページ設定】を選択して使用するプリンターを選択する

プリンタードライバー名が一覧表示されているときは、使用するプリンタードライバー名を一覧から選択します。

2



用紙設定を行う

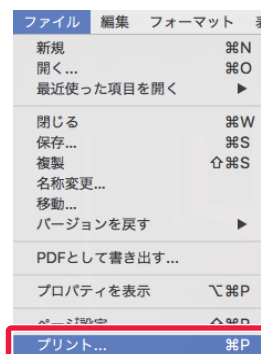
(1) 使用するプリンターが選択されているか確認する

(2) 用紙設定を行う

用紙サイズ、用紙の向き、拡大縮小を設定できます。

(3) [OK] ボタンをクリックする

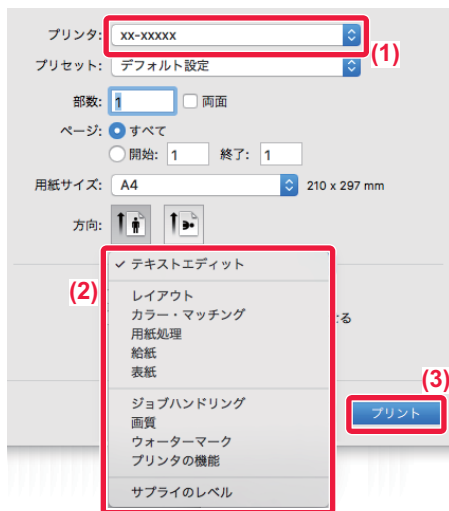
3



【ファイル】メニューから【プリント】を選択する



4



プリント設定を行う

- (1) 使用するプリンターが選択されているか確認する
- (2) メニューから項目を選択して必要な設定を行う
メニューが表示されていない場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックします。
- (3) [プリント] ボタンをクリックする



本機でプリントを中止する

プリント実行後「出力中」の表示が出ている間に操作パネルの[ストップ]キーを押すと、プリントをキャンセルするかどうか確認する画面が表示されます。そこで「はい」を選ぶとプリントは中止されます。

用紙の給紙方法

プリント設定画面の「給紙」設定について説明します。

- **[自動選択] を選択したときは**
ページ設定画面の「用紙サイズ」で指定したサイズの普通紙、または再生紙を設定しているトレイ（工場出荷時は普通紙のみ）を自動的に選択してプリントします。
- **用紙トレイを指定したときは**
ページ設定画面の「用紙サイズ」設定にかかわらず、指定したトレイにセットした用紙にプリントします。
手差しトレイは、用紙タイプも指定してください。本機の手差しトレイに設定している用紙タイプを確認し、実際に手差しトレイにその用紙タイプをセットしているか確認したうえで、適切な手差しトレイ（用紙タイプ）を選択してください。
- **用紙タイプを指定したときは**
ページ設定画面の「用紙サイズ」で指定したサイズで、指定したタイプの用紙をセットしたトレイからプリントします。



手差しトレイには、郵便はがきや封筒などの特殊紙もセットできます。

手差しトレイに用紙をセットする方法については、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-25ページ\)](#)」を参照してください。



Webページでの設定で、[管理者設定 (管理者)] → [初期設定] → [手差し給紙設定] → [手差し指定サイズ検知有効設定] (工場出荷時は無効) や [手差し指定タイプ検知有効設定] (工場出荷時は無効) が有効の場合は、プリンタードライバーで指定した用紙サイズまたは用紙タイプと、手差しトレイに設定している用紙サイズまたは用紙タイプが異なっているとプリントしません。



郵便はがきや封筒にプリントする方法

郵便はがきや往復はがき、四面連刷はがきにプリント

手差しトレイを使用して、郵便はがきにプリントします。



- 手差しトレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-17ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-25ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(3-14ページ\)](#)」を参照してください。
- 郵便はがきを使う前に、試しにプリントして仕上がりを確認することをお勧めします。

アプリケーションソフトの「ページ設定」などで、データを郵便はがきサイズに設定してから操作します。

1

プリンタ: XX-XXXXX
プリセット: デフォルト設定
部数: 1 両面
ページ: すべて
 開始: 1 終了: 1 (1)
用紙サイズ: はがき 100 x 148 mm
方向: 手差し 給紙 (2)
 すべてのページ: 手差し(はがき) (3)
 先頭ページのみ: 手差し(普通紙-1)
残りのページ: 手差し(普通紙-1)
キャンセル プrint

プリント設定画面を開く

- (1) 「用紙サイズ」から [はがき]、[往復はがき]、または [四面連刷はがき] を選択する
- (2) [給紙] を選択する
- (3) 「すべてのページ」から [手差し (はがき)] を選択する



Webページでの設定で、[管理者設定 (管理者)] → [初期設定] → [手差し給紙設定] → 「手差し指定タイプ検知有効設定」(工場出荷時は無効) が有効に設定されている場合は、郵便はがきをセットしたトレイの用紙タイプを [厚紙2] に設定してください。



封筒にプリント

手差しトレイを使用して、封筒にプリントします。



- 手差しトレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-17ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-25ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(3-14ページ\)](#)」を参照してください。
- 封筒など一定の向きでしか本機にセットできない用紙の場合は、画像の向きを180度回転してプリントできます。詳しくは、「[データを180度回転してプリント \(180度回転\) \(3-33ページ\)](#)」を参照してください。
- 封筒の種類や状態、印刷する環境によっては、印刷後にしわが発生する場合があります。大量に印刷する前に、試しにプリントすることをお勧めします。

アプリケーションソフトの「ページ設定」などで、データを封筒サイズに設定してから操作します。

1

プリンター: xx-xxxxx
プリセット: デフォルト設定
部数: 1 両面
ページ: すべて 開始: 1 終了: 1 (1)
用紙サイズ: 封筒 長形 3 120 x 235 mm
方向: (2)
給紙
すべてのページ: 手差し(封筒) (3)
先頭ページのみ: 手差し(普通紙-1)
残りのページ: 手差し(普通紙-1)
キャンセル プrint

プリント設定画面を開く

- (1) 「用紙サイズ」から封筒のサイズ（長形3号など）を選択する
- (2) [給紙] を選択する
- (3) 「すべてのページ」から [手差し（封筒）] を選択する



Webページでの設定で、[管理者設定 (管理者)] → [初期設定] → [手差し給紙設定] → 「手差し指定タイプ検知有効設定」 (工場出荷時は無効) が有効に設定されている場合は、手差しトレイの用紙タイプを [封筒] に設定してください。



ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法

本機を使用するために必要なユーザー情報（ユーザー番号）は、あらかじめ本機の管理者にご確認ください。



プリントを実行するメニューは、[印刷] などお使いのアプリケーションソフトによって異なります。



本機にユーザー情報を登録していないユーザーのプリントを禁止するには「システム設定(管理者)」の [ユーザー管理] → [無効ユーザーの印刷禁止] で設定します。

1



アプリケーションソフトの [ファイル] メニューから [プリント] を選択する



2

ユーザー情報を入力する

(1) 本機のプリンター名が選択されているか確認する

(2) [ジョブハンドリング] を選択する

メニューが表示されていない場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックします。

(3) [認証] タブをクリックする

(4) ユーザー情報を入力する

「ユーザー番号」にユーザー番号を半角5桁で入力します。

(5) 必要に応じてユーザー名、ジョブ名を入力する

- ユーザー名
ユーザー名を全角16文字（半角32文字）以内で入力します。入力したユーザー名は本機のディスプレイ上で表示されます。入力しない場合、本機にはコンピュータのログイン名が表示されます。
- ジョブ名
ジョブ名を全角15文字（半角30文字）以内で入力します。入力したジョブ名は本機のディスプレイ上でファイル名として表示されます。入力しない場合、アプリケーションソフトで設定したファイル名が表示されます。

(6) [プリント] ボタンをクリックする



よく使うプリント機能について

カラーモードを選択してプリント

「カラーモード」（プリントするカラー）は、次の3つの項目から選択します。

自動	ページごとに色を判断してプリントします。白黒以外の色が使われているページはY（イエロー）・M（マゼンタ）・C（シアン）・Bk（ブラック）トナーを使用し、白黒のみが使われているページはBk（ブラック）トナーのみを使用してプリントします。カラーと白黒が混じっている原稿をプリントするときに便利ですが、プリント速度は遅くなります。
カラー	すべてのページをカラーでプリントします。カラーのデータ、白黒のデータのいずれもY（イエロー）・M（マゼンタ）・C（シアン）・Bk（ブラック）トナーを使用してプリントします。
グレースケール	すべてのページを白黒でプリントします。画像やプレゼンテーション資料など、カラーのデータもBk（ブラック）トナーのみを使用してプリントします。レイアウトの確認や文字校正など、カラープリントする必要のない場合に使用するとカラートナーの節約につながります。



「カラーモード」で【自動】を選択した場合

プリント結果が白黒であっても、下記のようなプリントデータはY（イエロー）・M（マゼンタ）・C（シアン）・Bk（ブラック）の4色のカラーとしてカウントします。

常に白黒としてカウントしたいときは、[グレースケール] を選択してください。

- データがカラーデータとして作成されているとき
- データが白黒であっても、アプリケーションソフトがカラーデータとして扱うとき
- 白黒画像の下に画像が隠れているとき

Windows



(1) [メイン] タブをクリックする

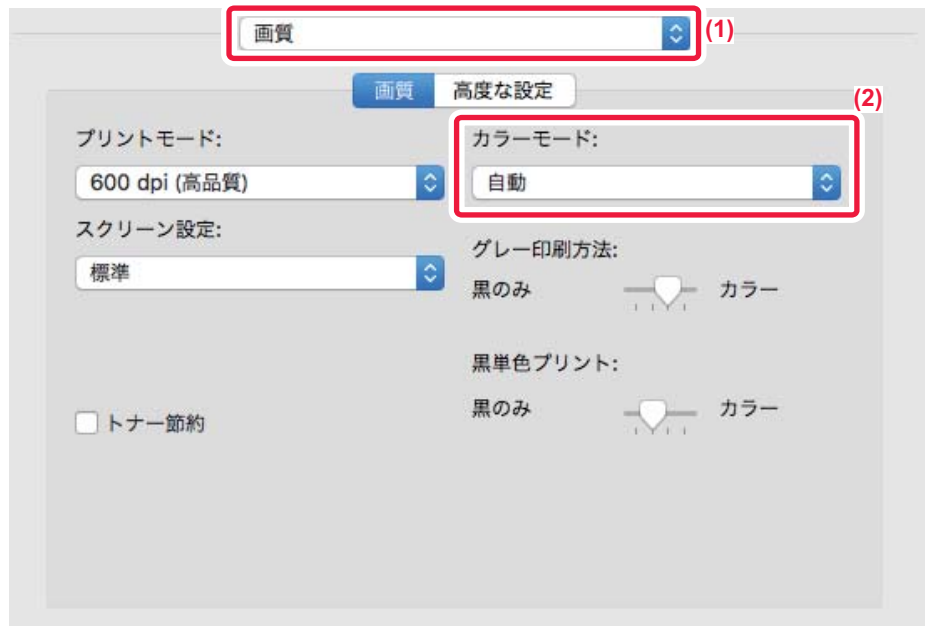
(2) 「カラーモード」を選択する



[メイン] タブで設定する [カラーモード] は、[画質] タブでも設定できます。



macOS



(1) [画質] を選択する

(2) 「カラーモード」を選択する



画質を選択してプリント

「プリントモード」(画質)は、次の2つの項目から選択します。

600 dpi	文章や表などのプリントに適しています。
600 dpi (高品質)	写真や文字をきれいにプリントします。

Windows



- (1) [画質] タブをクリックする
- (2) 「プリントモード」を選択する

macOS



- (1) [画質] を選択する
- (2) 「プリントモード」を選択する



用紙の両面にプリント

本機はデータを用紙の両面にプリントします。かんたんな冊子を作成したいときなどさまざまな用途に使用します。また、両面プリントは用紙の節約にもなります。

用紙の向き	プリント結果	
たて	長辺とじ	短辺とじ
よこ	短辺とじ	長辺とじ
	用紙の左側または右側でとじることができるようにプリントします。	用紙の上側でとじることができるようにプリントします。

Windows



- (1) [メイン] タブをクリックする
- (2) 原稿の向きを選択する
- (3) [長辺とじ] または [短辺とじ] を選択する



必要に応じて、両面プリントの実現方法を選択できます。[詳細設定] タブの [その他の設定] ボタンをクリックし、「両面形式」から選択してください。



macOS

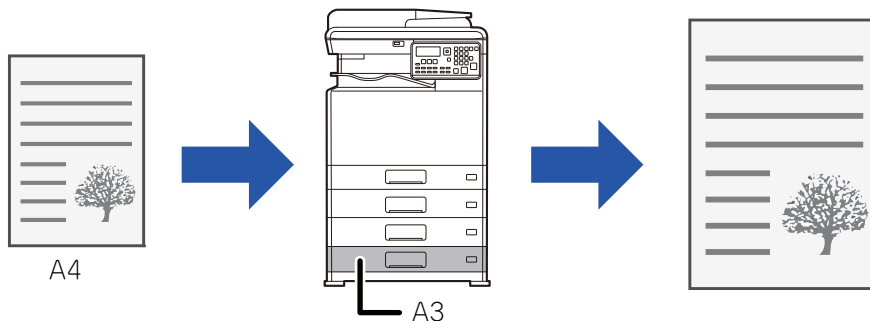


(1) [レイアウト] を選択する

(2) [長辺とじ] または [短辺とじ] を選択する

用紙のサイズに合わせてプリント

本機にセットしている用紙サイズに合わせて、データを自動で拡大または縮小してプリントします。A4サイズ的数据をA3サイズに拡大して見やすくプリントしたり、データと同じサイズの用紙をセットしていない場合にプリントしたりするときなどに便利です。

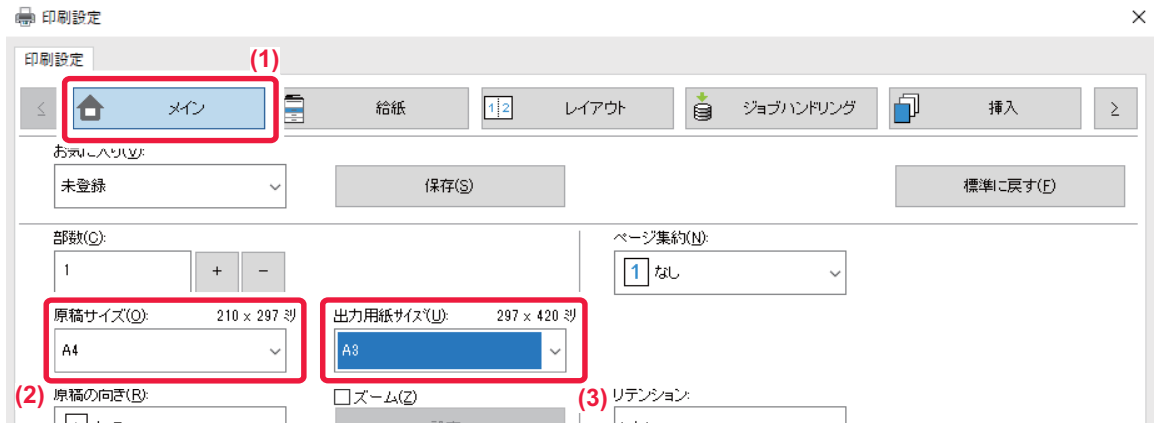


「原稿サイズ」でA0、A1、A2サイズを選択すると、「出力用紙サイズ」でA4が自動的に選択されます。

A4サイズ的数据を、A3サイズの用紙に合わせてプリントする場合を例に説明します。



Windows



- (1) [メイン] タブをクリックする
- (2) [原稿サイズ] から原稿サイズ (例：A4) を選択する
- (3) 「出力用紙サイズ」 から実際にプリントする用紙のサイズ (例：A3) を選択する
出力用紙サイズが原稿サイズより大きい場合、自動的に拡大して印刷します。

macOS



- (1) プリントデータの用紙サイズ (例：A4) を確認する
- (2) [用紙処理] を選択する
- (3) [用紙サイズに合わせる] を選択する
- (4) 実際にプリントする用紙のサイズ (例：A3) を選択する



1ページに複数ページのデータをプリント

プリントする画像を縮小して1ページ上に複数ページを割り付けてプリントします。最初のページだけ通常プリントし、2ページ目から複数ページを割り付けてプリントすることもできます。

たとえば、[2ページ] (2ページ/枚) または [4ページ] (4ページ/枚) を選択した場合、選択した順序によって次に示すようなプリント結果になります。

写真など複数の画像データを1枚の用紙にプリントしたいときや、用紙を節約したいときに便利です。両面プリント機能と併用すると、さらに用紙を節約します。

ページ集約 (ページ/枚)	プリント結果		
	左から右へ	右から左へ	上から下へ (印刷の向きが横の場合)
2ページ (2ページ/枚)			

ページ集約 (ページ/枚)	左上から右方向へ	左上から下方向へ	右上から左方向へ	右上から下方向へ
4ページ (4ページ/枚)				



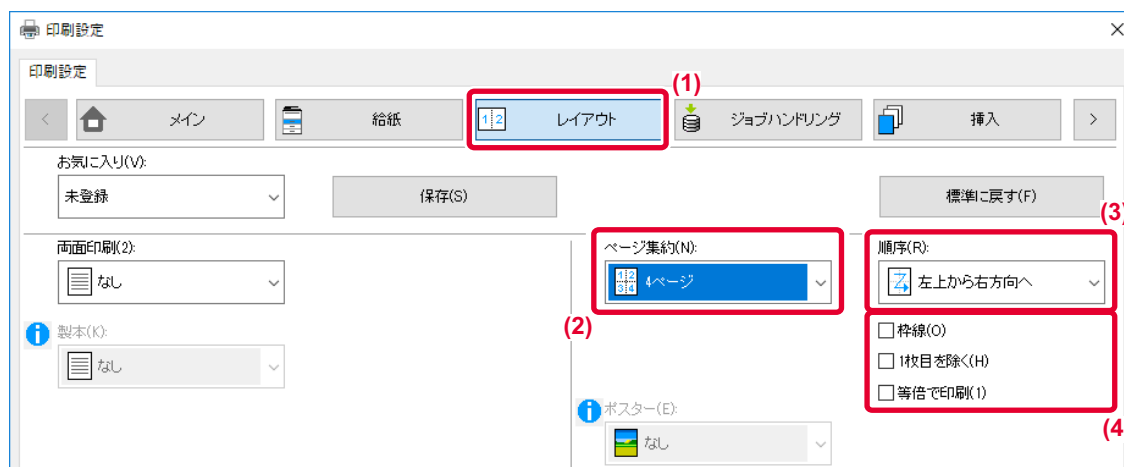
- [レイアウト] タブで設定する [ページ集約] は、[メイン] タブでも設定できます。(「順序」は [レイアウト] タブでのみ設定できます。)
- 割り付けるときは以下の点に注意してください。
 - 6ページ、8ページ、9ページ、16ページのプリント順序は4ページと同様です。
 - Windows環境でお使いの場合、割り付け順序はプリンタードライバー設定画面のプリントイメージで確認してください。
 - macOS環境でお使いの場合、割り付け順序を選択項目として表示します。
 - macOS環境でお使いの場合、1ページに割り付け可能なページ数は、2、4、6、9、16ページです。8ページの割り付けは対応していません。



最初のページだけ通常印刷する機能は、SPDL2-cプリンタードライバーでのみ使用できます。



Windows



- (1) [レイアウト] タブをクリックする
- (2) 1ページに割り付けるページ数を選択する
- (3) 割り付ける順序を選択する
- (4) ページの境界線をプリントするときは、[枠線] チェックボックスをクリックして にする
 - 最初のページだけ通常プリントしたい場合、[1枚目を除く] チェックボックスをクリックして にします。(SPDL2-cのみ)
 - A5サイズの原稿をA4用紙に2ページ集約するときなどに [等倍で印刷] を にすると、原稿サイズを等倍で印刷します。この場合、[枠線] を にすると、境界線のみ印刷されます。

macOS



- (1) [レイアウト] を選択する
- (2) 1ページに割り付けるページ数を選択する
- (3) 割り付ける順序を選択する
- (4) ページの境界線をプリントするときは、境界線の種類を選択する

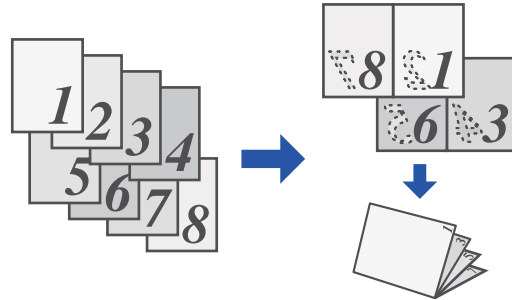


便利なプリント機能について

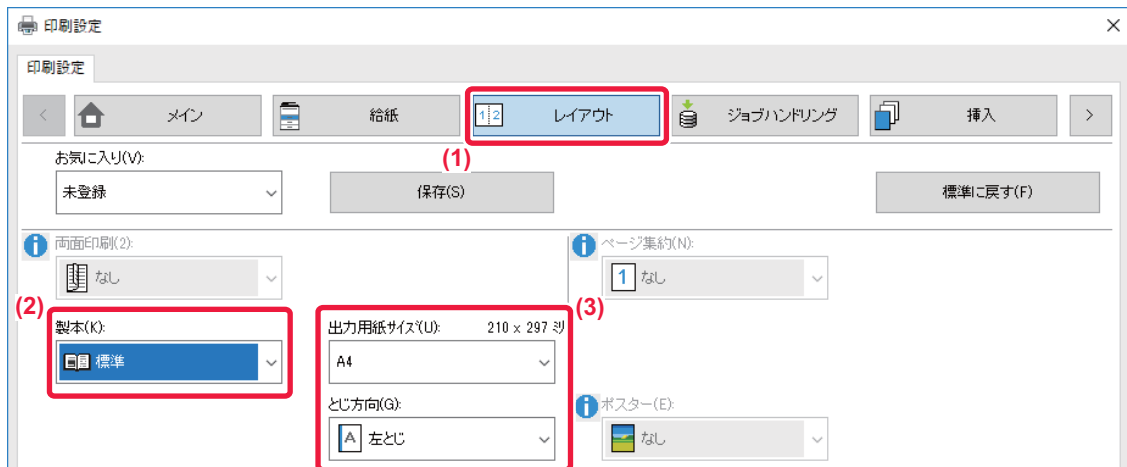
冊子やポスターの作成に役立つ仕上げ機能

中とじの冊子を作る（製本）

二つ折りにすると、中とじの冊子になるように用紙の表裏にプリントします。



Windows



(1) [レイアウト] タブをクリックする

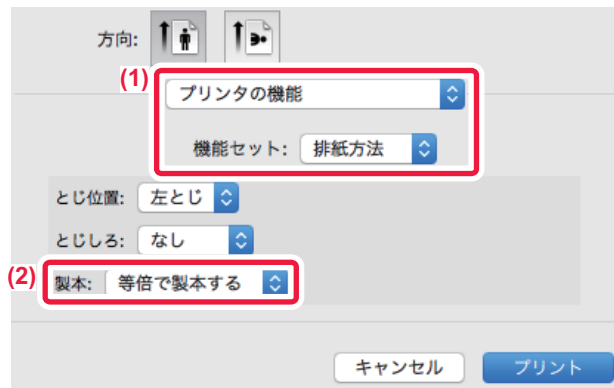
(2) 「製本」から「標準」を選択する

「出力用紙サイズ」で選択した用紙に合わせて拡大・縮小して製本します。

(3) 出力用紙サイズととじ方向を選択する



macOS

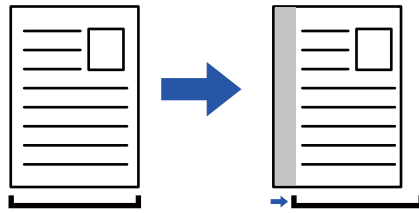


- (1) [プリンタの機能] を選択し、[排紙方法] を選択する
- (2) [等倍で製本する] または [2-Upで製本する] を選択する



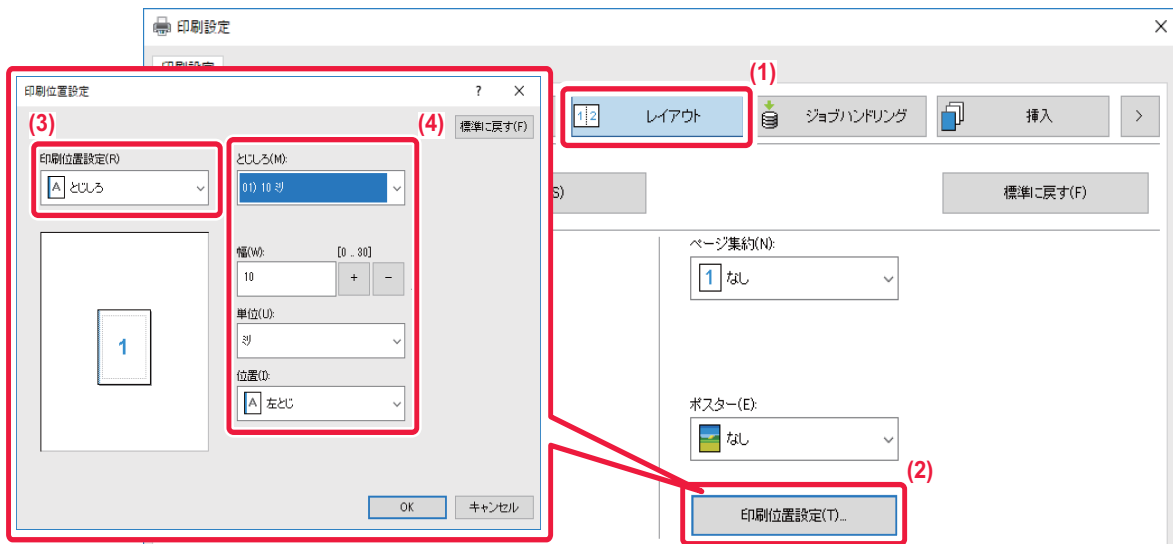
とじしろを作ってプリント（とじしろ）

プリントデータを移動して、用紙の左/右/上のいずれかにとじしろを作ります。



画像をずらすことによって印刷領域からはみ出た部分の画像は、印刷されません。

Windows



- (1) [レイアウト] タブをクリックする
- (2) [印刷位置設定] ボタンをクリックする
- (3) [とじしろ] を選択する
- (4) シフト幅を選択する

「とじしろ」メニューから選択します。その他の数値を設定したい場合は、いずれかを選択したあと ボタンをクリックするか、直接入力することもできます。



macOS

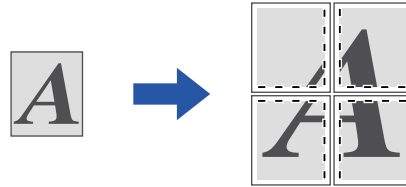


- (1) [プリンタの機能] を選択し、[排紙方法] を選択する
- (2) 「とじ位置」を選択する
- (3) 「とじしろ」を選択する



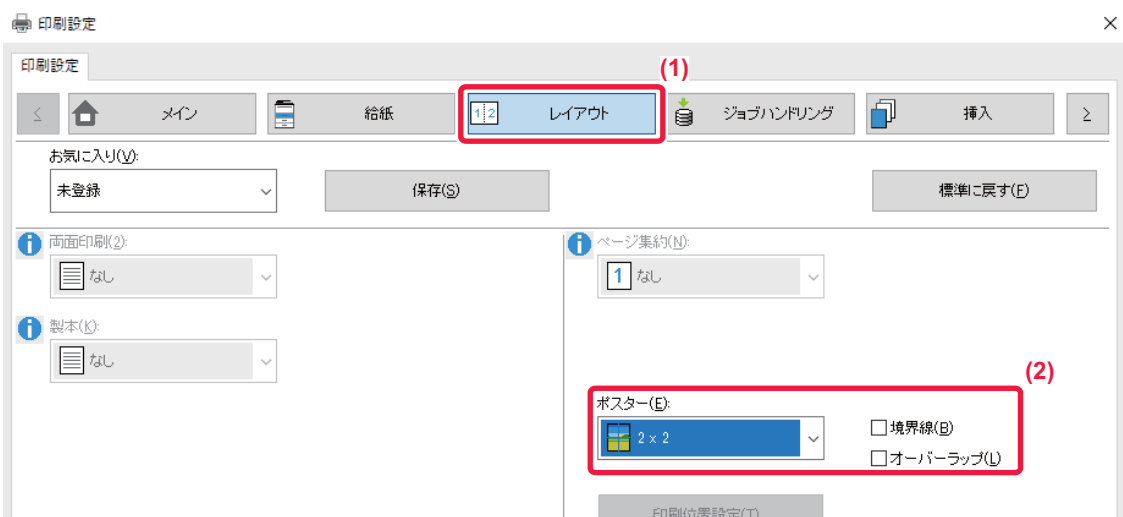
大判のポスターを作る（ポスター印刷）

1ページのプリントデータを拡大して、複数枚の用紙（4枚（2x2）、9枚（3x3）、16枚（4x4）のいずれか）に分割してプリントします。プリント後、用紙を貼り合わせることによって、1枚の大判ポスターに仕上がります。各用紙を貼り合わせる時に連結部分を隙間なくきれいに貼り合わせるができるように、境界線をプリントしたり、各用紙と重なり合う部分を作成して（オーバーラップ機能）プリントしたりします。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [レイアウト] タブをクリックする

(2) 「ポスター」から分割の枚数を選択する

境界線をプリントしたり、オーバーラップ機能を有効にしてプリントするときは、それぞれのチェックボックスをクリックして にします。



データのサイズや向きなどを補正する機能

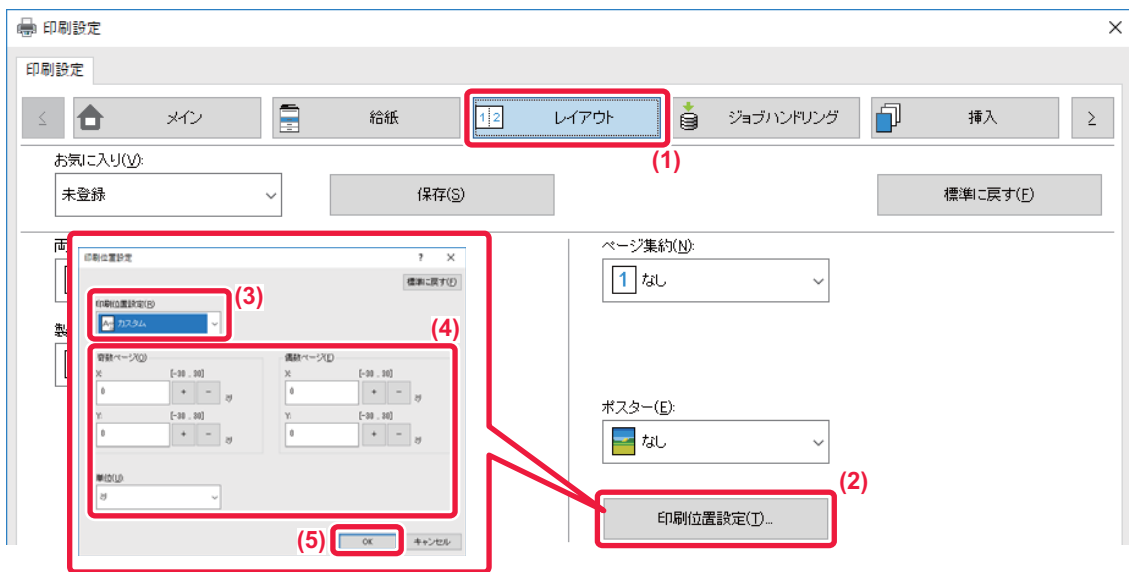
奇数・偶数ページ別に印刷位置を調整してプリント（印刷位置設定）

奇数ページと偶数ページで別々に印刷位置（マージン）を設定してプリントします。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows

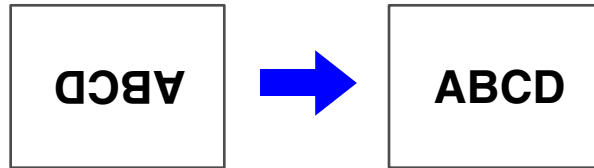


- (1) [レイアウト] タブをクリックする
- (2) [印刷位置設定] ボタンをクリックする
- (3) [カスタム] を選択する
- (4) 奇数ページと偶数ページの印刷位置の移動量をそれぞれ設定する
- (5) [OK] ボタンをクリックする



データを180度回転してプリント（180度回転）

一定の向きでしか本機にセットできない用紙（封筒、パンチ用紙など）に対し、正しくプリントできるように画像の向きを180度回転します。



Windows



(1) [メイン] タブをクリックする

(2) 「原稿の向き」から「たて（180度回転）」または「よこ（180度回転）」を選択する

macOS



(1) [レイアウト] を選択する

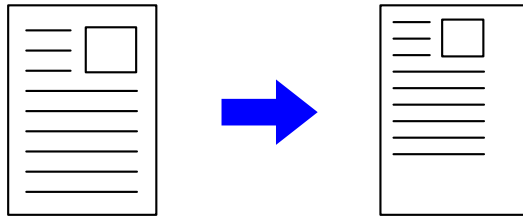
(2) [ページの方向を反転] チェックボックスをクリックして にする



データを拡大／縮小してプリント（ズーム／拡大縮小）

画像を数値（％）で拡大または縮小してプリントします。

画像を少し小さくして用紙に余白を作りたいときや、小さな画像を大きくプリントしたいときに使用します。



PSプリンタードライバー（Windows）をお使いの場合は、たとよこの比率を個別に設定することができ、画像を変形させてプリントすることができます。（PS拡張キットが必要です。）

Windows



(1) [メイン] タブをクリックする

(2) [ズーム] のチェックボックスをクリックして にし、[設定] ボタンをクリックする

(3) 数値（％）を入力する

+ - ボタンをクリックして1%刻みでも指定できます。また、用紙のどの位置を基準としてプリントするか、[左上] または [中央] から選択します。

(4) [OK] ボタンをクリックする



macOS

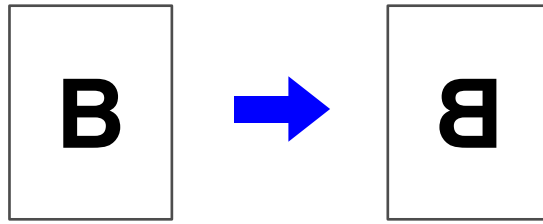


- (1) [ファイル] メニューの [ページ設定] で倍率 (%) を入力する
- (2) [OK] ボタンをクリックする



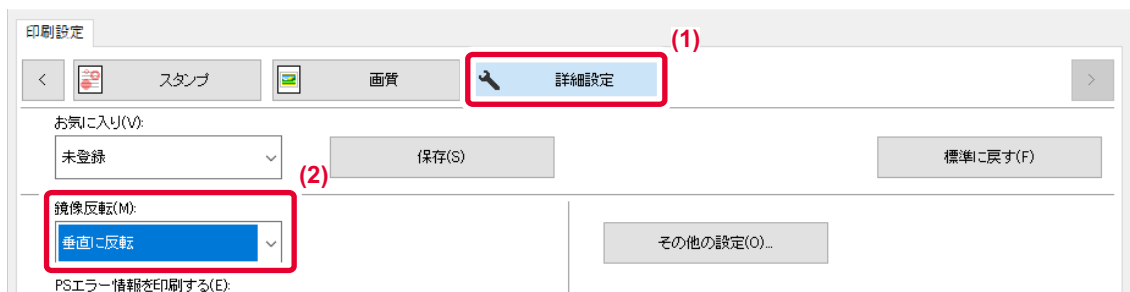
鏡に映したように反転してプリント（鏡像反転／視覚効果）

画像を鏡に映したように反転してプリントします。
版画用や転写用の下絵をかんたんにプリントします。



Windowsでこの機能を使用できるプリンタードライバーは、PSプリンタードライバーのみです。
（PS拡張キットが必要です。）

Windows



(1) [詳細設定] タブをクリックする

(2) 左右に反転したいときは [水平に反転] を、上下に反転したいときは [垂直に反転] を選択する

macOS



(1) [レイアウト] を選択する

(2) [左右反転] チェックボックスをクリックして☑にする



画質調整機能

画像の明るさやコントラストを調整してプリント (イメージ調整／RGB調整)

写真画像などをプリントするときに、プリント時の設定で明るさやコントラストを補正します。
画像の編集ソフトがお使いのコンピューターになくても簡易補正します。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [画質] タブをクリックする

(2) [イメージ調整] ボタンをクリックする

PSプリンタードライバーをお使いの場合は、[RGB調整] ボタンをクリックします。手順(4)へ進んでください。(PS拡張キットが必要です。)

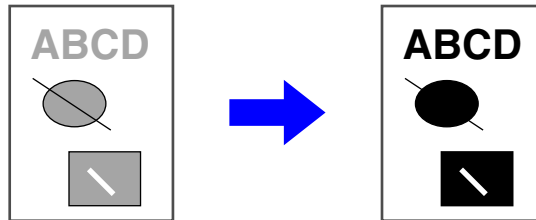
(3) オブジェクト (文字、図形、写真) ごとに調整する場合は、[オブジェクト毎に調整する] チェックボックスを にし、オブジェクトを選択する

(4) (スライダー) をドラッグ、または ボタンをクリックして調整する



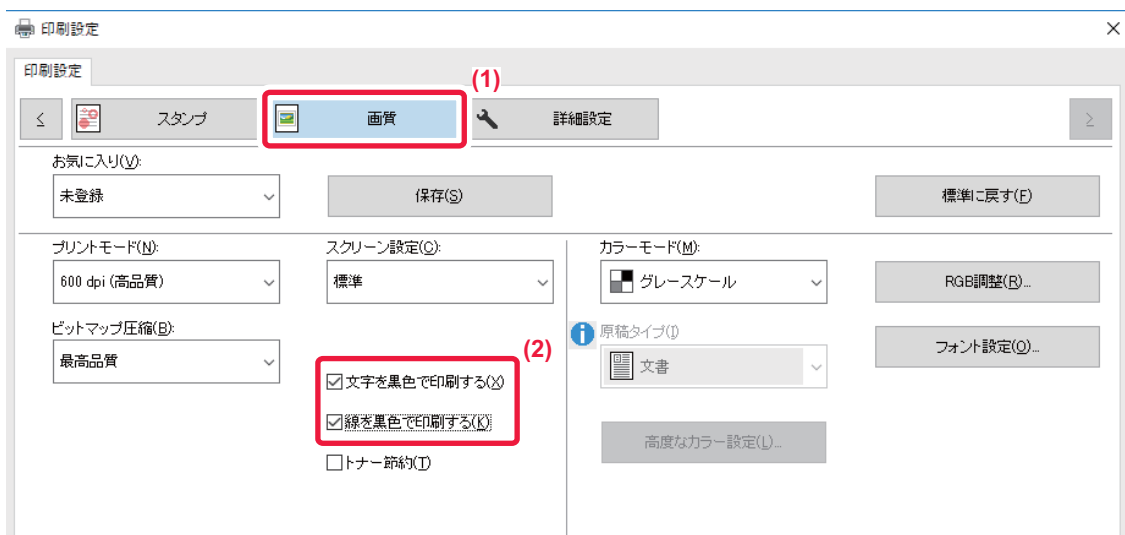
薄くて見づらい文字や線を黒色でプリント（文字を黒色で印刷する／線を黒色で印刷する）

カラーデータをグレースケールでプリントするときに、淡くプリントされるカラーの文字や線を、黒色に変換してプリントします。カラーの文字や線がグレースケールプリントでは薄くて見づらい場合に、より見やすくします。



- ビットマップ画像などのラスターデータは補正できません。
- この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [画質] タブをクリックする

(2) [文字を黒色で印刷する] または [線を黒色で印刷する] チェックボックスをクリックして にする

- [文字を黒色で印刷する] を選択すると、白色以外の文字をすべて黒色に変換してプリントします。
- [線を黒色で印刷する] を選択すると、白色以外の線や面などベクターグラフィック部分をすべて黒色に変換してプリントします。



データに応じたカラー設定でプリント（高度なカラー設定）

本機のプリンタードライバーには、用途に合わせたカラー設定が用意されており、カラー画像の種類によって最適なカラー設定でプリントすることができます。

また、カラーマネージメントに関する設定や色の階調表現を調整できるスクリーン設定など、カラー画像のプリント用途に合わせた詳細設定をします。

カラーマネージメントに関する設定には、次のものがあります。

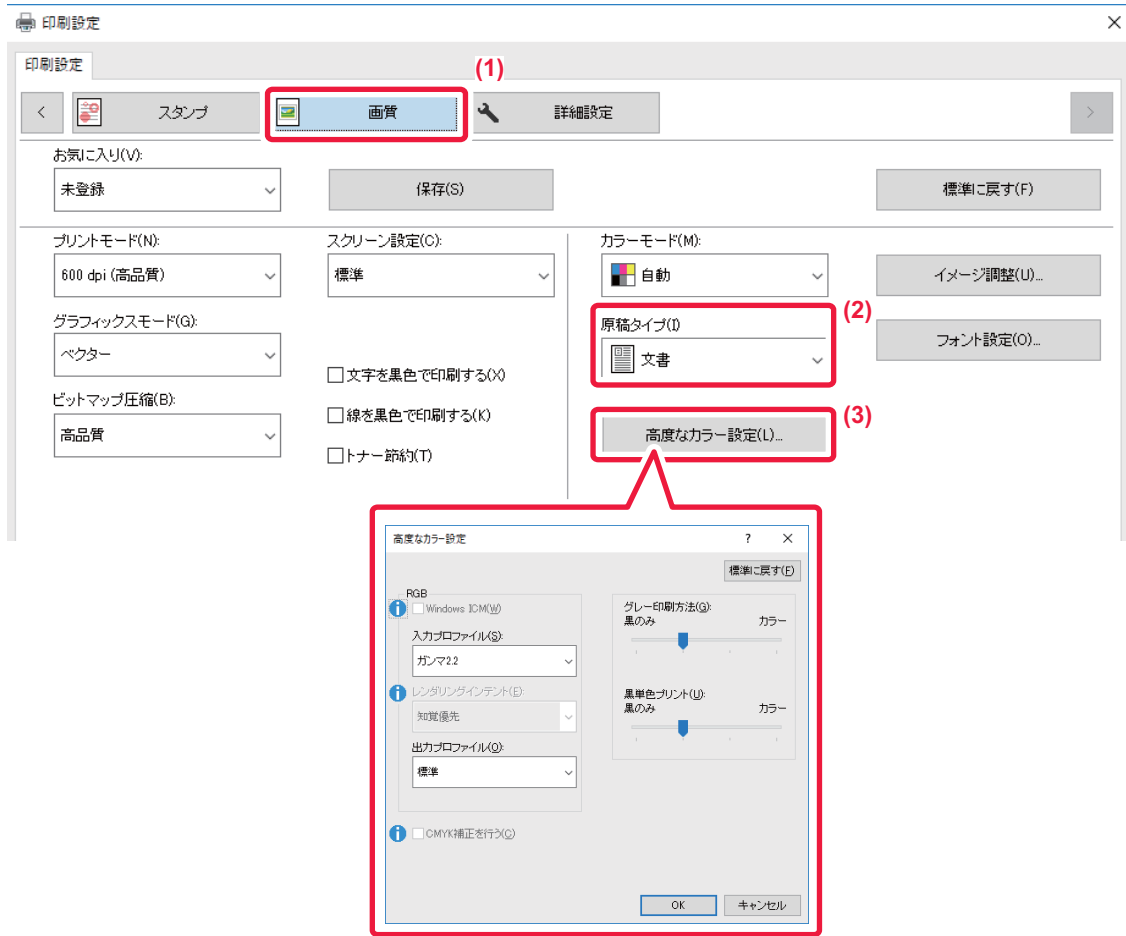
Windows ICM	Windows環境でのカラーマネージメントの方法
ColorSync	macOS環境でのカラーマネージメントの方法
入力プロファイル	カラーマッチング用の入力カラープロファイルを指定
レンダリングインテント	画像データの種類に応じて好みのカラーマッチング方法を選択設定（カラーマッチング処理方法：CRTなどのRGBカラーを、プリンターのCMYKカラーにカラー変換する方法）
出力プロファイル	プリントする画像に使用するカラープロファイルの選択
CMYK補正を行う※1	CMYKの画像をプリントするときに、最適なプリント結果が得られるように補正
スクリーン設定	出力する画像の種類に応じて、プリンターの画像処理方法を任意に選択
グレー印刷方法	グレー中間色に関して黒トナー 1色で印刷するか、CMYKトナー 4色で印刷するかの設定
黒単色プリント	黒色の領域に関して黒トナー 1色で印刷するか、CMYKトナー 4色で印刷するかの設定
黒文字オーバープリント※2	黒文字の周囲が白く抜けるのを防ぐ
CMYKシミュレーション※2	印刷機で使用されるプロセスカラーのインクでプリントしたような結果が得られるように色調整
シミュレーションプロファイル※2	シミュレーションターゲットの選択

※1 SPDLC2-cプリンタードライバーのみ使用できます。

※2 PSプリンタードライバー（Windows/macOS）のみ使用できます。



Windows



(1) [画質] タブをクリックする

(2) 「原稿タイプ」を選択する

- 文書: 文字を多く含むデータ
- プレゼンテーション: 写真やイラストを多く含むデータ
- 写真画像: 写真や、写真が使用されているデータ
- CAD: エンジニアリング図面データ
- スキャン画像: スキャナーで取り込んだデータ
- 色差最小: 画面上の色に近づけてプリントしたいデータ
- カスタム: 特定の設定でプリントしたいデータ

(3) [高度なカラー設定] ボタンをクリックして設定する

OSの持つWindows ICMを利用してカラーマネージメントをする場合は、手順(2)の「原稿タイプ」を「カスタム」に設定してから「Windows ICM」チェックボックスをクリックして☑にします。「入力プロファイル」など、詳細なカラーマネージメント設定をする場合は、それぞれのメニューから使用する設定を選択します。



macOS



(1) [画質] を選択する

(2) [高度な設定] タブをクリックする

macOSのカラーマネジメント機能を使用する場合は、[ColorSync] チェックボックスをクリックして にします。その場合、「原稿タイプ」は選択できません。

(3) [原稿タイプ] を選択する

カラーマネジメント設定をする場合は、それぞれのメニューから使用する設定を選択します。「CMYKシミュレーション」を設定するときは、「原稿タイプ」から [カスタム] を選択し、[CMYKシミュレーション] チェックボックスを にしてから設定します。

- 文書: 文字を多く含むデータ
- プレゼンテーション: 写真やイラストを多く含むデータ
- 写真画像: 写真や、写真が使用されているデータ
- CAD: エンジニアリング図面データ
- スキャン画像: スキャナーで取り込んだデータ
- 色差最小: 画面上の色に近づけてプリントしたいデータ
- カスタム: 特定の設定でプリントしたいデータ

(4) 設定を行う

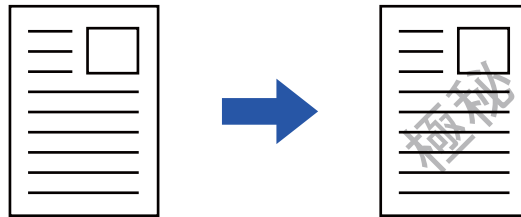


文字や画像の合成機能

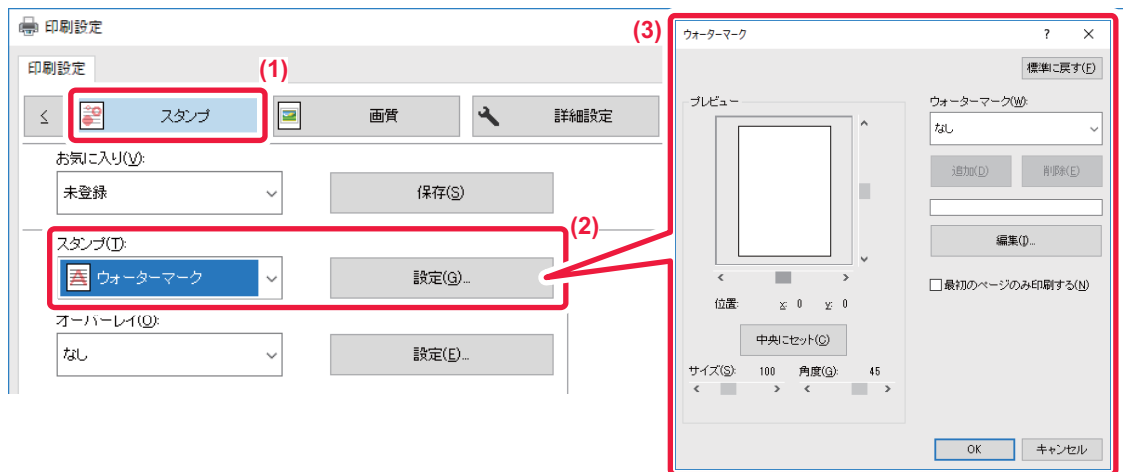
すかし文字を入れてプリント（ウォーターマーク）

プリントデータの背面に影のように薄く文字を入れてプリントします。ウォーターマークの文字サイズ、角度は調整できます。

ウォーターマークはあらかじめ登録されている文字をリストの中から選択します。必要に応じて、文字を入力してオリジナルを作成します。



Windows



(1) [スタンプ] タブをクリックする

(2) 「スタンプ」 から [ウォーターマーク] を選択し、[設定] ボタンをクリックする

(3) 使用するウォーターマークを設定し、[OK] ボタンをクリックする

[編集] ボタンをクリックして、フォントや色の編集など、より詳細な設定をします。



新しくウォーターマークを作成したいときは、テキスト入力欄に文字を入力し、[追加] ボタンをクリックします。




macOS



(1) [ウォーターマーク] を選択する

(2) [ウォーターマーク] チェックボックスをクリックしてウォーターマーク設定をする

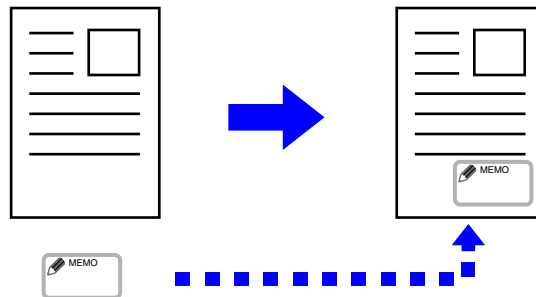
- テキストの選択など、ウォーターマークの詳細な設定をします。
- テキストのサイズや角度は、 (スライダー) をドラッグして調整します。



画像をデータに重ねてプリント（イメージスタンプ）

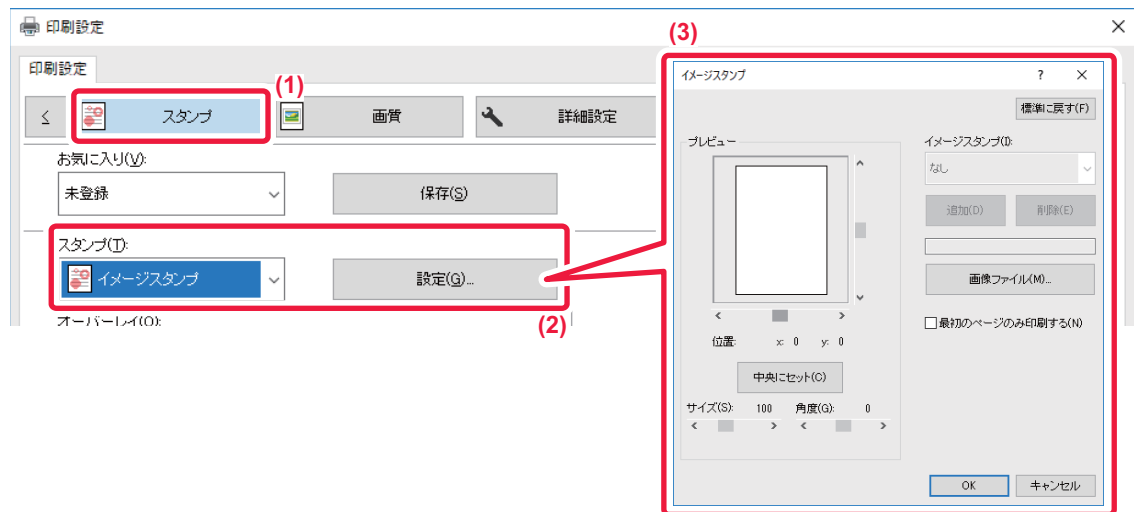
プリントデータの前面に、コンピューターに保存されているビットマップまたはJPEGの画像を重ねてプリントします。

よく使う画像や自作のアイコンなどをスタンプを押したようにプリントします。イメージスタンプの画像の大きさ、配置位置、角度は調整します。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [スタンプ] タブをクリックする

(2) 「スタンプ」 から [イメージスタンプ] を選択し、[設定] ボタンをクリックする

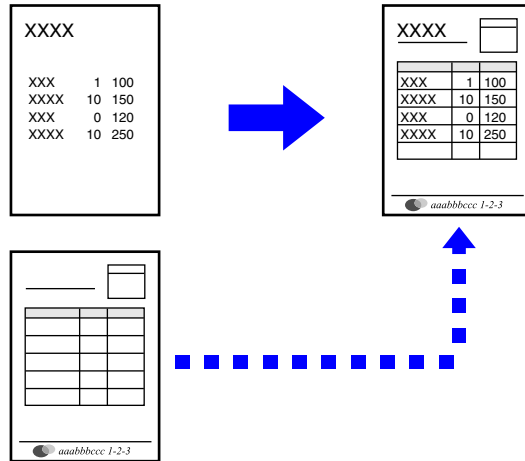
(3) 使用するイメージスタンプを設定し [OK] ボタンをクリックする

- すでに登録したイメージスタンプがある場合は、メニューから選択します。
- イメージスタンプを登録していない場合は、[画像ファイル] ボタンをクリックし、イメージスタンプにしたいファイルを選択して [追加] ボタンをクリックします。



定型フォームを作成してプリントデータを重ねる（オーバーレイ）

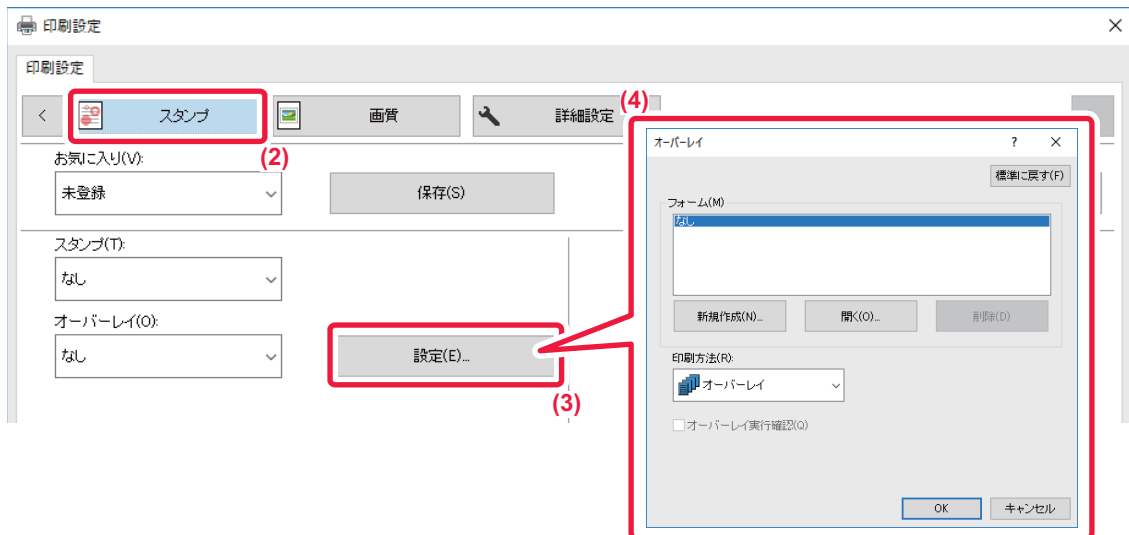
あらかじめ用意した定型フォーマットデータの上に重ねてプリントします。
テキストデータと異なるアプリケーションソフトで作成した表枠や飾り枠などをオーバーレイファイルとして登録しておく、複雑な操作を行わなくてもかんたんに見栄えのよいプリント結果を得られます。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows

オーバーレイファイルの作成

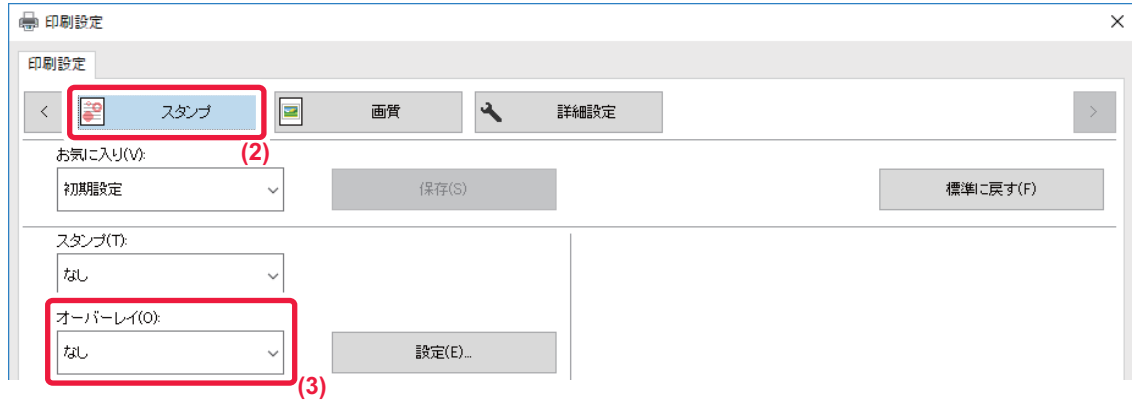


- (1) オーバーレイ用のデータを作成するアプリケーションからドライバー設定画面を開く
- (2) [スタンプ] タブをクリックする
- (3) [設定] ボタンをクリックする
- (4) [新規作成] ボタンをクリックして作成するオーバーレイファイルの名前と保存先を指定する
設定を完了し、プリントを開始すると、オーバーレイファイルを作成します。



- プリントを開始すると、確認メッセージを表示します。[はい] ボタンをクリックするまでオーバーレイファイルを作成しません。
- [登録] ボタンをクリックすると、既存のオーバーレイファイルを登録します。

オーバーレイファイルを使用してプリント



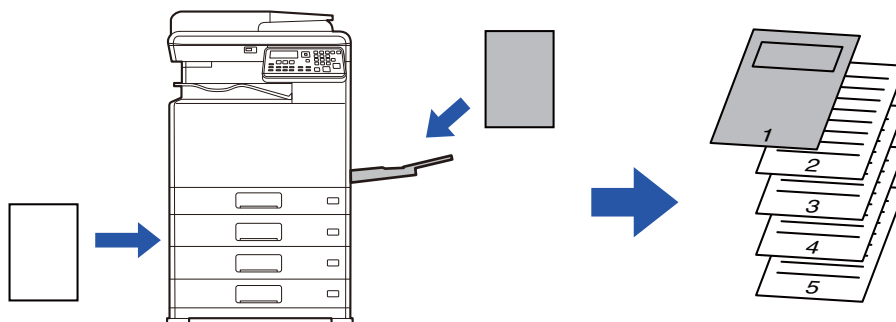
- (1) オーバーレイファイルを使ってプリントするアプリケーションソフトからドライバー設定画面を開く
- (2) [スタンプ] タブをクリックする
- (3) [オーバーレイファイル] を選択する
メニューからあらかじめ作成または登録したオーバーレイファイルを選択します。



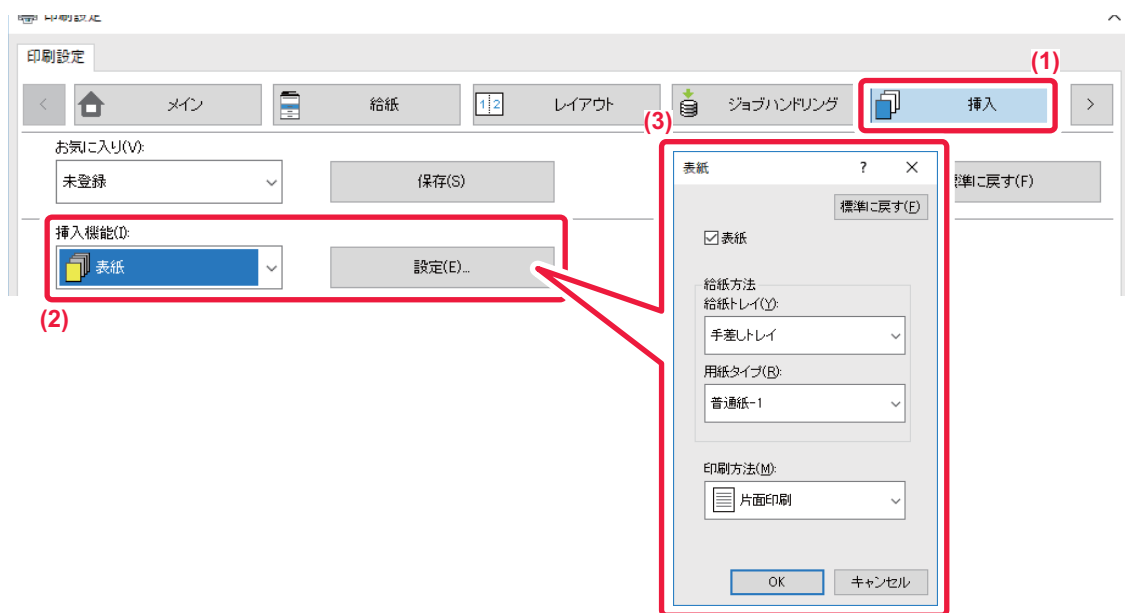
特殊な用途に使えるプリント機能

表紙を異なる用紙でプリント（表紙ページ）

文書の表紙を他のページと異なる用紙でプリントします。表紙だけ厚紙にプリントしたいときなどに使用します。



Windows



(1) [挿入] タブをクリックする

(2) 「挿入機能」から[表紙]を選択し、[設定]ボタンをクリックする

(3) 表紙設定をする

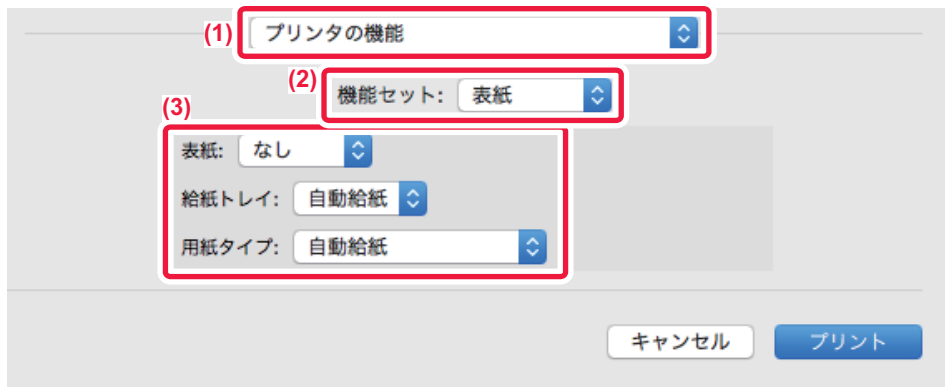
[表紙]を有効にし、使用する用紙トレイと用紙タイプを選択します。



「給紙トレイ」から[手差しトレイ]を選択したときは、必ず「用紙タイプ」も選択し、本機の手差しトレイも同じタイプに設定してください。



macOS



(1) [プリンタの機能] を選択する

(2) [表紙] を選択する

(3) 表紙挿入設定をする

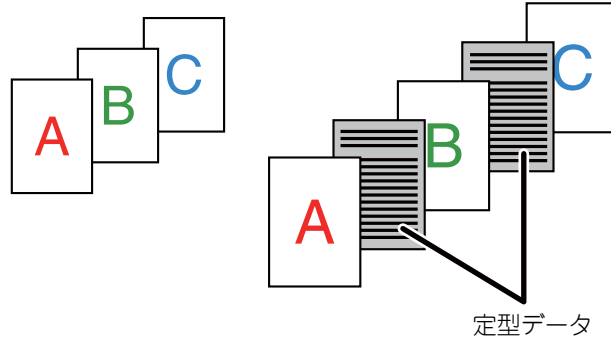
表紙の印刷方法と、使用する用紙トレイと用紙タイプを選択します。



各ページの前または後に同じデータを挿入（ページ挿入）

1ページごとに指定したデータを挿入してプリントします。

見開きにしたときは、左側に文書、右側にメモ書き用のページがくるような構成をかんたんに実現します。



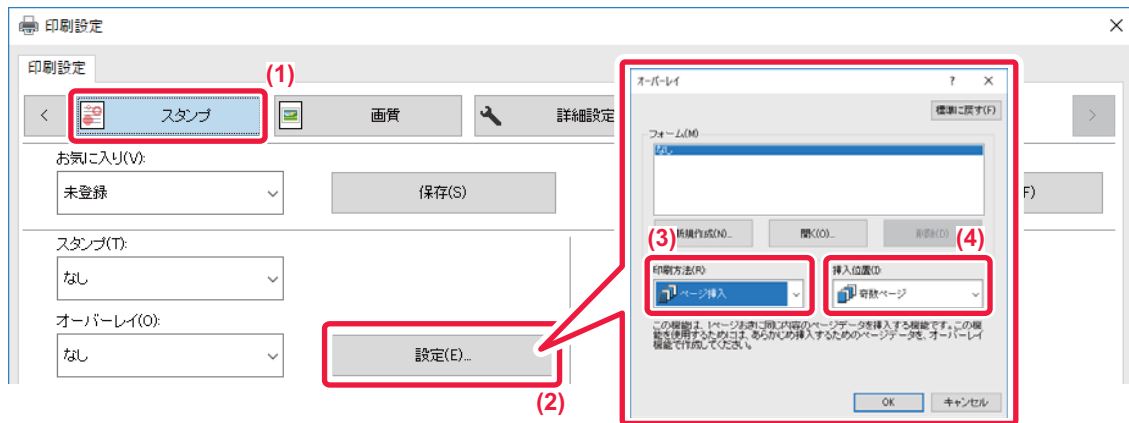
- この機能はWindows環境で使用できます。
- 使用できるプリンタードライバーはSPDL2-cです。

Windows



あらかじめ、挿入するためのページデータを作成する必要があります。

ページデータの作成のしかたは、「[定型フォームを作成してプリントデータを重ねる（オーバーレイ）（3-45ページ）](#)」の「[オーバーレイファイルの作成（3-45ページ）](#)」を参照してください。



- (1) [スタンプ] タブをクリックする
- (2) オーバーレイの [設定] ボタンをクリックする
- (3) 「印刷方法」から「ページ挿入」を選択する
- (4) 挿入するオーバーレイデータと挿入位置を設定する



JPEGイメージのレンダリング方法を変更してプリント (Jpeg形式の画像をドライバーで処理する)

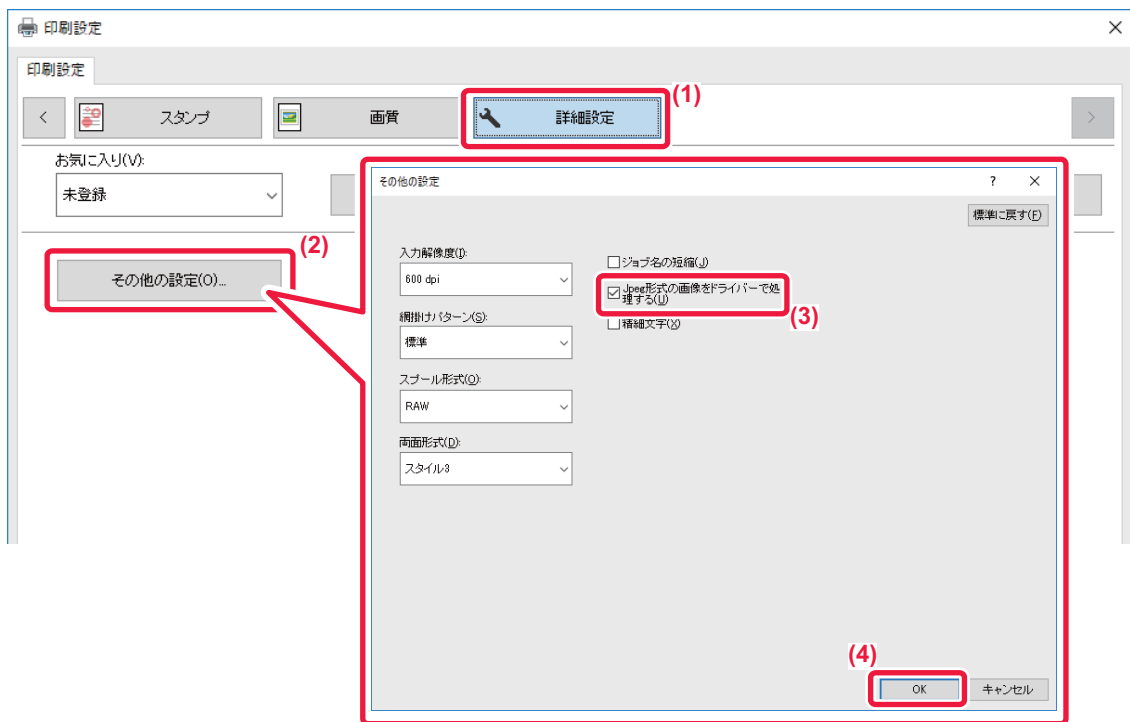
JPEGイメージの含まれる原稿をプリントすると正常に印刷されない場合がありますが、JPEGイメージのレンダリング方法を変更することで対応できます。

JPEGイメージの含まれる原稿をプリントするとき、プリンタードライバーでレンダリングするか、本体側でレンダリングするかを選択してプリントします。



- この機能はWindows環境で使用できます。
- プリンタードライバーでレンダリングする場合は、プリント完了まで時間がかかる場合があります。

Windows



- (1) 【詳細設定】 タブをクリックする
- (2) 【その他の設定】 ボタンをクリックする
- (3) 【Jpeg形式の画像をドライバーで処理する】 チェックボックスをクリックして にする
- (4) 【OK】 ボタンをクリックする



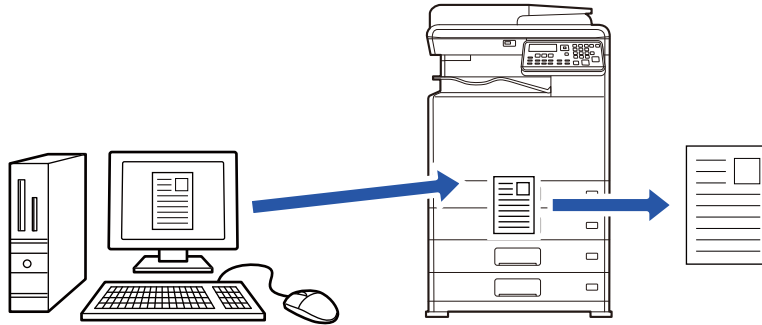
知っておくと便利なプリント機能

プリントデータを保存して使用（リテンション）

プリントデータを本機に保存し、本機の操作パネルからプリントできる機能です。

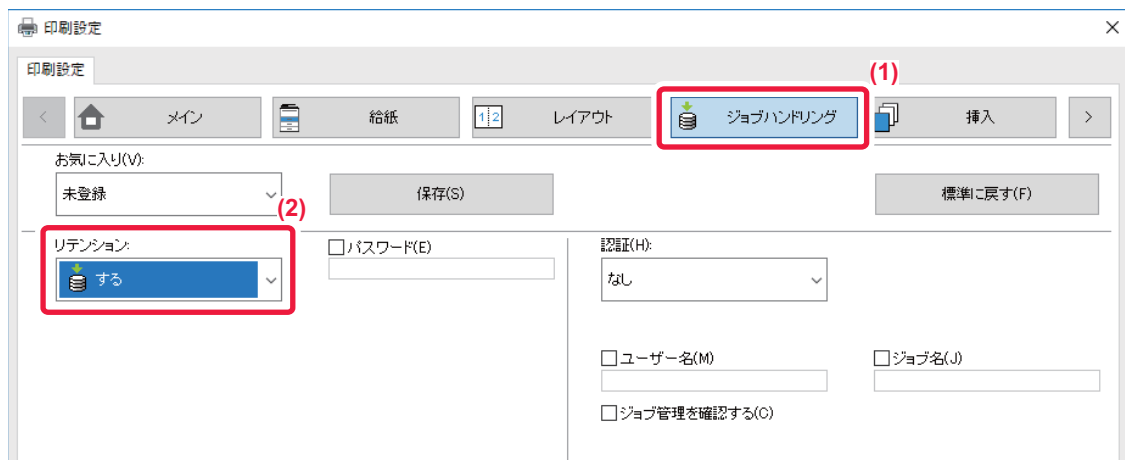
また、コンピュータからプリントするときにパスワード（4～8桁の暗証番号）を設定すると、保存されたデータの機密保持を高めることができます。

パスワード設定時、本機から保存されたデータをプリントするときはパスワードの入力が必要となります。



- 200MBを超えるプリントデータは保存できません。
- 最大30件まで保存できます。

Windows



(1) [ジョブハンドリング] タブをクリックする

(2) 「リテンション」 で[する]を選択する

[パスワード] チェックボックスをクリックして にすると、パスワード（4～8桁の暗証番号）を入力できます。




macOS



(1) [ジョブハンドリング] を選択する

(2) [リテンション] を選択する

パスワード（4～8桁の暗証番号）を入力したあと、 ボタンをクリックしてロックしておく、次に同じパスワードを設定したいときに操作が簡単です。

リテンションされたデータのプリント方法

リテンションを行うと、ディスプレイに次のように表示されます。

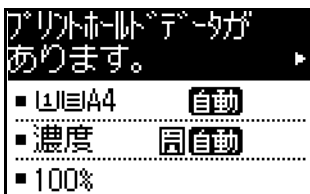
(1) [▲][▼]キーで、プリントデータを選択する

下画面が表示されている場合、[▶]キーを押すと、「ソート項目設定画面」が表示されます。

▶ [ソート項目設定 \(3-53ページ\)](#)



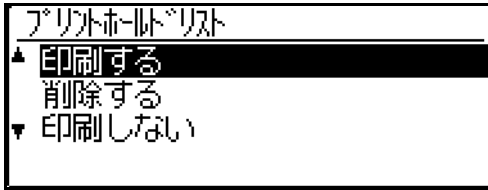
下画面が表示されている場合は、[▶]キーを押して、プリントホールドされたデータのリストを表示してください。



(2) [OK]キーを押す



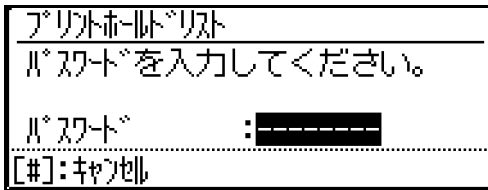
(3) [▲][▼]キーで、プリントデータの印刷や削除を行う



“印刷する”はリテンションされたデータを印刷します。
“削除する”はリテンションされたデータを印刷せずに削除します。
“印刷しない”は手順1に戻ります。

(4) [OK]キーを押す

プリントデータの印刷や削除が行われます。パスワードを設定した場合は、数字キーで設定したパスワードを入力し、[OK]キーを押すと、プリントデータの印刷や削除が行われます。



ソート項目設定

プリントホールドリストの順番を日付の古い順、日付の新しい順、ユーザー名（昇順）、ユーザー名（降順）、ファイル名（昇順）、ファイル名（降順）から設定します。





プリンタードライバーを介さずにプリント

プリント可能な拡張子

お使いのコンピューターにプリンタードライバーがインストールされていない場合や、プリントしたいファイルのアプリケーションソフトがない場合などは、プリンタードライバーを介さずに本機に直接プリントします。直接プリントできるファイルの種類とその拡張子は次のとおりです。

ファイルの種類	TIFF	JPEG	PCL	PS*	PDF*、 高圧縮PDF*、 PDF/A*、 高圧縮 PDF/A*
拡張子	tiff、tif	jpeg、jpg、jpe、jfif	pcl、prn	ps、prn	pdf

※ PS拡張キットが必要です。



- 上の表に記載しているファイルの中でも、データによっては正しくプリントできない場合があります。
- パスワードが設定されているPDF はプリントできません。



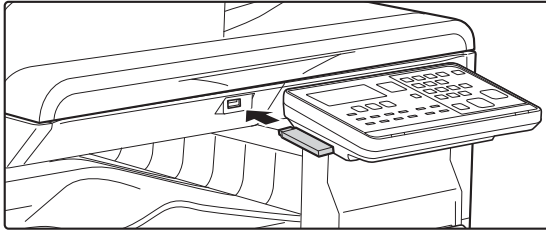
USBメモリー内のファイルを直接プリント

本機に接続したUSBメモリー内のファイルを、プリンタードライバーを介さず本機の操作でプリントします。お使いのコンピューターに本機のプリンタードライバーをインストールしていないときなど、市販のUSBメモリーにデータをコピーして本機に接続することで、直接プリントします。



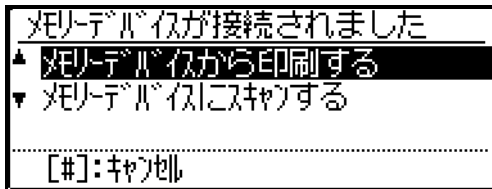
FAT32形式のフォーマットで32GB以下のUSBメモリーを使います。

1



USBメモリーを本機に接続する

2



[▼][▲]キーで「メモリーデバイスから印刷する」を選択して、プリントデータを選択する

USBメモリー内のフォルダーは、フォルダー名の左側に“/”が表示されます。フォルダー内のファイルやフォルダーを表示させるときは、その項目を選択して、[OK]キーを押してください。



- ファイルやフォルダーは合わせて100個まで表示できます。
- 1階層上の画面に戻るときは、[#]キーを押してください。

3

[OK]キーを押す

4

[▼][▲]キーで、「印刷する」を選択し、[OK]キーを押す

選択したファイルの転送が完了すると、プリントが実行されます。プリント条件は、本機のWeb ページで行います。ただし、プリント条件が含まれているファイル（PCL、PS）を選択したときは、ファイルが持つ設定が適用されます。

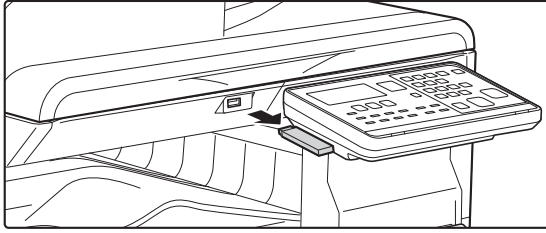


本機でプリントを中止する

プリント実行後「出力中」の表示が出ている間に操作パネルの[ストップ]キーを押すと、プリントをキャンセルするかどうか確認する画面が表示されます。そこで「はい」を選ぶとプリントは中止されます。



5



USBメモリーを本機から抜き取る



コンピューターからファイルを直接プリント

FTPプリント

お使いのコンピューターから、本機のFTPサーバーにプリントしたいファイルをドラッグアンドドロップするだけで簡単にプリントします。

FTPプリントをする

お使いのコンピューターのWebブラウザのアドレス欄に、次のように「ftp://」に続けて本機のIPアドレスを入力します。

(例) ftp://192.168.1.28

Windowsの場合はエクスプローラー上で、ftp://<本機のIPアドレス>を入力し、そのウィンドウに対してプリントしたいファイルをドラッグアンドドロップすると、自動的にプリントを開始します。



• 本機でプリントを中止する

- プリント実行後「出力中」の表示が出ている間に操作パネルの[ストップ]キーを押すと、プリントをキャンセルするかどうか確認する画面が表示されます。そこで「はい」を選ぶとプリントは中止されます。
- プリント条件は、本機のWeb ページで行います。ただし、プリント条件が含まれているファイル (PCL、PS) を選択したときは、ファイルが持つ設定が適用されます。
- 本機でユーザー認証機能を設定している場合、プリント機能が制限されることがあります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。



付録

プリンタードライバー仕様一覧

設定項目については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

▶ [プリンタードライバーの設定画面について／ヘルプの参照（3-6ページ）](#)

機能			SPDL2-c	PS	Windows PPD※1	macOS PPD※1
タブ (Windows)	項目	ページ				
メイン	部数	—	1~999	1~999	1~999	1~999
	部単位で印刷	—	○	○	○	○
	原稿サイズ	3-4	○	○	○	○
	出力用紙サイズ	3-4	○	○	×	×
	原稿の向き	3-33	○	○	○	○
	用紙サイズに合わせる	3-23	×	×	○	○
	ズーム	3-34	○※2	○	×	×
	両面印刷	3-22	○	○	○	○
	ページ集約	3-25	2、4、6、8、9、16	2、4、6、8、9、16	2、4、6、9、16	2、4、6、9、16
	ステープル	—	×	×	×	×
	ドキュメントファイリング	—	×	×	×	×
	カラーモード	3-19	○	○	○	○
給紙	出力用紙サイズ	3-4	○	○	×	×
	給紙トレイ	3-7	○	○	○	○
	用紙タイプ	3-7	○	○	○	○
	トレイ状況	3-7	○	○	×	×
仕上げ	ステープル	—	×	×	×	×
	パンチ	—	×	×	×	×
	紙折り	—	×	×	×	×
	シフト排出	—	×	×	×	×
	排紙トレイ	—	×	×	×	×
	仕切り挿入	—	×	×	×	×



機能			SPDL2-c	PS	Windows PPD※1	macOS PPD※1	
タブ (Windows)	項目	ページ					
レイアウト	両面印刷	3-22	○	○	○	○	
	章分け	—	×	×	×	×	
	製本	3-27	○	○	○	○	
	ページ集約	ページ数	3-25	2、4、6、8、9、16	2、4、6、8、9、16	2、4、6、9、16	2、4、6、9、16
		リピート	—	×	×	×	×
		順序	3-25	○	○	○	○
		枠線	3-25	○	○	○	○
		1枚目を除く	3-25	○	×	×	×
		等倍で印刷	3-25	○	○	×	×
	ポスター	3-31	○	○	×	×	
印刷位置設定	とじしろ	3-29	0mm ~ 30mm	0mm ~ 30mm	○	○	
	インデックス紙シフト	—	×	×	×	×	
	カスタム	3-32	○	○	×	×	
ジョブハンドリング	プリントリリース	—	×	×	×	×	
	ドキュメントファイリング	—	×	×	×	×	
	PC閲覧用PDF	—	×	×	×	×	
	プリントと送信	—	×	×	×	×	
	ジョブの終了を通知する	—	○	○	×	×	
	リテンション	3-51	○	○	×	○	
	認証	3-9	○	○	×	○	
挿入	表紙	3-47	○	○	○	○	
	OHPフィルム合紙	—	×	×	×	×	
	カーボンコピー	—	×	×	×	×	
	インデックス紙	—	×	×	×	×	
スタンプ	ウォーターマーク	3-42	○	○	○	○	
	イメージスタンプ	3-44	○	○	×	×	
	オーバーレイ	3-45	○	○	×	×	
	地紋	—	×	×	×	×	
	部数印字	—	×	×	×	×	
画質	プリントモード	3-21	○	○	○	○	
	グラフィックスモード	—	○	×	×	×	
	ビットマップ圧縮	—	○	○	×	×	
	シャープネス	—	×	×	×	×	
	スクリーン設定	3-39	○	○	○	○	
	スムージング	—	×	×	×	×	
	文字を黒色で印刷する	3-38	○	○	×	×	



機能			SPDL2-c	PS	Windows PPD※1	macOS PPD※1	
タブ (Windows)	項目	ページ					
画質	線を黒色で印刷する	3-38	○	○	×	×	
	トナー節約※3	—	○	○	○	○	
	カラーモード	3-19	○	○	○	○	
	原稿タイプ	3-39	○	○	○	○	
	高度なカラー設定		○	○	×	○	
	イメージ調整	3-37	○	○	×	×	
	フォント設定	—	○	○	○	×	
	線幅調整	—	×	×	×	×	
	ボールド	—	×	×	×	×	
詳細設定	鏡像反転	3-36	×	○	○	○	
	PSエラー情報を印刷する	—	×	○	○	×	
	PSを素通しする	—	×	○	×	×	
	ジョブ圧縮	—	×	○	×	×	
	連結印刷	—	×	×	×	×	
	白紙プリントの禁止	—	×	×	×	×	
	カスタムイメージ登録	—	×	×	×	×	
	その他の設定						
	• 入力解像度	—	○	○	×	×	
	• 網掛けパターン	—	○	×	×	×	
	• スプール形式	—	○	○	×	×	
	• 印刷領域	—	×	×	×	×	
	• Rip形式	—	×	×	×	×	
	• 両面形式	3-22	○	○	×	×	
	• CMYKデータのグレー補正	—	×	×	×	×	
	• ジョブ名の短縮	—	○	○	×	×	
	• Jpeg 形式の画像をドライバーで処理する	3-50	○	○	×	×	
	• 強調処理	—	×	×	×	×	
	• EXCELの細線を太くする	—	×	×	×	×	
	• 精細文字	—	○	○	○	○	
	• 精細エッジ	—	×	×	×	×	
• 印刷色の選択	—	×	×	×	×		
• 文字/線処理	—	×	×	×	×		
• 抜き文字/線処理	—	×	×	×	×		
• 写真イメージ	—	×	×	×	×		
• イメージエンハンスメント	—	×	×	×	×		

※1 Windows PPDおよびmacOS PPDの各機能の仕様は、OSやアプリケーションソフトによって異なります。

※2 たてとよこの比率を個別に設定できません。

※3 OSやアプリケーションソフトによって、本機能がはたらかない場合があります。

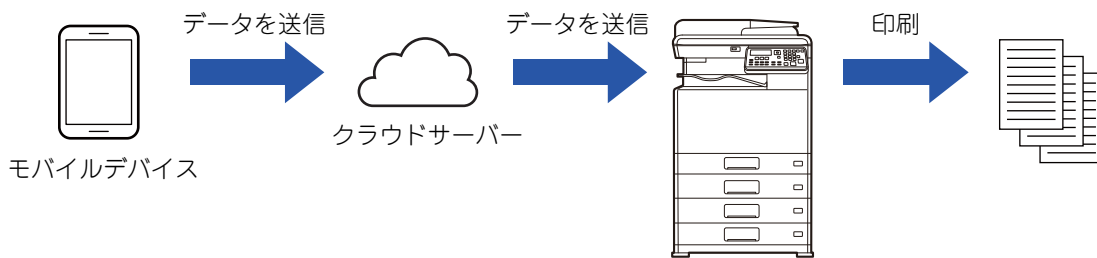


Google クラウド プリントを使ったプリント

Google クラウド プリントとは、PCやモバイルデバイスといったクライアント端末内のデータを、Google社が運営するクラウドサーバーを経由して、クラウドサーバーに接続されたプリンターでプリントするサービスです。ネットワーク環境に応じて、複合機をインターネット接続するための設定（プロキシ設定等）を行ってください。ここではGoogle クラウド プリントを使ったプリント方法について説明します。あらかじめ、Googleアカウントを取得してください。



Google クラウド プリントを行う場合、PS拡張キットが必要です。



本機の設定

使用する前に「設定（管理者）」で次の設定を行ってください。

- 本機ユーザー認証機能を有効にしている場合は、システム設定（管理者）→[ユーザー管理]→[[無効ユーザーの印刷禁止（6-12ページ）](#)]をオフにしてください。
- Webページの[管理者設定（管理者）]→[ネットワーク]で次の設定をGoogle クラウド プリントの設定に合わせて行ってください。
 - IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ
 - DNSサーバーのIPアドレス
 - プロキシ設定



Google クラウド プリントはGoogle クラウド プリント設定で行います。Google クラウド プリント設定については、[「Google クラウド プリント設定（3-63ページ）」](#)を参照してください。



印刷の設定

Google クラウド プリントに対応したアプリケーションから、プリントすることができます。
アプリケーションから設定可能な機能は以下のとおりです。

項目	内容
印刷色	自動、白黒、カラー
両面印刷	なし、よことじ、たてとじ
印刷の向き	たて、よこ
部数	1-999
出力解像度	600 x 600
フィットページ	設定する、設定しない
ページ指定	-
用紙サイズ	A4、A3、A5、B4、B5、A3W、Ledger、Legal、Letter、Invoice、Executive、Foolscap、8-1/2" x 13-2/5"、216mm x 243mm、はがき、8K、16K
給紙トレイ	複合機の構成により異なる
部単位で印刷する	設定する、設定しない



Google クラウド プリントでは、XMPP (5222) ポートまたはHTTPS(443)ポートを利用して通信を行いません。
必要に応じて、インターネット側からのアクセス制限やデジタル複合機の管理者パスワード、またはmDNSの設定を確認してください。

Google クラウド プリントに関連する注意事項

- Google クラウド プリントを使用した印刷結果は、他の印刷方法（プリンタードライバーなど）との印刷結果と同様の品質にならない場合があります。
また、ファイルの内容によっては、正しく印刷されないことや、印刷できないことがあります。
- デジタル複合機を利用する国と地域によっては、Google クラウド プリントへの接続機能の全部または一部がご利用になれない場合があります。
- デジタル複合機を利用するネットワーク環境によっては、Google クラウド プリントへの接続機能をご利用できない場合があります。また、ご利用になれる場合でも、印刷に時間がかかる場合や、または途中で途切れる場合があります。
- 当社は、Google クラウド プリントとの接続機能の継続性、接続の安定性などについて、一切保証いたしません。
またこれにより、お客様に生じた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



Google クラウド プリント設定



本機ユーザー認証機能を利用している際にGoogle クラウド プリント設定を使用するときは、[システム設定(管理者)]→[ユーザー管理]で、「無効ユーザーの印刷禁止 (6-12ページ)」を無効にしてください。

Google クラウド プリント	Google クラウド プリントを使用する時に設定します。
ステータス	「未登録」「登録中」「登録済」「オフライン」のいずれかが表示されます。
E-mail	本機を Google クラウド プリントに登録した管理者の Google アカウントのE-mailアドレスが表示されます。
デバイス名	クライアント端末側で表示されるデバイス名を設定します。 ステータスの複合機情報ページにあるデバイス名と同じ設定値となります。
Google クラウド プリントへの登録	「ステータス」が「未登録」の場合に表示します。 このキーをクリックすると、Google クラウド プリントに登録するためのリストがプリントされます。 端末の Web ブラウザーを起動し、リストにある URL または QR コードにアクセスしてください。 また、設定中の Web ページにも登録用の URL が表示されます。 Web ブラウザーの画面上に、Google アカウントのログイン画面が表示されたら、本機の管理者の Google アカウント情報を入力してください。 その後のページに表示される内容に従って進み、本機の登録手続きを完了してください。 登録に成功すると、「ステータス」が「登録済」になります。



登録作業は、登録用情報が表示されてから約10分間に完了してください。
時間内の登録に失敗した場合は、ステータスが「登録中」から「未登録」に戻ります。

Google クラウド プリントからの削除	「ステータス」が「登録済」の場合に表示されます。このキーをクリックすると、クラウドサーバーにある本機の情報と、本機内の Google クラウド プリントの設定内容が削除されます。
-----------------------	---

1

- ・ プリントポート
- ・ AirPrint設定
- ・ Google クラウド プリント設定
- ・ LDAP
- ・ 接続テスト

メニューフレームの [Google クラウド
プリント設定] をクリックする

2

必要に応じて [Google クラウド プリント]、[Google クラウド プリントへの登録]、[Google クラウド プリントからの削除]を設定する。

3

すべての項目を入力し終わったら、[登録]をクリックする



ポート設定

Webページでの設定で、[管理者設定 (管理者)]→[セキュリティ設定]→[ポート設定]→[クライアントポート]にXMPPポートが追加されます。工場出荷時は有効になっています。



XMPPポートの設定は、Google クラウド プリントの有効/無効に合わせて自動的に設定が変更されます。



ファクス

ファクスとして使用する前に

- ファクスとして正しくお使いいただくために 4-2
- 設置後すぐに確認／登録すること 4-3

基本的な送信のしかた

- ファクスモード（基本画面） 4-4
- 原稿について 4-5
 - 送信できる原稿について 4-5
- 便利なダイヤルについて（オートダイヤル） 4-6
- ファクス送信の方法 4-7
 - 宛先確認機能について 4-7
- ファクスを送信する 4-8
 - 基本的な送信のしかた 4-8
 - オートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）での送信のしかた 4-12
 - 登録している相手先の検索（[宛先表]キーの使い方） 4-13
 - 両面原稿の送信のしかた 4-14
 - 画質選択のしかた 4-18
 - 原稿の濃度を変える 4-19
 - ファクスの送信を中止する 4-20

ファクスの受信について

- ファクスを受信する 4-24
 - 受信のしかた 4-24
 - ファクスを手動受信する 4-26

ファクスの便利な機能

- 機能キーで設定する項目 4-27
 - ファクスプリントホールド機能 4-27
 - 薄い紙の原稿を送信（薄紙読み込み） 4-28
 - 時刻指定通信 4-29
 - 順次同報送信機能の使いかた 4-30
 - 特別通信機能 4-32
 - 掲示板機能 4-34
 - オートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）の登録、修正／削除 4-37
 - プログラムを登録、修正／削除する 4-43

- 登録・設定した内容をプリントする 4-45
 - 発信元情報を付けて送信する（発信元印字） 4-46
 - 転送機能の使いかた 4-48

- 登録した設定を呼び出して使用する（プログラム） 4-49
 - プログラムの使いかた（呼び出し） 4-49

- 受信したデータをネットワークアドレスに転送する（受信データのネットワーク転送設定） 4-50
 - 基本条件を設定する 4-50
 - 転送先を設定する 4-52

- コンピュータのデータをファクス送信する（PC-Fax） 4-54

外部電話接続を使用する

- 電話機を増設する（外部電話接続） 4-55
 - 電話機の接続のしかた 4-55
 - 外部電話の使いかた 4-56
 - 電話とファクスを自動的に切り替えて使用する 4-58

その他の機能

- 1つの電話回線で2つの番号を利用する（ダイヤルイン） 4-60
- 通信結果表がプリントされたときは 4-61
 - 通信結果欄の内容について 4-61
- 通信記録を定期的に確認したいときは（通信記録表） 4-63
- アラーム音が鳴ったり警告メッセージが表示されたときは 4-63
 - 自己診断機能について 4-63
 - 正常時のメッセージについて 4-64
- ファクシミリ通信網（Fネット）について 4-64
- 電話回線の種類について 4-65



ファクスとして使用する前に

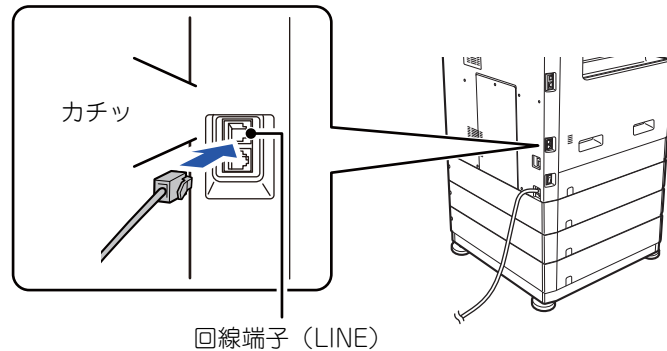
ファクスとして正しくお使いいただくために

この製品のファクス機能を正しくお使いいただくために注意していただくことがあります。
以下の注意を守っていただくようお願いいたします。

回線の接続について

本機器と電話線コンセントとの接続は、必ず付属の接続ケーブルをお使いください。接続する際、図のように本機左側面にある回線端子（LINE）に差し込んでください。もう一方の端子は電話線コンセントに差し込みます。

「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。



日付・時刻の設定、発信元名・発信元番号の登録について

ファクス機能を使用する前に、日付・時刻、発信元名・発信元番号を本機に登録する必要があります。この説明書の[設置後すぐに確認／登録すること（4-3ページ）](#)に書かれていますので、説明をお読みのうえ正しく登録してください。

内蔵リチウム電池について

日付、時刻は、本機内部のリチウム電池で保護されます。

- リチウム電池の寿命が切れたときは、お買いあげ販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口にご相談ください。リチウム電池の寿命が切れると、機器が動作しなくなります。

その他

- 近くに強い雷が発生したときは、電源コードをACコンセントから抜いていただいた方が安全です。電源コードをACコンセントから抜いてもメモリーに読み込まれている内容は消失しません。
- 海外では使用できません。
この製品を使用できるのは日本国内のみです。海外では安全規格や、回線のインタフェースの仕様が異なり使用できません。

<This machine is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.>



設置後すぐに確認／登録すること

設置後、ファクスとしてお使いになる前に、以下の項目を確認／登録してください。

日付・時刻を設定する

この製品には時計が内蔵されています。日付・時刻は、[時刻指定通信（4-29ページ）](#)等で利用しますので、正確に設定してください。

日付・時刻の設定は、システム設定で設定します。[日付・時刻（6-10ページ）](#)

日付・時刻は、ディスプレイに表示されます。設定された日付と時刻が正確かどうか確認してください。まちがっている場合は修正してください。

発信元名・発信元番号を登録する

システム設定の [発信元登録（6-21ページ）](#) で、この製品を利用する利用者名・電話番号を登録します。（1件のみ）登録した発信元名・発信元電話番号は、送信時に相手の記録紙の上部にプリントされます。また、発信元電話番号は、ポーリング発信時（[特別通信機能（4-32ページ）](#) 参照）の許可番号になります。



登録した内容は、システム設定の「ファクス設定表」をプリントして確認できます。

▶ [リスト設定（6-20ページ）](#)

ファクスモードで使用できる用紙サイズについて

本機では、A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5Rおよび、インチ系サイズの11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"R、8-1/2" x 11"、7-1/4" x 10-1/2"R、5-1/2" x 8-1/2"Rサイズの用紙が出力紙として使用できますが、ファクスモードでは、このうち11" x 17"、8-1/2" x 14"、7-1/4" x 10-1/2"R、5-1/2" x 8-1/2"Rサイズの用紙を使用できません。

したがって他のモードで使用できても、ファクスモードでは使用できないサイズの用紙のみ本機にセットされている場合、ファクス受信データなどの出力紙がプリントできませんので、ご注意ください。（ファクス受信時の注意事項については、[ファクスを受信する（4-24ページ）](#)の項に記載されている内容もよくお読みください。）



トレイに用紙をセットする方法については、[用紙補給について（1-17ページ）](#)を参照してください。

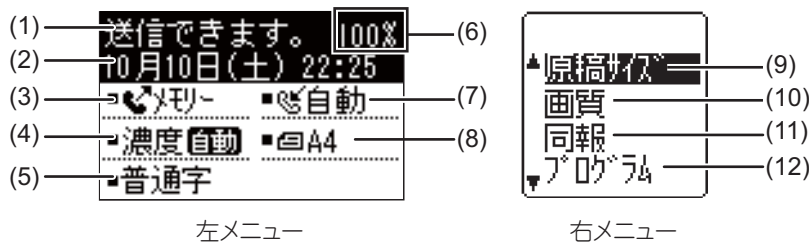


基本的な送信のしかた

ファクスモード（基本画面）

ファクスモードの基本画面は、コピーモード、スキャナーモードの基本画面を表示しているときに[ファクス]キーを押すと表示されます。

ファクスモードの基本画面



- | | |
|---|---|
| <p>(1) メッセージ表示部
現在の状態を表すメッセージが表示されます。</p> <p>(2) 日付・時刻表示部
日付・曜日・時刻を表示します。</p> <p>(3) 送信モード表示部 ▶4-15ページ
ファクスの送信モードは、3種類の送信モード（メモリー送信、直接送信、手動送信）があります。現在選択されている送信モードを表示します。</p> <p>(4) 濃度表示部
原稿の読み込み濃度を表示します。</p> <p>(5) 画質表示部
原稿の読み込み画質を表示します。</p> <p>(6) メモリー残量表示部
ファクス用メモリーの空き容量をパーセントで表示します。</p> <p>(7) 受信モード表示部
ファクスの受信モードは、3種類の受信モード（自動受信、手動受信、留守録）があります。現在選択されている受信モードを表示します。</p> | <p>(8) 原稿表示部
原稿をセットしたときに、原稿の読み込みモードをアイコンで表示します。
☐…原稿自動送り装置で原稿セット未検知かつシステム設定、もしくは右メニューで原稿サイズを指定している時
☐…原稿送り装置の原稿セット検知時（原稿送り装置片面読み込み）
☐…原稿自動送り装置で両面原稿読み込み設定時なし…原稿台（ガラス面）セット時あるいはシステム設定、もしくは右メニューの原稿サイズ指定が未設定の時
また、現在選択されている原稿の読み込みサイズを表示します。</p> <p>(9) 原稿サイズ▶4-8ページ
原稿の読み込みサイズを設定するときに使用します。</p> <p>(10) 画質▶4-18ページ
画質を設定するときに使用します。</p> <p>(11) 同報▶4-30ページ
順次同報送信するときに使用します。</p> <p>(12) プログラム▶4-49ページ
プログラムを利用するときに使用します。</p> |
|---|---|



次の機能は、ファクスモード以外が選択されている状態でもはたらきます。

- 自動受信
- 手動受信
- 留守録
- 時刻指定通信
- メモリー送信モードで予約済み原稿の送信
- 通話（外部電話装着時）
- リモート受信



原稿について

送信できる原稿について

セットできる原稿については、[原稿のセット \(1-32ページ\)](#) を参照してください。



Fネット▶[4-64ページ](#)を利用する場合、原稿サイズについて制限があります。詳しくは、Fネットのパンフレットを参照してください。

※長尺原稿について

メモリーに記憶できる容量に限りがあるため原稿読み取り時の画質と原稿幅によって使用できる長さが変わります。長尺原稿が全て読み込めなかった場合は、直接送信や手動送信（オンフック送信）を行ってください。

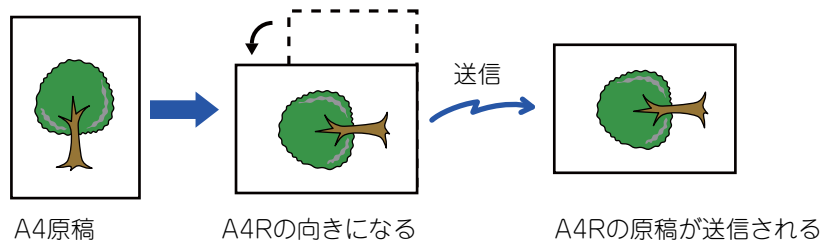


原稿自動送り装置では、縦幅297mmで横幅が500mmまでの原稿をセットできます。

原稿セット方向

A4原稿を縦長方向（）にセットした場合、自動的に90度回転して横長方向（）で送信するように設定されています（回転送信）。

横長方向（）にセットした場合、そのまま横長方向（）で送信します。



A4R、B5、A5サイズの前稿は回転送信されません。



回転送信の設定を解除するには

「設定（管理者）」の [システム設定] → [ファクス] → [送信機能設定] → [回転送信] で解除します。

解除すると原稿をセットした方向のまま送信します。

ただし、原稿のセットした方向のまま送信されるため、受信側によっては、受信データを縮小する場合があります。




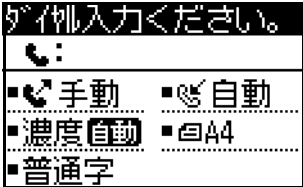


便利なダイヤルについて（オートダイヤル）

この製品には、ダイヤル操作を簡単にするオートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）機能があります。よく利用する相手先名、相手先番号などを登録しておけば、簡単な操作で送信したり、相手呼び出せます

▶ [オートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）での送信のしかた（4-12ページ）](#)。

オートダイヤルには短縮ダイヤル、グループダイヤルの2種類があります。なお、登録方法については [オートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）の登録、修正／削除（4-37ページ）](#) を参照してください。

<p>• 短縮ダイヤル（300局） [短縮]キーを押し、3桁の短縮番号（000～299）を入力して、[白黒スタート]キーを押すと、登録されている相手にダイヤルできます。相手先の名称は全角で18文字まで登録できます。</p>	
<p>• グループダイヤル 複数の短縮ダイヤルや番号を1つのグループとして登録できます。複数の相手と順次通信するとき便利です。</p>	
<p>• 再ダイヤル この製品は、最後にかけた相手のファクス番号または電話番号を記憶しています。同じ相手にかけなおすときは、[再ダイヤル]キーを押し、[白黒スタート]キーを押すだけでダイヤルできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オンフックダイヤルで、ガイダンスなどにしたがって数字キーを押した場合、正しく再ダイヤルできないことがあります。 • 順次同報送信（▶4-30ページ）、順次ポーリング（▶4-33ページ）、時刻指定通信（▶4-29ページ）、グループダイヤル（▶4-12ページ）で送信した相手先には、再ダイヤルできません。 	
<p>• オンフックダイヤル 受話器を上げずにダイヤルできる機能です。ダイヤルする前に[オンフック]キーを押すとスピーカーから「ツ-」音が聞こえ、ダイヤルできる状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オンフックダイヤルでは、ファクスを送信するときは手動送信となります。（▶4-16ページ） 	



- グループダイヤルは1グループにつき100件まで、短縮ダイヤルはグループダイヤルと合わせて300件まで登録できます。
- 登録した短縮ダイヤル、グループダイヤルは、登録のときに入力した検索文字名で簡単に呼び出せます。
 - ▶ [登録している相手先の検索（\[宛先表\]キーの使い方）（4-13ページ）](#)
- まちがい電話や誤送信を防ぐために、オートダイヤルに相手先番号を登録するときには、番号まちがいのないようにディスプレイの表示を見ながら正確に行ってください。また、登録後は登録内容をプリントして、正しく登録されていることを確認してください。
 - ▶ [登録・設定した内容をプリントする（4-45ページ）](#)



ファクス送信の方法

ファクス送信の方法には、原稿の内容をいったんメモリーに蓄積してから送信する「メモリー送信」とメモリーに原稿を蓄積せずに送信する「直接送信や手動送信」に区別されます。

システム設定の [▶デフォルト送信設定 \(6-23ページ\)](#) で初期値を“メモリー送信”か“直接送信”のいずれかに設定できます。手動で“メモリー送信”と“直接送信”を切り替えるときは、[送受信設定]キーで設定できます。([直接送信モードを使った送信のしかた \(4-15ページ\)](#) 参照)

以降の説明は「メモリー送信」を基本としています。

宛先確認機能について

「宛先確認機能」は、ファクスの誤送信を防止するための確認を行う機能です。

数字キーでファクス番号を入力するときや、[再ダイヤル]キーからファクス番号を選んで使用するときは、番号を入力したあと、確認のために番号を再入力する画面が表示されます。

- 短縮ダイヤル ([▶ 4-12 ページ](#)) を利用して送信する場合は、登録してある名前と番号を確認する画面を表示します。
- グループダイヤル ([▶ 4-12 ページ](#)) を利用して送信する場合は、グループに登録されているすべての番号を確認する画面を表示します。

システム設定の [宛先確認機能 \(6-24ページ\)](#) から設定します。



- 「宛先確認機能」を設定しているときは、手動受信時のみ[オンフック]キーが使用できます ([▶4-16ページ](#))。また、着信呼び出し時に[オンフック]キーを押すと、受信するかどうか確認する画面が表示されます。接続した外部電話機のオンフックキーは使用できます。
- 「宛先確認機能」を設定するとき、“直接入力のみ対象”にチェックマークを入れていると、数字キーや[再ダイヤル]キーからの番号入力時のみ宛先確認画面が表示されます。

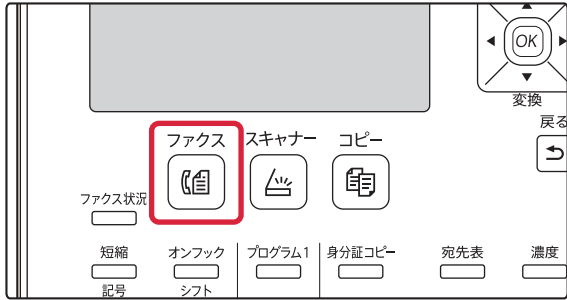


ファクスを送信する

基本的な送信のしかた

原稿自動送り装置を使用したとき

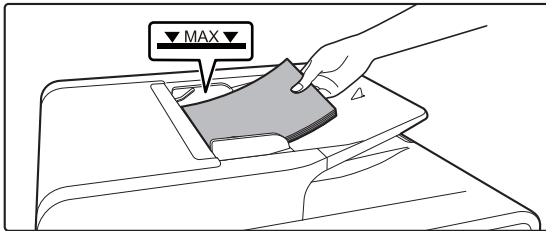
1



ファクスモードになっていることを確認する

ファクスモードのときは、[ファクス]キーのランプが点灯しています。点灯していないときは[ファクス]キーを押してください。ファクス機能に対して、システム設定で「ユーザー管理」が設定されているときは、ファクスモードに切り替えるとユーザー番号の入力を要求するメッセージを表示します。数字キーであなたのユーザー番号（5桁）を入力してください。（▶ [ユーザー管理（6-12ページ）](#) 参照）

2



原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットします。

▶ [原稿自動送り装置（1-32ページ）](#)



1回の送信操作で、原稿給紙トレイと原稿台（ガラス面）の両方から原稿を順次読み込ませることはできません。

3



原稿サイズを指定する

片面読み込みの場合

原稿を原稿自動送り装置にセットすると、検知した原稿サイズが表示されます。

両面読み込みの場合

原稿サイズの指定のしかたについては [画面原稿の送信のしかた（4-14ページ）](#) を参照してください。

.....原稿自動送り装置で片面原稿読み込み設定時

.....原稿自動送り装置で両面原稿読み込み設定時

なし.....原稿台（ガラス面）



長尺原稿を使用する場合は、「長尺」を選択してください。

4

必要であれば画質・濃度を調整する



5

ファクス番号をダイヤルする



- メッセージ表示部に入力した番号が表示されます。最大50桁まで入力できます。まちがえたときは、[クリア]キーを押して入力しなおします。
- 再ダイヤルやオートダイヤル ([▶4-6ページ](#)、[▶4-12ページ](#)) を利用することもできます。
- ポーズ（待ち時間）を入力したいときは [ポーズ（待ち時間）を入力するときは（4-11ページ）](#) を参照してください。

6

[OK]キーを押す

7

再入力画面が表示されたら、再度ファクス番号をダイヤルする

- ▶ [宛先確認機能について（4-7ページ）](#)

8

[OK]キーを押す

9

[白黒スタート]キーを押す

原稿の読み込みが始まります。

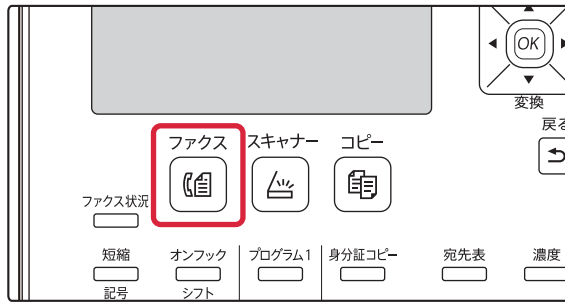
原稿の読み込みが正常に終了すると、しばらくして基本画面に戻ります。

- 回線が使用中でないときは、1ページ読み込んだ時点で相手先へダイヤルし、残りの原稿を読み込みながら送信が行われます。
 - ▶ [クイックオンライン送信について（4-17ページ）](#)
- 先に予約された送信または送信や受信を実行中のときなど回線が使用中のときは、相手先への通信操作は行われず、原稿をすべてメモリーに読み込み、送信ジョブとして予約されます。（メモリー送信：先に予約された送信ジョブが終了後、相手先に自動的にダイヤルして送信します。）



原稿台（ガラス面）を使用したとき

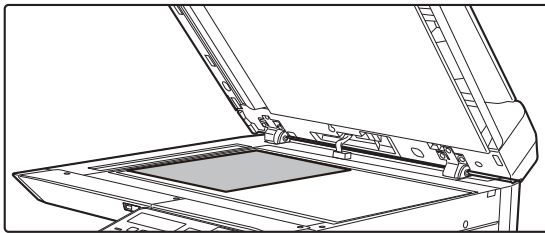
1



ファクスモードになっていることを確認する

ファクスモードのときは、[ファクス]キーのランプが点灯しています。点灯していないときは[ファクス]キーを押してください。ファクス機能に対して、システム設定で「ユーザー管理」が設定されているときは、ファクスモードに切り替えるとユーザー番号の入力を要求するメッセージを表示します。数字キーであなたのユーザー番号（5桁）を入力してください。（▶ [ユーザー管理（6-12ページ）](#) 参照）

2



原稿をセットする

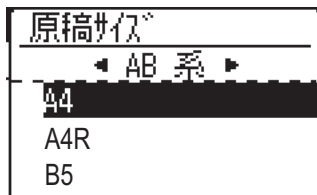
原稿台（ガラス面）にセットします。

▶ [原稿台（ガラス面）（1-34ページ）](#)



1回の送信操作で、原稿給紙トレイと原稿台（ガラス面）の両方から原稿を順次読み込ませることはできません。

3



原稿サイズを指定する

右メニューで“原稿サイズ”を選択します。

選択できるサイズ

AB系：

A3、B4、A4、A4R、A5、A5R、B5、B5R

インチ系：

11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"R、8-1/2" x 11"、5-1/2" x 8-1/2"R、5-1/2" x 8-1/2"



よく使用する原稿サイズの指定する

[システム設定] → [ファクス] → [送信機能設定] → [原稿サイズ指定] で設定します。

4

必要であれば画質・濃度を調整する

5

ファクス番号をダイヤルする



- メッセージ表示部に入力した番号が表示されます。最大50桁まで入力できます。まちがえたときは、[クリア]キーを押して入力しなおします。
- 再ダイヤルやオートダイヤル（▶ [4-6ページ](#)、▶ [4-12ページ](#)）を利用することもできます。
- ポーズ（待ち時間）を入力したいときは [ポーズ（待ち時間）を入力するときは（4-11ページ）](#) を参照してください。



6

[OK]キーを押す

7

再入力画面が表示されたら、再度ファクス番号をダイヤルする

▶ [宛先確認機能について \(4-7ページ\)](#)

8

[OK]キーを押す

9

[白黒スタート]キーを押す

原稿の読み込みが始まります。

10

次の原稿があれば入れ替えて[白黒スタート]キーを押す

- すべての原稿を読み込むまでこの操作をくり返します。
- 原稿に応じて画質と濃度を変更できます。

11

最終ページの原稿を読み込ませたあと、[読み込み終了]キー（**#**）を押す

原稿は、原稿自動送り装置を開いて取り出してください。原稿を取り出す、またはいずれかのキー操作が行われると基本画面に戻ります。先に予約された送信ジョブが終了後、相手先に自動的にダイヤルして送信します。



送信を中止するには…

「読み込み中」と表示されているときや、[読み込み終了]キー（**#**）を押す前に中止するには、[クリア]キーまたは[リセット]キーを押します。予約済みの送信を中止するときは、[ファクス状況]キーを押して送信の中止操作を行います。
[▶4-20ページ](#)

- メモリー送信を行ったとき「読み込み終了」のメッセージとともにそのジョブの管理番号（3桁）を表示します。順次同報送信を行った際に、この番号を控えておくことで通信結果表または通信記録表で通信結果を確認できます。
- 原稿自動送り装置を使用して原稿を読み込み中に電源を切ったり停電したときは、原稿がつかまったまま停止します。電源が入ったあと、Q&A 集（困ったときは）を参照して、原稿を取り除いてください。

ポーズ（待ち時間）を入力するときは

構内交換機から0発信するときや、海外の相手先にダイヤルするときなど、ダイヤル間に待ち時間が必要なときは、[ポーズ]キーを押します。（このキーはダイヤル入力時に[ポーズ]キーとしてはたらかず。）

[ポーズ]キーを1回押すと「-（ハイフン）」が入力され、2秒※の待ち時間が設定されます。

また、番号を入力したあとに[ポーズ]キーを押して「-（ハイフン）」を入力し、そのあとに数字キーを押して番号をつなげることもできます。（チェーンダイヤルと呼びます。）

※ポーズ時間はシステム設定で変更できます。（[ポーズ時間 \(6-21ページ\)](#) 参照）



- チェーンダイヤルでグループダイヤルをつなげることはできません。
- Fネット [▶4-64ページ](#) を利用するときは、ファクス番号の前に「161」をダイヤルします。詳しくはFネットのパンフレットをご覧ください。



オートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）での送信のしかた

数字キーを押してダイヤルするかわりに[短縮]キーを押し、3桁の番号を入力して送信できます。なお、オートダイヤルを利用する場合は、相手先名、相手先番号、3桁の番号などをあらかじめ登録しておく必要があります。オートダイヤルの詳細は[▶4-6ページ](#)、登録方法は[▶4-37ページ](#)を参照してください。

1

[短縮]キーを押し、数字キーで3桁の番号を入力する

- 短縮ダイヤルやグループダイヤルを登録したときに入力した3桁の番号を入力してください。
- 入力をまちがえたときは[クリア]キーを押して入力しなおします。機能に登録されていない3桁の番号を入力したときは、[クリア]キーを押して入力し直してください。3桁の番号が分からないときは、「短縮ダイヤル表」や「グループダイヤル表」をプリントして確認してください。
▶ [登録・設定した内容をプリントする（4-45ページ）](#)

2

[OK]キーを押す

宛先を確認して、正しければ再度[OK]キーを押してください。



送信を中止するには…

「読み込み中」と表示されているときや、[読み込み終了]キー（**#**）を押す前に中止するには、[クリア]キーまたは[リセット]キーを押します。予約済みの送信を中止するときは、[ファクス状況]キーを押して送信の中止操作を行います。
[▶4-20ページ](#)

- 送信操作を行ったとき「読み込み終了」のメッセージとともにそのジョブの管理番号（3桁）を表示します。順次同報送信を行った際に、この番号を控えておく通信結果表または通信記録表で通信結果を確認できます。



登録している相手先の検索（[宛先表]キーの使い方）

ダイヤル操作を行う際、短縮ダイヤル、グループダイヤルに登録している相手先は、文字で検索して送信できます。

1

[宛先表]キーを押し、検索文字を入力する。（検索文字を入力せず、次の手順に進み宛先表先頭画面を表示することもできます。）

次の文字の半角のみ10文字まで入力できます。
カタカナ、英大文字、英小文字、数字、特殊文字

▶ [文字入力（1-48ページ）](#)

2

[OK]キーを押し、[▼][▲]キーで、目的の宛先を選択する

- 検索結果は、カナ→英大文字→英小文字→特殊文字→数字の順に表示します。
- 宛先名が全文字表示されていないときは、[読み込み終了]キー（[#]）を押すと、宛先名的全文字を表示します。[#]キーをもう一度押すと元の画面表示に戻ります。



- 「読み込み中」と表示されているときや、[読み込み終了]キー（[#]）を押す前に中止するには、[クリア]キーまたは[リセット]キーを押します。予約済みの送信を中止するときは、[ファクス状況]キーを押して送信の中止操作を行います。（▶[4-20ページ](#)）
- 送信操作を行ったとき「読み込み終了」のメッセージとともにそのジョブの管理番号（3桁）を表示します。順次同報送信を行った際に、この番号を控えておく通信結果表または通信記録表で通信結果を確認できます。

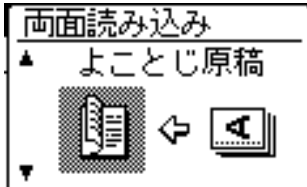


両面原稿の送信のしかた

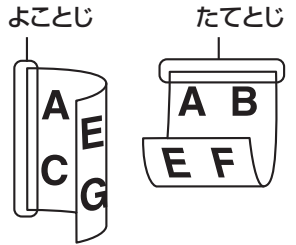
原稿の表裏（両面原稿）を自動的に送信するときには以下の操作を行います。

1 操作のパネルの[両面]キーを押したあと、[▼][▲]キーで"両面"を選択し、[OK]キーを押す

2 [▼][▲]キーで、縦長原稿-よことじ、縦長原稿-たてとじ、横長原稿-よことじ、横長原稿-たてとじのいずれかを選択する



- 両面原稿の横縦じと縦縦じについて、側面で綴じたものが「よことじ」、天部（上部）でよことじ綴じたものが「たてとじ」です。
- 送信予約完了後、または[リセット]キーを押すと両面原稿読み込みは解除されます。
- 原稿両面読み込みは、原稿自動送り装置使用時のみ行うことができます。原稿台（ガラス面）使用時は、原稿の両面を自動的に読み込むことはできません。
- 必要に応じて裏面の画像は180°回転して送信するため、受信側で向きを変える必要はありません。
- 原稿両面読み込みを解除するときは、手順1で“片面”を選択し、[OK]キーを押してください。
- 規格外のサイズは、使用しないでください。読み込みエラーや画像欠けが発生することがあります。本機で使用できる用紙サイズについては、[ファクスモードで使用できる用紙サイズについて（4-3ページ）](#)を参照してください。



3 [OK]キーを押す



送信設定について（メモリー送信モードと直接送信モードについて）

原稿の送信方法として、原稿をいったんメモリーに読み込んでから送信する「メモリー送信モード」と、メモリーせずに直接送信する「直接送信モード」があります。

メモリー送信モードには、原稿の全ページをメモリーに読み込んでから、送信先へ送信する「送信予約」▶4-17ページと原稿を1枚メモリーに読み込んだ時点で送信相手先へダイヤルし、残りの原稿の読み込み動作と平行して、読み込みが完了した原稿の送信を開始する「クイックオンライン送信」▶4-17ページがあります。

メモリー送信モードでは、原稿の読み込み中にメモリーがいっぱいになると送信できない場合があります。

[送信予約したジョブの送信中にメモリーがいっぱいになったときは（4-17ページ）](#) および [クイックオンライン送信中にメモリーがいっぱいになったときは（4-17ページ）](#) を参照してください。

原稿枚数が多くメモリー送信できないときは、手動で[送受信設定]キーを押して“メモリー送信”から“直接送信”に切り替えて送信できます。直接送信モードを使用すると、現在実行中のジョブが終了後に送信を開始しますので、送信ジョブを優先化できます。直接送信モードは、送信予約したジョブが多数ある場合、割り込み送信を行うときに便利です。

メモリー送信モードと直接送信モードの切り替えは、次の「[直接送信モードを使った送信のしかた](#)」を参照してください。



オンフックダイヤルを使用する場合は、自動的に直接送信モードになります。（メモリー送信モードでは送信できません。）

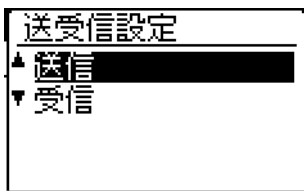
直接送信モードを使った送信のしかた

1

[送受信設定]キーを押す

送受信設定画面が表示されます。

2



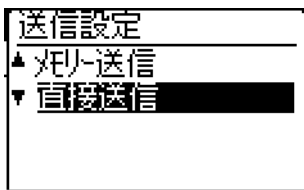
[▼][▲]キーで“送信”を選択する



送受信設定画面は、機能選択画面から表示させることもできます。

[機能]キーを押して機能選択画面を表示させ、[▼][▲]キーで“送受信設定”を選び、[OK]キーを押します。

3



[▼][▲]キーで“直接送信”を選択し、[OK]キーを押す

4

ファクス番号をダイヤルし、[白黒スタート]キーを押す

原稿台（ガラス面）を使用しているときは、複数の原稿を一度に送信できません。

基本的なファクスの送信方法については「[基本的な送信のしかた（4-8ページ）](#)」を参照してください



- “直接送信”を“メモリー送信”に戻すときは、手順3で“メモリー送信”を選択します。
- 直接送信モードで送信を行っているときに、送信を解除するときは、[クリア]キーを押してください。



手動送信モードを使った送信のしかた（[オンフック]キーを使った送信）

1

[オンフック]キーを押す

このキーを押すと、音量調節のメッセージがしばらく表示されてから、ダイヤル入力画面が表示されます。このキーを押して、[▼][▲]キーを押すと、オンフック音量（大、中、小）の設定を変更できます。この時、音量設定を変更してもシステム設定の設定値には反映されません。オンフックダイヤル時の呼び出し音は、本機背面にあるスピーカーから聞こえます。

2

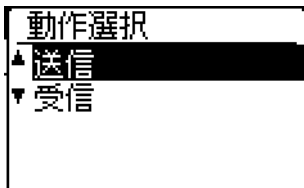
ファクス番号をダイヤルし、[白黒スタート]キーを押す

基本的なファクスの送信方法については「[基本的な送信のしかた（4-8ページ）](#)」を参照してください



- [宛先確認機能について（4-7ページ）](#)を使用する設定にしているときは、[オンフック]キーを使った送信はできません。
- [オンフック]キーを押して、相手先の電話番号をダイヤルした際、ダイヤルのし直しや通信が途中で途切れたときなど、操作を途中で中止するときは、再度[オンフック]キーを押してください。
- 直接送信モードおよび手動送信モードはメモリーに原稿を蓄積せずに送信しますので、次のような機能は使用できません。
- 順次同報送信 ▶[4-30ページ](#)、時刻指定送信 ▶[4-29ページ](#)、再コール機能 ▶[4-17ページ](#)、両面読み込み、宛先確認機能など
- 直接送信モードおよび手動送信モードで送信を行うと、相手側を呼び出してから原稿を直接送信します。
- 外部電話機を接続して手動で送信することはできません。

3



“送信”を選択して[OK]キーを押す



送信予約（メモリー送信）について

本機の回線が使用中のときは、送信する原稿をいったん本機内のメモリーに読み込み、実行中の送信ジョブなどが終了してから自動的に通信を行うことができます。（メモリー送信と呼びます。）このため、ファクス送受信中に次宛先の送信操作を行って、送信ジョブを蓄積する（予約する）ことができます。これを送信予約と呼び、時刻指定送信（▶4-29ページ）と合わせて最大50件まで予約することが可能です。

送信終了後、読み込まれた原稿データは消去されます。送信予約した内容は、ファクス状況画面で確認できます（▶4-22ページ）。

ただし、メモリーに蓄積される原稿枚数や送信条件などによっては50件に満たない場合もあります。

- 送信予約の操作方法は、「[基本的な送信のしかた（4-8ページ）](#)」と同一です。
- 送信予約を取り消す場合は、[白黒スタート]キーを押す前であれば、[クリア]キーを押して中止できます。
- [白黒スタート]キーを押したあとは、[予約した送信の取り消し（送信予約の取り消し）（4-22ページ）](#)を参照してください。[白黒スタート]キーを押したあとも原稿を読み込み中のときは、[クリア]キーで中止できます。
- 直接送信モードで送信予約した場合は、追加で予約操作はできません。

送信終了後、読み込まれた原稿データは消去されます。送信予約した内容は、ファクス状況画面で確認できます（▶4-22ページ）。

送信予約したジョブの送信中にメモリーがいっぱいになったときは

1枚目の原稿を読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、自動的に送信ジョブを中止します。

2枚目以降を読み込み中にいっぱいになったときは、読み込みを中止します。この場合、[クリア]キーを押して送信を中止するか、[OK]キーを押して、すでに読み込みが完了した分の送信を行うかを選択できます。

クイックオンライン送信について

原稿自動送り装置を使用して送信操作を行ったときで、実行中の送信ジョブや先に予約された送信ジョブがない（通信回線が使用されていない）ときは、読み込んだ1枚目の原稿が送信可能になれば、送信相手先へダイヤルし、残りの原稿の読み込み動作と平行して、読み込みが完了した原稿の送信を開始します。この送信方法をクイックオンライン送信と呼びます。クイックオンライン送信が行われたときは、メッセージ表示部に「読み込み中」→「ダイヤル中」→「通信中」→「送信中」の順に、残りの原稿の読み込みが終了するまで表示されます。全ページの読み込みが完了すると、これらのメッセージが表示される前に「読み込み終了」が表示されます。

クイックオンライン送信が行われたとき、通信相手先が話し中だったときは、送信予約（メモリー送信）に切り替わります。

▶ [送信予約（メモリー送信）について（4-17ページ）](#)

クイックオンライン送信中にメモリーがいっぱいになったときは

1枚目の原稿を読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、自動的に送信ジョブを中止します。2枚目以降を読み込み中にいっぱいになったときは、読み込みが完了した分までを送信します。



工場出荷時は、クイックオンライン送信が行われるように設定されていますが、システム設定で、この機能がはたらかないように設定することもできます。（[クイックオンライン（6-23ページ）](#)参照）次の方法で送信操作を行ったときは送信予約（メモリー送信）されます。（クイックオンライン送信は行われません。）

- 原稿台（ガラス面）から送信したとき
- 順次同報送信 ▶4-30ページ
- 時刻指定送信 ▶4-29ページ

相手が話し中のときは

相手が話し中のときは、いったん送信を中止し、のちほど自動的に送信しなおされます。（3分間隔で2回※1）

送信しなおさないときは、[ファクス状況]キーを押して送信を中止します。▶4-22ページ

※1：システム設定で設定を変更できます。（[相手先ビジー時の再コール（6-24ページ）](#)参照）

通信エラーがおきたときは

何らかのエラーがおこり、送信が正常に行われなかったときや呼出音が60秒間※2鳴っても相手が受信しなかったときは、いったん送信を中止し、のちほど自動的に送信しなおされます。（1分間隔で2回※2）送信しなおさないときは、

[ファクス状況]キーを押して送信を中止します▶4-22ページ。また、本機は自動誤り再送機能（ECM）に対応しており、回線の雑音などで送信画像が乱れたときは、その部分のみが自動的に送信しなおされるように設定されています。※3

※2：システム設定で設定を変更できます。（[自動送信時コール時間と送信エラー時の再コール](#)参照）

※3：相手先のファクスがECMに対応していない場合や、ECMが機能していない場合は、ECM機能は働きません。



画質選択のしかた

原稿の文字の大きさ、写真など原稿の種類に合わせて、画質を変えることができます。ファクスモードの基本画面で右メニューの“画質”を選び、[OK]キーを押します。



画質	選択のしかた
普通字	通常の大さの文字の原稿の場合に選択します。
小さな字	小さな文字や細かな図が描かれている原稿の場合に選択します。“普通字”の倍の密度で読み取ります。
精細	複雑な絵やイラストなどを含む原稿の場合に選択します。“小さな字”よりもきれいな画質で送信できます。
高精細	複雑な絵やイラストなどを含む原稿の場合に選択します。もっともきれいな画質で送信します。他の画質に比べて、やや送信時間がかかります。
小さな字／中間調 精細／中間調 高精細／中間調	写真や色に濃淡のある原稿（カラー原稿など）の場合に使用します。“小さな字” “精細” “高精細” 単独よりも、さらに鮮明に送信することができます。中間調を選択すると、やや送信時間がかかります。



- 工場出荷時、画質は“普通字”、濃度は“自動”に設定されています。システム設定により標準状態を他の画質や濃度に変えることができます。(画質・濃度 (6-23ページ) 参照) 原稿台（ガラス面）を使って原稿を読み込むときは、原稿を入れ替えるときに画質や濃度を変更することができます。原稿自動送り装置を使用しているときは、原稿読み込み途中に画質や濃度を変更することはできません。
- Fネット ▶4-64ページを利用して送信する場合、画質選択に制限があります。詳しくは、Fネットのパンフレットを参照してください。
- 送信側で“高精細” “精細” “小さな字” で送信しても、受信側のファクスの機種によって画質が低下することがあります。
- “画質” の選択を中止するときは[リセット]キーを押してください。



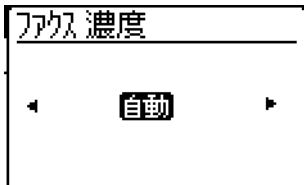
原稿の濃度を変える

原稿の濃さに合わせて、送信原稿の濃度を変えます。

1

操作パネルの[濃度]キーを押す

2



濃度を選択する

(1) [◀][▶]キーで濃度を調整する

[▶]を押すと濃度が濃く、[◀]キーを押すと濃度が薄くなります。

(2) [OK]キーを押す



ファクスの送信を中止する

通信中の送信動作を中止するときや予約した送信の取り消しは、次の操作で行ってください。通信中の送信中止や送信予約の取り消し操作は、ファクス状況画面から行います。（受信したファクスのプリントジョブは中止できません。）



ファクスの送信原稿を読み込み中で、メッセージに「読み込み中」と表示されているときや、[読み込み終了]キー（#）（原稿台（ガラス面）から原稿を読み込みしているときの[読み込み終了]キー（#）を押す前に中止するには、[クリア]キーまたは[リセット]キーを押すと送信操作を中止できます。

通信中に送信を中止する

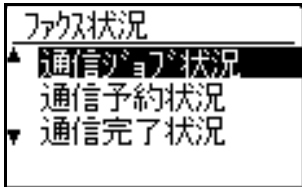
1

[ファクス状況]キーを押す

ファクス送信を実行中のときは、送信中のジョブが表示されます。表示されているジョブが、送信を中止したいジョブでないときは、送信予約状態になっている可能性があります。[戻る]キーを押すとファクス状況選択画面が表示されますので、[予約した送信の取り消し（送信予約の取り消し）](#)（4-22ページ）の手順に従って目的のジョブの送信を中止してください。



通信中以外のときは、次のファクス状況選択画面が表示されます。



2

[クリア]キーを押す

3

[▼][▲]キーで、“する”を選択する

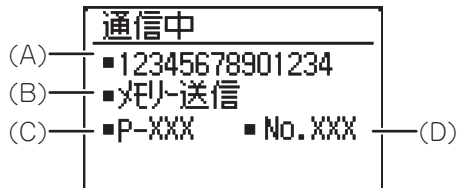
4

[OK]キーを押す

送信が中止されます。



- 送信を中止しないときは、手順3の画面で[▼][▲]キーを押して、“しない”を選択し、[OK]キーを押します。
- 実行中に通信を中止したものについては、通信記録表で確認できます。通信記録表の通信手段・通信結果欄には「キャンセル」と記載されます。
通信中の画面の補足



- (A) 相手先
短縮ダイヤルなど名称が登録されている場合は名称を表示します。
- (B) 通信手段名
時刻指定の場合は、通信手段名の頭に時計アイコン「🕒」を表示します。
- (C) 現在通信中の枚数
- (D) 文書番号
メモリー送信モードで原稿を読み込んだときの文書番号を表示します。



予約した送信の取り消し（送信予約の取り消し）

取り消しせずに送信予約したジョブの状況の確認のみ行いたい場合は、手順4で[クリア]キーを押さずに、[戻る]キーを押して操作を終了してください。

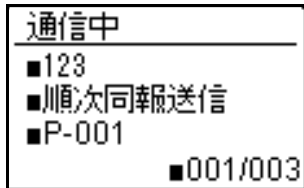
1

[ファクス状況]キーを押す

ファクス状況選択画面が表示されます。



ファクス送信を実行中のときは、送信中のジョブが表示されます。[戻る]キーを押すとファクス状況選択画面が表示されます。



2

[▼][▲]キーで、“通信予約状況”を選択する

3

[OK]キーを押す

1件目の送信予約ジョブが表示されます。
取り消ししたい送信予約ジョブが表示されるまで[▼][▲]キーを押してください。

4

[クリア]キーを押す

送信取り消しの確認画面が表示されます。

5

[▼][▲]キーで、“する”を選択する

送信取り消しの確認画面が表示されます。

6

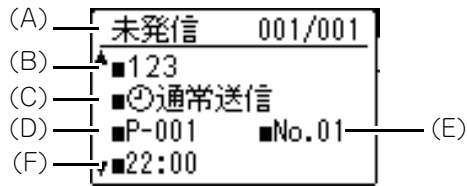
[OK]キーを押す

選択した送信予約が取り消しされます。
引き続き予約した送信を取り消すときは、手順1～6までを繰り返してください。



再コールのジョブを中止したものについては、通信記録表で確認できます。通信記録表の通信手段・通信結果欄には「キャンセル」と記載されます。

予約画面（手順3の画面）で表示される内容について



- (A) 現在の状態
メモリー送信予約・時刻指定送信予約の場合は「未発信」と表示します。再コールの場合は「再コール」と表示します。
- (B) 相手先
短縮ダイヤルなど名称が登録されている場合は名称を表示します。
- (C) 通信手段名
時刻指定通信予約の場合は、通信手段名の頭に時計アイコン「🕒」を表示します。
- (D) 原稿予約枚数
メモリー送信予約の場合は、原稿読み込み時の文書番号を表示します。
- (E) 時刻指定通信予約の場合は、時刻指定管理番号を表示します。
- (F) 時刻指定通信予約の場合は、指定されている予約時刻を表示します。メモリー送信予約の場合は「即時発信」と表示します。

通信完了状況について

手順2で“通信完了状況”を選択し、手順3で[OK]キーを押すと、通信完了状況を確認できます。



ファクスの受信について

ファクスを受信する

相手側からファクスが送られると、呼出音※が鳴り自動的に受信してプリントを開始します。(自動受信と呼びます。)本機には、ファクス受信データを受信の都度プリントさせずにメモリーさせておき、あとからまとめてプリントすることができるファクスプリントホールド機能があります。この機能の設定や受信データの出力のしかたについては、[ファクスプリントホールド機能 \(4-27ページ\)](#) を参照してください。



- 受信中でも送信を予約できます。(送信予約(メモリー送信)について (4-17ページ) 参照)
- お手持ちの電話機を接続すると、電話に出て通話してから受信したり、かかってきた電話によって通話とファクスとを自動的に切り替えて使用することもできます。(4-56ページ～4-57ページ)
- 受信したファクスを用紙の両面にプリントしたいときは、システム設定の[画面受信 \(6-25ページ\)](#) を設定してください。
- お手持ちの電話機を接続していないときは、自動受信にしてください。
- 宛先確認機能(▶4-7ページ)が設定されている場合、呼出音が鳴っているときに[オンフック]キーを押すと、ファクスを受信するかどうか選択できます。受信する場合は“はい”、受信しない場合は“いいえ”を、それぞれ[▼][▲]で選んで[OK]キーを押してください。
- ファクスを受信するためには、トレイに必要な用紙をセットしておく必要があります。[用紙補給について \(1-17ページ\)](#) の説明に従って適切な用紙をセットしておいてください。

受信のしかた

1

呼出音※が鳴ってから自動的に受信を開始する

通信中ランプが点灯します。



お手持ちの電話機を取り付けているときは、相手が手動送信(▶4-56ページ)の場合、受信を開始する前に受話器を上げれば、相手と通話できます。

※呼出音の回数について

自動受信を開始するまでの呼出音の回数(受信開始コール回数)は、最初は2回になっています。システム設定によりこれを0～15回までのお好きな回数にセットできます。

▶ [自動受信コール回数 \(6-25ページ\)](#)

呼出音の回数を0回に設定すると、呼出音を鳴らさずに受信できます。

2

受信が終わる

- 受信が終ると、「ピー」音が鳴ります。
- ファクス受信した出力紙は排紙トレイに排出されます。

ファクス受信/データランプ

ファクスの受信データが本機のメモリーに入ったとき、または、ファクスの受信データのプリントを開始したときに、ファクス受信/データランプが点滅します。

このランプの点滅開始のタイミングはシステム設定の設定で異なります。(受信データあり時の点滅表示 (6-14ページ) 参照)



受信したデータをプリントできないときは

用紙やトナーがなくなったとき、用紙がつまったとき、コピー機能やプリンター機能などのプリントジョブを実行中のときは、受信したデータはプリントできる状態になるまで本機に保存されています。プリントできる状態になると自動的にプリントされます。受信データが本機に保存されているときは、データランプが点滅します。転送機能を使用して他のファクスでプリントすることもできます。

▶ [受信したデータをネットワークアドレスに転送する（受信データのネットワーク転送設定）（4-50ページ）](#)



ファクスを受信するためには、トレイに必要な用紙をセットしておく必要があります。[用紙補給について（1-17ページ）](#)の説明に従って適切な用紙をセットしておいてください。

- セットされている用紙サイズよりも大きい画像を受信したときは、[受信データプリント条件（6-25ページ）](#)の設定状態により、次のようにプリントされます。

“縮小許可”設定時：自動的に縮小してプリントします。※1

“分割許可”設定時：そのままのサイズで複数の用紙に分割してプリントします。※1

“等倍”設定時：そのままのサイズで分割せずにプリントします。※2

※1セットされている用紙サイズがA5サイズ以下の場合に、画像データの幅や長さによってプリントされない場合があります。

※2受信した画像より大きなサイズの用紙がセットされるまでプリントしません。

- ファクスモードにおいて以下のサイズは用紙にプリントすることはできません。
8-1/2" x 14", 11" x 17", 5-1/2" x 8-1/2"R
- ファクス受信データのプリント中に、用紙切れになったときは、最も適切なサイズの用紙がセットされている他のトレイに自動的に切り換えてプリントを続行します。
- 他のサイズの用紙に変更するときは、トレイの用紙を変更するサイズの用紙に入れ替えてから、そのトレイのサイズ設定の変更操作を行ってください。
- トレイに設定されている用紙サイズと実際にトレイにセットした用紙のサイズが異なる場合は、受信データのプリントを正しく行うことができません。トレイの用紙サイズ設定は、必ず実際にトレイにセットした用紙のサイズを設定してください。
例えば、B5サイズの用紙がトレイにセットされているのに、そのトレイの用紙サイズ設定がA4サイズになっているような場合、A4サイズ原稿のファクス受信データがB5サイズの用紙にプリントされてしまい、画像欠けすることがあります。また逆にトレイの用紙サイズ設定よりも、大きなサイズの用紙がトレイにセットされていると、認識しているサイズより大きなサイズの用紙が給紙されることとなります。（正しいサイズの用紙のセットを促すメッセージが表示されます。）
- 手差しトレイに用紙をセットしてファクスの受信データをプリントすることはできません。
- 送信原稿読み込み中は受信データをプリントすることはできません。送信読み込み終了後、自動的にプリントされます。



ファクスを手動受信する

ファクスを受信するかどうか確認してから受信します。(手動受信と呼びます。)

ファクスの受信モードを手動受信に切り替えるには

1

ファクスモードで[送受信設定]キーを押し、受信を選択する



送受信設定画面は、機能選択画面から表示させることもできます。
[機能]キーを押し機能選択画面を表示させ、[▼][▲]キーで“送受信設定”を選び、[OK]キーを押します。

2

[OK] キーを押し、“手動”を選択する



自動受信に戻すときは、上記の手順1の操作で“自動”を選択します。

手動受信のしかた

呼出音が鳴ってから[オンフック]キーを押した後、[白黒スタート]キーを押し、“受信”を選択する



ファクスの便利な機能

機能キーで設定する項目

ファクスモードで [機能] キーを押し、設定を開始する項目です。

ファクスプリントホールド機能

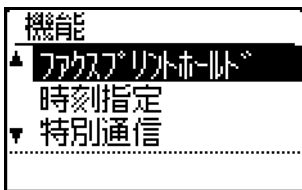
ファクス受信データは、通常受信するたびにその都度、自動的にプリントされます。

この機能は、ファクス受信しても受信データをメモリーさせておき、その都度プリントしないように設定できます。メモリーされたファクス受信データは、手動操作であとからまとめてプリントさせることができます。



- ファクスプリントホールドを有効に設定したことによって、ファクス受信データがメモリーされると、操作パネルの[ファクス]キーのデータランプが点滅するとともに、ディスプレイにメッセージが表示されます。(メモリーされたデータのプリントが完了すると、ランプの点滅およびメッセージ表示は、消えます。)
- ファクス用メモリーの残量が0%になると、ファクス受信ができなくなります。プリントホールドされているファクス受信データは、随時プリントし、ファクス用メモリーの残量が残り少なくならないように常にご注意ください。ファクス用メモリーの残量表示は、ファクスモードの基本画面に表示されます。[\(▶4-4ページ\)](#)

“ファクスプリントホールド” を選択する



ファクスプリントホールドの設定のしかた



システム設定の [ファクスプリントホールドの禁止 \(6-23ページ\)](#) で、ファクスプリントホールドを禁止する状態に設定されていると、この機能は設定できません。

“設定” を選択し、“設定する” を選択する

ファクスプリントホールドが設定されている状態から、解除する場合は、“設定しない” を選択してください。

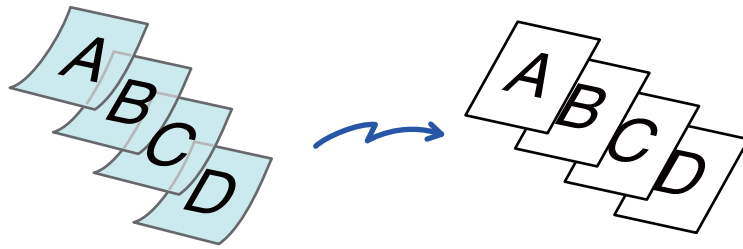
メモリーされたファクス受信データのプリントのしかた

“ホールドデータプリント” を選択し、“プリントする” を選択する



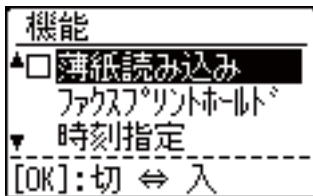
薄い紙の原稿を送信（薄紙読み込み）

原稿自動送り装置を使って薄い紙の原稿を読み込みたいときに使用します。この機能を使うと、薄い紙の原稿がつまりにくくなります。



薄紙読み込みの機能を設定したときは、ポーリングおよび自動両面読み込みはできません。

1



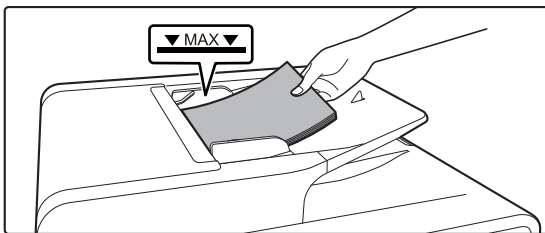
【薄紙読み込み】 を選択し、**[OK]** キーを押す

アイコンにチェックが付きます。
設定が終わったら **[戻る]** キーを押します。



薄紙読み込みの設定を解除するには
【薄紙読み込み】 を選択して、チェックを外します。

2



原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットする

▶ [原稿自動送り装置（1-32ページ）](#)
原稿ガイドはゆっくと動かします。



薄紙原稿をきつく押し込むと、薄紙がよじれて原稿づまりの原因となります。

3

相手先番号を入力する

4

【白黒スタート】 キーを押して、原稿の読み込みを開始する

「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。



時刻指定通信

最長1週間先までの指定した時刻に、送信またはポーリング受信などを自動的に行う機能です。不在時や通話料金の安い夜間の通信に便利です。送信予約と合わせて最大50件まで時刻指定できます。



- 時刻指定通信を行ったあとは、その設定内容（画質や相手先など）は自動的に消去されます。
- 時刻指定送信では、原稿をあらかじめ読み込んでメモリー内に記憶しておく必要があります。原稿を原稿セット台または原稿台（ガラス面）にセットし、送信予約した時刻に読み込ませることはできません。
- この製品の日付・時刻の設定はシステム設定で行います。（[日付・時刻（6-10ページ）](#)参照）
- 時刻指定を行ったポーリング受信は1件しか予約することができません。複数のポーリング受信を時刻指定したい場合は、相手先を1つのジョブにまとめて順次ポーリング（[順次ポーリング（4-33ページ）](#)参照）を時刻指定してください。

1

“時刻指定”を選択し、[OK]キーを押す

時刻指定が設定されているときは、“時刻指定”の文字の前にチェックマークが表示されます。設定済の時刻指定を解除するには、上記画面（“時刻指定”の文字が反転している状態）で、[ログアウト/トーン]キー（**ⓧ**）を押してください。メッセージ画面上に現在の時刻が表示されます。時刻が異なっているときは、[リセット]キーを押して操作を中止し、[日付・時刻（6-10ページ）](#)を参照して時刻を設定し直してください。

2

数字キーで予定時刻、[▼][▲]キーで、曜日を選択する

選択している曜日が反転表示されています。“指定無し”を選択すると予約した時刻が最初に来たときに通信を行います。[時刻指定]画面に戻るときは、[戻る]キーを押してください。



- 時刻指定送信の送信操作を終了してから中止するときは、[ファクスの送信を中止する（4-20ページ）](#)の操作をします。
- 時刻指定管理番号が自動的に付けられます。送信予約を削除するときにこの番号を参照できます。（[4-22ページ](#)のメモ「予約画面（手順3の画面）で表示される内容について」参照）
- 時刻指定通信を設定したあとも、他の通信を行うことができます。指定時刻に他の通信が行われているときは、その通信の終了後に時刻指定通信が実行されます。

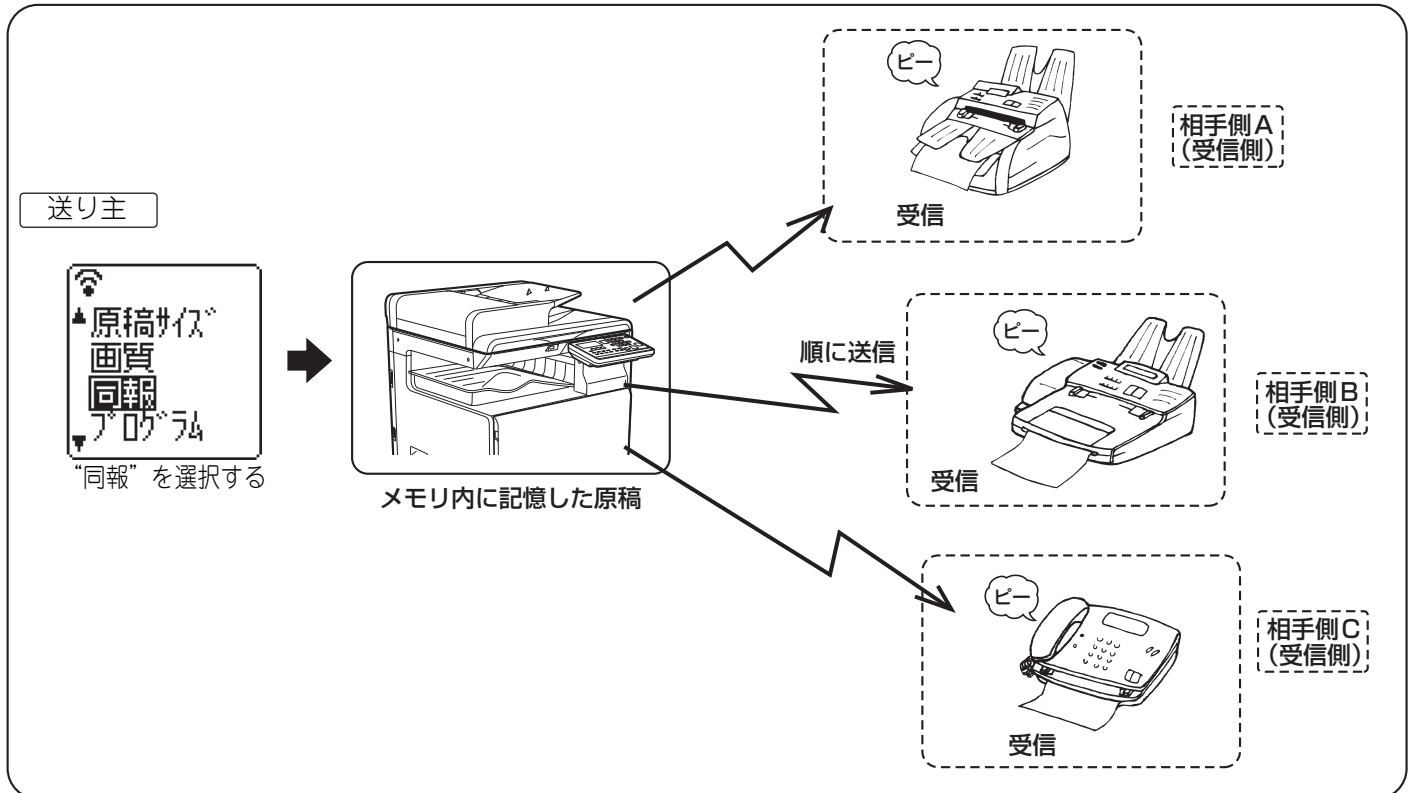


順次同報送信機能の使いかた

1回の操作で、複数の相手に同じ原稿を送信できる機能です。送信する原稿の内容をいったんメモリーに読み込み、指定した相手に対して順に送信を行います。報告書等を各地の支社へ配布する場合などに便利な機能です。最大100局まで順に送信できます。メモリーに読み込んだ原稿内容は、送信を行ったあと自動的に消去されます。



- 順次同報送信でよく送信する相手先は、あらかじめグループダイヤルに登録しておくとう便利です。グループダイヤルの登録方法については、[4-37ページ](#)を参照してください。
- グループダイヤルを使って送信するときは、グループダイヤルに登録されている相手先件数が局数として加算されます。例えば、1つのグループダイヤルに相手先が5件登録されているときは、そのキーを押して順次同報送信を指定すると、相手先は5局となります。



1

“同報”を選択し、相手のファクス番号を数字キーでダイヤルする、またはオートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）を押す

▶ [オートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）での送信のしかた（4-12ページ）](#)

宛先設定画面が表示されます。

数字キーで入力したダイヤルは[クリア]キーを押すと1桁ずつ消去します。

短縮ダイヤル、グループダイヤルで入力したダイヤルはアイコンと番号でダイヤルを表しています。

入力を消去する際、[クリア]キーを押して、消去します。

2

[OK]キーを押し、続けて次の相手先のファクス番号をダイヤルするか、オートダイヤルを押す

数字キーのダイヤル入力は[OK]キーを押すと確定します。手順1でオートダイヤルを押したときは[OK]キーは不要です。続けて次のオートダイヤルを押してください。

引き続き相手先を入力するときは、手順1～2の操作をくり返します。



- 入力済の相手先を消去したい場合、[OK]キーを押して番号入力確定しているときは、[◀][▶]キーを押して消去したい番号を選択してから[クリア]キーを押すと消去できます。
- 相手先の入力がメッセージ画面の表示範囲を超えているときは、[◀][▶]キーを押して入力した相手先を確認できます。
- 相手先のファクス番号は、宛先表や再ダイヤルでの入力が可能です。ただし、再ダイヤルは順次同報送信の最初の1局目のみしか使用することができません。
- 50局登録済みのグループダイヤルを2件入力すると、相手先は100局登録したことになります。

3

基本的な送信のしかた (4-8ページ) 手順7以降の操作を行う

相手のファクス番号を数字キーでダイヤルし、入力が完了したら [OK] キーを押します。手順1でオートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）を使用したときは、[OK] キーを押す必要はありません。他のオートダイヤルで次の宛先をすぐに入力できます。手順1と手順2を繰り返し、残りの宛先を選択してください。



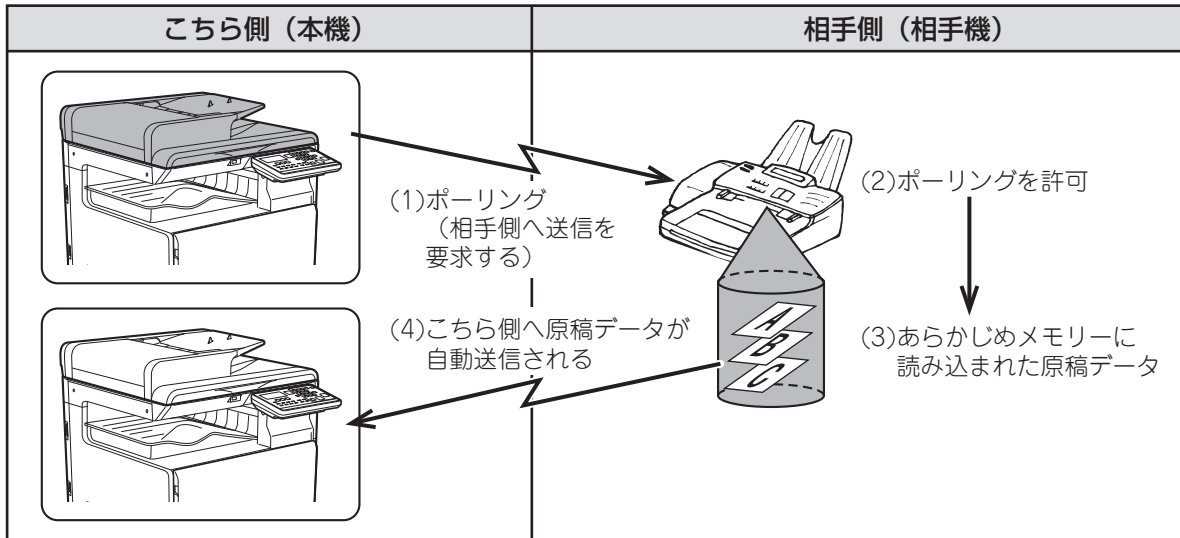
順次同報送信を中止するには…

送信相手先選択中に、操作を中止するときは、[リセット]キーを押します。送信操作を終了してから中止するときは、[ファクスの送信を中止する \(4-20ページ\)](#) の操作をします。



特別通信機能

こちら側（本機）の操作で、相手側のファクスにセットされた情報（原稿データ）を送信させます（取り出します）。夜間などに時刻を指定してポーリングを行うこともできます。（[時刻指定通信（4-29ページ）](#) 参照）



グループダイヤルや順次同報送信機能 [▶4-30ページ](#) を利用し、こちら側の1回の操作で複数の相手とポーリング通信を行うこともでき（[順次ポーリング](#)）、最大100局までの相手先と通信できます。

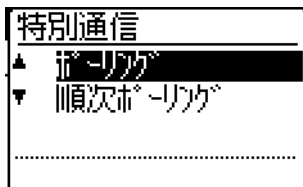
その場合、上図の操作が選択した相手先順にくり返されます。

時刻指定通信機能 [▶4-29ページ](#) と併用する場合は1件のみ予約可能です。



相手側がポーリング保護（[掲示板を利用できる相手を限定する（ポーリング保護）（4-36ページ）](#) 参照）を行っている場合は、システム設定で発信元電話番号を登録し（[発信元登録（6-21ページ）](#) 参照）、相手側のファクスに本機のファクス番号を登録します。

1



“特別通信” を選択する

2

“ポーリング” を選択する

3

[OK]キーを押し、相手のファクス番号を数字キーでダイヤルする、または短縮ダイヤルを押す（グループダイヤルは使用できません。）



4

[OK]キーを押し、[白黒スタート]キーを押し

画面に「ポーリング通信予約を受け付けました。」と表示され、相手機と通信後、送られてきた画像データがプリントされます。

▶ [基本的な送信のしかた \(4-8ページ\)](#)



通信を中止するには…

通信中の場合：[通信中に送信を中止する \(4-20ページ\)](#) の操作を行って中止してください。

送信予約状態の場合：[予約した送信の取り消し\(送信予約の取り消し\) \(4-22ページ\)](#) の操作を行って中止してください。

順次ポーリング

複数の宛先からポーリング受信をする設定です。

[特別通信機能 \(4-32ページ\)](#) の手順2で“順次ポーリング”を選択します。

手順3の[白黒スタート]キーを押し操作を行う前に手順1～2の操作をくり返して、ポーリングを行う複数の相手のファクス番号を1件ずつ入力してください。



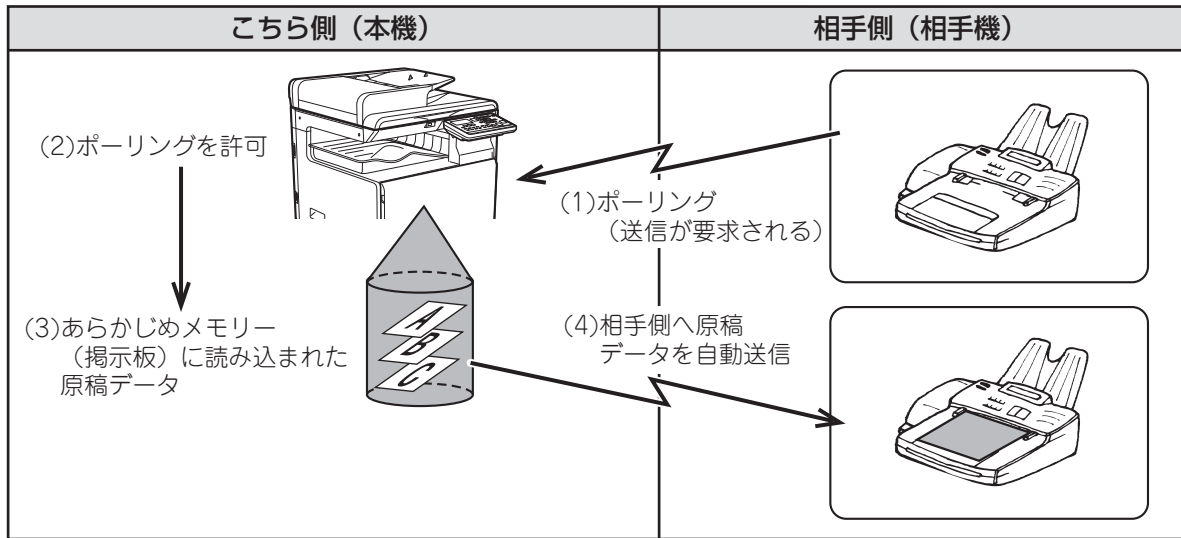
ポーリング通信するときの電話料金は、受信する側（こちら側）にかかります。

この機能は、相手機がスーパー G3またはG3対応機で、ポーリング機能を持っている場合にのみ使用できます。



掲示板機能

こちら側（本機）のメモリー（掲示板）にあらかじめ読み込んでおいた原稿データを、相手機からのポーリングによって本機が自動的に相手側へ送信します。



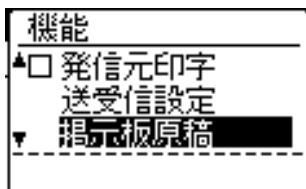
掲示板を利用するときの電話料金は、送信を要求する側（相手側）にかかります。

掲示板機能を使用するときは、ファクスの受信方法を“手動受信”に設定しないでください。[（ファクスの受信モードを手動受信に切り替えるには（4-26ページ）参照）](#)

掲示板に原稿を読み込む

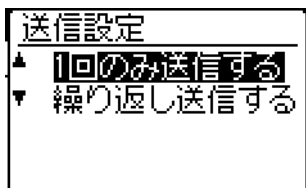
掲示板に原稿を読み込ませます。掲示板に他の原稿データが格納されている場合は、そのあとに追加できます。また、不要なときは新しい原稿データに差し替えできます。

1



“掲示板原稿”を選択する

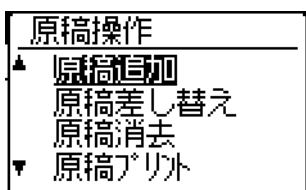
2



[OK]キーを押し、[▼][▲]キーで、“1回のみ送信する”または“繰り返し送信する”を選択する

“1回のみ送信する”を選択すると、メモリーに読み込んだ原稿の内容は、1回のポーリングを受けたあと、自動的に消去されます。“繰り返し送信する”を選択すると、メモリーに読み込んだ原稿の内容を繰り返し使用できます。

- 掲示板に原稿データが格納されていないときは、上記画面が表示されます。
- 掲示板に原稿データが既に格納されているときは、その原稿データの再操作を指定する画面が表示されます。




(1) 掲示板に原稿データを追加するときは、[▼][▲]キーで、“原稿追加”を選択して、[OK]キーを押してから手順2を行ってください。

(2) 掲示板の原稿データを新しい原稿データに差し替えするときは、[▼][▲]キーで、“原稿差し替え”を選択して、[OK]キーを押してから手順2を行ってください。



3

[OK]キーを押し、[白黒スタート]キーを押し

- 原稿の読み込みを開始します。
 - 原稿台（ガラス面）から原稿を読み込ませるときは、次の原稿があれば交換して[白黒スタート]キーを押し操作を繰り返します。最後の原稿の読み込みが終われば、[読み込み終了]キー（)を押します。
- ▶ [基本的な送信のしかた（4-8ページ）](#)

4

受信設定が自動受信モードになっていることを確認する（[ファクスの受信モードを手動受信に切り替えるには（4-26ページ）](#)）の手順1および2のメモ欄参照

相手側からポーリングがあれば、送信を開始します。



読み込みを中止するには…

原稿読み込み中に中止するときには、[リセット]キーを押します。読み込みを完了した原稿データを消去したいときは、[掲示板の原稿データを消去する（4-36ページ）](#)の操作で消去します。



掲示板の原稿データをプリントして確認する

以下の手順で格納されている原稿データをプリントして内容を確認できます。

1 掲示板に原稿を読み込む (4-34ページ) で手順1を行ったあと[OK]キーを押す

2 [▼][▲]キーで“原稿プリント”を選択し、[OK]キーを押す
自動的にプリントを開始します。

掲示板の原稿データを消去する

新しく原稿データを格納したいときなどに掲示板内の原稿データを消去します。

1 “原稿消去”を選択する

2 [OK]キーを押す
掲示板の原稿データの消去を確認する画面が表示されます。

3 [▼][▲]キーで、“する”を選択し、[OK]キーを押す
掲示板の原稿データが消去されます。



掲示板が使用中のときは消去できません。

掲示板を利用できる相手を限定する（ポーリング保護）

掲示板を利用できる相手を限定するときはポーリング保護を設定します。ポーリング保護を設定すると、あらかじめ本機に登録しているポーリング許可番号（本機がポーリングを許可する相手）と相手側の発信元電話番号（相手側のファクス番号）とが一致したときのみ、掲示板に格納した情報を取り出すことができます。ポーリング許可番号（相手側のファクス番号）は10局まで登録できます。

ポーリング保護の設定方法およびポーリング許可番号の登録方法についてはシステム設定の[ポーリング許可番号の登録 \(6-27ページ\)](#)を参照してください。



ポーリング保護機能を使用しないときは、相手からのポーリングを無条件に受け付けて送信を行います。
ポーリング保護機能を設定して掲示板機能を使用するときは、通信する相手のファクス番号を本機に登録し、かつ相手機自身が発信元番号を登録している必要があります。



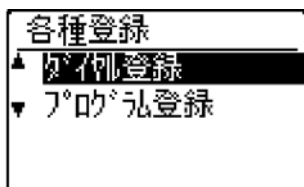
オートダイヤル（短縮ダイヤル、グループダイヤル）の登録、修正／削除

オートダイヤルの登録は、ダイヤル登録画面から行います。次の操作でダイヤル登録画面を表示させてからオートダイヤルの登録操作を行います。

1

“各種登録” を選択し、[OK]キーを押す

2



[▼][▲]キーで、“ダイヤル登録” を選択し、[OK]キーを押す

3

[▼][▲]キーで、“短縮” “グループ” “修正/削除” のいずれかを選択する

- 原稿の読み込みを開始します。
- 原稿台（ガラス面）から原稿を読み込ませるときは、次の原稿があれば交換して[白黒スタート]キーを押す操作を繰り返します。最後の原稿の読み込みが終われば、[読み込み終了]キー（**#**）を押します。

4

[短縮]キーを押し、数字キーで相手先番号を入力する

- [短縮]キーを押してから、登録したい短縮番号（000～299）を数字キーで入力します。
- 相手先番号は最大50桁まで入力できます。番号の途中で待ち時間を入れるときは、[再ダイヤル/ポーズ]キーを押してポーズを入力します。入力したポーズは「-（ハイフン）」で表示されます。ポーズ時間の設定は、[ポーズ時間（6-21ページ）](#)を参照してください。

5

宛先名、検索文字を入力する（[文字入力（1-48ページ）](#) 参照）

6

登録を終了するときは[白黒スタート]キーを押す、チェーンダイヤル・通信速度・国際通信モードのオプションを設定するときは、[OK]キーを押す

- [白黒スタート]キーを押したときは、手順3に戻ります。引き続き短縮ダイヤルを登録するときは、手順3～6を繰り返してください。終了するときは、[戻る]キーを押してください。
- [OK]キーを押したときは、それぞれのオプションのページに進み、引き続きオプションを設定します。
- 「チェーンダイヤル」を設定するときは、[チェーンダイヤル設定（4-38ページ）](#)を行ってください。
- 「通信速度」を設定するときは、[通信速度設定（4-38ページ）](#)を行ってください。
- 「国際通信モード」を設定するときは、[国際通信モード設定（4-38ページ）](#)を行ってください。



設定オプションについて

短縮ダイヤルの登録・修正のときに、設定オプションとして以下の項目を設定できます。チェーンダイヤルとその他の設定は組み合わせて設定することはできません。

設定された項目は、設定オプション画面にチェックマークがつきます。

- チェーンダイヤル..... チェーンダイヤルを“設定する”か“設定しない”かを設定できます。（[▶4-38ページ](#)）
- 通信速度..... 通信開始速度を、33600bps（最高速）、14400bps（高速）、9600bps（中速）、4800bps（低速）の中から設定できます。最初は、33600bps（最高速）に設定されています。（[▶4-38ページ](#)）

国際通信モード国際通信モードを、なし、モード1～3の中から設定できます。

最初は、“なし”に設定されています。（[▶4-38ページ](#)）



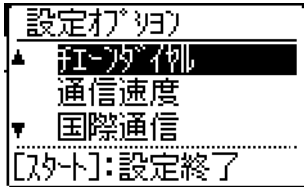
チェーンダイヤル設定

チェーンダイヤル設定は、[\[ダイヤル登録の修正または削除 \(4-41ページ\)\]](#) の手順を行ったあと、次の操作を行います。



チェーンダイヤル設定時は相手先番号が最大48桁になります。

1



[▼][▲]キーで、“チェーンダイヤル”を選択し、[OK]キーを押す

- “チェーンダイヤル”の左側にチェックマークが付いているときは、チェーンダイヤルが設定されています。
- [白黒スタート]キーを押したときは、登録が終了します。

2

[▼][▲]キーで、“設定する”、“設定しない”のいずれかを選択する

通信速度設定

通信速度設定は、[\[ダイヤル登録の修正または削除 \(4-41ページ\)\]](#) の手順を行ったあと、次の操作を行います。



海外への通信など、通信回線の回線事情が悪く、あらかじめどの通信速度が最適かわかっているときは、通信速度の設定を変更してください。通信回線の回線事情が不明のときは、通信速度の設定は変更しないでください。

1

[▼][▲]キーで、“通信速度”を選択し、[OK]キーを押す

2

[▼][▲]キーで、目的の通信速度を選択する



“33600bps（最高速）”以外の通信速度を設定した場合は、設定オプション画面に戻り、“通信速度”の左側にチェックマークがつきます。ポーリング通信の場合は、この設定は無効になります。
[ログアウト/トーン]キー（*）を押すとチェックマークが消え、通信速度設定を“33600bps（最高速）”に戻すことができます。

国際通信モード設定

国際通信モード設定は、[\[短縮ダイヤルの登録\]](#) の手順を行ったあと、次の操作を行います。



- 海外へファクスを送信するときは、回線の状態によって画像が乱れたり、通信が中断してしまうことがあります。国際通信モードを正しく設定すると、そのような通信障害を軽減できます。
- 海外への通信でエラーがよく起こる場合は、モード1～3をそれぞれ試してみて、正常に通信できるモードを設定してください。



1

[▼][▲]キーで、“国際通信”を選択し、[OK]キーを押す

2



[▼][▲]キーで、目的のモードを選択する



“なし”以外を設定した場合は、設定オプション画面に戻り、“国際通信”の左側にチェックマークがつきます。
[ログアウト/トーン]キー（*）を押すとチェックマークが消え、国際通信モード設定を“なし”に戻すことができます。



グループダイヤルの登録

グループダイヤルの登録は、ダイヤル登録画面で、次の操作を行います。

1

[短縮]キーを押す

[短縮]キーを押してから、登録したいグループ番号（000～299）を数字キーで入力します。すでにダイヤル登録している番号を押すと、警告メッセージが表示されます。



グループダイヤルとは、複数の相手先（複数の短縮ダイヤル、数字キーによるダイヤル）を1つの短縮ダイヤルに登録するオートダイヤル機能です。

1回の操作で複数の相手に同じ原稿を送信できる順次同報送信（▶4-30ページ）でよく送信する相手先は、あらかじめグループダイヤルに登録しておくとう便利です。

2

グループ名を入力し、検索文字を入力する（[文字入力（1-48ページ）](#) 参照）

3

短縮ダイヤル、数字キーで相手先を登録する

- 短縮ダイヤルを登録するときは、[短縮]キーを押してから、登録したい短縮番号（000～299）を数字キーで入力します。まちがえたときは、[クリア]キーを押してやり直してください。
- 数字キーで相手先番号を入力することもできます。しかし、このときはチェーンダイヤル・通信速度・国際通信モードのオプションを設定できません。オプションの設定が必要なときは、短縮ダイヤルにオプション設定を行ってからグループ登録してください。相手先番号は最大50桁まで入力できます。番号の途中で待ち時間を入れるときは、[再ダイヤル/ポーズ]キーを押してポーズを入力します。入力したポーズは「-（ハイフン）」で表示されます。ポーズ時間の設定は、[ポーズ時間（6-21ページ）](#)を参照してください。相手先番号を入力後は[OK]キーを押してください。

4

グループ化する相手先を全て登録し、[白黒スタート]キーを押す

最大で100件の宛先をグループ化できます。



ダイヤル登録の修正または削除

ダイヤル登録の修正または削除は、ダイヤル登録画面で、次の操作を行います。



短縮ダイヤルを使って、送信中または送信予約がされている場合、短縮ダイヤルの修正または削除はできません。

短縮ダイヤルを修正する

1

[▼][▲]キーで、“短縮”を選択し、[▼][▲]キーで、“修正”を選択する

2

[短縮]キーを押し、数字キーで相手先番号を修正する

- [短縮]キーを押してから、修正したい短縮ダイヤルが登録されている短縮番号(000~299)を数字キーで入力します。
- 修正したい番号に[◀][▶]キーでカーソルを移動させて、正しい番号を数字キーで入力してください。
- 番号を消すときは[◀][▶]キーでカーソルを消したい番号に移動させて、[クリア]キーを押します。

3

宛先名、検索文字を修正し、登録を終了するときは[白黒スタート]キーを押す
チェーンダイヤル・通信速度・国際通信モードのオプションを設定するときは、
[OK]キーを押す ([文字入力 \(1-48ページ\)](#) 参照)

短縮ダイヤルを削除する

1

[▼][▲]キーを押して、“削除”を選択し、[短縮]キーを押す

[短縮]キーを押してから、削除したい短縮ダイヤルが登録されている短縮番号(000~299)を数字キーで入力します。

2

[▼][▲]キーで、“削除する”を選択する



“削除しない”を選択しているときに、[読み込み終了]キー(Ⓜ)を押すと、宛先名を確認できます。削除するときは、宛先名を確認してから削除してください。



グループダイヤルの修正または削除

グループダイヤルの修正または削除は、[4-37ページ](#)の手順1～手順3までを行ったあと、次の操作を行います。



次の場合は、グループダイヤルの修正または削除はできません。
• プログラムに登録・設定されている場合。

グループダイヤルを修正する

1

[▼][▲]キーで、“グループ”を選択し、[▼][▲]キーで、“修正”を選択する

2

修正したいグループダイヤルが登録されているグループ番号を押し、グループ名、検索文字を修正する ([文字入力 \(1-48ページ\)](#) 参照)

3

すべての修正が終了したら、[白黒スタート]キーを押す

グループダイヤルを削除する

1

[▼][▲]キーを押して、“削除”を選択し、修正したいグループダイヤルが登録されているグループ番号を押し

2

[▼][▲]キーで、“削除する”を選択する



“削除しない”を選択しているときに、[読み込み終了]キー（）を押すと、宛先名を確認できます。削除するときは、宛先名を確認してから削除してください。



プログラムを登録、修正／削除する

プログラムには、●宛先設定 ●通信手段※ ●原稿サイズ指定 ●両面読み込み ●画質・濃度 ●薄紙読み込み ●発信元印字 ●送信設定を登録することができ、簡単な操作で登録内容呼び出して通信を行うことができます。[\(プログラムの使いかた\(呼び出し\)\(4-49ページ\)参照\)](#)

※ 通信手段：通常送信、順次同報送信、ポーリング、順次ポーリング



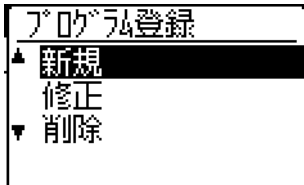
プログラムに、画面設定、時刻指定通信を登録することはできません。

プログラムの登録は、ダイヤル登録画面で次の操作を行います。

1

“各種登録”を選択し、[▼][▲]キーで、“プログラム登録”を選択する

2



[▼][▲]キーで、“新規” “修正” “削除”のいずれかを選択する

- プログラムを登録するときは、“新規”を選択して、[OK]キーを押してください。以降は、[プログラムを登録する\(4-43ページ\)](#)を行ってください。
- プログラムを修正するときは、“修正”を選択して、[OK]キーを押してください。以降は、[プログラムを修正する\(4-44ページ\)](#)を行ってください。
- プログラムを削除するときは、“削除”を選択して、[OK]キーを押してください。以降は、[プログラムを削除する\(4-44ページ\)](#)を行ってください。

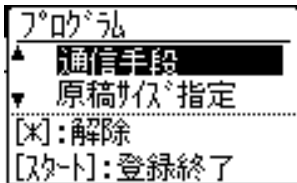
プログラムを登録する

3

[▼][▲]キーで、登録したいプログラムを選択し、プログラム名を入力する([文字入力\(1-48ページ\)参照](#))

選択したプログラムに、すでにプログラムが登録されている場合はメッセージを表示します。登録されていないプログラムダイヤルを選択するか、プログラムを削除([▶4-44ページ](#))してから選択してください。

4



[▼][▲]キーで、プログラム登録する項目を選択する

- 宛先設定、通信手段、原稿サイズ指定、両面読み込み、画質・濃度、薄紙読み込み、発信元印字、送信設定を登録できます。
- 通信手段の登録は必須です。登録しないと登録操作を完了できません。
- 設定のしかたは、それぞれの機能の操作手順を参照してください。
- 設定した項目を取り消すときは、取り消したい項目を選択して、[*]キーを押します。
- 項目によっては組み合わせできないものがあります。組み合わせできない項目を選択したときはディスプレイでお知らせします。



プログラムを修正する

登録したプログラムを修正するときは、次の操作を行います。

3 [▼][▲]キーで、修正したいプログラムを選択する

4 プログラム名を修正する ([文字入力 \(1-48ページ\)](#) 参照)
• 操作は[プログラムを登録する \(4-43ページ\)](#) の手順3を参照してください。
• プログラム名を修正しないときは次の手順に進んでください。

5 [▼][▲]キーで、修正したい登録項目を選択する
• 操作は[プログラムを登録する \(4-43ページ\)](#) の手順4を参照してください。
• 登録項目を修正しないときは、[白黒スタート]キーを押した後、[戻る]キーを押して修正を終了してください。

プログラムを削除する

プログラムを削除する前に、「プログラム表」をプリントして、登録内容を確認しておいてください。(▶[4-45ページ](#))登録したプログラムを削除するときは、次の操作を行います。

3 [▼][▲]キーで、削除したいプログラムを選択する

4 [▼][▲]キーで、“削除する”を選択する



登録・設定した内容をプリントする

登録・設定した内容の一覧表をプリントして、内容を確認できます。

次の一覧表をプリントできます。

- 宛先登録リスト : オートダイヤルに登録した内容を検索文字の表示順でプリントします。
- グループリスト : グループダイヤルに登録した内容をプリントします
- プログラムリスト : プログラムに登録した内容をプリントします。
- 送信予約表 : 時刻指定通信、再コールの内容をプリントします。
- 原稿蓄積確認表 : 掲示板に読み込んだ設定の内容をプリントします。

そのほかのプリントできる一覧表については、[リスト/レポートプリント \(6-17ページ\)](#) を参照してください。

1

[機能]キーを押す

2

[▼][▲]キーで“データリストプリント”を選択し、[▼][▲]キーで“ファクス”を選択する

3

[▼][▲]キーで、プリントさせる一覧表を選択する

プリントできる一覧表については、上記の説明を参照してください。



発信元情報を付けて送信する（発信元印字）

原稿送信時、原稿上部中央に、日付・時間、発信元名、発信元番号、送信ページ番号を付けて相手側に送信できる機能です。工場出荷時は常に発信元情報を付けて送信するように設定されています。（[デフォルト日付発信元送出（6-24ページ）](#) 参照）

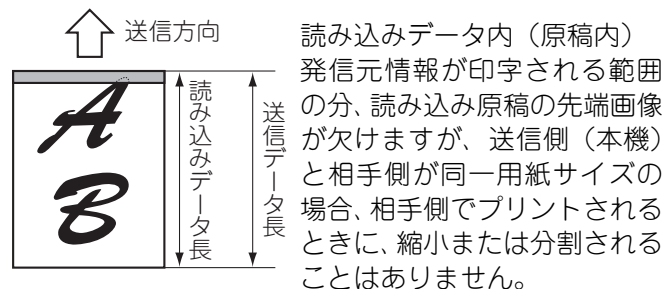
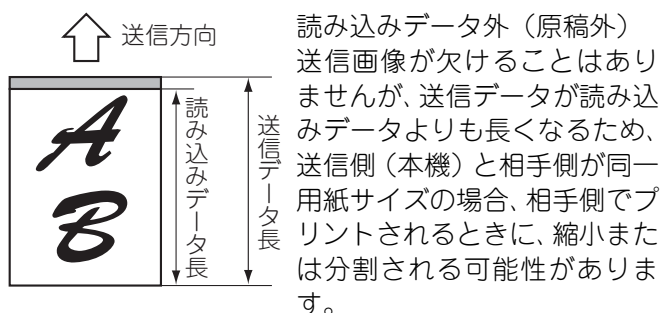
例（送信原稿が相手側でプリントされたとき）



- (1) 日付・時間 : システム設定で登録します。（[日付・時刻（6-10ページ）](#) 参照）
- (2) 発信元名 : システム設定で登録します。（[発信元登録（6-21ページ）](#) 参照）
- (3) 発信元電話番号 : システム設定で登録します。（[発信元登録（6-21ページ）](#) 参照）
- (4) 送信ページ数 : 3ケタで、ページ番号／総ページ数を印字します。（直接送信や手動送信、クイックオンライン送信が行われたときは、ページ番号のみが印字されます）

発信元情報の添付位置について

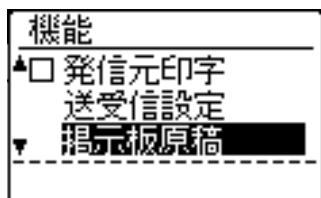
発信元情報を原稿データ外（原稿外）に添付するかデータ内（原稿内）に添付するかをシステム設定で設定できます。（[日付・発信元印字位置（6-24ページ）](#) 参照）工場出荷時は読み込みデータ外（原稿外）に添付するように設定されています。



発信元情報を付けずに送信する方法

各送信操作ごとに発信元情報を付けるかどうかを選択できます。ここではシステム設定で、常に発信元情報を付けて送信するように設定されている場合（工場出荷時状態）に、ある通信に限り発信元情報を付けずに送信する方法を説明します。（この設定を行ったあと順次同報送信 [▶4-30ページ](#) を行う場合は、送信する相手先すべてに発信元情報を付けずに送信されます。）

1



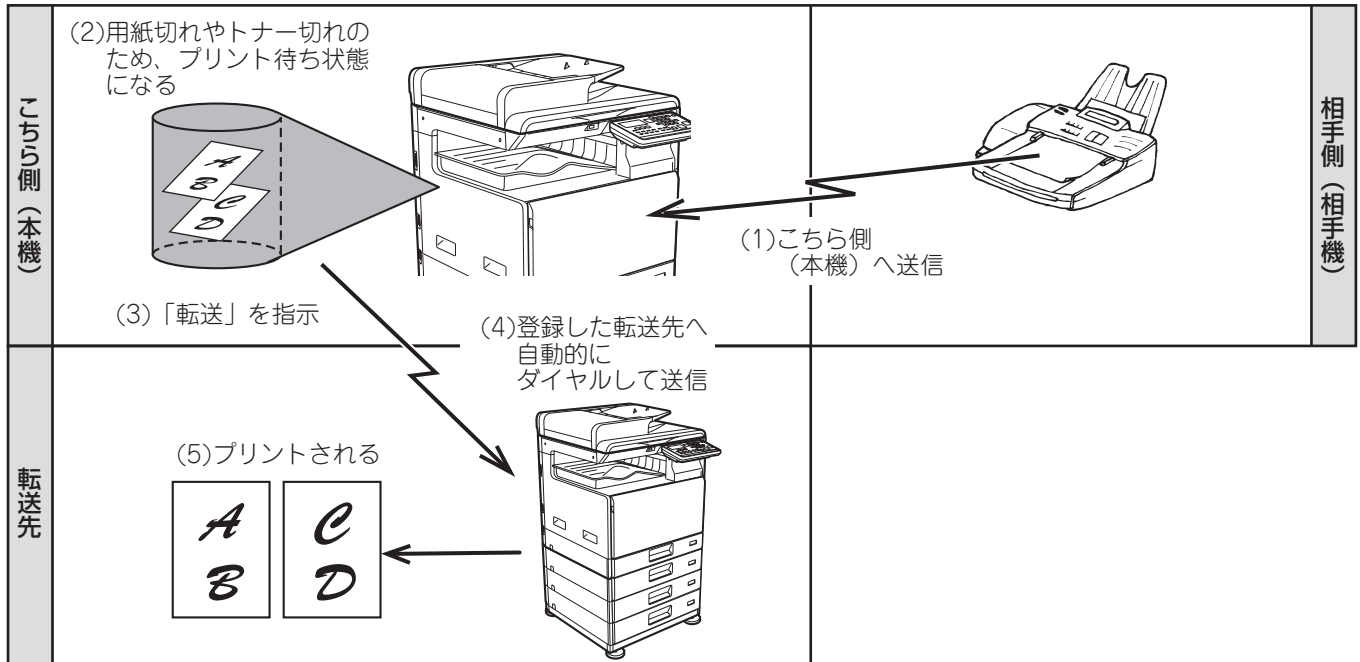
[▼][▲]キーで、“発信元印字”を選択し、[OK]キーを押す

“発信元印字”のチェックボックスにチェックマークが付いているときはこの機能が設定されています。チェックマークが付いている状態で、[OK]キーを押すとこの機能設定が解除されます。



転送機能

用紙切れやトナー切れなどで出力できないときに、受信したデータを、あらかじめ登録しておいた他のファクスへ転送してプリントすることができる機能です。オフィスなどで電話回線が2本以上あり、本機と異なる電話回線に他のファクスが接続されているときに利用すると便利です。受信データがあるときは、ファクスのデータランプが点滅します。
(受信したデータをプリントできないときは [\(4-25ページ\)](#) 参照)



- 受信データを指定して転送することはできません。
- ファクスプリントホールド機能 ([▶4-27ページ](#)) によってメモリーされているファクス受信データがある時に転送操作を行うとこのデータも転送されます。
- 転送結果は通信記録表 ([通信記録を定期的に確認したいときは \(通信記録表\) \(4-63ページ\)](#) 参照) に記載されます。



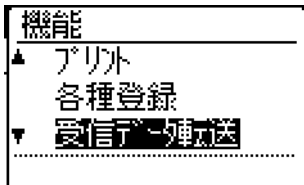
転送機能の使いかた

転送先電話番号を登録する

転送先の電話番号はシステム設定で登録します。(受信データ転送先電話番号登録 (6-26ページ) 参照) 登録できる転送先電話番号は1局のみです。また、転送先電話番号を登録しておかないと転送機能を利用できません。

受信したデータを転送する

1



[▼][▲]キーで、“受信データ転送”を選択し、[OK]キーを押す

2

[◀][▶]キーで、“転送する”を選択し、[OK]キーを押す



転送を中止するには…

- [ファクス状況]キーを押し、送信の中止操作と同様に行います。(ファクスの送信を中止する (4-20ページ) 参照) 転送する予定だった受信データは、再び本機でのプリント待ち状態に戻ります。
- 相手が話し中のときや通信エラーなどで転送できなかったとき、再コール設定されていれば設定回数再コール後も転送できなければ転送予定だったデータはふたたび本機でプリント待ち状態に戻ります。
- 転送を指示した時点で受信されているデータのすべてを転送します。途中までプリントされたデータは、プリントできなくなったページ以降が転送されます。
- 転送した受信データは転送終了後、自動的に消去されます。



登録した設定を呼び出して使用する（プログラム）

送信相手先や原稿読み込み時の設定を登録しておき、通信するときに設定内容を呼び出して通信操作を簡略化することができる機能です。日報の送信など、同じ相手に対して何度も同じ通信を行う場合などに便利な機能です。ファクス送信のためのプログラムは、最大9件まで登録できます。

プログラムに通信操作をあらかじめ登録する際、全角で18文字、半角で36文字以内で名前をつけることができます。プログラムの登録方法および修正・削除の方法は、[プログラムを登録、修正／削除する（4-43ページ）](#)を参照してください。

プログラムには以下の設定を登録できます。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| (1)宛先設定 | (4)両面読み込み |
| (2)通信手段 | (5)画質・濃度 |
| 通常送信 ▶4-8ページ 、順次同報送信 ▶4-30ページ 、 | (6)発信元印字 ▶4-46ページ |
| ポーリング ▶4-32ページ 、順次ポーリング | (7)送信設定 ▶4-15ページ |
| ▶4-33ページ | |

(3)原稿サイズ指定

順次同報送信や順次ポーリングをプログラムに登録するときは、相手先ファクス番号を200局まで登録できます。



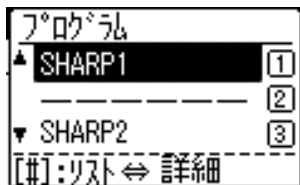
- 登録したプログラムは、時刻指定通信 ([▶4-29ページ](#)) とちがい、通信を行ったあとでもその登録内容は消去されません。したがって、同じ種類の通信をくり返し実行することができます。ただし、プログラムには通信を行う時刻を登録することはできません。
- プログラム登録できる項目は、たとえそれが未登録の項目であっても、プログラムを呼び出して送信する際にその設定を変更することはできません。
- プログラムを使って通信するときの原稿サイズ指定、両面読み込み、時刻指定は、プログラムを呼び出したときのみ設定できます。

プログラムの使いかた（呼び出し）

1

ファクスモードで原稿をセットし、[▼][▲]キーで、“プログラム”を選択する

2



実行するプログラムを選択する

入力したプログラム名が全文字表示されていないときは、[読み込み終了]キー（[#]）を押すと、プログラム名の全文字を表示します。

[読み込み終了]キー（[#]）をもう一度押すと元の画面表示に戻ります。

3

必要に応じて原稿サイズの指定などを行い、[白黒スタート]キーを押す

- プログラムに従って通信が行われます。
- プログラムに通信操作を登録する際、通信手段を設定していないプログラムを選択しているときは、[白黒スタート]キーを押す前に通信手段やダイヤル操作を行ってください。



原稿サイズの指定（[基本的な送信のしかた（4-8ページ）](#)参照）や両面読み込み指定（[両面原稿の送信のしかた（4-14ページ）](#)参照）、および時刻指定（[時刻指定通信（4-29ページ）](#)参照）など、プログラムに登録できない機能の設定は手順3で[白黒スタート]キーを押す前に行ってください。



受信したデータをネットワークアドレスに転送する（受信データのネットワーク転送設定）

ファクスの受信データを、指定したE-mailや共有フォルダーに自動的に転送できます。この機能を設定すると、受信データをプリントせずに、指定したE-mailアドレスやフォルダーへ転送するといった使いかたができます。

受信データのネットワーク転送設定は、すべてWebページで行います。

以降の説明は、管理者権限でWebページにアクセスしていることを前提にしています。

Webページへのアクセス方法については、ユーザーズマニュアル（Webページ設定編）を参照してください。

受信データのネットワーク転送を行うには、基本条件を設定してから送信先を設定してください。

メニューフレームの**【受信データの転送設定】**をクリックします。各項目設定後に**【登録】**ボタンを押します。

基本条件を設定する

受信データのネットワーク転送設定機能の基本条件を設定します。

受信データのネットワーク転送設定機能を有効にする

「受信データのネットワーク転送」の**【有効】**を選択する

受信データのプリント条件を変更する

「受信データのプリント転送」からプリント条件を設定する

項目	設定	説明
受信データのネットワーク転送	有効、無効	受信データのネットワーク転送機能の有効/無効を設定します。
受信データのプリント設定	常にプリント、エラー時のみプリント	受信データをプリントする条件を設定します。



受信データの転送時のファイル名を設定する

ファイル名に使用する項目のプルダウンメニューから選択します。

任意の文字列を追加したい場合は、「文字列」を選択し、「文字のプリセット」に半角64文字（全角32文字）以内で文字を入力してください。

「ファイル名設定」からファイル名に使用する項目を選択する

項目	説明
シリアル番号	選択すると、シリアル番号をファイル名に追加します。
送信者名	選択すると、送信者名をファイル名に追加します。
日時	選択すると、日時をファイル名に追加します。
カウンター	選択すると、カウンターをファイル名に追加します。
識別番号	選択すると、識別番号をファイル名に追加します。
文字列	選択すると、「文字のプリセット」に半角64文字（全角32文字）以内で入力すると、文字列をファイル名に追加します。
文字のプリセット	「文字列」にて使用する文字を、半角64文字（全角32文字）以内で入力します。

通信結果表をプリントするか設定する

受信データ転送の転送時に、通信結果表をプリントするか設定します。

「通信結果表プリント設定」からプリント条件を設定する

項目	設定	説明
通信結果表 プリント設定	常にプリント、 エラー時のみプリン ト、プリントしない	通信結果表をプリントする条件を設定します。



転送先を設定する

受信データの送信元と、転送先のE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを指定して、転送テーブルを設定します。

転送テーブルは最大10件設定できます。

1件ごとに次の項目を設定します。

- 転送条件（転送の有効/無効、および転送判定条件）
- 送信元番号（ファクス番号）
- 転送先（共有フォルダー）
- FTP
- Desktop
- E-mailアドレス



- 転送テーブルの番号（転送先1～10）の名前は変更できません。
- 転送先にはE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを設定できます。ファイルサーバー送信スキャンとデスクトップ送信スキャンのアドレス、ファクス番号は設定できません。

送信先の一覧を表示する

1

【送信先】をクリックする

送信先の一覧が表示されます。

項目	説明
受信データのネットワーク転送	転送データの転送設定機能の現在の状態を表示します。
番号	転送先（転送先 1～10）を表示します。 クリックすると、転送先の設定画面が表示されます。
転送条件	送信先の転送条件（送信先設定の有効/無効や判定条件）が表示されます。
[削除] ボタン	「番号」のチェックボックスをチェックして [削除] ボタンをクリックすると、選択した送信先番号に登録されている転送条件を削除できます。
[クリア] ボタン	クリックすると、「番号」のチェックボックスのチェックをすべて解除します。

転送先を設定する

1

【送信先】をクリックし、設定する送信先の番号をクリックする

2

「転送条件」の【有効】を選択し、「転送条件」から転送時の判定条件を設定する

【すべて転送】【送信元が合えば転送する】から選択します。



3

特定の送信元からの受信データを転送したい場合は、「送信元番号」で送信元のファクス番号を入力する

ファクス番号は20桁以内で入力してください。本機に登録されたファクス宛先からファクス番号を入力するときは、[アドレス帳からの選択] ボタンをクリックしてください。
「ファクス宛先」画面が表示され、ファクス宛先一覧から送信元番号として設定できます。

4

「転送先（最大10件）」から転送するE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを入力する

転送先に設定できるE-mail、FTP、Desktopや共有フォルダーは、最大10件です。
転送先の入力方法は、2種類あります。

設定したE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーは、「転送先の設定」に表示されます。

- E-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを直接入力する
[直接入力] ボタンをクリックします。「転送先の設定（直接入力）」画面が表示されますので、登録するE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーの情報（「フォルダーへのパス」、「ユーザー名」、「パスワード」、「E-mail」、「E-mailアドレス」）を入力し、[登録] ボタンをクリックしてください。
- アドレス帳からE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを設定する
[アドレス帳からの選択] ボタンをクリックします。「送信先リスト」画面が表示され、一覧からE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを設定できます。



設定したE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを削除したい場合は、削除したいE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーの左側にあるチェックボックスをチェックして、[削除] ボタンをクリックします。

転送条件

項目	設定	説明
転送条件	有効、無効	この画面で設定する送信先の有効/無効を設定します。
	すべて転送、送信元が合えば転送する	FAXデータを転送するかの判定条件を設定します。

送信元番号

項目	説明
ファクス番号	送信元が合えば転送するに設定した場合、送信元のファクス番号を入力します。最大20桁まで入力できます。
[アドレス帳からの選択] ボタン	本機に登録されたファクス宛先からファクス番号を設定するときにクリックします。

転送先（最大10件）

項目	説明
転送先の設定	登録された転送先を表示します。転送先が1件も登録されていない場合は、「未設定」と表示されます。
[削除] ボタン	選択した転送先を削除します。
[直接入力] ボタン	E-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを直接入力する場合にクリックします。
[アドレス帳からの選択] ボタン	本機に登録された一覧からE-mailアドレス、FTP、Desktopや共有フォルダーを設定するときにクリックします。



コンピュータのデータをファクス送信する (PC-Fax)

コンピュータ上のデータを、本機を経由してファクス送信します（PC-Fax機能）。PC-Fax機能を利用したファクス送信は、プリントと同様の操作で行います。お使いのコンピュータのプリンタードライバーをPC-Faxドライバーに切り替えてプリント操作を行うと、送信用の画像データが生成され、ファクス送信が行われます。



- PC-Fax機能を利用してファクス送信するには、PC-Faxドライバーをインストールする必要があります。詳しくは、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- この機能は、お使いのコンピュータが、Windows®環境の場合のみ使用できます。
- この機能は、送信のみ行えます。本機がファクス受信したデータを、接続されているコンピュータ上で受信することはできません。



外部電話接続を使用する

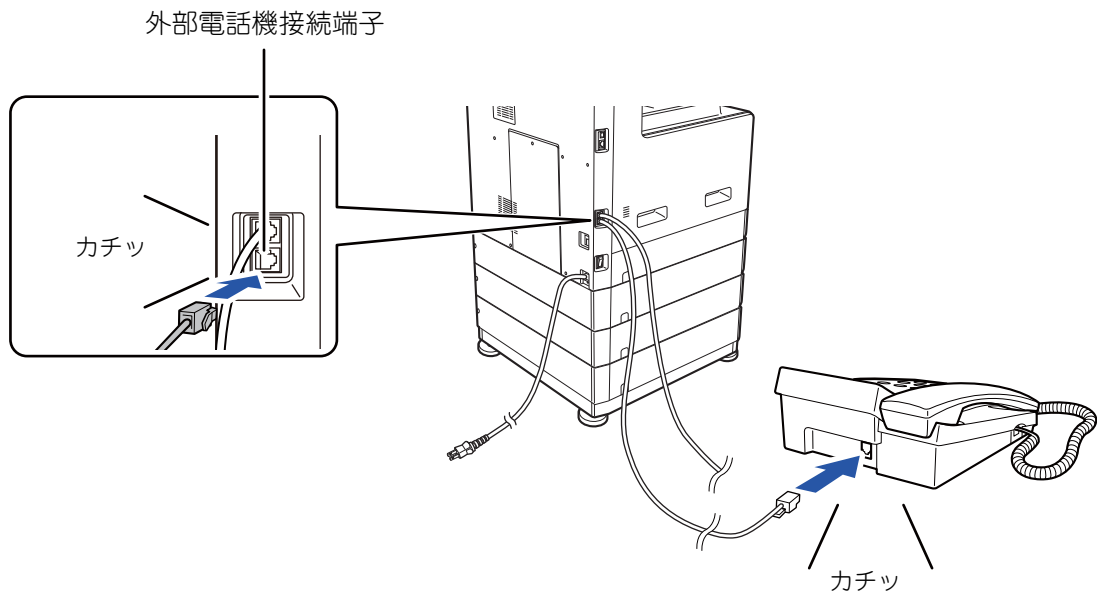
電話機を増設する（外部電話接続）

本機には、お手持ちの電話機を外部電話機として接続することができ、通常の電話と同様に電話をかけたり受けたりできます。また、接続した外部電話機から本機をファクス受信状態にすることもできます。（リモート操作）

電話機の接続のしかた

1 お手持ちの電話機の接続コードを本機左側面の外部電話機接続端子（TEL）に接続する

- 「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。
- 外部電話機接続端子に2芯線以外の接続コードを使用すると、電話機によっては正しく動作しない場合があります。



2 システム設定の外部電話接続の設定を行う

システム設定の設定で、外部電話機を接続した状態にしてください。（[外部電話接続（6-22ページ）](#) 参照）



外部電話機から本機を受信状態にする2桁の番号（最初は“55”に設定されています）をリモート切替番号と呼びます。この番号は、システム設定により00～99の間で変更できます。

▶ [リモート切替番号（6-23ページ）](#)



接続する電話機は、モジュージャック接続のタイプをご使用ください。

接続コードの形が合わないときは、お買いあげの販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口へご相談ください。



外部電話の使いかた

外部電話で通話する

通常の電話機と同様に、本機に接続した外部電話機で電話をかけたり、受けたりできます。他のモードが実行中（コピー中など）でも通話できます。



- お使いの回線の種類（光回線等）によっては、停電時に電話をかけることはできません。
- ファクスの受信モードが自動受信で、電話／ファクス自動切替が設定されているときは、受信状態になる前に受話器を上げてください。受信状態に切り替わるまでの呼出音の回数は、最初は2回に設定されています。呼出音の回数は、システム設定により0～15回の間で変更することもできます。
▶ [自動受信コール回数（6-25ページ）](#)
- 通話を保留にすることはできません。

外部電話機でファクスを受信状態にする（リモート受信）

かかってきた電話を外部電話機で受けた場合、通話したあと、続けて外部電話機を操作してファクスを受信できます。これをリモート受信と呼びます。外部電話機で通話終了後、または受話器から「ポーポー」音が聞こえたときは、電話を切らずに次の操作を行います。（こちらからかけた場合は、リモート受信はできません。）



ダイヤル回線 ▶[4-65ページ](#)をお使いで、トーン信号が出せない電話機を接続したときは、この機能は使用できません。トーン信号を出せる電話機かどうかは、お手持ちの電話機の取扱説明書を参照してください。

1

お使いの外部電話機をトーン信号発信状態にする

トーン信号の出しかたは、お使いの電話機の取扱説明書を参照してください。トーン信号が発信状態になっている場合は次の手順に進みます。

2

外部電話機の数字キーの⑤キーを2回押し、次いで*キーを押す

ファクス受信状態になります。

3

受話器を戻す



外部電話機から本機を受信状態にする2桁の番号（最初は“55”に設定されています）をリモート切替番号と呼びます。この番号は、システム設定により00～99の間で変更できます。

▶ [リモート切替番号（6-23ページ）](#)

相手と話をしてからファクスを受信する

本機にお手持ちの電話機を接続して受信モードを“手動”（▶[4-16ページ](#)）に設定しているときは、ファクスを手動送信してきた相手と話をしてから電話を切らずに、続けてファクスを受信できます。



本機がファクスモードのとき

送信操作を行っている途中でも、手動でファクスを受信することができます。

1

呼出音が鳴れば、受話器を上げて通話する

受話器から「ポーポー」音が聞こえるときは、通話をせずに次の手順に進みます。

2

受話器を上げたまま[白黒スタート]キーを押す

送信するか、受信するかを選択する画面が表示されます。

3

選択して[OK]キーを押し、受話器を戻す

- 受信が終わると「ピー」音が鳴ります。
- 受信データをプリントします。(プリント中はデータランプが点滅しています。)



- 予約されたプリントジョブがある場合は、予約されたジョブが終了後に受信データをプリントします。
- コピー中でも、通話に出たり手動でファクスを受信できます。
コピー中に呼出音が鳴れば、受話器を上げて通話します。ファクスを受信するときは、受話器を上げたまま[ファクス]キーを押し、ファクスモードに切り替えます。“通話中です。”の画面から[▼][▲]キーで“手動受信”を選択し[OK]キーを押してください。





電話とファクスを自動的に切り替えて使用する

自動受信モード▶[4-26ページ](#)で、電話とファクスを自動的に切り替えるように設定できます。あらかじめ、システム設定の[電話／ファクス自動切替 \(6-22ページ\)](#)で自動切替を行うように設定しておいてください。ダイヤルイン▶[4-60ページ](#)を利用しているときやFネット▶[4-64ページ](#)による受信では、この機能は使用できません。

電話／ファクス自動切り替えに設定したときは

電話／ファクス自動切り替えを設定すると、相手の電話やファクスの送信方法によって本機の対応が以下のように変わります。

相手側	こちら側
ファクスを自動送信したとき 	呼出音が鳴ってから自動的に受信を開始します。(自動受信▶ 4-26ページ) 呼出音の回数を0回に設定しているときは、呼出音を鳴らさずに自動で受信します。(自動送信時コール時間 (6-24ページ) 参照)
電話をかけたときまたはファクスを手動送信したとき 	呼出音※が鳴っている間に受話器を上げると相手と通話ができます。通話後にファクスを受信する場合は、手動受信操作(上記「手動受信」参照)を行います。 呼出音※が鳴っている間に受話器を上げなかった場合相手はファクス送信のときは、相手側で送信操作を行うと受信を開始します。

※ 電話／ファクス自動切り替え時の呼び出し回数は、システム設定で変更できます。
 ([電話／ファクス自動切替 \(6-22ページ\)](#) 参照)



電話／ファクス自動切替と、留守番電話は同時に機能しません。

留守番電話に設定する

電話がかかってくると、お手持ちの留守番電話機能付き電話機で呼出音が鳴ってから相手の方のメッセージを録音できます。

ファクスが送信されてきている場合、お手持ちの留守番電話機能付き電話機で呼出音が鳴ってから、自動的に本機でファクスを受信します。

この機能を有効にするには、システム設定の[外部電話接続 \(6-22ページ\)](#)を有効にしておくとともに、お手持ちの電話機が、[留守番電話接続 \(6-22ページ\)](#)で設定している回数以上で留守番電話がはたらくように設定しておいてください。

1

[送受信設定]キーを押す

送受信設定画面が表示されます。



送受信設定画面は、機能選択画面から表示させることもできます。

[機能]キーを押して機能選択画面を表示させ、[▼][▲]キーで“送受信設定”を選び、[OK]キーを押します。

2

[▼][▲]キーで、“受信”を選択する



3 [OK]キーを押す

4 [▼][▲]キーで、“留守録”を選択する

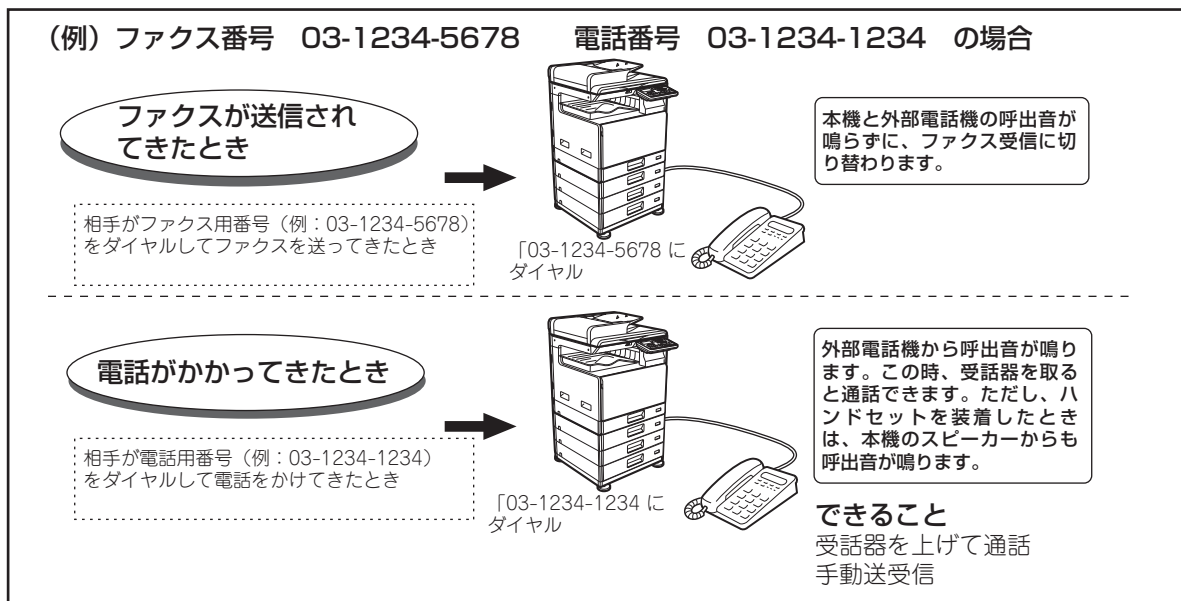


その他の機能

1つの電話回線で2つの番号を利用する (ダイヤルイン)

NTTのダイヤルインサービス（有料）を契約すると、1つの電話回線でファクス番号と電話番号の2つを設定できます。ダイヤルインサービスはNTTとの契約が必要です。このサービスを受けられない局番（地域）もありますので、詳しくはNTT窓口にご相談ください。

モデムダイヤルインサービスはご利用になれません。ダイヤルインサービスをご契約ください。



- ダイヤルインを使用するときは、システム設定で[ダイヤルイン設定 \(6-22ページ\)](#)を行ってください。設定を行っていないときは、ダイヤルインサービスを契約していても、この機能ははたしません。
- お手持ちの電話機を接続した状態でダイヤルインを使用した場合、相手から電話がかかってきたときに、こちら側では電話機と同時に本機の呼出音が鳴ります。
- 接続した外部電話機の種類によっては、呼出音を鳴らさずにファクス受信するように設定していても呼出音が短く鳴ることがあります。
- ダイヤルインを使用しているときは、電話／ファクス自動切り替え [▶4-58ページ](#)は利用できません。
- 本機がファクス受信できない状態のときは、すべて電話着信になります。
- 1つの電話回線ですからファクス送受信と同時に電話をかけたり受けたりすることはできません。
- ダイヤルイン機能を利用する場合は、NTTの各種サービスがご利用になれない場合や、一部制約を受けることがあります。詳しくは、お近くのNTTにお問い合わせください。



通信結果表がプリントされたときは

本機は工場出荷時、通信が正常に行われなかったときや同報送信が行われたときなどに通信結果表を自動でプリントし、通信結果をお知らせするように設定されています。

正しく送信できなかった場合に、

「以下の原稿は送信できませんでした この通信結果表をXXXの方にお渡しください」などと記載された通信結果表がプリントされたときは、内容を確認して対処してください。

工場出荷時は下記の□□□□のときにプリが、システム設定でプリントさせる条件を変更することもできます。

▶ [通信結果表プリント \(6-20ページ\)](#)

- 通常送信時： 常にプリント / **送信失敗時** / プリントなし
- 同報通信時： **常にプリント** / 通信失敗宛先 / プリントなし
- 送信時の原稿内容プリント※： 常にプリント / **エラー時** / プリントなし
- 受信時： 常にプリント / エラー時 / **プリントなし**

通信結果表には、通信の行われた、日付・開始時刻・相手先名・所要時間・枚数・通信種別・通信結果・ユーザー名などがプリントされます。

※ 送信時の原稿内容プリントは、通常送信時および同報通信時、通信結果表がプリントされる際に送信原稿の一部をいっしょにプリントさせるかどうかを設定できます。



通信結果表の番号欄にはリスト数がプリントされ、連番欄には通信の通し番号がプリントされます。(通信の内容には関係ありません。)

通信結果欄の内容について

通信結果表または通信記録表 ▶[4-63ページ](#)の通信結果欄には、通信手段やエラーの種類などがプリントされます。主な表示の内容は次のとおりです。

送信状況	内容
OK	送信が正常に終了した
ビジー	送信しようとして、相手が通信中などで送信できなかった
キャンセル	送信中に通信を停止させた、あるいは予約後に予約を取り消した
電源断	送信中に電源が切れた
ポーリング受け付けず	ポーリングされたときに、相手機に発信元電話番号が登録されていなかった
ポーリング許可番号不一致	ポーリングされたときに、こちら側のポーリング許可番号に相手機の発信元電話番号が登録されていなかった
原稿エラー	原稿自動送り装置を使って直接送信モードで送信しているときに、原稿がつまってエラーになった
通信エラー XXXXXXX <div style="margin-left: 40px;"> </div> <div style="margin-left: 40px;"> </div> 前2桁 下4桁	回線の状態などにより、送信が正常におこなわれなかった サービスマンが利用するコードが表示されます。
××件中××件OK	グループダイヤル、順次同報送信を利用して送信したときに ××件中：総送信件数を表示します。 ××件OK：送信が完了した件数を表示します。

受信状況	内容
OK	受信が正常に終了した
電源断	受信中に電源が切れた



受信状況	内容
受信メモリーオーバー	受信中、メモリー代行受信で画像メモリーがいっぱいになった
受信長オーバー	800mm以上のデータが送られてきたため、受信できなかった
ポーリング受け付けず	ポーリングしたときに こちら側の発信元番号が登録されていない 相手機のポーリング許可番号にこちら側の発信元番号が登録されていない
相手ポーリング機能無し	ポーリングしたときに 相手機にポーリング機能がなかった 相手機に掲示板原稿が登録されていなかった
通信エラー XXXXXX 前2桁 下4桁	回線の状態などにより、送信が正常におこなわれなかった サービスマンが利用するコードが表示されます。
××件中××件OK	順次ポーリングが正常に終了したときに ××件中：総送信件数を表示します。 ××件OK：送信が完了した件数を表示します。
受信拒否	受信拒否機能によりファクス受信を拒否した



通信記録を定期的に確認したいときは (通信記録表)

本機で行われた通信の内容（通信日、通信した相手先名、所要時間、通信結果など）は、もっとも新しいものから順に発信着信あわせて50件まで記憶されています。通信記録が50件を超えたとき、または指定した時刻に通信記録表を自動でプリントさせることができ、通信内容を定期的に確認できます。

工場出荷時は通信記録表をプリントしないように設定されていますので、プリントさせたいときはシステム設定で設定してください。（「[記録表プリント（6-21ページ）](#)」参照）



- 通信結果欄にプリントされる内容については[通信結果表がプリントされたときは（4-61ページ）](#)の表を参照してください。
- 通信記録表は、手動でプリントすることもできます。
▶ [登録・設定した内容をプリントする（4-45ページ）](#)

アラーム音が鳴ったり警告メッセージが表示されたときは

本機で通信中に起こったエラーは、アラーム音やメッセージ画面の表示でお知らせします。次のような内容のメッセージが表示されたときは、下表の指示に従って対処してください。

その他のメッセージについてはQ&A集（困ったときは）を参照ください。

メッセージ (アラーム音)	表示の意味	対処のしかた	ページ
XXXXXX 通信エラーです。	通信が正常に終了せず、エラーが発生した	再度、通信を行う	—
受話器をもどしてください。	受話器が外れている (お手持ちの電話機を接続しているとき)	受話器を元に戻す	—

自己診断機能について

この製品には万一機器内部に異常が生じたときに、機器の動作を自動的に停止させる“自己診断機能”が付いています。ファクスモードで異常が生じたとき、下記の表示になります。

受信状況	内容
⚠エラーです。 コード：XX-XX └┘ メインコード サブコード 電源を入れ直してください。	電源を入れ直してください。電源を入れ直してもエラーが解除されない場合は、メインコード2桁、サブコード2桁をご確認のうえ、お買いあげの販売店へご連絡ください。



正常時のメッセージについて

受信状況	内容
送信終了 No.001 xx% P-xxx	直接送信終了の場合（“xx”は送信した枚数を表示します。）
読み込み中 No.001 xx% P-xxx	原稿をメモリーに読み込み中（メモリー送信のとき）
送信できます。 05月10日(金) 100% 22:25	待機状態
ダイヤル入力ください。	[オンフック]キーを押したとき

ファクシミリ通信網（Fネット）について

この製品は、Fネット（ファクシミリ通信網）を利用できます。

詳しくはFネットのパンフレットをごらんください。Fネットのご利用については利用契約が必要です。もよりのNTTの支店・営業所へお問い合わせください。



- Fネットを利用して送受信する場合、この製品のポーリング通信 [▶4-32ページ](#)、電話／ファクス自動切り替え [▶4-58ページ](#)は使えません。
また画質選択は[普通字]と[小さな字]でのみ送信できます。
- 送信先がFネットに加入していないときは、G3機に限りFネットでの送信ができます。

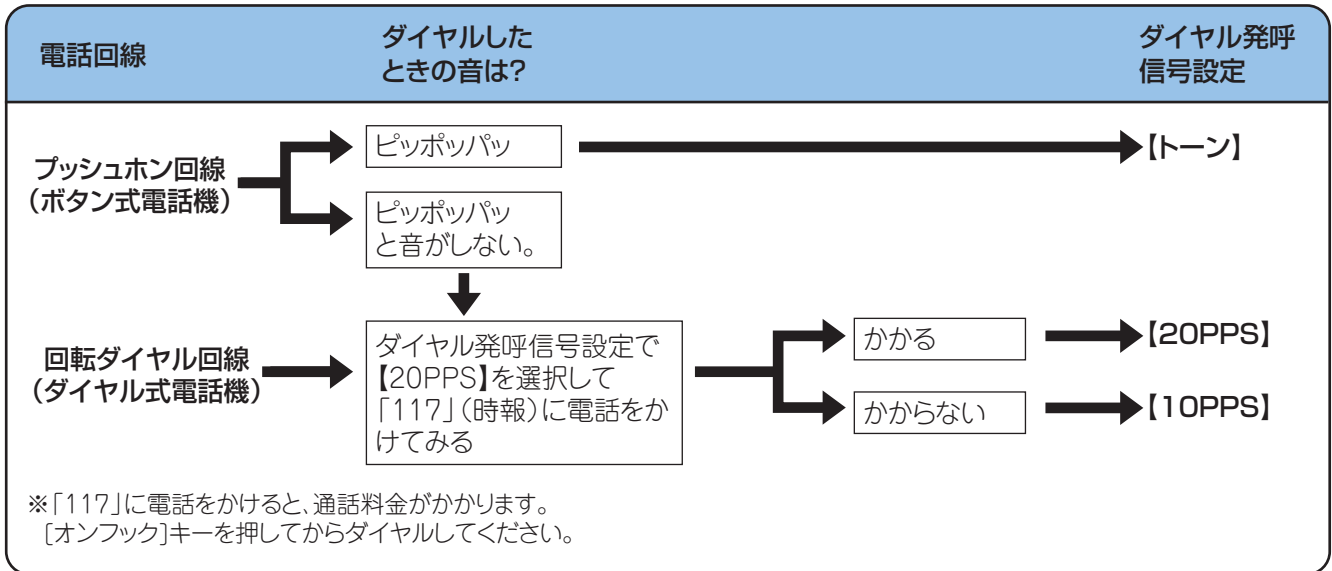


電話回線の種類について

電話回線には、プッシュホン（PB）回線とダイヤル回線（パルス回線）（ダイヤル速度：20PPS／10PPS）があります。現在お使いの回線の種類やダイヤル速度を確認の上、システム設定により回線の種類を合わせてください。

▶ [ダイヤル発呼信号（6-21ページ）](#)

電話回線の種類を確かめるには



- 電話回線の設定が合っていないと、電話がかからなかったり、ちがう相手にかかることがあります。
- 電話回線を設定したあとは、むやみに切り替えしないでください。



スキャナー

スキャナーとして使用する前に

スキャナー機能について 5-2

送信のしかた

スキャナーモードの基本画面について 5-4

送信操作を行う 5-5

- 基本的な送信のしかた 5-5
- 送信相手先の選択（[宛先表]キーの使い方） 5-9
- 両面原稿の送信のしかた 5-11

原稿の読み込み条件を設定する 5-12

- 原稿読み込みサイズの設定のしかた 5-12
- 解像度の選択のしかた 5-13
- ファイルフォーマットの選択のしかた 5-14
- 白黒／グレーを選択する 5-14
- スキャナー濃度を調整する 5-15
- ボイドエリアを設定する 5-15
- 薄い紙の原稿をスキャン（薄紙読み込み） 5-16
- 濃度の薄い部分を地色として薄くしたり濃くしたり調整する（地色調整） 5-18
- 画像の輪郭を調整する（シャープネス） 5-19
- プログラムを登録、修正／削除する 5-20
- プログラムの使いかた（呼び出し） 5-20

コンピューターからスキャンする（リモートPC スキャン）

TWAIN対応アプリケーションからスキャンする 5-21

USBメモリーに画像を保存する

USBメモリースキャン 5-25

- USBメモリースキャン機能を使う 5-25

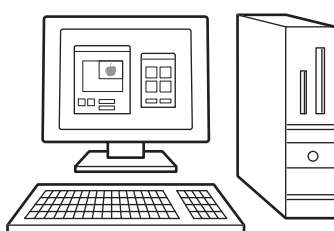


スキャナーとして使用する前に

スキャナー機能について

文書や写真をスキャンし、画像ファイルに変換できます。本機のスキャン機能には、以下の方法があります。また、書類や写真などの原稿を読み取ってデータファイルを生成し、企業内ネットワーク（イントラネット）やインターネットを利用してファイルサーバーやお使いのコンピュータに送信できます。スキャナー機能を使用して原稿を送信するには、事前に登録されている送信先（配信先情報名）を本機の操作パネル（ディスプレイ）から指定します。

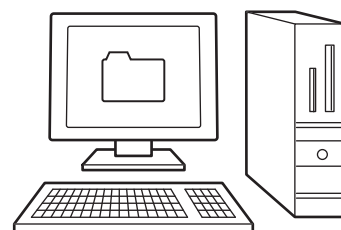
1. TWAIN 対応アプリケーションからスキャンする



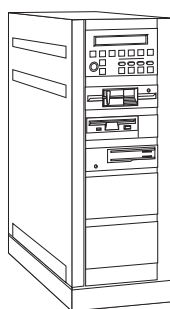
2. スキャンしたデータをUSBメモリーに保存する



4. スキャンしたデータを同じネットワークに接続されたコンピュータに送信する



3. スキャンしたデータをFTPサーバーに送信する



5. スキャンしたデータをE-mailで送信する





TWAIN対応アプリケーションからスキャンする

本機と同一ネットワークに接続されたWindowsコンピュータで、TWAIN対応アプリケーションソフトを使用してスキャンします。

リモートPCスキャンを行うには、本機に付属の「ソフトウェアCD-ROM」からスキャナードライバーをインストールする必要があります。

TWAIN対応アプリケーションからスキャンする方法については、[コンピューターからスキャンする（リモートPCスキャン）（5-21ページ）](#)を参照してください。

スキャンしたデータをUSBメモリーに保存する

スキャンしたデータを本機に装着したUSBメモリーに保存できます。以降本書では、「USBメモリースキャン」と呼びます。USBメモリースキャンについて詳しくは、「USBメモリースキャン」[USBメモリースキャン（5-25ページ）](#)を参照してください。

スキャンしたデータをFTPサーバーに送信する

スキャンしたデータをネットワーク上の記憶装置（FTPサーバー上の指定ディレクトリ）に送信できます。（以降本書ではファイルサーバー送信スキャンと呼びます）

スキャンしたデータを同じネットワークに接続されたコンピュータに送信する

スキャンしたファイルの本機と同一ネットワーク上のWindowsコンピュータに作成された共有フォルダーに送信します。

（以降本書では、共有フォルダー送信スキャンと呼びます）

スキャンしたファイルをお使いのコンピュータの指定フォルダーに送信するデスクトップ送信スキャンについては、販売店に問い合わせてください。

スキャンしたデータをE-mailで送信する

スキャンしたデータをE-mailで送信できます。（以降本書ではE-mail送信スキャンと呼びます）



送信のしかた

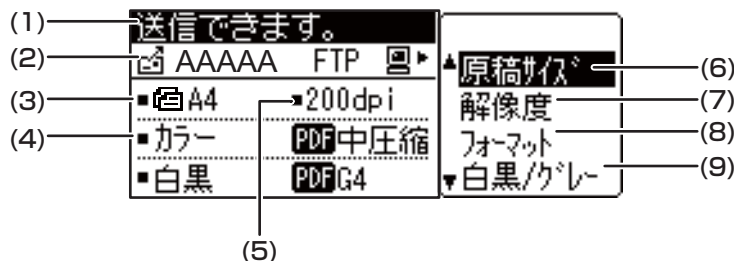
スキャナーモードの基本画面について

スキャナーモードの基本画面は、コピーモード、ファクスモードの基本画面を表示しているときに[スキャナー]キーを押すと表示されます。



[スキャナー]キーを押したあと、接続されているインタフェースを選択する画面が表示された場合は、[▼][▲]キーで、“ネットワーク”を選択して、[OK]キーを押してください。

スキャナーモードの基本画面



- | | |
|--|--|
| <p>(1) メッセージ表示部
現在の状態を表すメッセージが表示されます。</p> <p>(2) 送信先表示部
送信先が選択されています。
スキャナーの送信モードは、E-mail送信スキャン、共有フォルダー送信スキャン、ファイルサーバー送信スキャン、デスクトップ送信スキャン、USBメモリスキャンがあります。現在選択されている宛先登録名とその送信モードを表示します。</p> <p>(3) 読み込みモード・原稿サイズ表示部
現在選択されている原稿の読み込みモード、読み込みサイズを表示します。
☒…原稿送り装置の原稿セット検知時（原稿送り装置片面読み込み）
☒…原稿自動送り装置で両面原稿読み込み設定時
なし…原稿台（ガラス面）</p> <p>(4) フォーマット表示部
生成する画像データのファイルタイプとファイルの生成単位を表示します。</p> | <p>(5) 解像度表示部
原稿の読み込み解像度を表示します。</p> <p>(6) 原稿サイズ▶5-12ページ
原稿の読み込みサイズを設定するときに使用します。</p> <p>(7) 解像度▶5-13ページ
原稿の解像度を設定するときに使用します。</p> <p>(8) フォーマット▶5-14ページ
生成する画像データのファイルタイプとファイルの生成単位を設定するときに使用します。</p> <p>(9) 白黒／グレー▶5-14ページ
[白黒スタート]キーを押したときに、データを白黒2値、グレースケールのどちらで読み込むかを選択します。</p> |
|--|--|



送信操作を行う

基本的な送信のしかた



ファクス受信データ出力中はスキャナーの送信予約ができません。ファクスデータ出力終了後にスキャン操作してください。

原稿自動送り装置を使用する

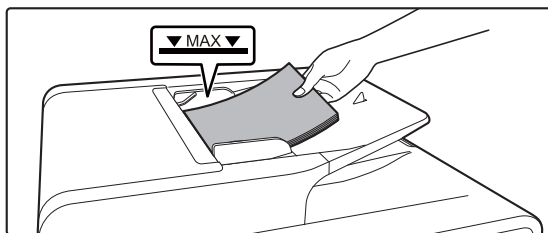
1

スキャナーモードになっていることを確認する

スキャナーモードのときは、[スキャナー]キーのランプが点灯しています。点灯していないときは[スキャナー]キーを押してください。スキャナー機能に対して、システム設定で“ユーザー管理”が設定されているときは、スキャナーモードに切り替えるとユーザー番号の入力を要求するメッセージを表示します。数字キーでユーザー番号（5桁）を入力してください。

▶ [ユーザー管理 \(6-12ページ\)](#)

2



原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットします。

▶ [原稿自動送り装置 \(1-32ページ\)](#)

3

原稿サイズを確認する

原稿サイズを変更する場合は、[原稿の読み込み条件を設定する \(5-12ページ\)](#) を参照して、原稿サイズを変更します。

4

必要であれば解像度を選択する

▶ [解像度の選択のしかた \(5-13ページ\)](#)

最初は[200dpi]に設定されています。

5

必要であればフォーマットを選択する

▶ [ファイルフォーマットの選択のしかた \(5-14ページ\)](#)

最初は次のように設定されています。

- カラー／グレースケール： PDF中
- 白黒： PDF G4

6

必要であれば白黒／グレーを選択する

▶ [白黒／グレーを選択する \(5-14ページ\)](#)



7 [宛先表]キーを押す

8 宛先の指定方法を選択する

▶ [送信相手先の選択（「宛先表」キーの使い方）（5-9ページ）](#)

送信先の指定方法は、次の3通りあります。

- “アドレス帳”を選択した場合▶[5-9ページ](#)
登録されている宛先を操作パネル上から直接選択します。
- “アドレス入力”を選択した場合▶[5-9ページ](#)
E-mail アドレスを直接入力します。（E-mail 送信スキャンのみ）
- “グローバルアドレス検索”を選択した場合▶[5-10ページ](#)
インターネットやイントラネットのディレクトリデータベースにアクセスして、送信したい相手のE-mailアドレスを検索します。また、グローバルアドレス検索では複数の送信先アドレスを入力して同報送信を行うことができます。宛先の検索を完了すると、基本画面に戻ります。



- 送信先に関する情報については、Web 画面で登録しておきます。
- 送信者名は、通常Web 画面で「SMTP 設定」の「返信アドレス」で登録した内容に設定されています。

9 [カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

原稿の読み込みが正常に終了すると、次の画面がしばらく表示され、基本画面に戻ります。



送信を中止するには…

▶ [送信を中止するには…（5-8ページ）](#)

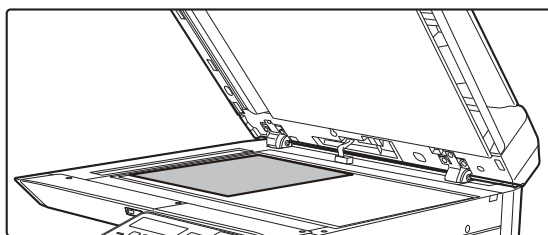
原稿台（ガラス面）を使用したとき

1 スキャナーモードになっていることを確認する

スキャナーモードのときは、[スキャナー]キーのランプが点灯しています。点灯していないときは[スキャナー]キーを押してください。スキャナー機能に対して、システム設定で“ユーザー管理”が設定されているときは、スキャナーモードに切り替えるとユーザー番号の入力を要求するメッセージを表示します。数字キーでユーザー番号（5桁）を入力してください。

▶ [ユーザー管理（6-12ページ）](#)

2



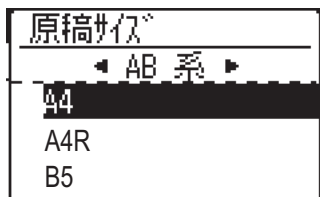
原稿をセットする

原稿台（ガラス面）にセットします。

▶ [原稿台（ガラス面）（1-34ページ）](#)



3



原稿サイズを指定する

右メニューで“原稿サイズ”を選択します。

選択できるサイズ

AB系：A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R、B6R、A6R、はがき、指定しない

インチ系：11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 11R"、5-1/2" x 8-1/2"、5-1/2"x8-1/2R"、指定しない



よく使用する原稿サイズの指定する

[システム設定] → [ファクス] → [送信機能設定] → [原稿サイズ指定] で設定します。

4

必要であれば解像度を選択する

▶ [解像度の選択のしかた \(5-13ページ\)](#)

最初は[200dpi]に設定されています。

5

必要であればフォーマットを選択する

▶ [ファイルフォーマットの選択のしかた \(5-14ページ\)](#)

最初は次のように設定されています。

- カラー／グレースケール： PDF中
- 白黒： PDF G4

6

必要であれば白黒／グレーを選択する

▶ [白黒／グレーを選択する \(5-14ページ\)](#)

7

[宛先表]キーを押す

8

宛先の指定方法を選択する

▶ [送信相手先の選択 \(\[宛先表\]キーの使い方\) \(5-9ページ\)](#)

送信先の指定方法は、次の3通りあります。

- “アドレス帳”を選択した場合▶[5-9ページ](#)
登録されている宛先を操作パネル上から直接選択します。
- “アドレス入力”を選択した場合▶[5-9ページ](#)
E-mail アドレスを直接入力します。(E-mail 送信スキャンのみ)
- “グローバルアドレス検索”を選択した場合▶[5-10ページ](#)
インターネットやイントラネットのディレクトリデータベースにアクセスして、送信したい相手のE-mailアドレスを検索します。
また、グローバルアドレス検索では複数の送信先アドレスを入力して同報送信を行うことができます。
宛先の検索を完了すると、基本画面に戻ります。



- 送信先に関する情報については、Web 画面で登録しておきます。
- 送信者名は、通常Web 画面で「SMTP 設定」の「返信アドレス」で登録した内容に設定されています。

9

[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

原稿の読み込みが始まります。



10

次の原稿があれば入れ替えて [カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

- すべての原稿を読み込むまでこの操作をくり返します。
- 約1分間この操作を行わないとき ([カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押さないとき) は、自動的に読み込みを終了し、送信されます。

11

最終ページの原稿を読み込ませたあと、[読み込み終了]キー (Ⓜ) を押す

原稿は、原稿自動送り装置を開いて取り出してください。原稿を取り出す、またはいずれかのキー操作が行われると基本画面に戻ります。



送信を中止するには…

▶ [送信を中止するには… \(5-8ページ\)](#)

送信を中止するには…

- 「読み込み中」と表示されているときや、[読み込み終了] (Ⓜ) キーを押す前に中止するには、[クリア]キーまたは[リセット]キーを押します。
- 原稿自動送り装置を使用して原稿を読み込み中に電源を切ったり停電したときは、原稿がつまったまま停止します。電源が入ったあと、Q&A 集 (困ったときは) を参照して、原稿を取り除いてください。
- E-mail送信スキャンを行う際は、特に次の点に注意をしてください。
送信する画像データのファイルサイズが大きくなりすぎないように、特に注意してください。1回のE-mail送信で扱えるデータの大きさは、メールサーバーの管理者によって制限されている場合があります、これを超えると送信先へデータが届きません。仮にこの制限がなく相手側に送信できたとしても、受信者側のネットワーク (インターネット) 接続環境によっては、受信するのに長時間かかるばかりでなく、ネットワークに対して過大な負担を与えてしまいます。また、大きなファイルサイズの画像データを連続して何度も送信するとネットワークに過度の負荷がかかり、この画像送信に関係のないデータ通信の速度を低下させたり、場合によってはメールサーバーやネットワークそのものをダウンさせてしまうことがあります。ファイルサイズが大きくなりがちな複数枚の原稿を送信したいときなどは、画質を下げたり、読み込み原稿サイズを小さくするなどの工夫をしてご利用ください。



送信相手先の選択（[宛先表]キーの使い方）

相手先の選択方法には、“アドレス帳”からの選択、“アドレス入力”、“グローバルアドレス検索”の3つがあります。



- E-mail送信スキャンを行うときは、複数の宛先を選択して同報送信できます。E-mail宛先、グループ(E-mail)宛先は最大20宛先を指定でき、合計で最大300宛先に同報送信できます。
- 共有フォルダー送信スキャン、ファイルサーバー送信スキャン、デスクトップ送信スキャンのときは、複数の送信先を指定することはできません。

“アドレス帳”からの選択

1 [宛先表]キーを押し、“アドレス帳”を選択して[OK]キーを押し

2



[◀][▶]キーで、タブを切り替え、[▲][▼]キーで、目的の宛先を選択する

Ⓜキーを押すごとに、選択されている宛先の詳細表示と宛先の一覧表示を切り替えることができます。

3

Ⓜキーを押し

選択した宛先にチェックマークが付きます。再度Ⓜキーを押すとチェックマークがはずれ、選択を解除できます。複数の宛先を選択するときは、操作を繰り返してください。

“アドレス入力”

1 [宛先表]キーを押し、[▼]キーで“アドレス帳”を選択し、[OK]キーを押し

2

目的の宛先を入力する

3

[OK]キーを押し



“グローバルアドレス検索”で検索する

1 [宛先表]キーを押し、[▼]キーで“グローバルアドレス検索”を選択し、[OK]キーを押し

2 検索文字を入力する

3 [▼][▲]キーで、該当する宛先を選択する

4 [OK]キーを押し



両面原稿の送信のしかた

現在の原稿の読み込みモードはアイコンで表示されます。

- …原稿自動送り装置からの片面原稿読み込み
- …原稿自動送り装置からの両面原稿読み込み
- …原稿台（ガラス面）からの原稿読み込み



原稿の表裏（両面原稿）を自動的に送信するときは以下の操作を行います。



以下のサイズ以外の両面原稿は、使用しないでください。
読み込みエラーや画像欠けが発生することがあります。

【定形サイズ原稿の場合】

AB系：A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R、8K、16K、16KR

インチ系：11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 11"R、5-1/2" x 8-1/2"、5-1/2" x 8-1/2"R

【不定形サイズ原稿の場合】

AB系 X：140～432mm/Y：131～297mm

インチ系 X：5-1/2"～17"インチ/Y：5-1/8"～11-5/8"インチ

1

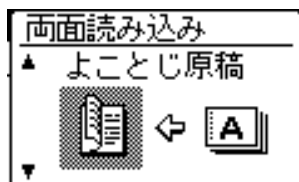
原稿自動送り装置に原稿をセットし、原稿サイズを確認する

原稿のセット方法については、[原稿のセット（1-32ページ）](#)を参照してください。

2

[両面]キーを押し、[▼][▲]キーで“両面”を選択して[OK]キーを押し

3



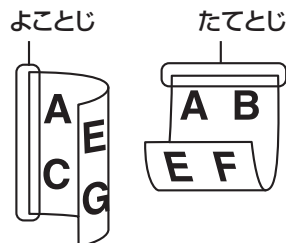
[▼][▲]キーで、“縦長原稿-よことじ”、“縦長原稿-たてとじ”、“横長原稿-よことじ”、“横長原稿-たてとじ”のいずれかを選択して[OK]キーを押し

4

[OK]キーを押し



- 両面原稿のよことじ原稿とたてとじ原稿について
両面原稿の側面で綴じたものが「よことじ」、天部（上部）で綴じたものが「たてとじ」です。
- 送信予約完了後、または[リセット]キーを押すと両面原稿読み込みは解除されます。
- 原稿両面読み込みは、原稿自動送り装置使用時のみ行うことができます。原稿台（ガラス面）使用時は、原稿の両面を読み込むことはできません。
- 原稿両面読み込みを解除するときは、“片面”を選択し、[OK]キーを押してください。





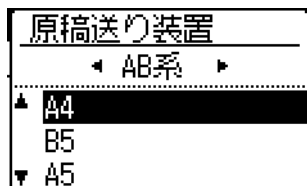
原稿の読み込み条件を設定する

用途に合わせて、原稿の読み込み条件（原稿読み込みサイズ、解像度、生成する画像データのファイルフォーマットなど）を変更できます。

原稿読み込みサイズの設定のしかた

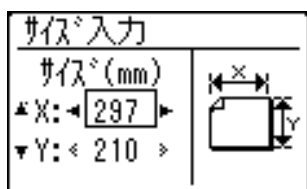
設定を変更するときは、原稿セット台または原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたあと（▶1-32ページ）、以下の操作を行ってください。

1



[▼][▲]キーで、“原稿サイズ”を選択し、設定する原稿サイズを選択する

インチ系の原稿サイズを選択するときは[▶]キーを押します。



原稿の読み込みサイズを手動で入力して設定できます。

原稿サイズ指定画面で[サイズ入力]を選択して[OK]キーを押すと、以下の画面が表示されます。（画面はAB系）

[▼][▲]キーで幅（X）か長さ（Y）を選び、[◀][▶]で1mmまたは1/8"ずつ調整することができます。

入力可能範囲

X：140～432 mm／5-1/2"～17"※

Y：131～297 mm／5-1/8"～11-5/8"

※ 原稿台（ガラス面）の場合は

X：25～432 mm／1"～17"

Y：25～297 mm／1"～11-5/8"



原稿読み込みサイズの手動設定を中止するときは[リセット]キーを押してください。

実際の原稿サイズが選択できないときは、実際のサイズよりも大きい原稿サイズを選択してください。選択したサイズが小さいときは、原稿の一部が送信されなくなります。



解像度の選択のしかた

原稿の読み込み解像度を設定できます。スキャナーモードで原稿をセットしたあと ([▶5-5ページ](#)手順1~3)、以下の操作を行います。

工場出荷時、解像度は“200dpi”に設定されています。

解像度を変更する必要があるときは、以下の操作を行います。

1

[▼][▲]キーで、“解像度”を選択し、解像度を選択する。

2

[OK]キーを押す



解像度について

- 最初は標準値として200dpiに設定されていますが、一般的な文字原稿であれば200dpiまたは300dpiの解像度設定で十分判読可能な画像データが生成されます。(200dpiは一般的なファクスの「細かい」字モードに相当します。)したがって600dpiでの設定は、写真やイラストなどの画像を含む原稿などで、より高精度の画像再現が要求される場合などの用途に限って選択してください。
- 標準値の設定はシステム設定で変更することができます。([▶6-27ページ](#))

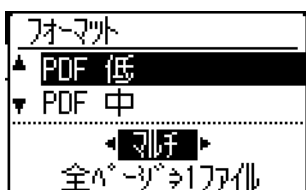


ファイルフォーマットの選択のしかた

スキャナーモードで原稿をセットしたあと（▶5-5ページ手順1～3）、以下の操作を行います。
工場出荷時、ファイルタイプは“カラー／グレースケール”の場合は、“PDF 中”、白黒の場合は“PDF G4”、ファイルの生成単位は“マルチ”（スキャンした画像をまとめて1ファイルに生成する）に設定されています。
ファイルフォーマットを変更する必要があるときは、以下の操作を行います。

1 [▼][▲]キーで、“フォーマット”を選択し、“カラー／グレースケール”または“白黒”を選択して[OK]キーを押す

2



[▼][▲]キーで、ファイルタイプを選択し、[◀][▶]キーでファイルの生成単位を選択する

“シングル”が選択されている場合は、スキャンした画像を1ページ1ファイルに生成します。
“マルチ”が選択されている場合は、スキャンした画像をまとめて1ファイルに生成します。

3

[OK]キーを押す



- ファイルタイプをTIFFに設定した場合のみ、ファイルの生成単位を選択できます。
- 付属のCD-ROMに収録されているソフトウェアを使用せずにスキャンした画像を開くためには、受信者側に上記で選択した画像形式（ファイルタイプ）を開くことのできるビューワソフトウェアが必要となります。受信者側で画像が開かない場合は、送信時の画像形式を変更すると開く場合があります。

白黒／グレーを選択する

[白黒スタート]キーを押したときに、データを白黒2値、グレースケールのどちらで読み込むかを選択します。
工場出荷時、解像度は白黒に設定されています。

白黒

原稿で使用されているカラーを白黒に変換してスキャンします。グレースケールと異なり、白黒に濃淡はなく、白と黒しか使用しません。

グレースケール

原稿で使用されているカラーを白黒に変換してスキャンします。白黒には濃淡があり、原稿に近い階調でスキャンします。

1

[▼][▲]キーで、“白黒／グレー”を選択する

2

“白黒”または“グレースケール”を選択して[OK]キーを押す

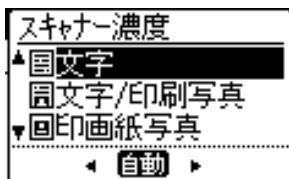


スキャナー濃度を調整する

画像の濃度を調整できます。設定値が大きいほど画像は濃くなります。
スキャナーモードで原稿をセットしたあと（▶5-5ページ手順1～3）、以下の操作を行います。
工場出荷時、スキャナー濃度は“文字/印刷写真 自動”に設定されています。

- 1 操作パネルの[濃度]キーを押し、[▼][▲]キーで原稿の種類を“文字” “文字/印刷写真” “印画紙写真” から選択する

2



[◀][▶]キーで、スキャナー濃度（5段階）を設定する

3

[OK]キーを押す

ボイドエリアを設定する

原稿読み取り時、この機能を設定すると本機の最大読み取り範囲に接する辺はボイド領域として読み取りません。
スキャナーモードで原稿をセットしたあと（▶5-5ページ手順1～3）、以下の操作を行います。
工場出荷時、ボイドエリア設定は“切”に設定されています。
ボイドエリアを変更する必要があるときは、以下の操作を行います。
ボイド領域：先端/後端が2.5mm
左側/右側が3.0mm

1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで“ボイドエリア設定”を選択し、[OK]キーを押す

2

“入”または“切”を選択する

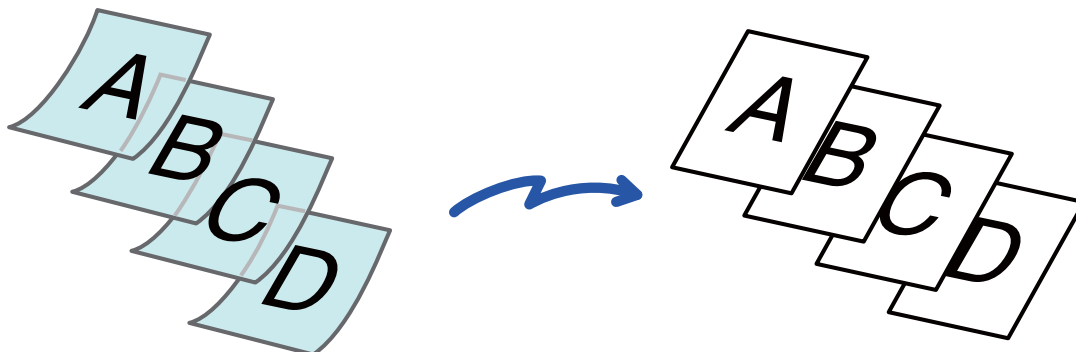
3

[OK]キーを押す



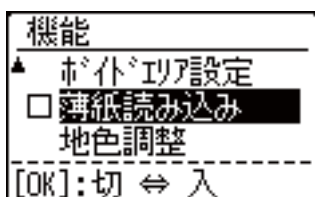
薄い紙の原稿をスキャン（薄紙読み込み）

原稿自動送り装置を使って薄い紙の原稿を読み込みたいときに使用します。この機能を使うと、薄い紙の原稿がつまりにくくなります。



薄紙読み込みの機能を設定したときは、自動両面読み込みはできません。

1



【機能】キーを押して【薄紙読み込み】を選択し、
【OK】キーを押す

アイコンにチェックが付きます。
設定が終わったら【戻る】キーを押します。



薄紙読み込みの設定を解除するには
【薄紙読み込み】を選択して、チェックを外します。

2

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットする

原稿ガイドはゆっくりと動かしてください。

▶ [原稿自動送り装置（1-32ページ）](#)



薄紙用紙をきつく押し込むと、薄紙がよじれて原稿づまりの原因となります。

3

送信先を指定する



4

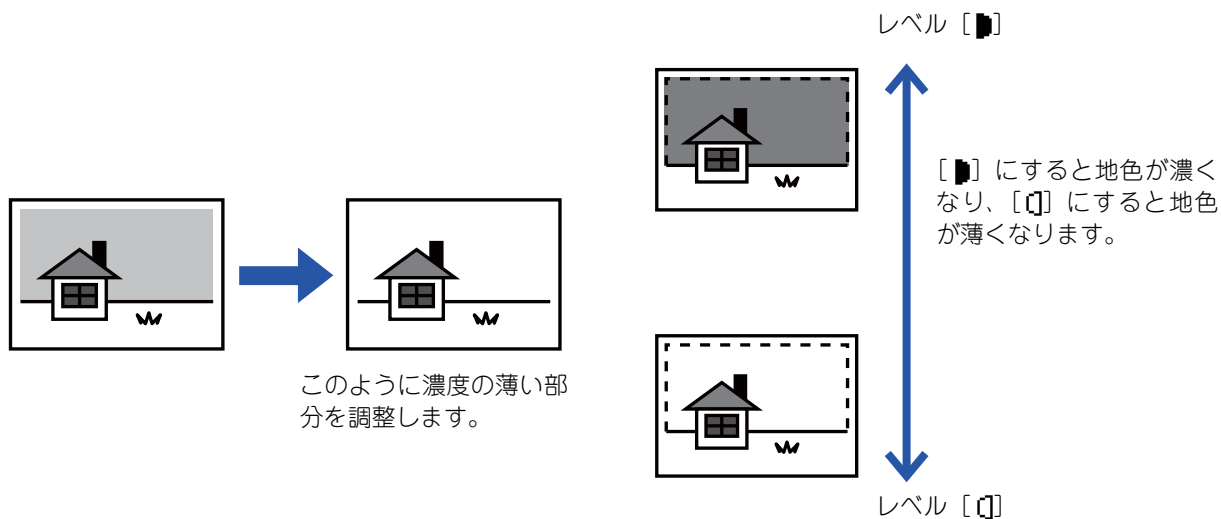
【カラースタート】キーまたは【白黒スタート】キーを押して、原稿の読み込みを開始する

「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。



濃度の薄い部分を地色として薄くしたり濃くしたり調整する（地色調整）

原稿の濃度の薄い部分を地色として薄くしたり濃くしたり調整します。



地色調整は、原稿を読み込む前に設定します。

1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押す

2

[▼][▲]キーで「地色調整」を選択して、[OK]キーを押す

3

[▼][▲]キーでレベル調整を選択し、[◀][▶]キーで調整する

[◀][▶]キーで消去したい下地のレベル（3段階）をを選択し、[OK]キーを押します。

■: 薄い下地のみ消去します。

□: 薄い下地から濃い下地まで消去します。



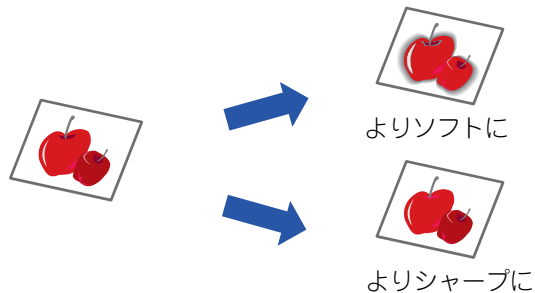
地色調整を解除したいときは、

[▼][▲]キーで「解除」を選択し、[OK]キーを押します。



画像の輪郭を調整する（シャープネス）

画像の輪郭を調節して、シャープな画像にしたり、ソフトな画像にしたりします。



シャープネスは、原稿を読み込む前に設定します。

1

[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで「特別機能」を選択して、[OK]キーを押し

2

[▼][▲]キーで「シャープネス」を選択して、[OK]キーを押し

3

[▼][▲]キーで「解除」、「ソフト」、「シャープ」を選択して、[OK]キーを押し



シャープネスを解除したいときは、
[▼][▲]キーで「解除」を選択し、[OK]キーを押します。

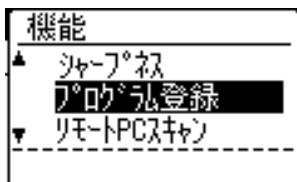


プログラムを登録、修正／削除する

送信相手先や原稿読み込み時の設定を登録しておき、読み込むときに設定内容呼び出して設定操作を簡略化することができる機能です。スキャンのためのプログラムは、最大2件まで登録できます。

プログラムには、●宛先設定 ●原稿サイズ指定 ●解像度 ●フォーマット ●濃度 ●両面読み込み ●薄紙読み込み、を登録できます。

1



[機能]キーを押し、[▼][▲]キーで“プログラム登録”を選択し、[OK]キーを押す

2

“新規” “修正” “削除” のいずれかを選択し、[OK]キーを押す

● プログラムを登録する

(1) “未登録” を選択し、[OK]キーを押す

(2) [▼][▲]キーでプログラム登録する項目を選択し、[OK]キーを押す

それぞれの設定画面が表示されます。

(3) 必要な設定を行い[OK]キーを押す

(2) の画面に戻ります。

(4) 設定が完了したら [カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

プログラムが登録されます。

● プログラムを修正する

(1) 修正したいプログラムを選択して[OK]キーを押す

登録時と同様の操作で設定を修正してください。

● プログラムを削除する

(1) 削除したいプログラムを選択して[OK]キーを押す

(2) “削除する” を選択して[OK]キーを押す

プログラムの使いかた（呼び出し）

[プログラム1]または[プログラム2]キーを押します。以降[基本的な送信のしかた（5-5ページ）](#)を参照して操作してください。



コンピューターからスキャンする (リモート PC スキャン)

TWAIN対応アプリケーションからスキャンする

本機はTWAINの規格に準拠しており、TWAIN対応のアプリケーションからスキャンを行うことができます。リモートPCスキャンモードでのスキャンは、「ソフトウェアCD-ROM」の統合インストーラからスキャナードライバーをインストールしたときのみ使用できます。スキャナードライバーのインストールおよび設定については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。

1

```
リモートPCスキャン
原稿を取り出さないでください。
IPアドレス: 000.000.000.000
[戻る]: 終了
```

原稿を原稿台（ガラス面）または原稿自動送り装置にセットし、[機能]キーを押して“リモートPCスキャン”を選択し、[OK]キーを押す

2

TWAIN対応アプリケーションを起動し、[ファイル]メニューからスキャナー選択用のメニューを選択する



スキャナーの選択方法はアプリケーションソフトによって異なります。詳しくはアプリケーションソフトに付属の取扱説明書またはヘルプを参照してください。

3

[SHARP MFP TWAIN K] を選択し、[選択] ボタンをクリックする



お使いの環境によっては、上記ソースの選択画面で「SHARP MFP TWAIN K 1.0 (32-32)」と表示されることがあります。

4

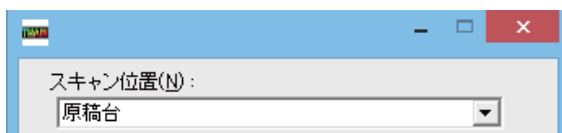
アプリケーションの [ファイル] メニューから画像を取り込むためのメニューを選択する

スキャナードライバーの設定画面が表示されます。

▶ [スキャナードライバーの設定 \(5-23ページ\)](#)



5



【スキャン位置】メニューから、手順1で原稿をセットした場所を選択する

原稿自動送り装置に原稿をセットしたときは、原稿の綴じ位置によって[SPF (両面-左右開き)]または[SPF (両面-上下開き)]を選択します。



[スキャン位置]メニューから[SPF (両面-左右開き)]または[SPF (両面-上下開き)]を選択したときは、原稿の向きを[左側からセットする]か[先頭からセットする]を選択します。

6

【プレビュー】ボタンをクリックする

原稿のイメージがプレビュー画面に表示されます。



- 原稿が斜めにセットされていてイメージと異なっている場合は、原稿を正しくセットしなおして、もう一度 [プレビュー] ボタンをクリックしてください。
- プレビュー画像が正しい向きで表示されていないときは、プレビュー画面の [回転] ボタンをクリックします。クリックするごとにプレビュー画像が時計回りに90度回転し、原稿をセットしなおさなくても向きを補正できます。
▶ [プレビュー画面 \(5-24ページ\)](#)
- 原稿自動送り装置に複数枚原稿をセットしたときは、原稿の一番上のページのみをプレビューし、原稿出紙部に排紙します。プレビューする原稿は1ページ目ですが、2ページ目も排紙されますので、排紙した全ての原稿を、スキャンを実行する前に、原稿自動送り装置に戻してください。

7

スキャン範囲を指定し、スキャン時の設定を行う

スキャン範囲の指定方法やスキャン時の設定についての詳細は、スキャナードライバーのヘルプを参照してください。

▶ [スキャナードライバーの設定 \(5-23ページ\)](#)



高解像度の設定で広範囲をスキャンすると、データ容量が大きくなり読み取り時間が長くなります。スキャン設定は、原稿の種類 (テキスト、写真、モノクロなど) に合わせて設定することをお勧めします。

8

設定が完了したら、【スキャン】ボタンをクリックする

スキャンが始まり、お使いのアプリケーションソフトに画像が取り込まれます。

お使いのアプリケーションによっては、取り込んだ画像にファイル名を付けて保存してください。



[スキャン]ボタンをクリックしたあと、スキャン途中で中止する場合は、キーボードの[Esc]キーを押すか、操作パネルの[クリア]キーか[リセット]キーを押してください。

9

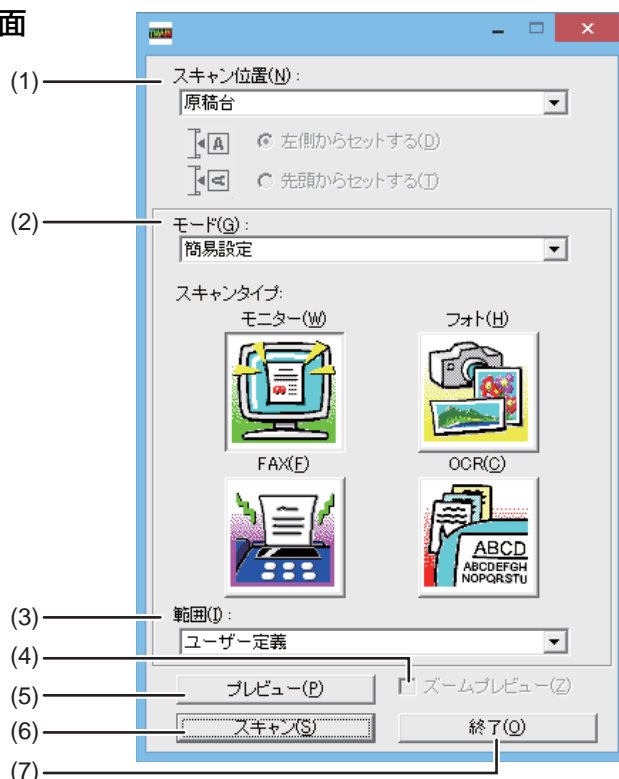
操作パネルの【戻る】キーをクリックする



スキャナードライバーの設定

スキャナードライバーの設定画面は、スキャンの設定を行う「設定画面」と、スキャンした画像が表示される「プレビュー画面」で構成されます。スキャナードライバーの設定内容に関しては、プレビュー画面の[ヘルプ]ボタンをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

設定画面



(1) 【スキャン位置】メニュー

[原稿台]、[SPF (片面)]、[SPF (両面-左右開き)] または [SPF (両面-上下開き)] から原稿をセットしたスキャン位置を選択します。

▶ [TWAIN対応アプリケーションからスキャンする \(5-21 ページ\)](#)

(2) 【モード】メニュー

「簡易設定」画面と「詳細設定」画面を切り替えます。「簡易設定」画面では、原稿の種類やスキャンする目的に合わせてモニター、フォト、FAX、OCRのどれかをクリックして選択します。

これら4つのボタンの初期設定値を変更するときや、画質、解像度など細かい設定をしてスキャンするときには、「詳細設定」画面に切り替えます。

それぞれの設定の詳細はプレビュー画面の[ヘルプ]ボタンをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

(3) 【範囲】メニュー

スキャン範囲を設定します。[自動]を選ぶと本機が検出した原稿サイズでスキャンします。

また、プレビューウィンドウ内でスキャン範囲を自由に設定することもできます。

(4) 【ズームプレビュー】チェックボックス

有効にすると、[プレビュー] ボタンをクリックした際に、選択されている範囲を拡大してプレビューします。チェックをはずすと、通常の見返しに戻ります。

[スキャン位置] メニューで [SPF] を選択した場合は、[ズームプレビュー] 機能は使用できません。

(5) 【プレビュー】ボタン

原稿をプレビューします。

このボタンをクリックしたあとすぐにキーボードの [Esc] キーを押してキャンセルした場合、プレビュー画面には何も表示されません。

(6) 【スキャン】ボタン

設定内容に従って原稿をスキャンします。[スキャン] ボタンをクリックする前に、スキャン設定が正しく行われているか確認してください。

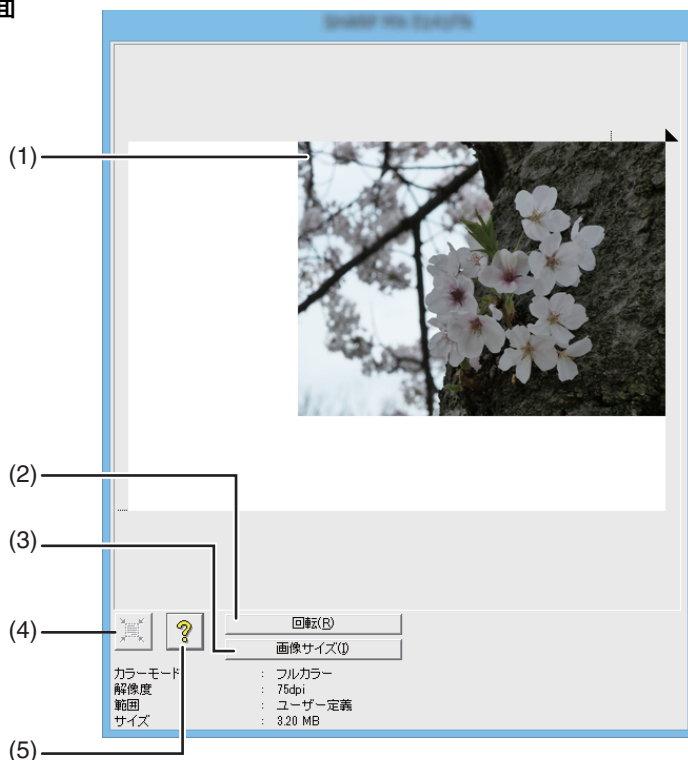
[スキャン] ボタンをクリックしたあとに、スキャンを途中で中止する場合は、キーボードの [Esc] キーを押してください。

(7) 【終了】ボタン

スキャナードライバー設定画面を閉じるときにクリックします。



プレビュー画面



(1) プレビューウィンドウ

設定画面の[プレビュー]ボタンをクリックして読み取った画像が表示されます。ウィンドウ内をドラッグすると、スキャンする範囲を指定できます。この場合、選択範囲に現れる破線の囲み内がスキャン範囲となります。選択範囲の外側をクリックすると、スキャン範囲の指定を解除できます。

(2) [回転] ボタン

クリックするごとにプレビュー画像が時計回りに90度回転します。原稿をセットしなおさなくても向きを補正することができ、スキャンした際は、プレビューウィンドウに表示されている向きで画像ファイルを生成できます。

(3) [画像サイズ] ボタン

クリックするとダイアログボックスが表示され、数値を入力して読み取り範囲を指定できます。数値の単位は、Pixel/mm/Inchから選択できます。あらかじめ任意に読み取り範囲を指定しておく、入力した数値によって、指定した読み取り範囲の左上を基準に範囲が変化します。

(4) [範囲自動設定] ボタン

プレビュー画像が表示されているときにクリックすると、プレビューされた画像全体をスキャン範囲として自動選択できます。

[範囲自動設定] ボタンをクリックすると、プレビュー画像全体が自動的に選択され、スキャン範囲に指定されます。



プレビュー画像

プレビューウィンドウ

(5) [ヘルプ] ボタン

クリックすると、スキャナードライバーのヘルプが表示されます。



USB メモリーに画像を保存する

USBメモリースキャン

USBメモリースキャン機能を使う

市販のUSBメモリーを本機に装着し、読み込んだ画像を送信（保存）できます。

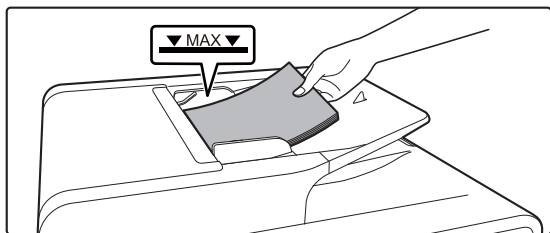
原稿自動送り装置を使用する

1 スキャナーモードになっていることを確認する

スキャナーモードのときは、[スキャナー]キーのランプが点灯しています。点灯していないときは[スキャナー]キーを押してください。スキャナー機能に対して、システム設定で“ユーザー管理”が設定されているときは、スキャナーモードに切り替えるとユーザー番号の入力を要求するメッセージを表示します。数字キーでユーザー番号（5桁）を入力してください。

▶ [ユーザー管理 \(6-12ページ\)](#)

2



原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットします。

▶ [原稿自動送り装置 \(1-32ページ\)](#)



1回の送信操作で、原稿セット台と原稿台（ガラス面）の両方から原稿を順次読み込ませることはできません。

3

[宛先表]キーを押す

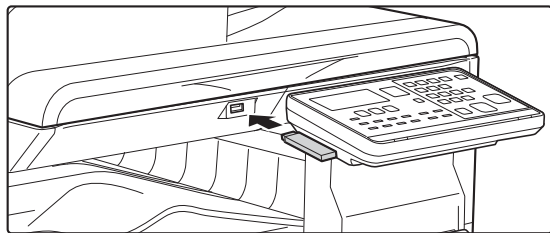
4

宛先選択
▲ アドレス帳
アドレス入力
グローバルアドレス検索
▼ USBメモリースキャン

[▼]キーで、“USBメモリースキャン”を選択し、[OK]キーを押す



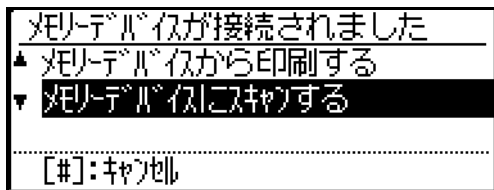
5



USBメモリーを本機に接続する



手順4の前に、USBメモリーを本機に接続すると、以下のような画面が表示されます。



手順3~4の代わりに上記の画面で[▼][▲]キーで“メモリーデバイスにスキャンする”を選択して、[OK]キーを押すと、宛先としてUSBメモリーが選択された状態になります。

6

【カラースタート】キーまたは【白黒スタート】キーを押す

原稿の読み込みが始まります。

原稿の読み込みが正常に終了すると、“送信終了”と表示されます。

原稿台（ガラス面）を使用する

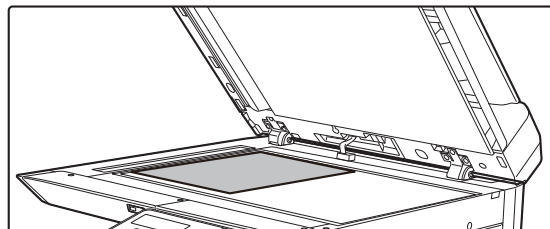
1

スキャナーモードになっていることを確認する

スキャナーモードのときは、[スキャナー]キーのランプが点灯しています。点灯していないときは[スキャナー]キーを押してください。スキャナー機能に対して、システム設定で“ユーザー管理”が設定されているときは、スキャナーモードに切り替えるとユーザー番号の入力を要求するメッセージを表示します。数字キーでユーザー番号（5桁）を入力してください。

▶ [ユーザー管理（6-12ページ）](#)

2



原稿をセットする

原稿台（ガラス面）にセットします。

▶ [原稿台（ガラス面）（1-34ページ）](#)



3

原稿サイズを確認する

原稿サイズを変更する場合は、[原稿の読み込み条件を設定する \(5-12ページ\)](#) を参照して、原稿サイズを変更します。

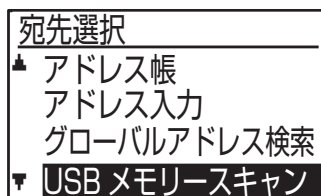


1回の送信操作で、原稿セット台と原稿台（ガラス面）の両方から原稿を順次読み込ませることはできません。

4

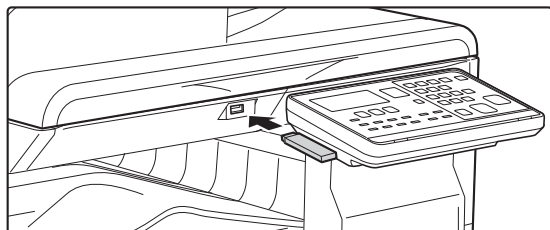
[宛先表]キーを押す

5



[▼]キーで、“USBメモリースキャン”を選択し、[OK]キーを押す

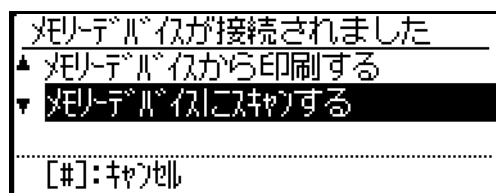
6



USBメモリーを本機に接続する



手順4の前に、USBメモリーを本機に接続すると、以下のような画面が表示されます。



手順3～4の代わりに上記の画面で[▼][▲]キーで“メモリーデバイスにスキャンする”を選択して、[OK]キーを押すと、宛先としてUSBメモリーが選択された状態になります。

7

[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

原稿の読み込みが始まります。

8

次の原稿があれば入れ替えて [カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押す

- すべての原稿を読み込むまでこの操作をくり返します。
- 約1分間この操作を行わないとき（[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーを押さないとき）は、自動的に読み込みを終了し、送信されます。



9

最終ページの原稿を読み込ませたあと、[読み込み終了]キー（#）を押す

原稿は、原稿自動送り装置を開いて取り出してください。原稿を取り出す、またはいずれかのキー操作が行われると基本画面に戻ります。



システム設定

システム設定でできること

- 複合機の共通プログラム 6-2
- 管理者パスワード（暗証番号）の登録について 6-2
 - 管理者パスワードの登録 6-2

システム設定リスト

システム設定を使う

システム設定の項目

- 管理者パスワード変更 6-10
- 初期設定 6-10
- ネットワーク 6-10
- ユーザー管理 6-12
- デバイス設定 6-13
- 操作設定 6-15
- 省エネ設定 6-16
- リスト/レポートプリント 6-17
- オートキャリブレーション 6-17
- セキュリティ設定 6-18
- トナーカートリッジの取り出し 6-18
- コピー 6-19
- プリンター 6-20
- ファクス 6-20
- スキャナー 6-27



システム設定でできること

システム設定では、管理者が本機の使用状況に応じて機能の設定や解除などを行うことができます。

複合機の共通プログラム

このプログラムは暗証番号式のユーザー認証機能をはたらかせることや電力消費の節減設定、各種周辺装置の管理などを行うことができます。

ユーザー認証機能をはたらかせると、登録されている暗証番号（ユーザー番号）の入力が必要になります。（入力しないと使用できません。）

ユーザー認証機能を有効にしているときは、コンピュータからプリントするときにユーザー番号を入力します。（プリントの際、まちがったユーザー番号を入力してもプリントできるように設定可能ですのでユーザー管理には注意が必要です。ただし、システム設定で“無効ユーザーの印刷禁止”を設定すると、まちがったユーザー番号のプリントを禁止できます。）

管理者パスワード（暗証番号）の登録について

管理者の方は、工場出荷時の管理者パスワード（システム設定を使用する際に入力が必要な5桁の暗証番号）を新しい番号（5桁の暗証番号）に変更してください。また、新しい番号を必ず覚えておいてください。次回よりシステム設定を操作する際、新しい番号の入力が必要になります。（管理者パスワードは1種類しか登録できません。）

工場出荷時の管理者パスワードは、スタートガイドを参照してください。

管理者パスワード（暗証番号）の変更方法は「[管理者パスワードの登録（6-2ページ）](#)」を参照してください。

管理者パスワードの登録

1

[機能]キーを押す

機能画面が表示されます。

2

[▼][▲]キーで、“システム設定”を選択する

3

[OK]キーを押す

管理者パスワード入力画面が表示されます。

4

数字キーを使って管理者パスワード（5桁）を入力する

- 初めて管理者パスワードを登録するときは、工場出荷時のコードを入力します。（スタートガイドを参照してください。）
- 数字キーを押すと、「*」が表示されます。
- モード選択画面が表示され、“管理者パスワード変更”が選択されています。

5

[OK]キーを押す

管理者パスワード変更画面が表示されます。



6

管理者パスワード変更	
現在のパスワード:	00000
新しいパスワード:	-----

数字キーを使って新しい管理者パスワードを入力する

管理者パスワードには、任意の5桁の数字を使います。

7

[OK]キーを押す

- 前回設定された管理者パスワードが新しい管理者パスワードに変更されます。
- [リセット]キーを押すと、基本画面に戻ります。



システム設定リスト

複合機の共通プログラム

プログラム名	ページ
管理者パスワード変更	
管理者パスワード変更	6-10
初期設定	
日付・時刻	6-10
ネットワーク	
ネットワーク設定の確認	6-10
接続タイプ	6-10
有線設定	6-10
無線設定 (インフラストラクチャーモード)	6-11
無線設定 (アクセスポイントモード)	6-11
ユーザー管理	
ユーザー認証	6-12
ユーザーの登録	6-12
機能の使用制限	6-12
使用枚数の制限	6-12
ユーザーカウントの表示	6-12
ユーザーカウントの消去	6-12
ログイン失敗時の警告	6-12
デバイス設定	
原稿送り装置の検知設定	6-13
坪量設定	6-14
定着クリーニング	6-14
レジスト調整	6-14
普通紙互換設定	6-14
ステータスランプ設定	6-14
エラーランプ設定	6-14
受信データあり時の点滅表示	6-14
操作設定	
オートクリアモード	6-15
画面タイムアウトの禁止	6-15
言語設定	6-15
メッセージ表示時間	6-15
キータッチ音の設定	6-15
基準値のキータッチ音の設定	6-15
キーの受付時間設定	6-15
キーのオートリピート禁止	6-15
用紙サイズ設定の禁止	6-15
省エネ設定	
オートパワーシャットオフモード	6-16
オートパワーシャットオフモード設定	6-16

プログラム名	ページ
予熱モード	6-16
リモートジョブ終了後オートパワーシャットオフへ移行する	6-16
Ecoスキャン設定	6-16
リスト/レポートプリント	
ファクス設定リスト	6-17
転送テーブルリスト	6-17
ユーザー管理記録表	6-17
通信記録表	6-17
受信可否番号表	6-17
ユーザー情報プリント	6-17
オートキャリブレーション	
オートキャリブレーション	6-17
セキュリティ設定	
IPsec設定	6-18
フィルタを有効にする	6-18
個人情報と本機内データの初期化	6-18
トナーカートリッジの取り出し	

コピー機能の設定プログラム

プログラム名	ページ
コピー	
身分証コピー設定	6-19
カードスキャン標準値設定	6-19
原稿サイズ指定	6-19
標準トレイ設定	6-19
用紙補給トレイ自動選択	6-19
用紙自動選択設定	6-19
用紙自動選択の対象用紙タイプ	6-19
標準露光モード	6-19
回転コピー設定	6-19
ソート自動選択	6-19
倍率自動選択	6-19
コピー部数上限値	6-19



プリンター機能の設定プログラム

プログラム名	ページ
プリンター	
注意通告ページ	6-20
プリントホールドデータの全削除	6-20

ファクス機能の設定プログラム

プログラム名	ページ
ファクス	
リスト設定	
通信結果表プリント	6-20
記録表プリント	6-21
初期設定	
ダイヤル発呼信号	6-21
ポーズ時間	6-21
発信元登録	6-21
音量設定	6-21
通信終了音色	6-22
通信終了音時間	6-22
外部電話接続	6-22
電話／ファクス自動切替	6-22
ダイヤルイン設定	6-22
Fネット設定	6-22
留守番電話接続	6-22
リモート切替番号	6-23
ファクスプリントホールドの禁止	6-23

送信機能設定

原稿サイズ指定	6-23
画質・濃度	6-23
自動縮小送信	6-23
回転送信	6-23
デフォルト送信設定	6-23
クイックオンライン	6-23
日付・発信元印字位置	6-24
宛先確認機能	6-24
相手先ビジー時の再コール	6-24
送信エラー時の再コール	6-24
自動送信時コール時間	6-24
デフォルト日付発信元送出	6-24

プログラム名	ページ
受信機能設定	
自動受信コール回数	6-25
手動受信コール回数	6-25
受信データプリントトレイ	6-25
受信データプリント条件	6-25
定形サイズへの自動縮小プリント	6-25
両面受信	6-25
レター受信時の縮小印字	6-26
受信データ転送	6-26
受信データ転送先電話番号登録	6-26
受信可否設定	6-26
受信可否番号登録	6-26
ポーリング保護設定	
ポーリング保護	6-27
ポーリング許可番号の登録	6-27

スキャナー機能の設定プログラム

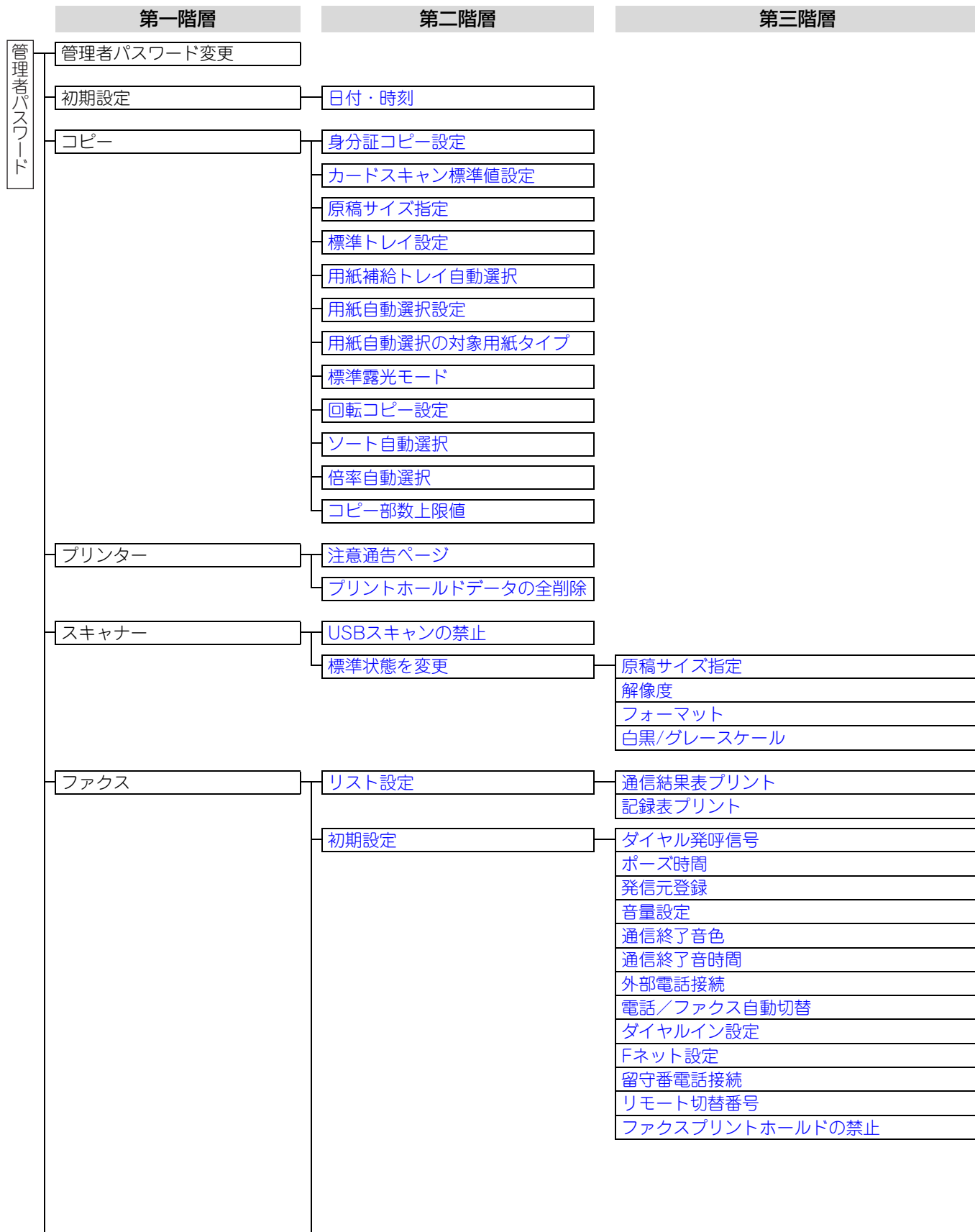
プログラム名	ページ
スキャナー	
USBスキャンの禁止	6-27
標準状態を変更	
原稿サイズ指定	6-27
解像度	6-27
フォーマット	6-27
白黒/グレースケール	6-27



各設定項目の分類（階層構造）詳細

システム設定の設定操作は、下記のような階層構造で分類されています。

[システム設定の項目（6-10ページ）](#) から記載している各設定項目を設定／解除する際には、この分類を参考にしてください。システム設定によっては、さらに下の階層（設定画面）があります。





第一階層	第二階層	第三階層	
	送信機能設定	原稿サイズ指定 画質・濃度 自動縮小送信 回転送信 デフォルト送信設定 クイックオンライン 日付・発信元印字位置 宛先確認機能 相手先ビジー時の再コール 送信エラー時の再コール 自動送信時コール時間 デフォルト日付発信元送付	
	受信機能設定	自動受信コール回数 手動受信コール回数 受信データプリントトレイ 受信データプリント条件 定形サイズへの自動縮小プリント 両面受信 レター受信時の縮小印字 受信データ転送 受信データ転送先電話番号登録 受信可否設定 受信可否番号登録	
	ポーリング保護設定	ポーリング保護 ポーリング許可番号の登録	
	ネットワーク	ネットワーク設定の確認	
		接続タイプ	有線 無線インフラストラクチャーモード 有線+無線アクセスポイントモード
		有線設定	IPv4設定 IPv6設定
		無線設定 (インフラストラクチャーモード)	SSIDの手動入力
		無線設定 (アクセスポイントモード)	SSIDの設定 セキュリティ設定 本機のIPアドレス設定 利用チャンネル設定 送信出力設定 帯域設定 IPアドレス配付範囲設定
	ユーザー管理	ユーザー認証	
ユーザーの登録			
機能の使用制限			
使用枚数の制限			
ユーザーカウントの表示			
ユーザーカウントの消去			
ログイン失敗時の警告			
無効ユーザーの印刷禁止			



第一階層	第二階層	第三階層
デバイス設定	原稿送り装置の検知設定	
	坪量設定	
	定着クリーニング	
	レジスト調整	
	普通紙互換設定	
	ステータスランプ設定	
	エラーランプ設定	
	受信データあり時の点滅表示	
操作設定	オートクリアモード	
	画面タイムアウトの禁止	
	言語設定	
	メッセージ表示時間	
	キータッチ音の設定	
	基準値のキータッチ音の設定	
	キーの受付時間設定	
	キーのオートリピート禁止	
	用紙サイズ設定の禁止	
省エネ設定	オートパワーシャットオフモード	
	オートパワーシャットオフモード設定	
	予熱モード	
	リモートジョブ終了後オートパワーシャットオフへ移行する	
	Ecoスキャン設定	
リスト/レポートプリント	ファクス設定リスト	
	転送テーブルリスト	
	ユーザー管理記録表	
	通信記録表	
	受信可否番号表	
	ユーザー情報プリント	
オートキャリブレーション		
セキュリティ設定	IPsec設定	
	フィルタを有効にする	
	個人情報と本機内データの初期化	
トナーカートリッジの取り出し		



システム設定を使う

1

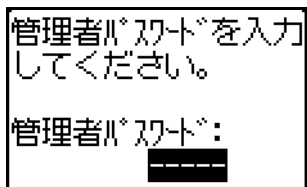
[機能]キーを押す

機能画面が表示されます。

2

[▼][▲]キーで、“システム設定”を選択し、[OK]キーを押す

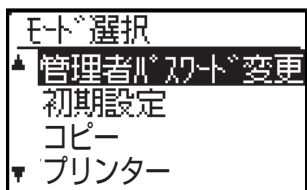
3



数字キーを使って管理者パスワードを入力する

- 数字キーを押すと、「*」が表示されます。
- モード選択画面が表示されます。

4



[▼][▲]キーで、希望のモードを選択する

5

[OK]キーを押す

6

[▼][▲]キーで希望の設定を選択する

7

[OK]キーを押し、設定の画面指示に従う

いくつかの設定には、設定名の前にチェックボックスが表示されます。[OK]キーを押すと、チェックマークが表示され、有効に設定されます。

もう一度[OK]キーを押すと、チェックマークが消え、設定は解除されます。チェックボックスの付いた設定については、このあと手順8に進んでください。

8

続けて同じモードの設定を使う場合は、[▼][▲]キーで別の項目を選択する

別のモードの設定を使う場合は、[戻る]キーを押して希望のモードを選択してください。システム設定を終了するには、[リセット]キーを押します。



システム設定の項目

管理者パスワード変更

管理者パスワードを変更するときに使用します。
管理者パスワード（暗証番号）の変更方法は [管理者パスワードの登録（6-2ページ）](#) を参照してください。

初期設定

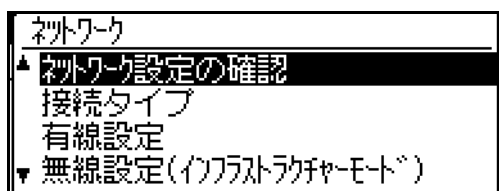
本機を操作するうえで最初に行う、基本的な設定です。
“初期設定”を選択して各設定を行ってください。

日付・時刻

本機に内蔵されている時計の日付と時刻を設定します。

ネットワーク

ネットワークに関する設定を行います。
“ネットワーク”を選択して各設定を行ってください。



ネットワーク設定の確認

設定されている内容を確認します。

接続タイプ

本体のネットワーク接続のタイプを切り替えることができます。

有線設定

IPv4設定

TCP/IPプロトコル（IPv4）を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。設定項目は以下のとおりです。

DHCP有効

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）を使用して、IPアドレスを自動的に取得します。この設定を有効にしている場合、IPアドレスを手動で入力する必要はありません。

IPv4アドレス

本機のIPアドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスクを入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

IPv6設定

TCP/IPプロトコル（IPv6）を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。設定項目は以下のとおりです。

IPv6を有効にする

この設定を有効にします。

DHCPv6有効

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）を使用して、IPアドレスを自動的に取得します。この設定を有効にしている場合、IPアドレスを手動で入力する必要はありません。

手動設定アドレス

本機のIPアドレスを入力します。

プレフィックス長

プレフィックス長（0～128）を入力します。

デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイのアドレスを入力します。



- DHCP 使用時、本機に割り当てられたIP アドレスは、自動的に変更されることがあります。変更された場合、プリンタードライバーのポートを設定しないおしてプリントしてください。
- IPv6 環境での本機の対応プロトコルは、LPD、Raw(9100)、IPPです。



無線設定 (インフラストラクチャーモード)

(無線LANアダプター装着時に表示)

無線インフラストラクチャーモードの接続を設定します。

SSIDの手動入力

半角32文字以内で、SSIDを入力します。

・セキュリティタイプの設定

セキュリティタイプを選択します。
(なし、WEP、WPA/WPA2-mixed パーソナル、WPA2パーソナル)

・暗号化の設定

「セキュリティタイプの設定」で選択した項目に応じた暗号化方式を選択します。
(なし、WEP、AES/TKIP、AES)

・セキュリティキー設定

無線接続で使用するセキュリティキーを設定します。

WEP	5桁の半角英数または10桁の16進数(64bit) または
WPA/WPA2 -mixed パー ソナル	13桁の半角英数または26桁の16進数(128bit)
WPA2 パーソナル	8-63桁の半角英数または64桁の16進数

無線設定 (アクセスポイントモード)

(無線LANアダプター装着時に表示)

無線アクセスポイントモードの接続を設定します。

SSIDの設定

半角32文字以内で、SSIDを入力します。

セキュリティ設定

・セキュリティタイプの設定

セキュリティタイプを選択します。
(なし、WEP、WPA/WPA2-mixed パーソナル、WPA2パーソナル)

・暗号化の設定

「セキュリティタイプの設定」で選択した項目に応じた暗号化方式を選択します。
(なし、WEP、AES/TKIP、AES)

・セキュリティキー設定

無線接続で使用するセキュリティキーを設定します。

WEP	5桁の半角英数または10桁の16進数(64bit) または
	13桁の半角英数または26桁の16進数(128bit)
WPA/WPA2 -mixed パー ソナル	8-63桁の半角英数または64桁の16進数
WPA2 パーソナル	

本機のIPアドレス設定

アクセスポイントのIPアドレスを設定します。

利用チャンネル設定

アクセスポイントを使用するチャンネルを設定します。

送信出力設定

アクセスポイントの送信出力を設定します。

帯域設定

アクセスポイントの帯域を設定します。

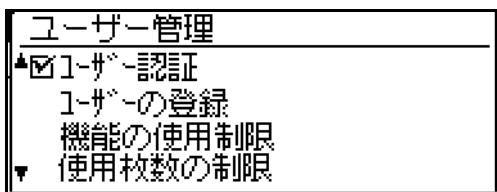
IPアドレス配付範囲設定

アクセスポイントが使用するIPアドレスのリース範囲とリース期間を設定します。



ユーザー管理

ユーザー認証に関する設定を行います。
“ユーザー管理”を選択して各設定を行ってください。



ユーザー認証

ユーザー認証設定の有無と認証方法を設定します。ユーザー認証を適用すると、本機の利用者をユーザー単位で登録し、それぞれのユーザーでログインしたときに個別の設定を適用できます。

ユーザーの登録

ユーザーを新規登録、削除、または変更を行います。



- ユーザー番号を入力するとき、5桁入力しないと [OK]キーは受け付けられません。
- ユーザー番号の入力途中で[クリア]キーを押すと、ユーザー番号表示が“-----”になります。

機能の使用制限

全ユーザーまたは特定のユーザーに使用できる機能を設定します。

- コピー（カラー / 白黒）
- プリンター
（“カラー” / “白黒” / “USBメモリーダイレクトプリント”）
- スキャナー
- ファクス

使用枚数の制限

全ユーザーまたは特定のユーザーにコピー、プリンターの使用枚数の制限を設定します。

- コピー（カラー）
- コピー（白黒）
- プリンター（カラー）
- プリンター（白黒）

コピー、プリンターそれぞれの使用枚数の上限を設定します。

ユーザーカウントの表示

この設定は、ユーザー番号ごとのコピー、プリンター、スキャナーの集計枚数やコピー、プリンターの使用制限枚数を表示します。集計枚数は紙づまりなどを起こしたものはカウントされません。

ネットワークスキャナー機能を使用しているときは原稿の送信カウントを表示します。

[◀][▶]キーで、ユーザー番号内の別のモード（コピー、プリンター、スキャナー）の集計枚数や制限枚数を切り換えて表示します。

[▼][▲]キーで、別のユーザー番号を表示します。

ユーザーカウントの消去

ユーザーごと、またはすべてのユーザーのコピー、プリンター、スキャナーの枚数集計を消去します。

ログイン失敗時の警告

この設定が有効に設定されているときに、まちがったユーザー番号を3回続けて入力すると、1分間キー操作を受け付けなくなり、「操作を禁止します。管理者に相談してください。」のメッセージが表示されます。

無効ユーザーの印刷禁止

この設定を有効にすると、登録されていないユーザー番号や無効なユーザー番号でプリントされたときに、出力を禁止できます。この設定は、“ユーザー認証設定”が有効になっているとき機能します。

工場出荷時は、この機能は有効に設定されています。

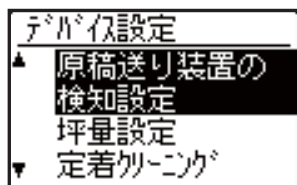


無効なユーザー番号でプリントジョブが行われたときのプリント枚数は、“その他”（ユーザー番号）にカウントされます。



デバイス設定

本機のハードウェア機能に関する設定を行います。これらの設定は、モード選択画面の“デバイス設定”を選択して表示されるデバイス設定画面から希望の設定を選択し、[OK]キーを押してください。



原稿送り装置の検知設定

原稿自動送り装置でサイズ検知できる定形原稿サイズを、次の8種類のグループの中から選択します。

選択項目	原稿検知サイズ
AB-1	A3、A4、A4R、A5、B4、B5、B5R、11"x17"、8-1/2"x14"、8-1/2"x11"
AB-2	A3、A4、A4R、A5、B4、B5、B5R、11"x17"、8-1/2"x11"、216mmx330mm (8-1/2"x13")
AB-3	A3、A4、A4R、A5、B4、11"x17"、8-1/2"x11"、216mmx330mm (8-1/2"x13")、8K、16K、16KR
AB-4	A3、A4、A4R、A5、B4、B5、B5R、11"x17"、8-1/2"x11"、216mmx340mm (8-1/2"x13-2/5")
AB-5	A3、A4、A4R、A5、B4、B5、B5R、11"x17"、8-1/2"x11"、216mmx343mm (8-1/2"x13-1/2")
Inch-1	11"x17"、8-1/2"x14"、8-1/2"x11"、8-1/2"x11"R、5-1/2"x8-1/2"、A3、A4
Inch-2	11"x17"、216mmx330mm (8-1/2"x13")、8-1/2"x11"、8-1/2"x11"R、5-1/2"x8-1/2"、A3、A4
Inch-3	11"x17"、8-1/2"x13-2/5 (216mmx340mm)、8-1/2"x11"、8-1/2"x11"R、5-1/2"x8-1/2"、A3、A4



坪量設定

使用する用紙の坪量に応じて、トナーの定着温度の制御を行います。

ここでの設定を、普通紙、再生紙、パンチ紙、印刷済み用紙、レターヘッド紙、色紙の各用紙に適用します。

60g/m²～79g/m²と80g/m²～105g/m²から選択します。



- ここで設定した坪量と同じ範囲の坪量の用紙を必ず使用してください。設定範囲と異なる普通紙などを混ぜてトレイにセットしないでください。
- 設定の変更は、本機の再起動後に有効になります。本機の再起動については、[電源の入/切 \(1-12ページ\)](#) を参照してください。

定着クリーニング

印字された出力紙上に黒点や汚れが出たときに、この機能を使って定着のクリーニングを行ってください。この機能が実行されると「V」の字が印字された用紙が出力されることで、定着部のクリーニングが行われます。



この機能を1度実行しても改善されない場合は、再度実行してください。

レジスト調整

カラープリントしたときに印刷面の色がずれる場合、各色の印字位置を調整して、色ズレを低減します。

普通紙互換設定

本機では普通紙1と普通紙2で用紙タイプを分けていますが、普通紙1と普通紙2に対応していないドライバーで普通紙にプリントするとき、どちらの用紙タイプを使用してプリントするかを設定します。

ステータスランプ設定

本機のファクス受信/データランプの動作について設定します。“パターン1”、“パターン2”、“使用しない”から選択します。それぞれのパターンの説明については、[ファクス受信/データランプとエラーランプ \(1-11ページ\)](#) を参照してください。

エラーランプ設定

本機でエラーが発生し、エラーランプの動作を設定します。エラーの状況に応じて点灯/点滅させるか、点滅表示のみにするか、使用しないかを選択します。

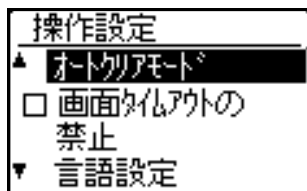
受信データあり時の点滅表示

ファクスデータを受信したとき、また受信データを保持しているときに、ファクス受信/データランプを点滅させるかを設定します。



操作設定

操作パネルに対するさまざまな操作に関する設定を行います。これらの設定は、モード選択画面の“操作設定”を選択して表示される操作設定画面から希望の設定を選択し、[OK]キーを押してください。



オートクリアモード

前回のコピー終了後、この設定で設定した時間、放置した状態が続くとオートクリアがはたらき、コピーモードの標準状態に戻ります。この設定の時間設定は、“0秒”、“10秒”、“20秒”、“60秒”、“90秒”、“120秒”の中から選択できます。工場出荷時は、60秒に設定されています。

[◀][▶]キーで、希望の時間を選択します。オートクリアを解除（はたらかないようにする）したいときは、“0”を選択してください。



ページ集約コピーで1ページ分の原稿をすべて読み込んでいないとき（2ページで1枚、4ページでは3枚以下を読み込んでいるとき）や、身分証コピーで片面のみ読み込んだときなど、スキャンしたデータが保持されているときは、オートクリア機能ははたらきません。

画面タイムアウトの禁止

この設定は、スキャナーまたはファクス機能のキー操作中にオートクリアの設定時間中になにも操作しない状態が続いたとき、操作中の画面を自動的に基本画面に戻すか、戻さないかを設定します。工場出荷時は、オートクリアの設定時間中になにも操作しない状態が続いたとき操作中の画面を自動的に基本画面に戻すよう設定されています。

言語設定

この設定は、操作パネルに表示されているメッセージの言語を切り換えるときに使用します。

メッセージ表示時間

この設定は、操作パネルに表示されるメッセージ（一定時間表示されたあと自動的に消えるもの）の表示時間を設定するときに使用します。表示時間は“短い(3秒)”、“普通(6秒)”、“長い(9秒)”の中から選択できます。工場出荷時は、“普通(6秒)”に設定されています。

キータッチ音の設定

操作パネルのキーを押したときに鳴るキータッチ音の音の長さを設定します。工場出荷時は“短い”に設定されています。

[▼][▲]キーで、キーを押したときの音量を選択します。キータッチ音を鳴らさないようにしたいときは、“なし”を選択してください。

基準値のキータッチ音の設定

この設定は、キー操作中にあらかじめ設定されている基準値を選択したとき、報知音を鳴らすか、鳴らさないかを設定します。工場出荷時は、報知音が鳴らないように設定されています。

キーの受付時間設定

キーを押したとき、押されたキーを確定するまでの時間を設定します。この時間を長めに設定しておく、押すキーを誤った場合でも、設定した時間に達するまでに押しているキーを離すとキー入力が行われたことにならないため、誤入力されません。ただし設定した時間の間中、キーを押し続けると、キー入力が行われたことにならないので、ご注意ください。工場出荷時は“最小”に設定されています。

キーのオートリピート禁止

この設定は、ズーム倍率や原稿サイズを設定する場合など、希望の設定値が表示されるまで、[▼][▲]キーを押し続けたとき、連続的にその値を変化させる設定を禁止したいときに使用します。（キーのオートリピートがはたらきません。）この設定を有効にしたときは、キーを押し続ける代わりに、繰り返し押す操作を行ってください。工場出荷時は、キーのオートリピートがはたらくよう設定されています。

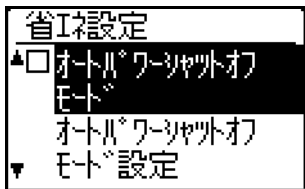
用紙サイズ設定の禁止

機能メニューの“用紙サイズ設定”を禁止します。禁止に設定すると、[機能]キーを押したときの“用紙サイズ設定”が使用できなくなり、管理者以外が容易に“用紙サイズ設定”を変更することを防ぎます。工場出荷時は、この機能は解除されています。



省エネ設定

本機の省エネルギーに関する設定を行います。これらの設定は、モード選択画面の“省エネ設定”を選択して表示される省エネ設定画面から希望の設定を選択し、[OK]キーを押してください。



オートパワーシャットオフモード

この設定は一定時間何も操作がなければ、自動的に定着部の電源が切れるオートパワーシャットオフモードを設定します。

オートパワーシャットオフモードを設定すると、電力消費を抑えることができ、天然資源のむだづかいや環境汚染を減らすことにつながります。

工場出荷時には、この機能は有効に設定されています。



上記のようなオートパワーシャットオフモードの目的をご理解いただき、なんらかの理由でオートパワーシャットオフモードがはたらかないように設定したい場合には、[オートパワーシャットオフモード設定](#)（下記）を使って、このモードがはたらくまでの時間を長めに設定することで、ご対応いただくことをお勧めいたします。

オートパワーシャットオフモード設定

この設定は一定時間何も操作がなければ、自動的に定着部の電源が切れるオートパワーシャットオフモードがはたらくまでの時間を設定します。この機能を使うと、電力消費を抑えることができ、天然資源のむだづかいや環境汚染を減らすことにつながります。

動作までの時間は、“1～60分”の中から選択できます。利用状況に合わせた時間を設定してください。

工場出荷時は、1分に設定されています。

予熱モード

この設定は一定時間何も操作がなければ、自動的に定着部の温度を下げる予熱モードがはたらくまでの時間を設定します。この機能を使うと、電力消費を抑えることができ、天然資源のむだづかいや環境汚染を減らすことにつながります。動作までの時間は、“1～60分”の中から選択できます。利用状況に合わせた時間を設定してください。

工場出荷時は、1分に設定されています。

リモートジョブ終了後オートパワーシャットオフへ移行する

オートパワーシャットオフ状態のときに、パソコンなどからのプリント実行や、ファクス受信データの出力後、すぐにオートパワーシャットオフモードへ移行します。

Ecoスキャン設定

Ecoスキャン設定は、イメージ送信やスキャン保存などのプリントしない場合に定着部をOFFにしたまま実行します。

- ・コピー（工場出荷時：無効）
- ・スキャナー送信（工場出荷時：有効）
- ・ファクス送信（工場出荷時：有効）



リスト/レポートプリント

管理者にしか参照できないリストやレポートをプリントするときには使用します。

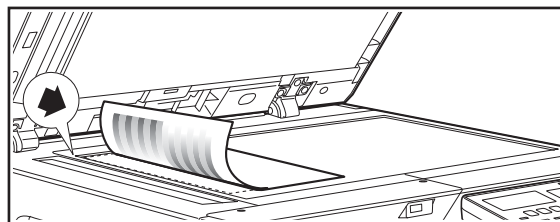
[リスト/レポートプリント]を選択し、プリントしたいリストやレポートを選択します。

ファクス設定リスト	システム設定の現在の設定状況をプリントします。 また、発信元名、発信元番号、ポーリング許可番号、転送先番号が確認できます。
転送テーブルリスト	受信データのネットワーク転送時の各種設定をプリントします。
ユーザー管理記録表	ユーザーごとの通信時間と通信枚数をプリントします。
通信記録表	過去に行った通信記録（通信日、相手先名、所要時間、通信結果など）をプリントします。
受信可否番号表	受信可否番号登録（6-26ページ） で登録したファクス受信を許可、拒否している番号のリストをプリントします。
ユーザー情報プリント	ユーザーごとのユーザー名、ユーザー番号、使用枚数、使用枚数制限、機能権限設定をプリントします。

オートキャリブレーション

プリントの階調がずれた場合、階調を補正できます。出力されたテストパターンを原稿として読み込ませることで、自動的に階調のずれを補正します。

[OK]キーを押してテストパターンを出力したあと、自動調整の開始を求めるメッセージが表示されます。原稿台（ガラス面）にテストパターンを下記のようにセットしてください。



▶ マークに原稿の左上を合わせてください。

テストパターンと同じサイズのコピー用紙（5枚程度）を、セットしたテストパターンの上に重ねて原稿自動送り装置を静かに閉じ、[OK]キーを押してください。



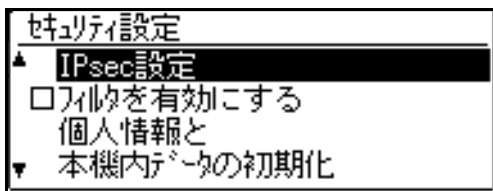
「オートキャリブレーション」を行っても、階調のずれが残る場合は、再度実行すると改善されることがあります。



セキュリティ設定

セキュリティに関する設定や個人情報・本機内データの初期化を行います。

“セキュリティ設定”を選択し、各設定を行います。



IPsec設定

ネットワーク上のデータ送受信にIPsecを適用できません。

IPsec有効

IPsecを使用して送信するかを設定します。

IKEv1 設定

IKEv1の設定を行います。

事前共有キー

IKEv1で使用される事前共有キーを入力します。

SAライフタイム (時間)

SAライフタイムを設定します。

IKEライフタイム

IKEライフタイムを設定します。

フィルタを有効にする

Webページの「フィルタ」にて設定したIPアドレスフィルタ、Macアドレスフィルタを有効にします。

本機で有効にした場合でも、デバイスWebページ上も設定は同期します。

工場出荷時は“無効”に設定されています。

個人情報と本機内データの初期化

[OK]キーを押すと、以下の個人情報と本機内データの初期化を行います。

- ファクス状況に表示されるすべての情報
- メモリーボックス内の画像データ
- ファクスの未出力データ
- プリントホールドデータ
- システム設定の設定値
- ネットワーク設定の設定値
- ユーザー情報 > ユーザー登録情報
- ユーザー情報 > 使用枚数制限
- ユーザー情報 > 機能使用制限
- ユーザー情報 > ユーザーカウント (デフォルトユーザーは除く)
- ファクス/スキャナー宛先
- グループ
- ユーザーインデックス (スキャナー)
- プログラム
- 受信データの自動転送テーブル
- 掲示板登録データ
- 発信元情報
- 受信可否番号
- 転送登録情報
- プロダクトキー

トナーカートリッジの取り出し

(BP-20C25/BP-21C20)

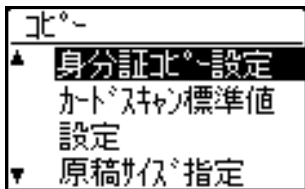
管理者が任意のタイミングでトナーカートリッジを取り出すことができます。

取り出したいトナーを選択し、[OK]キーを押してください。



コピー

よく使うさまざまなコピー機能を設定します。これらの設定は、モード選択画面の“コピー”を選択して表示されるコピー設定画面から希望の設定を選択し、[OK]キーを押してください。



身分証コピー設定

身分証コピー使用時に、身分証がコピーされるレイアウトの設定を変更できます。

レイアウトパターンについては、[身分証コピー \(2-19 ページ\)](#) のイラストを参照してください。

カードスキャン標準値設定

カードスキャンのサイズ入力画面を表示したときの、サイズの標準値を設定します。

工場出荷時には、横(X)は86mmに、縦(Y)は54mmに設定されています。

横または縦を選択し、[◀][▶]キーでそれぞれの標準値を設定します。

原稿サイズ指定

原稿台の原稿サイズの初期値を設定します。

選択できるサイズ

AB系: A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R、B6R、A6R、はがき、指定しない

インチ系: 11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2 x 13-2/5"、8-1/2 x 13、8-1/2 x 11、8-1/2 x 11R、5-1/2 x 8-1/2、5-1/2 x 8-1/2R、指定しない

工場出荷時は“A4”に設定されています。

標準トレイ設定

初期状態において選択される給紙トレイを設定します。選択できるトレイの表示は、装着しているオプションの給紙トレイによって異なります。

工場出荷時は“トレイ1”に設定されています。

用紙補給トレイ自動選択

用紙補給されたトレイを自動的に選択します。工場出荷時は“無効”に設定されています。

用紙自動選択設定

用紙自動選択の設定をします。

[する]は全トレイ対象とし、[する(手差し除く)]は手差しトレイを除いたトレイが対象となります。工場出荷時は“する”に設定されています。

用紙自動選択の対象用紙タイプ

用紙自動選択の対象となる用紙タイプを指定します。

- ・普通紙1 (工場出荷時: 有効)
- ・普通紙2 (工場出荷時: 有効)
- ・再生紙 (工場出荷時: 無効)

標準露光モード

[コピー濃度]キーを押したときに選択される画質・濃度を設定します。

コピー濃度は“文字”、“文字/印刷写真”、“印画紙写真”の3種類から選択できます。

それぞれの設定に応じて、「自動」または「手動」(5段階)の濃度を設定します。

[▼][▲]キーで原稿種類を選択して、[◀][▶]キーで必要に応じ濃度を調整し、[OK]キーを押します。

回転コピー設定

回転コピーを使用するかを設定します

工場出荷時は“有効”に設定されています。

ソート自動選択

原稿自動送り装置を使ってコピーするときの標準出力モードを設定します。

工場出荷時は“ソート”が設定されています。

倍率自動選択

用紙トレイ(用紙サイズ)を手動選択した際に、倍率自動選択を行うか設定します。

工場出荷時は“無効”に設定されています。

コピー部数上限値

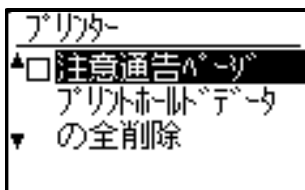
1回のコピーで設定できる(コピー部数表示部に表示できる)部数の上限を設定します。

工場出荷時は、“999”部に設定されています。



プリンター

プリンター機能に関する設定を行います。
“プリンター”を選択して設定を行ってください。



注意通告ページ

メモリーがいっぱいになったなどのエラーによってプリントがうまくいかなかったとき、注意通告ページをプリントする、しないを設定します。

プリントホールドデータの全削除

本機にホールドしているプリントホールドデータをすべて削除します。

ただし、以下のデータは対象外となります。

- 印刷中のジョブ
- 保存途中のプリントホールドデータ

ファクス

ファクス機能のシステム設定について説明します。
“ファクス”を選択して各設定を行ってください。

リスト設定

リストに関する設定を行います。
“リスト設定”を選択して各設定を行ってください。

通信結果表プリント

通常送信時、同報通信時、送信時の原稿内容プリント、受信時それぞれの、いずれの状態のときに通信結果表をプリントするか指定できます。

通常送信時	同報通信時	送信時の原稿内容プリント
<input type="checkbox"/> 常にプリント	<input checked="" type="checkbox"/> 常にプリント	<input type="checkbox"/> 常にプリント
<input type="checkbox"/> 通信失敗時	<input type="checkbox"/> 失敗時	<input type="checkbox"/> エラー時
<input type="checkbox"/> プリントなし	<input type="checkbox"/> プリントなし	<input type="checkbox"/> プリントなし
受信時		
<input type="checkbox"/> 常にプリント		
<input type="checkbox"/> エラー時		
<input type="checkbox"/> プリントなし		

通常はそれぞれ上記の の項目に設定されています。

“通常送信時”、“同報通信時”、“送信時の原稿内容プリント”、“受信時”から選択します。

- 通常送信時を選択した場合、“常にプリント”、“通信失敗時”、“プリントなし”から選択します。
- 同報通信時を選択した場合、“常にプリント”、“失敗時”、“プリントなし”から選択します。
- 送信時の原稿内容プリントを選択した場合、“常にプリント”、“エラー時”、“プリントなし”から選択します。
- 受信時を選択した場合、“常にプリント”、“エラー時”、“プリントなし”から選択します。



“送信時の原稿内容プリント”は、通信結果表がプリントされた際に、送信原稿内容(1ページ目の一部)をいっしょにプリントするときに使用します。通信結果表をプリントしないように設定しているとこのシステム設定は無効になります。



記録表プリント

本機のメモリーに記憶されている通信記録を定期的にプリントするように設定できます。

通信記録の記憶件数が送受信合わせて50件を超えた場合に自動的にプリントする、または指定した時刻

(1日1回のみ)になると自動的にプリントするように設定できます。両方とも設定することもできます。

通常は自動プリントしないように設定されており、

“メモリーフル時の自動プリント”にチェックマークを付けると、通信記録が送受信合わせて50件を超えたときに自動的にプリントされます。

“時刻指定プリント”を有効にして、プリント時刻を指定すると、指定した時刻に通信記録表をプリントするように設定できます。

ディスプレイのチェックボックスに、チェックマークが表示され設定が有効になります。

設定が有効な状態でこの操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効になります。



- “時刻設定プリント”の設定を解除したいときは“解除”を選択します。
- [▼][▲]キーで“解除する”を選択し、[OK]キーを押す
- “メモリーフル時の自動プリント”を設定しない場合、通信記録が50件を超えたときは、古い通信記録から順に、プリントされずに消去されます。
- 通信記録表は、手動でプリントすることもできます。(登録・設定した内容をプリントする (4-45ページ) 参照)

初期設定

工場出荷時の各種ファクス機能の設定を使用状況に応じて設定したり、解除できるシステム設定です。

“初期設定”を選択して各設定を行ってください。

ダイヤル発呼信号

本機を接続する電話回線の種類を設定します。接続する電話回線に応じて、トーン回線とダイヤル回線(ダイヤル速度: 20PPS/10PPS)を設定します。通常は、トーンに設定されています。

トーン回線のとき[トーン]

ダイヤル (20PPS) 回線のとき[20pps]

ダイヤル (10PPS) 回線のとき[10pps]

ポーズ時間

相手先ファクス番号などの番号の間に入れる待ち時間(ポーズ時間)の長さを変更するときに設定します。

通常は2秒に設定されており、相手先番号をダイヤルしたり登録する際に[ポーズ]キーを押すと、1回の入力につき2秒の待ち時間が入力されます。

この時間設定は、1秒単位で15秒まで設定できます。

発信元登録

本機の電話番号・利用者を登録するときに使用します。登録した発信元名・発信元番号は、送信時に相手の記録紙の上部にプリントされます。また、発信元番号は、ポーリング受信(特別通信機能 (4-32ページ) 参照)を行うときの許可番号になります。

登録した内容は「ファクス設定表」をプリントして確認できます。▶6-17ページ

発信元電話番号は最大20桁まで登録できます。

発信元名は全角/半角の区別なく18文字まで登録できます。



発信元登録を削除するときは次の操作をします。

- (1) “削除”を選択し、[OK]キーを押す
- (2) [▼][▲]キーで、“削除する”を選択し、[OK]キーを押す

音量設定

オンフック音量、呼び出し音量、回線モニター音量、通信終了音量、原稿読込終了音量の調節をします。


- オンフック音量は、“大”、“中”、“小”から選択します。
- オンフック音量以外は、“大”、“中”、“小”、“なし”から選択します。

設定	工場出荷時の設定
オンフック音	中
呼び出し音量	小
回線モニター音量	音なし
通信終了音量	小
原稿読込終了音	中



通信終了音色

送信時・受信時それぞれの終了音の音色を設定するときに使用します。“Pattern1”、“Pattern 2”、“Pattern 3”の中から選択できます。

[OK]キーを押して音色を確定する前に、キーを押すと、選択した音色を聞いて確認できます。

通信終了音時間

通信終了音を鳴らす秒数を設定するときに使用します。“2.0秒”、“2.5秒”、“3.0秒”、“3.5秒”、“4.0秒”の中から選択できます。通常は、“3.0秒”が選択されています。

外部電話接続

(外部電話機接続時のみ)

本機に外部電話機を接続したときのみ設定してください。設定しないと本機に接続した外部電話機でファクスを手動受信したり、電話機として使用できません。

通常は設定されていません。

ディスプレイのチェックボックスに、チェックマークが表示され設定が有効（接続する）になります。

設定が有効の状態での操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効（接続しない）になります。





外部電話機を実際に接続していないときに設定しないでください。ファクスを正常に受信できないことがあります。

電話／ファクス自動切替

(外部電話機接続時でファクスの受信モードが“自動”に設定されているときのみ)

自動受信モードで、電話とファクスを自動的に切り替えるかどうかを設定します。[\(電話とファクスを自動的に切り替えて使用する \(4-58ページ\) 参照\)](#) 通常は自動切替しない設定になっています。外部電話を接続しているときだけ設定を変更してください。

- 通常は、6回に設定されています。
- 入力をまちがえたときは、キーで修正したい位置（数字上）にカーソルを移動して入力し直します。
- 呼出音の回数を無制限“00”にすると、電話がかかってきたときは受話器を上げるまで呼出音が鳴りつづけます。



- ダイヤルイン設定をしているときは、電話／ファクス自動切替の設定はできません。
- 切り替えない状態に設定するときは、“なし”を選択し、[OK]キーを押します。
- 外部電話として留守番電話を接続して使用している場合は設定できません。

ダイヤルイン設定

NTTのダイヤルインサービスを利用するときに設定します。通常は、利用しない状態に設定されています。ダイヤルインの利用については、利用契約が必要です。詳しくは、お近くのNTT窓口へお問い合わせください。

- 入力をまちがえたときは、[クリア]キーを押して入力し直します。
- 4桁のダイヤルイン番号はNTTのダイヤルインサービスで与えられた番号を入力してください。



- 外部電話が接続され、接続設定が有効になっていないと設定できません。
- 電話／ファクス自動切替が設定されているときは、ダイヤルイン設定はできません。
- 利用しない状態に設定するときは、“しない”を選択し、[OK]キーを押します。

Fネット設定

NTTのFネットサービスを利用するときに設定します。通常は、利用しない状態に設定されています。

Fネットの利用については、利用契約が必要です。詳しくは、お近くのNTT窓口へお問い合わせください。

- ディスプレイのチェックボックスに、チェックマークが表示され設定が有効（利用する）になります。
- 設定が有効の状態での操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効（利用しない）になります。

留守番電話接続

留守番電話機能付きの外部電話機を接続している場合、何らかの理由で外部電話機の留守番電話機がはたらかず着信を受け付けない状態になったとき、呼出音がこの機能で設定した回数に達すると、自動的に本機でのファクス受信に切り替えさせることができます。

- 0～15回のあいだで設定できます。
- 外部電話機の留守番電話機能がはたらく呼出音の設定回数よりも多い回数を設定してください。



- 留守番電話機能を使用しない状態に設定するときは、“なし”を選択し、[OK]キーを押します。



リモート切替番号 (外部電話接続時のみ)

かかってきた電話を本機に接続された外部電話機で受けた場合に、外部電話機から2桁の番号と キーを押すことにより、本機をファクス受信状態にできます。この2桁の番号をリモート切替番号と呼び、00～99の間で設定できます。通常は“55”に設定されています。入力をまちがえたときは、[◀][▶]キーで修正したい位置（数字上）にカーソルを移動して入力し直します。



すでにリモート切替番号が登録されているときに、新しいリモート切替番号を設定すると、新しく入力したリモート切替番号が有効となります。

ファクスプリントホールドの禁止

ファクス受信データを受信の都度プリントさせずにメモリーさせておき、あとからまとめてプリントできる [ファクスプリントホールド機能 \(4-27ページ\)](#) の設定を禁止できます。

通常は、ファクスプリントホールドを禁止する状態に設定されています。

ディスプレイのチェックボックスに、チェックマークが表示され設定が有効（禁止する）になります。

設定が有効の状態でのこの操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効（禁止しない）になります。

送信機能設定

ファクス送信時の各種ファクス機能の設定を使用状況に応じて設定したり、解除できるシステム設定です。

“送信機能設定”を選択して各設定を行ってください。

原稿サイズ指定

原稿台（ガラス面）で読み取る原稿のサイズを設定します。選択できるサイズ

AB系：A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R、指定しない

インチ系：11" x 17"、8"-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 11"R、5-1/2" x 8-1/2"、5-1/2" x 8-1/2"R、指定しない

工場出荷時は“指定しない”に設定されています。

画質・濃度

この設定は、ファクス送信の原稿読み取り画質と濃度レベルを調節したいときに使用します。

通常は、画質：普通字、濃度：自動の状態に設定されています。

自動縮小送信

相手機の記録紙サイズにあわせて、送信画像を縮小送信するかを設定します。通常は“有効”が既に選択されています。

回転送信

A4の原稿を送信した場合に、相手機でA3用紙に印刷されるなど、用紙サイズの誤認を抑えるために、送信データを回転するかを設定します。

デフォルト送信設定

標準状態での送信モードをメモリー送信、または直接送信のどちらかに設定します。最初は、メモリー送信に設定されています。

クイックオンライン

メモリー送信を行う際に、送信原稿の画像をメモリーに読み込みながら並行して送信するクイックオンライン送信を行うかどうかを設定できます。

クイックオンライン送信を行わないように設定すると、送信原稿の全ページの画像をメモリーに読み込ませてから、送信を開始します。

通常は、クイックオンライン送信を行う設定になっています。

この機能を解除すると、メモリー送信時は、原稿をすべて読み込んだ後に送信操作を行うようになります。[\(送信予約 \(メモリー送信\) について \(4-17ページ\) 参照\)](#)

- ディスプレイのチェックボックスに、チェックマークが表示され設定が有効（メモリーしながら並行して送信）になります。
- 設定が有効の状態でのこの操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効（メモリーしてから送信）になります。



日付・発信元印字位置

相手機の記録紙上部にプリントされる日付と発信元の印字位置（送信原稿外に付けるか、送信原稿内に含めるか）を設定します。通常は“原稿外”に設定されており、読み込んだ原稿データの上部・外側に付けるように設定されています。原稿の内側に付けるときは、“原稿内”を選択してください。

それぞれの印字位置を設定した場合の詳しいちがいについては[発信元情報の添付位置について（4-46ページ）](#)を参照してください。

宛先確認機能

送信時に、宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定できます。



“直接入力のみ対象”にチェックマークを入れていると、数字キーや[再ダイヤル]キーからの番号入力時のみ宛先確認画面が表示されます。

相手先ビジー時の再コール

相手が話し中だったときなどに、自動で送信しなおすかどうかを設定できます。

通常は通信できるまで3分間隔で2回送信しなおすように設定されています。

再コールをさせないときは、再発信回数を0回に設定してください。



直接送信や手動送信した場合は、設定されていても再コールされません。

送信エラー時の再コール

送信時、通信エラーが発生して送信を失敗したときに、自動で送信しなおすかどうかを設定できます。通常は、正常に通信できるまで3分間隔で2回送信しなおすように設定されています。

再コールをさせないときは、再発信回数を0回に設定してください。



- 再発信間隔を0分にしておくと、送信エラーで回線が切れたあと、即再コールします。
- 直接送信や手動送信した場合は、設定されていても再コールされません。

自動送信時コール時間

自動送信モード（メモリー送信▶[4-17ページ](#)参照）でファクスを送信したとき、相手先がこちらの呼び出しに 응답しない場合に回線を自動切断するまでの時間を設定できます。ここで設定された時間内に相手先が呼び出しに 응답しないときは回線を自動的に切断します。

この設定時間は、“30秒”、“45秒”、“60秒”、“75秒”のいずれかを選択できます。

通常は“60秒”に設定されています。

デフォルト日付発信元送出

送信した原稿が相手機でプリントされる時、記録紙上部に送信時の日付、発信元名称および電話番号をプリントさせるかどうかを設定できます。通常はプリントするように設定されています。

通常は“あり”（プリントさせる）が既に選択されています。



プリントさせない状態に設定するときは、“なし”を選択し、[OK]キーを押します。



受信機能設定

ファクス受信時の各種ファクス機能の設定を使用状況に応じて設定したり、解除できるシステム設定です。“受信機能設定”を選択して、各設定を行ってください。

自動受信コール回数

自動受信モードでファクスの着信があったとき、自動的に受信操作を開始するまでに呼出音を鳴らす回数を設定できます。(ファクスを受信する (4-24ページ) 参照) この設定回数は、0～15回の間で設定できます。通常は2回に設定されています。

- 0～15回のあいだで設定できます。
- 入力をまちがえたときは、[◀][▶]キーで修正したい位置にカーソルを移動して入力し直します。



- コール回数を0回にしておくと、呼出音は鳴らずにファクスを受信します。
- コール回数を14回または15回に設定したときは、相手機の機能および設定状態により設定したコール回数で受信できない場合があります。

手動受信コール回数

手動受信モードでファクスの着信があったとき、自動受信に切り替わるまでに鳴らす呼出音の回数を設定できます。

受信データプリントトレイ

トレイごとにプリントを許可するか、禁止にするかを設定します。最初は、すべてのトレイの使用を許可しています。

- ディスプレイの選択されたトレイのチェックボックスにチェックマークが表示され、そのトレイの設定が許可になります。
- 設定が許可の状態で行うと、チェックマークが消えて設定が禁止になります。



プリント設定できるトレイは、別売品の装着状況によって変わります。すべてのトレイを禁止にすることはできません。

受信データプリント条件

受信データをプリントする際、用紙選択条件を設定でき、次の3種類からいずれかを選択できます。通常は“縮小許可”が選択されています。

- “縮小許可”
通常は等倍でプリントし、それができない場合は自動縮小してプリントします。
- “分割許可”
受信した画像をそのままのサイズで、必要に応じて複数の用紙に分割してプリントします。
- “等倍”
受信した画像データをそのままのサイズで（複数の用紙に分割しないで）プリントします。受信した画像と同じサイズまたは、受信した画像より大きいサイズの用紙がセットされていないときは、メモリーにすべて一時保存され、用紙がセットされるまでプリントしません。

定形サイズへの自動縮小プリント

受信した画像に発信元名や発信元電話番号などの印字情報が付いているとき、実際には定形サイズ※より若干大きいデータを、自動的に縮小して定形サイズに合わせてプリントするかどうかを設定できます。通常は自動縮小するように設定されています。

※ 定形サイズとは、A4やB5などの用紙サイズを指します。



- 受信データプリント条件の設定が“分割許可”に設定されているとき、無効（縮小しない）に設定していると画像が切れる場合があります。
- 自動縮小しないように設定すると、定形サイズをこえたデータは印字されません。ただし、原稿と等倍でプリントされるため縮小時より画質が優れています。

両面受信

ファクス受信データをプリントする際、用紙の両面にプリントするかどうかを設定できます。両面にプリントする設定を行うと、2ページ以上の同一用紙サイズデータを受信したときは、すべて両面プリントします。また、受信データの向きが異なる場合でも、自動的に回転して用紙の両面にプリントされます。

- ディスプレイのチェックボックスにチェックマークが表示され、設定が有効（両面プリントする）になります。
- 設定が有効の状態で行うと、チェックマークが消えて設定が無効（両面プリントしない）になります。



レター受信時の縮小印字

レターサイズ (8-1/2" x 11") のデータを受信したときに、A4サイズに縮小してプリントするかしないかの設定をします。最初は、縮小印字しないように設定されています。

- ディスプレイのチェックボックスにチェックマークが表示され、設定が有効 (縮小印字する) になります。
- 設定が有効の状態での操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効 (縮小印字しない) になります。



無効に設定していると画像が切れる場合があります。

受信データ転送

受信データがプリントできない状態のとき、[受信データ転送先電話番号登録 \(6-26ページ\)](#) で登録した転送先番号に転送させるかどうかの設定をします。最初は、転送しないに設定されています。

- ディスプレイのチェックボックスにチェックマークが表示され、設定が有効 (転送する) になります。
- 設定が有効の状態での操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効 (転送しない) になります。



この設定は、受信データを転送する相手先のファクス番号が登録されていないとはたきません。

受信データ転送先電話番号登録

本機が何らかのトラブルで受信データをプリントできないとき、転送機能 [▶4-48ページ](#) を使って受信データを転送するファクスの電話番号を登録しておくことができます。転送先は1件のみ (最大50桁) 登録できます。



削除するときは、次の操作をします。

- (1) “削除” を選択し、[OK]キーを押す
- (2) [▼][▲]キーで“削除する”を選択し、[OK]キーを押す

受信可否設定

「受信可否番号登録」のシステム設定で登録した番号からのファクス受信を拒否するかどうかを設定できます。通常は、“すべて無効”となっており、登録されている受信可否登録番号にかかわらず、すべてのファクスを受信します。

- “受信許可” に設定すると、受信可否登録番号に登録された番号のみファクス受信することができ、それ以外はすべて受信拒否をします。受信可否登録番号が登録されていない状態では、この設定は使用できません。
- “受信拒否” に設定すると、受信可否登録番号に登録された番号からのファクスの受信を拒否し、それ以外はすべて受信します。

受信可否番号登録

受信可否設定で使用するファクス番号を登録します。ここで登録された番号は、受信可否設定により、登録された番号のみファクス受信ができたり、逆にファクス受信を拒否します。番号は、最大20桁で50件まで登録できます。



削除するときは、以下の操作をします。なお以下の操作を行う前に、あらかじめ「[リスト設定 \(6-20ページ\)](#)」で、受信可否番号表をプリントし、削除する受信可否番号の管理番号 (01~50) を調べておいてください。以下の操作では、この管理番号を入力して目的の受信可否番号を削除します。(受信可否番号そのものは、画面上に表示されません。まちがった管理番号を入力すると、目的外の受信可否番号が削除されますので、ご注意ください。)

- (1) “削除する” を選択し、[OK]キーを押す
- (2) [▼][▲] キーで削除する受信可否番号の管理番号 (01~50) を入力し、[OK]キーを押す
- (3) [▼][▲]キーで“削除する”を選択し、[OK]キーを押す



ポーリング保護設定

通常の掲示板送信に関する設定が行えます。
“ポーリング保護設定”を選択して、各設定を行ってください。

ポーリング保護

掲示板送信を行うとき（[掲示板を利用できる相手を限定する（ポーリング保護）（4-36ページ）](#)参照）、不特定の相手からのポーリングを無条件に受け入れるか、登録した相手からポーリングを受けたときのみ送信するかを設定します。通常はポーリング保護を行うように設定されています。

- ディスプレイのチェックボックスにチェックマークが表示され、設定が有効になります。
- 設定が有効の状態での操作を行うと、チェックマークが消えて設定が無効になります。

ポーリング許可番号の登録

「ポーリング保護」（上記）が設定されているときに、本機とポーリングを行える相手機の番号の登録や削除を行います。登録する番号は相手側のファクス番号で、最大10件まで登録できます。登録した内容は、[リスト/レポートプリント（6-17ページ）](#)で確認できます。

入力をまちがえたときは、[◀][▶]キーで修正したい位置にカーソルを移動して入力し直します。



許可番号を削除するときは次の操作をします。

- (1) “削除”を選択し、[OK]キーを押す
- (2) 数字キーで削除したい許可番号登録の管理番号を入力し、[OK]キーを押す
- (3) [▼][▲]キーで“削除する”を選択し、[OK]キーを押す

スキャナー

以降は、スキャナー機能のシステム設定について説明します。

“スキャナー”を選択して、各設定を行ってください。

USBスキャンの禁止

USB接続されている場合のコンピュータからのスキャンと本機からのスキャンを禁止するか、しないかを設定します。

最初は、禁止しない設定になっています。

標準状態を変更

原稿サイズ、解像度、フォーマット、白黒/グレースケールなどの原稿読み取り条件の標準値を変更する場合に設定します。

原稿サイズ指定

選択できるサイズ

AB系：A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R、B6R、A6R、はがき、指定しない

インチ系：11" x 17"、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 11R"、5-1/2" x 8-1/2"、5-1/2" x 8-1/2R"、指定しない

工場出荷時は“指定しない”に設定されています。

解像度

原稿の読み込み解像度を設定できます。

工場出荷時は“200dpi”に設定されています。

フォーマット

送信フォーマットの初期値を設定します。

工場出荷時は、カラー/グレースケールが“PDF 中”、白黒は“PDF G4”に設定されています。

白黒/グレースケール

[白黒スタート]キーを押したときに、データを白黒2値、グレースケールのどちらで読み込むかを選択します。

工場出荷時、解像度は白黒に設定されています。

ライセンス情報

本機で使用しているソフトウェアのライセンス情報

ソフトウェア構成

本機に組み込まれているソフトウェアは、それぞれ当社または第三者の著作権が存在する、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成されています。

当社開発ソフトウェアとフリーソフトウェア

本機のソフトウェアコンポーネントのうち、当社が開発または作成したソフトウェアおよび付帯するドキュメント類には当社の著作権が存在し、著作権法、国際条約およびその他の関連する法律によって保護されています。

また本機は、第三者が著作権を所有しフリーソフトウェアとして配布されているソフトウェアコンポーネントを使用しています。それらの一部には、GNU General Public License (以下、GPL)、GNU Lesser General Public License (以下、LGPL)、またはその他のライセンス契約の適用を受けるソフトウェアコンポーネントが含まれています。

ソースコードの入手方法

フリーソフトウェアには、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、そのコンポーネントのソースコードの入手を可能にすることを求めるものがあります。GPL およびLGPL も、同様の条件を定めています。こうしたフリーソフトウェアのソースコードの入手方法ならびにGPL、LGPL およびその他のライセンス契約の確認方法については、以下のWEB サイトをご覧ください。

<https://jp.sharp/business/print/support/source/download/index.html>

なお、フリーソフトウェアのソースコードの内容に関するお問い合わせはご遠慮ください。

また当社が所有権を持つソフトウェアコンポーネントについては、ソースコードの提供対象ではありません。

本機で使用しているソフトウェアのライセンス表示

Copyright (c) 2000 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3.The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any other legal details, please contact
Office of Technology Transfer Carnegie Mellon University 5000 Forbes Avenue Pittsburgh, PA 15213-3890
(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395
tech-transfer@andrew.cmu.edu
- 4.Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University
(<http://www.cmu.edu/computing/>)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Copyright (c) 1995 - 2008 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

All rights reserved. Export of this software from the United States of America may require a specific license from the United States Government. It is the responsibility of any person or organization contemplating export to obtain such a license before exporting.

WITHIN THAT CONSTRAINT, permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of M.I.T. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. Furthermore if you modify this software you must label your software as modified software and not distribute it in such a fashion that it might be confused with the original MIT software. M.I.T. makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "**AS IS**" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Individual source code files are copyright MIT, Cygnus Support, OpenVision, Oracle, Sun Soft, FundsXpress, and others.

Project Athena, Athena, Athena MUSE, Discuss, Hesiod, Kerberos, Moira, and Zephyr are trademarks of the Massachusetts Institute of Technology (MIT). No commercial use of these trademarks may be made without prior written permission of MIT.

"Commercial use" means use of a name in a product or other for-profit manner. It does NOT prevent a commercial firm from referring to the MIT trademarks in order to convey information (although in doing so, recognition of their trademark status should be given).

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3.All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
- 4.The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
- 5.Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
- 6.Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscape's SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version orderivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply becoped and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

D3DES License

Copyright (c) 1988,1989,1990,1991,1992 by Richard Outerbridge. (GENie : OUTER; CIS : [71755,204]) Graven Imagery, 1992.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same

sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You

may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO

THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.> Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the

library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY

YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.> Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 3, 29 June 2007

Copyright (C) 2007 Free Software Foundation, Inc. <<http://fsf.org/>>

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The GNU General Public License is a free, copyleft license for software and other kinds of works.

The licenses for most software and other practical works are designed to take away your freedom to share and change the works. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change all versions of a program--to make sure it remains free software for all its users. We, the Free Software Foundation, use the GNU General Public License for most of our software; it applies also to any other work released this way by its authors. You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for them if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs, and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to prevent others from denying you these rights or asking you to surrender the rights. Therefore, you have certain responsibilities if you distribute copies of the software, or if you modify it: responsibilities to respect the freedom of others.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must pass on to the recipients the same freedoms that you received. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

Developers that use the GNU GPL protect your rights with two steps:

(1) assert copyright on the software, and (2) offer you this License giving you legal permission to copy, distribute and/or modify it.

For the developers' and authors' protection, the GPL clearly explains that there is no warranty for this free software. For both users' and authors' sake, the GPL requires that modified versions be marked as changed, so that their problems will not be attributed erroneously to authors of previous versions.

Some devices are designed to deny users access to install or run modified versions of the software inside them, although the manufacturer can do so. This is fundamentally incompatible with the aim of protecting users' freedom to change the software. The systematic pattern of such abuse occurs in the area of products for individuals to use, which is precisely where it is most unacceptable. Therefore, we have designed this version of the GPL to prohibit the practice for those products. If such problems arise substantially in other domains, we stand ready to extend this provision to those domains in future versions of the GPL, as needed to protect the freedom of users.

Finally, every program is threatened constantly by software patents. States should not allow patents to restrict development and use of software on general-purpose computers, but in those that do, we wish to avoid the special danger that patents applied to a free program could make it effectively proprietary. To prevent this, the GPL assures that patents cannot be used to render the program non-free.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS

0. Definitions.

"This License" refers to version 3 of the GNU General Public License.

"Copyright" also means copyright-like laws that apply to other kinds of works, such as semiconductor masks.

"The Program" refers to any copyrightable work licensed under this License. Each licensee is addressed as "you". "Licensees" and "recipients" may be individuals or organizations.

To "modify" a work means to copy from or adapt all or part of the work in a fashion requiring copyright permission, other than the making of an exact copy. The resulting work is called a "modified version" of the earlier work or a work "based on" the earlier work.

A "covered work" means either the unmodified Program or a work based on the Program.

To "propagate" a work means to do anything with it that, without permission, would make you directly or secondarily liable for infringement under applicable copyright law, except executing it on a computer or modifying a private copy. Propagation includes copying, distribution (with or without modification), making available to the public, and in some countries other activities as well.

To "convey" a work means any kind of propagation that enables other parties to make or receive copies. Mere interaction with a user through a computer network, with no transfer of a copy, is not conveying.

An interactive user interface displays "Appropriate Legal Notices" to the extent that it includes a convenient and prominently visible feature that (1) displays an appropriate copyright notice, and (2) tells the user that there is no warranty for the work (except to the extent that warranties are provided), that licensees may convey the work under this License, and how to view a copy of this License. If the interface presents a list of user commands or options, such as a menu, a prominent item in the list meets this criterion.

1. Source Code.

The "source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. "Object code" means any non-source form of a work.

A "Standard Interface" means an interface that either is an official standard defined by a recognized standards body, or, in the case of interfaces specified for a particular programming language, one that is widely used among developers working in that language.

The "System Libraries" of an executable work include anything, other than the work as a whole, that (a) is included in the normal form of packaging a Major Component, but which is not part of that Major Component, and (b) serves only to enable use of the work with that Major Component, or to implement a Standard Interface for which an implementation is available to the public in source code form. A "Major Component", in this context, means a major essential component (kernel, window system, and so on) of the specific operating system (if any) on which the executable work runs, or a compiler used to produce the work, or an object code interpreter used to run it.

The "Corresponding Source" for a work in object code form means all the source code needed to generate, install, and (for an executable work) run the object code and to modify the work, including scripts to control those activities. However, it does not include the work's System Libraries, or general-purpose tools or generally available free programs which are used unmodified in performing those activities but which are not part of the work. For example, Corresponding Source includes interface definition files associated with source files for the work, and the source code for shared libraries and dynamically linked subprograms that the work is specifically designed to require, such as by intimate data communication or control flow between those subprograms and other parts of the work.

The Corresponding Source need not include anything that users can regenerate automatically from other parts of the Corresponding Source.

The Corresponding Source for a work in source code form is that same work.

2. Basic Permissions.

All rights granted under this License are granted for the term of copyright on the Program, and are irrevocable provided the stated conditions are met. This License explicitly affirms your unlimited permission to run the unmodified Program. The output from running a covered work is covered by this License only if the output, given its content, constitutes a covered work. This License acknowledges your rights of fair use or other equivalent, as provided by copyright law.

You may make, run and propagate covered works that you do not convey, without conditions so long as your license otherwise remains in force. You may convey covered works to others for the sole purpose of having them make modifications exclusively for you, or provide you with facilities for running those works, provided that you comply with the terms of this License in conveying all material for which you do not control copyright. Those thus making or running the covered works for you must do so exclusively on your behalf, under your direction and control, on terms that prohibit them from making any copies of your copyrighted material outside their relationship with you.

Conveying under any other circumstances is permitted solely under the conditions stated below. Sublicensing is not allowed; section 10 makes it unnecessary.

3. Protecting Users' Legal Rights From Anti-Circumvention Law.

No covered work shall be deemed part of an effective technological measure under any applicable law fulfilling obligations under article 11 of the WIPO copyright treaty adopted on 20 December 1996, or similar laws prohibiting or restricting circumvention of such measures.

When you convey a covered work, you waive any legal power to forbid circumvention of technological measures to the extent such circumvention is effected by exercising rights under this License with respect to the covered work, and you disclaim any intention to limit operation or modification of the work as a means of enforcing, against the work's users, your or third parties' legal rights to forbid circumvention of technological measures.

4. Conveying Verbatim Copies.

You may convey verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice; keep intact all notices stating that this License and any non-permissive terms added in accord with section 7 apply to the code; keep intact all notices of the absence of any warranty; and give all recipients a copy of this License along with the Program.

You may charge any price or no price for each copy that you convey, and you may offer support or warranty protection for a fee.

5. Conveying Modified Source Versions.

You may convey a work based on the Program, or the modifications to produce it from the Program, in the form of source code under the terms of section 4, provided that you also meet all of these conditions:

a) The work must carry prominent notices stating that you modified it, and giving a relevant date.

b) The work must carry prominent notices stating that it is released under this License and any conditions added under section

7. This requirement modifies the requirement in section 4 to "keep intact all notices".

c) You must license the entire work, as a whole, under this License to anyone who comes into possession of a copy. This License will therefore apply, along with any applicable section 7 additional terms, to the whole of the work, and all its parts, regardless of how they are packaged. This License gives no permission to license the work in any other way, but it does not invalidate such permission if you have separately received it.

d) If the work has interactive user interfaces, each must display Appropriate Legal Notices; however, if the Program has interactive interfaces that do not display Appropriate Legal Notices, your work need not make them do so.

A compilation of a covered work with other separate and independent works, which are not by their nature extensions of the covered work, and which are not combined with it such as to form a larger program, in or on a volume of a storage or distribution medium, is called an "aggregate" if the compilation and its resulting copyright are not used to limit the access or legal rights of the compilation's users beyond what the individual works permit. Inclusion of a covered work in an aggregate does not cause this License to apply to the other parts of the aggregate.

6. Conveying Non-Source Forms.

You may convey a covered work in object code form under the terms of sections 4 and 5, provided that you also convey the machine-readable Corresponding Source under the terms of this License, in one of these ways:

a) Convey the object code in, or embodied in, a physical product (including a physical distribution medium), accompanied by the Corresponding Source fixed on a durable physical medium customarily used for software interchange.

b) Convey the object code in, or embodied in, a physical product (including a physical distribution medium), accompanied by a written offer, valid for at least three years and valid for as long as you offer spare parts or customer support for that product model, to give anyone who possesses the object code either (1) a copy of the Corresponding Source for all the software in the product that is covered by this License, on a durable physical medium customarily used for software interchange, for a price no more than your reasonable cost of physically performing this conveying of source, or (2) access to copy the Corresponding Source from a network server at no charge.

c) Convey individual copies of the object code with a copy of the written offer to provide the Corresponding Source. This alternative is allowed only occasionally and noncommercially, and only if you received the object code with such an offer, in accord with subsection 6b.

d) Convey the object code by offering access from a designated place (gratis or for a charge), and offer equivalent access to the Corresponding Source in the same way through the same place at no further charge. You need not require recipients to copy the Corresponding Source along with the object code. If the place to copy the object code is a network server, the Corresponding Source may be on a different server (operated by you or a third party) that supports equivalent copying facilities, provided you maintain clear directions next to the object code saying where to find the Corresponding Source. Regardless of what server hosts the Corresponding Source, you remain obligated to ensure that it is available for as long as needed to satisfy these requirements.

e) Convey the object code using peer-to-peer transmission, provided you inform other peers where the object code and Corresponding Source of the work are being offered to the general public at no charge under subsection 6d.

A separable portion of the object code, whose source code is excluded from the Corresponding Source as a System Library, need not be included in conveying the object code work.

A "User Product" is either (1) a "consumer product", which means any tangible personal property which is normally used for personal, family, or household purposes, or (2) anything designed or sold for incorporation into a dwelling. In determining whether a product is a consumer product, doubtful cases shall be resolved in favor of coverage. For a particular product received by a particular user, "normally used" refers to a typical or common use of that class of product, regardless of the status of the particular user or of the way in which the particular user actually uses, or expects or is expected to use, the product. A product is a consumer product regardless of whether the product has substantial commercial, industrial or non-consumer uses, unless such uses represent the only significant mode of use of the product.

"Installation Information" for a User Product means any methods, procedures, authorization keys, or other information required to install and execute modified versions of a covered work in that User Product from a modified version of its

Corresponding Source. The information must suffice to ensure that the continued functioning of the modified object code is in no case prevented or interfered with solely because modification has been made.

If you convey an object code work under this section in, or with, or specifically for use in, a User Product, and the conveying occurs as part of a transaction in which the right of possession and use of the User Product is transferred to the recipient in perpetuity or for a fixed term (regardless of how the transaction is characterized), the Corresponding Source conveyed under this section must be accompanied by the Installation Information. But this requirement does not apply if neither you nor any third party retains the ability to install modified object code on the User Product (for example, the work has been installed in ROM).

The requirement to provide Installation Information does not include a requirement to continue to provide support service, warranty, or updates for a work that has been modified or installed by the recipient, or for the User Product in which it has been modified or installed. Access to a network may be denied when the modification itself materially and adversely affects the operation of the network or violates the rules and protocols for communication across the network.

Corresponding Source conveyed, and Installation Information provided, in accord with this section must be in a format that is publicly documented (and with an implementation available to the public in source code form), and must require no special password or key for unpacking, reading or copying.

7. Additional Terms.

"Additional permissions" are terms that supplement the terms of this License by making exceptions from one or more of its conditions. Additional permissions that are applicable to the entire Program shall be treated as though they were included in this License, to the extent that they are valid under applicable law. If additional permissions apply only to part of the Program, that part may be used separately under those permissions, but the entire Program remains governed by this License without regard to the additional permissions.

When you convey a copy of a covered work, you may at your option remove any additional permissions from that copy, or from any part of it. (Additional permissions may be written to require their own removal in certain cases when you modify the work.) You may place additional permissions on material, added by you to a covered work, for which you have or can give appropriate copyright permission.

Notwithstanding any other provision of this License, for material you add to a covered work, you may (if authorized by the copyright holders of that material) supplement the terms of this License with terms:

- a) Disclaiming warranty or limiting liability differently from the terms of sections 15 and 16 of this License; or
- b) Requiring preservation of specified reasonable legal notices or author attributions in that material or in the Appropriate Legal Notices displayed by works containing it; or
- c) Prohibiting misrepresentation of the origin of that material, or requiring that modified versions of such material be marked in reasonable ways as different from the original version; or
- d) Limiting the use for publicity purposes of names of licensors or authors of the material; or
- e) Declining to grant rights under trademark law for use of some trade names, trademarks, or service marks; or
- f) Requiring indemnification of licensors and authors of that material by anyone who conveys the material (or modified versions of it) with contractual assumptions of liability to the recipient, for any liability that these contractual assumptions directly impose on those licensors and authors.

All other non-permissive additional terms are considered "further restrictions" within the meaning of section 10. If the Program as you received it, or any part of it, contains a notice stating that it is governed by this License along with a term that is a further restriction, you may remove that term. If a license document contains a further restriction but permits

relicensing or conveying under this License, you may add to a covered work material governed by the terms of that license document, provided that the further restriction does not survive such relicensing or conveying.

If you add terms to a covered work in accord with this section, you must place, in the relevant source files, a statement of the additional terms that apply to those files, or a notice indicating where to find the applicable terms.

Additional terms, permissive or non-permissive, may be stated in the form of a separately written license, or stated as exceptions; the above requirements apply either way.

8. Termination.

You may not propagate or modify a covered work except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to propagate or modify it is void, and will automatically terminate your rights under this License (including any patent licenses granted under the third paragraph of section 11).

However, if you cease all violation of this License, then your license from a particular copyright holder is reinstated (a) provisionally, unless and until the copyright holder explicitly and finally terminates your license, and (b) permanently, if the copyright holder fails to notify you of the violation by some reasonable means prior to 60 days after the cessation.

Moreover, your license from a particular copyright holder is reinstated permanently if the copyright holder notifies you of the violation by some reasonable means, this is the first time you have received notice of violation of this License (for any work) from that copyright holder, and you cure the violation prior to 30 days after your receipt of the notice.

Termination of your rights under this section does not terminate the licenses of parties who have received copies or rights from you under this License. If your rights have been terminated and not permanently reinstated, you do not qualify to receive new licenses for the same material under section 10.

9. Acceptance Not Required for Having Copies.

You are not required to accept this License in order to receive or run a copy of the Program. Ancillary propagation of a covered work occurring solely as a consequence of using peer-to-peer transmission to receive a copy likewise does not require acceptance. However, nothing other than this License grants you permission to propagate or modify any covered work. These actions infringe copyright if you do not accept this License. Therefore, by modifying or propagating a covered work, you indicate your acceptance of this License to do so.

10. Automatic Licensing of Downstream Recipients.

Each time you convey a covered work, the recipient automatically receives a license from the original licensors, to run, modify and propagate that work, subject to this License. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

An "entity transaction" is a transaction transferring control of an organization, or substantially all assets of one, or subdividing an organization, or merging organizations. If propagation of a covered work results from an entity transaction, each party to that transaction who receives a copy of the work also receives whatever licenses to the work the party's predecessor in interest had or could give under the previous paragraph, plus a right to possession of the Corresponding Source of the work from the predecessor in interest, if the predecessor has it or can get it with reasonable efforts.

You may not impose any further restrictions on the exercise of the rights granted or affirmed under this License. For example, you may not impose a license fee, royalty, or other charge for exercise of rights granted under this License, and you may not initiate litigation (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that any patent claim is infringed by making, using, selling, offering for sale, or importing the Program or any portion of it.

11. Patents.

A "contributor" is a copyright holder who authorizes use under this License of the Program or a work on which the Program is based. The work thus licensed is called the contributor's "contributor version".

A contributor's "essential patent claims" are all patent claims owned or controlled by the contributor, whether already acquired or hereafter acquired, that would be infringed by some manner, permitted by this License, of making, using, or selling its contributor version, but do not include claims that would be infringed only as a consequence of further modification of the contributor version. For purposes of this definition, "control" includes the right to grant patent sublicenses in a manner consistent with the requirements of this License.

Each contributor grants you a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under the contributor's essential patent claims, to make, use, sell, offer for sale, import and otherwise run, modify and propagate the contents of its contributor version.

In the following three paragraphs, a "patent license" is any express agreement or commitment, however denominated, not to enforce a patent (such as an express permission to practice a patent or covenant not to sue for patent infringement). To "grant" such a patent license to a party means to make such an agreement or commitment not to enforce a patent against the party.

If you convey a covered work, knowingly relying on a patent license, and the Corresponding Source of the work is not available for anyone to copy, free of charge and under the terms of this License, through a publicly available network server or other readily accessible means, then you must either (1) cause the Corresponding Source to be so available, or (2) arrange to deprive yourself of the benefit of the patent license for this particular work, or (3) arrange, in a manner consistent with the requirements of this License, to extend the patent license to downstream recipients. "Knowingly relying" means you have actual knowledge that, but for the patent license, your conveying the covered work in a country, or your recipient's use of the covered work in a country, would infringe one or more identifiable patents in that country that you have reason to believe are valid.

If, pursuant to or in connection with a single transaction or arrangement, you convey, or propagate by procuring conveyance of, a covered work, and grant a patent license to some of the parties receiving the covered work authorizing them to use, propagate, modify or convey a specific copy of the covered work, then the patent license you grant is automatically extended to all recipients of the covered work and works based on it.

A patent license is "discriminatory" if it does not include within the scope of its coverage, prohibits the exercise of, or is conditioned on the non-exercise of one or more of the rights that are specifically granted under this License. You may not convey a covered work if you are a party to an arrangement with a third party that is in the business of distributing software, under which you make payment to the third party based on the extent of your activity of conveying the work, and under which the third party grants, to any of the parties who would receive the covered work from you, a discriminatory patent license (a) in connection with copies of the covered work conveyed by you (or copies made from those copies), or (b) primarily for and in connection with specific products or compilations that contain the covered work, unless you entered into that arrangement, or that patent license was granted, prior to 28 March 2007.

Nothing in this License shall be construed as excluding or limiting any implied license or other defenses to infringement that may otherwise be available to you under applicable patent law.

12. No Surrender of Others' Freedom.

If conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot convey a covered work so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not convey it at all. For example, if you agree to terms that obligate you to collect a royalty for further conveying from those to whom you convey the Program, the only way you could satisfy both those terms and this License would be to refrain entirely from conveying the Program.

13. Use with the GNU Affero General Public License.

Notwithstanding any other provision of this License, you have permission to link or combine any covered work with a work licensed under version 3 of the GNU Affero General Public License into a single combined work, and to convey the resulting work. The terms of this License will continue to apply to the part which is the covered work, but the special requirements of the GNU Affero General Public License, section 13, concerning interaction through a network will apply to the combination as such.

14. Revised Versions of this License.

The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the GNU General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies that a certain numbered version of the GNU General Public License "or any later version" applies to it, you have the option of following the terms and conditions either of that numbered version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of the GNU General Public License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

If the Program specifies that a proxy can decide which future versions of the GNU General Public License can be used, that proxy's public statement of acceptance of a version permanently authorizes you to choose that version for the Program.

Later license versions may give you additional or different permissions. However, no additional obligations are imposed on any author or copyright holder as a result of your choosing to follow a later version.

15. Disclaimer of Warranty.

THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. Limitation of Liability.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MODIFIES AND/OR CONVEYS THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

17. Interpretation of Sections 15 and 16.

If the disclaimer of warranty and limitation of liability provided above cannot be given local legal effect according to their terms, reviewing courts shall apply local law that most closely approximates an absolute waiver of all civil liability in connection with the Program, unless a warranty or assumption of liability accompanies a copy of the Program in return for a fee.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively state the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>  
Copyright (C) <year> <name of author>
```

This program is free software: you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation, either version 3 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program. If not, see <http://www.gnu.org/licenses/>.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program does terminal interaction, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

```
<program> Copyright (C) <year> <name of author>  
This program comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'.  
This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.
```

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, your program's commands might be different; for a GUI interface, you would use an "about box".

You should also get your employer (if you work as a programmer) or school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary.

For more information on this, and how to apply and follow the GNU GPL, see <http://www.gnu.org/licenses/>.

The GNU General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License. But first, please read <http://www.gnu.org/philosophy/why-not-lgpl.html>.

-----libtiff-----

Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler
Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

-----libjpeg-----

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェアをお使いになる前に、以下の使用許諾契約書を注意してお読みください。本ソフトウェアを使用することによって、お客様はこの使用許諾契約書の条件に拘束されることを承諾されたものとします。

1. 実施許諾

ディスク、読み出し専用記憶素子又はその他の媒体に格納され、本使用許諾契約に付属するアプリケーション、デモ用プログラム、システム及び他のソフトウェア（以下「本ソフトウェア」という）、並びに関連する文書は、SHARPからお客様に実施許諾されるものです。お客様は本ソフトウェアが記録されているディスクを所有しますが、SHARP及び／又はSHARPのライセンサーが本ソフトウェアと関連文書の権限を留保します。本使用許諾契約により、お客様は1台のプリンタに接続された1台または複数のコンピュータ上で本ソフトウェアを使用し、バックアップだけを目的として本ソフトウェアの機械可読形式のコピーを1部だけ作成することができます。お客様は、当該コピーの中に、SHARPの著作権表示、SHARPのライセンサーの著作権表示、並びにSHARP及び／又はライセンサーが所有する本ソフトウェアの元のコピーに収められていたその他の記号一覧を複製しなければなりません。またお客様は、本ソフトウェア、本ソフトウェアのバックアップ用コピー、関連文書及び本使用許諾契約の写しに関するあらゆる権利を第三者に譲渡することができますが、その場合は当該第三者が本使用許諾契約の条件を読んだうえ、それに同意することが条件となります。

2. 制限

本ソフトウェアには、SHARP及び／又はそのライセンサーが所有する著作権物、企業秘密及びその他の専有物が含まれており、それらを保護するため、お客様は本ソフトウェアを逆コンパイル、リバースエンジニアリング、逆アセンブル又はその他人間が認識可能な形式に変換することはできません。お客様は、本ソフトウェアに基づく派生物の全部又は一部について、修正、ネットワーク接続、レンタル、リース、貸与、頒布又は作成することはできません。本ソフトウェアを1台のコンピュータから別のコンピュータに、又はネットワーク経由で、電子的に送信することはできません。

3. 終了

本使用許諾契約は、終了されるまで有効です。お客様は、本ソフトウェア、関連文書及びそれらのすべてのコピーを破棄することで、本使用許諾契約をいつでも終了できます。お客様が本使用許諾契約のいずれかの条項を遵守されなかった場合、SHARP及び／又はSHARPのライセンサーからの通告なしに、本使用許諾契約は直ちに終了します。お客様は、契約終了と同時に、本ソフトウェア、関連文書及びそれらの一切のコピーを破棄しなければなりません。

4. 輸出法規に関する保証

お客様は、米国の法律及び規制により認可されている場合を除き、本ソフトウェア若しくはSHARPから受領したその他の技術データ、又はそれらから直接派生する製品が米国外に輸出されないことに同意して保証します。本ソフトウェアがお客様により米国外で適法に取得されている場合は、お客様は、本ソフトウェア若しくはSHARPから受領したその他の技術データ、又はそれらから直接派生した製品については、米国の法律と規制及び本ソフトウェアを取得された管轄地域の法律と規制で許可されている場合を除き、再輸出しないことに同意されます。

5. 政府の最終利用者

お客様が本ソフトウェアを米国政府の組織又は機関を代理して取得される場合、以下の規定が適用されます。政府は、以下の規定に同意されるものとします。

- (i) 本ソフトウェアが国防省に供給される場合、本ソフトウェアは「商用コンピュータ・ソフトウェア」と分類され、政府は、DFARSの第252.227-7013(c)(1)項(1988年10月)に定義される条件に従い、本ソフトウェアとその文書について「制限付きの権利」を取得することになります。
- (ii) 本ソフトウェアが国防省以外のいずれかの政府組織又は機関に供給される場合、本ソフトウェアは、48 C.F.R. 2.101に定義される条件に従い「商用品目」と分類され、かつ、48 C.F.R. 12.212に定義される条件に従い「商用コンピュータ・ソフトウェア」と分類され、本ソフトウェアとその文書における政府の権利は、FARの第52.227-19(c)(2)項に定義される内容となり、NASAの場合は、FARにおけるNASAの補遺第18-52.227-86(d)項に定義される内容となります。

6. 媒体に対する制限保証

SHARPは、本ソフトウェアが記録されているディスクには通常の使用において、材料及び製造上の瑕疵がないことを、領収書の控えを証拠とするお買上の日付から90日間に限り保証します。SHARP及び／又はそのライセンサーの一切の責任、並びにお客様への唯一の救済手段は、本条に定める制限保証に適合しないディスクを交換することです。ディスクが領収書の控えとともにSHARP又はSHARPの正式代表者に返品された場合に、その交換に応じます。SHARPは、事故、濫用又は誤用によって破損したディスクについては交換する責を負いません。

商品性及び特定目的への適合性に関する暗黙の保証も含め、ディスクに関する一切の暗黙の保証は、引渡日から90日間までに限定されます。当該保証によりお客様には特定の法律上の権利が与えられ、管轄地域によってはその他の権利が与えられる場合もあります。

7. 本ソフトウェアに関する保証の否認

お客様は、本ソフトウェアの使用においてはお客様だけが責任を負われることを明白に確認して同意するものとします。本ソフトウェアと関連文書は、「現状のまま」一切の保証なしに提供されるものであり、SHARP及びSHARPのライセンサーは（本条と8条の目的上、SHARPとSHARPのライセンサーは総称的に「SHARP」と称する）、商品性と特定目的への適合性に関する暗黙の保証等も含め、明示又は暗黙を問わず、一切の保証を明白に否認します。SHARPは、本ソフトウェアに含まれる機能がお客様の要件に適合すること、本ソフトウェアの操作において中断や誤りがないこと、又は本ソフトウェアの欠陥が修正されることについては保証しません。さらにSHARPは、本ソフトウェア若しくは関連文書の使用又は使用の結果につき、その正しさ、正確さ、信頼性又はその他についても保証又は一切の表明を行いません。SHARP又はSHARPの正式代表者による口頭又は書面による情報や助言は、保証となるものではなく、本保証の範囲をいかなる点でも拡張するものでもありません。本ソフトウェアに欠陥が見つかった場合、不具合の修復、又は訂正において必要な一切の費用を、（SHARP又はSHARPの正式代表者ではなく）お客様が負担されることとなります。管轄地域によっては暗黙の保証の除外を認めない地域もありますので、お客様には上記の除外規定が適用されない場合もあります。

8. 責任の制限

SHARPは、過失も含めいかなる状況でも、本ソフトウェア若しくは関連文書の使用又は使用不能から生じる付随的損害、特別損害又は間接損害については、SHARP又はSHARPの正式代表者がかかる損害の可能性について知らされていた場合でも、一切責任を負いません。管轄地域によっては付随的又は間接的な損害に関する責任の制限又は除外を認めていないところもあるので、お客様には上記の制限又は除外規定が適用されないこともあります。

損害、損失及び訴訟事由（契約上、不法行為（過失も含む）その他を問わない）に対するSHARPからお客様への全責任は、いかなる場合でもお客様が本ソフトウェアに支払った金額を超えないものとします。

9. 準拠法と分離性

AppleのMacintosh及びMicrosoftのWindowsに関連する本ソフトウェアの部分については、本使用許諾契約は、それぞれカリフォルニア州とワシントン州の法律に準拠し、それぞれの法律に従って解釈されます。管轄裁判所が何らかの理由で本使用許諾契約の条項又はその一部について施行不能と判断した場合、契約当事者の意図が達成されるよう最大限の許容範囲で本使用許諾契約の当該条項が執行され、本使用許諾契約の残りの部分はすべて有効に存続するものとします。

10. 完全なる合意

本使用許諾契約は、本ソフトウェアと関連文書の使用に関して契約当事者間における完全な合意となるものであり、かかる主題に関する口頭又は書面による従前又は同時期の一切の了解又は合意に取って代わるものです。SHARPの正式代表者により書面に署名されない限り、本使用許諾契約の修正や変更は拘束力を持たないものとします。

ユーザズマニュアル

形名:BP-20C25
BP-21C20
DX-20C20

シャープ株式会社